【重要】適用学則について

商学部では2005年度より新カリキュラムが導入されました。適用される学則を必ず確認してください。

05 学則：2005 年 4 月以降に商学部第 1 学年に入学した者，2006 年 4 月以降に第 2 学年に編入した者，および 2007 年 4月以降に第 3 学年に学士入学した者に適用される学則。

99 学則：2004年 4 月以前に商学部に入学した者，2005 年 4 月以前に第 2 学年に編入した者，および 2006 年 4 月以前に第 3 学年に学士入学した者に適用される学則。

入学年度および形態と適用される学則は以下のとおりです。疑問な点がある場合は，学事センター商学部係に問い合わせてください。

	2004年度以前	2005年度	2006年度	2007年度
1年入学	99学則	05学則	05学則	05学則
2年編入学	99学則	99学則	05学則	05学則
3年学士入学	99学則	99学則	99学則	05学則

この「履修案内」は 2007 年度の商学部第 3 学年および第 4 学年生に対して，履修の方法，手続き，講義内容，実際に適用される学則の「運用」等について解説したものです。

本案内中「履修要項」部分は，適用される学則によりページが分かれています。十分注意してください。

学生諸君は本案内を熟読したうえで，履修する授業科目を決定し，指定された日時に必ず履修申告を行ってください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。本案内を読んで疑問な点があれば学事センター商学部係，または以下の学習指導に問い合わせてください。

学習指導主任　教　授　新保　一成　　研究室 444 号室（内線 23195）e-mail：shimpo@fbc.keio.ac.jp
オフィスアワー：水曜日 10 : 45～12 : 15
学習指導副主任　教　授　園田　智昭　　研究室 415 号室（内線 23165）e-mail：sonoda@fbc.keio.ac.jp
オフィスアワー：月曜日 13 : 00～14 : 45

授業期間中に学習指導に相談のある場合には，上記のオフィスアワーを利用してください。予約は不要ですが，研究室棟 1 階の内線電話で研究室に電話をしたうえで，面談場所を確認してください。

休業期間中に連絡を取る場合には，メールにて連絡を取り，各自で日程の調整をしてください。

目　　次

商学部の基本理念 …… 3
専攻課程に学ぶ諸君へ …… 4
平成 19 年度（2007 年度）学事関連スケジュール …… 5
一般注意事項 …… 6
履修申告のしかた …… 15
履修要項【05 学則用】 …… 23
卒業単位数チェック表【05 学則用】 …… 35
履修要項【99 学則用】 …… 37
卒業単位数チェック表【99 学則用】 …… 52
講義要綱・シラバス …… 53
教職課程 …… 135
言語文化研究所特殊講座 …… 136
メディア・コミュニケーション研究所 …… 142
体育研究所設置講座 …… 160
福澤研究センター設置講座 …… 168
外国語教育研究センター設置講座 …… 171
国際センター在外研修プログラム …… 175
国際センター設置講座 …… 177
保健管理センター設置講座 …… 199
情報処理教育室設置講座 …… 200
アート・センター設置講座 …… 202

商学部の基本理念

本学部は，福澤諭吉の実学の精神を「商学」の分野において継承し，現代社会の進歩と変革に対応して，つねに新鮮にして活力のある学部であることをめざす。

1. 本学部は，広い視野と創造的思考をもって，現代の産業社会を商学の理論と実証を通して把握し，その方向を洞察することを，研究と教育の基本とする。

2. 教育にあたっては，経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想をもってつねに新しい課題に取組み，体得した科学的方法と商学の専門知識を積極的に問題解決に適用できる人材の育成をめざす。

3. 本学部は，このような知的教育にとどまらず，教員と学生の人間的接触を重視し，個性の伸長をはかり，意欲的で国際性豊かな，活力ある人間の形成をめざす。

4. 「商学」の核を，経営学・会計学・商業学・経済学および産業経済論とする。

5. 本学部は，これらの実現のために，独自な研究教育体制とカリキュラムの有機的編成をはかる。

専攻課程に学ぶ諸君へ

2 年間の日吉での課程を終えた諸君は，これからいよいよ商学部の専門科目を履修することになる。商学部では従来から日吉と三田での教育の連続性と一貫性という点を考慮してカリキュラムの編成を行い，何度かの改定をも試みてきた。こうした改定の結果，日吉のカリキュラムにおいても専門科目の基礎や入門的な科目が設置され，また三田にも教養科目に属するものが設けられている。

こうしたカリキュラム編成が試みられているのは，商学部の教育目的として，諸君らが幅広い知識と教養をそなえ，次代を担う知識人になってほしいという願いがあることと，一方で諸君らにできるだけ早く商学部の主要な学問分野の内容に接してもらい，商学部がどのような研究教育をする学部であるのかを理解する糸口になればという意図からである。三田におかれている教養科目についても同様の趣旨をもっており，三田で専門的な分野を学んでゆくなかで，基礎的な分野の学習の必要性を改めて認識した諸君のために履修可能なようにという意味から設けられている。また今日では，「地球環境問題」や「技術革新に関連する問題」のように，複合的な専門分野からのアプローチによって，はじめて問題の本質を把握できるものが増えている。商学部では，ある一定の条件をみたせば，このような複合的なアプローチによる大学院の科目も履修することができ，高度な専門知識を習得することもできる。

こうした三田，日吉の教育の連続性と一貫性を考慮に入れたカリキュラムではあるが，その中心をなしているのが商学であり，それは商業学，会計学，経営学の 3 分野から構成されている。しかし，こうした 3 つの専門分野についての学習をし，各々の分野についてその内容を理解するためには，産業・経済についての知識が当然のことながら必要とされる。そのために商業学，会計学，経営学の 3 分野に加え，産業・経済分野を合わせた 4 つの専門分野が商学部の専攻課程の中核にあるものと考え，それらがその他関連分野と有機的・体系的に組み合わされたものこそが，商学部のカリキュラムの特徴である。諸君にはカリキュラム編成の意図を十分に理解し，広い視点から自らの問題発見と分析を深化させてほしいものと期待している。

とくに，近年のわれわれの存在する経済社会は激しく変化しており，社会からの大学や諸君へのニーズが変化する兆しを見せつつある。こうした状況のもとで，大学生活の後半である 2 年間の専攻課程をどう過ごすかということが，従来にも増して重要になってきているといえよう。三田での最初の 1 年間に，すでに述べたように，できるだけ幅広い視野を身につけ，そうした視点から社会で起こっている諸問題を見据え，深く分析してゆくという努力がなされなければならないといえる。時代の変化は，既存知識の適応能力の限界を示し，新たな知識の構築を要請してくるようになるであろう。そのためには現実や既存の知識や社会の仕組みを批判的に検討しうるような姿勢を作る努力が必要になってくるといえる。

三田での 2 年間の生活のなかで，諸君らの自信の視点，考え方を確立し，そのような立場から多様な社会問題を分析するような努力をされ，次代を担う豊かな知識人に成長されんことを願ってやまない。

学部長　桜本　光
商学部学習指導主任(三田)　新保一成

平成 19 年度（2007 年度）学事関連スケジュール

商学部履修案内等資料配付	3 月30日（金）　10時～17 時　123番教室
成績証明書発行	4 月 2 日（月）　12時30分～
情報処理教育室ガイダンス	4 月 3 日（火）　10時45分　516番教室
商学部第 3 学年ガイダンス	4 月 4 日（水）　10時　531番教室
国際センター在外研修プログラムガイダンス	4 月 5 日（木）　10時45分　526番教室
教職課程ガイダンス（新規登録者）	4 月 5 日（木）　13時　519番教室
教育実習ガイダンス（来年度実習予定者）	4 月 5 日（木）　14時45分　528番教室
教育実習事前指導Ⅰ（今年度実習予定者）	4 月 5 日（木）　14時45分　519番教室
教職課程ガイダンス（学校教育学コース）	4 月 5 日（木）　16時30分　513番教室
体育研究所ガイダンス	4 月 6 日（金）　9時・10時45分　522番教室
福澤研究センターガイダンス	4 月 6 日（金）　10時45分　512番教室
言語文化研究所ガイダンス	4 月 6 日（金）　12時20分　523-A番教室
外国語教育研究センターガイダンス	4 月 6 日（金）　12時30分　531番教室
学事 Web システムパスワード変更締切	4 月 6 日（金）　学事センター
春学期授業開始	4 月 9 日（月）
Webによる履修申告期間	4 月13日（金）　10時～ 4 月17日（火）14時
履修申告用紙による履修申告日	4 月17日（火）　8時45分～14時 学事センター前受付ボックス
開 校 記 念 日（休講）	4 月23日（月）
授業料等納入期限（全納または春学期分納）	4 月27日（金）
履修申告科目確認表送付（本人宛）	5 月上旬（掲示を出します）
健康診断	5 月上・中旬
履修申告修正受付	5 月 7 日（月）～9日（水）（予定）
4 年生用卒業見込証明書発行	5 月 7 日（月）以降
早慶野球戦	5 月下旬
春学期末試験　時間割発表	7 月上旬（掲示を出します）
春学期末追加試験申込受付	7 月上旬（掲示を出します）
春学期土曜代替講義日	7 月10日（火）
春学期月曜代替講義日	7 月11日（水）
春学期授業終了	7 月14日（土）
春 学 期 補 講 日	7 月17日（火）
春 学 期 末 試 験	7 月18日（水）～26日（木）
夏　季　休　業 （三田キャンパス一斉休業）	7 月27日（金）～ 9 月21日（金） （8 月 9 日（木）～15日（水））
春学期末追加試験	8 月 2 日（木）・ 3 日（金）
春学期学業成績表送付（保証人宛）	9 月中旬
ガイダンス期間（対象：法学部 9 月進級者のみ）	9 月22日（土）・25日（火）
秋学期授業開始	9 月26日（水）
早慶野球戦	10月下旬
授業料等納入期限（秋学期分納）	10月31日（水）
秋学期補講日(1)	11月20日（火）午前
三田祭（準備・本祭・片付けを含む）（休講）	11月20日（火）午後 ～11月26日（月）
休学願提出期限（今年度分）	11月30日（金）
冬　季　休　業 （三田キャンパス一斉休業）	12月23日（日）～ 1 月 5 日（土） （12月28日（金）～ 1 月 6 日（日））
秋学期末試験　時間割発表	1 月上旬（掲示を出します）
秋学期末追加試験申込受付	1 月上旬（掲示を出します）
授　業　開　始	1 月 7 日（月）
福澤先生誕生記念日（休講）	1 月10日（木）
秋学期土曜代替講義日	1 月16日（水）
秋学期月曜代替講義日	1 月18日（金）
秋学期授業終了	1 月21日（月）
秋学期補講日(2)	1 月22日（火）
秋 学 期 末 試 験	1 月23日（水）～ 2 月 5 日（火）
福 澤 先 生 命 日	2 月 3 日（日）
春　季　休　業	2 月上旬～ 3 月下旬
秋学期末追加試験	2 月下旬（予定）
卒業者発表	3 月 10 日（月）
学業成績表送付（保証人宛）	3 月中旬
卒　　業　　式	3 月24日（月）

注意事項

・代替講義日

土曜代替講義日（7/10(火)，1/16(水)）には，実際の曜日にかかわらず，土曜開講の授業が行われます。月曜代替講義日（7/11(水)，1/18(金)）には，実際の曜日にかかわらず，月曜開講の授業が行われます。土曜または月曜開講の授業を履修している学生は，それぞれの代替講義日に注意してください（代替講義日には，土曜・月曜以外の曜日の授業は行われません）。

・補講日

補講日（7/17(火)，11/20(火)午前，1/22(火)）には，実際の授業開講曜日にかかわらず，補講を行うことがあります。補講実施科目については，休講・補講掲示で確認してください（補講日に設定されている火曜日の授業は，補講にならない限り行われません）。また，補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので，掲示板をよく確認してください。

・土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間には，学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお，ここに記載されている期間以外でも窓口を閉めることがあります。随時，掲示およびHPにてお知らせします。

http://www.gakuji.keio.ac.jp/life/mado/index.html

・諸般の事情により，日程・教室等が変更されることがあります。変更があった場合は，学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために，自身が不利益をこうむることもありますので，必ず注意してください。

・共通掲示板，学部掲示板，諸研究所掲示板等に注意してください。

一 般 注 意 事 項

Ⅰ　学　生　証（身分証明書）

1.　学生証は，諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証，および本塾図書館入館票を兼ねています。

2.　学生証は次のような場合に必要となるので，登校の際常に携帯しなければなりません。

(1) 本塾教職員の請求があった場合

(2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合

(3) 各種試験を受験する場合

(4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際，およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合

3.　通学定期券の発売区間は，「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は，必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。住所変更に伴い通学区間が変わった場合は，必ず学事センター窓口にて区間変更手続きを行ってください。なお，通学区間が適正でない場合，通学定期券の発売が停止されます。

4.　再交付手続

学生証を紛失したり，汚損した場合は，写真（縦 4 ㎝，横 3 ㎝，カラー光沢仕上げ，3 ヶ月以内に撮影されたもの）1 枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則，当日発行いたします。ただし，機械のメンテナンス，故障等により，当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失，裏面シールの紛失については，手数料 2,000 円が必要です。

5.　返　　却

再交付を受けた後，前の学生証がみつかった場合，および退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

Ⅱ　掲　示　板

1.　学生諸君への通達事項は，すべて西校舎正面入口および西校舎地下の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに，掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために，諸君自身が非常な不利益をこうむることもあります。

なお，他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を，他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を見てください。諸研究所，各種センター設置科目・講座等については，共通掲示板にも注意してください。

2.　主な掲示事項

授業の休講・補講・時間割の変更，教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達，各種試験の実施要領，学事日程，呼出し等。

休講・補講，呼出しについては，インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話により学事 Web システムにおいても確認できます。（20 ページを参照してください）

また，定期試験時間割，その他掲示の一部は塾生ページ（http://www.gakuji.keio.ac.jp/）でも確認できます。

3.　研究会に関する掲示は，西校舎 501 番教室後方入口前の掲示板を利用してください。

Ⅲ　試験・レポート・成績等

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても，代筆やカンニング，答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には，不正行為とみなされ学則第 188 条により厳しく処分されます。このようなことが絶対にないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1.　定期試験

定期試験は，学期末に行われます。

春学期末：7 月 18 日（水）～ 26 日（木）実施（春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象とします）

秋学期末：1 月 23 日（水）～ 2 月 5 日（火）実施（秋学期に終了する科目および通年科目を対象とします）

試験時間割や注意事項は，掲示により発表します。定期試験の時間割は授業の時間割と異なります。

試験に関する注意事項

① 定期試験の振鈴時間は，三田と日吉で異なりますので注意してください。

② 受験に際しては不正行為のないように，真摯な態度で臨んでください。

③ 答案は必ず提出しなければなりません。持ち帰った場合は不正行為と判断され，処分の対象とされます。

④ <u>学生証を必ず携帯し，提示してください。</u>

⑤ 試験当日，万一学生証を携帯しなかった場合は，学事センターで必ず仮学生証（発行日当日に限り全キャンパスで有効，図書館入館も可）の交付を受けてください。なお，仮学生証の発行には，手数料 500 円が必要となります。

⑥ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。

⑦ 仮学生証発行手続により，試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。

⑧ 答案用紙の担当者および科目名並びに学籍欄の記入事項はすべて略さず正確に記入してください。記入がない場合，成績はつきません。

⑨ 試験開始後 20 分までの遅刻の場合は，試験を受験することができます。ただし，遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合，当該試験をそのまま受験するのか，それとも追加試験を受験するのかは，本人の判断に依ります。ただし，電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので，必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。電車遅延等により遅刻をしても試験開始 20 分以内で入室した場合は追加試験の対象とはなりません。また，試験時間の延長もありません。

⑩ 試験開始後の体調不良などの場合で途中退室する場合は，追加試験の対象とはなりません。

2. 平常試験

随時授業時間内に行われます。

3. 追加試験

追加試験は，履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等，やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった授業科目に対して行うものです。ただし，外国語科目，演習科目，体育実技，その他定期試験を行わず，レポート等により評価の定まる科目，ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合，その実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部が設置主体である併設科目（総合教育科目「人の尊厳（社会と人権）」，専攻科目「法学各論（経済法Ⅰ・Ⅱ）」「法学各論（租税法Ⅰ・Ⅱ）」「法学各論（労働法Ⅰ・Ⅱ）」「経済学史ａ・ｂ」）についてもこれに準じます。

追加試験の申請には，試験欠席の理由を明示できる医師の診断書（加療期間の明記されたもの），事故の証明書，あるいは学習指導の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は，定期試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は，所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお試験場は原則として日吉になります。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお，定期試験期間中，当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は，追加試験が認められません。

4. 再試験

<u>商学部学生に対してはその履修する科目が商学部・他学部いずれの設置科目であっても再試験は行いません。</u>

5. レポート

三田では，レポートが最終試験と同様に取り扱われますので，提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

(1) 指定された日時に，指定された場所に提出してください。特に学事センターでは，指定日時以外は一切受け付けませんので掲示で確認してください（提出にあたっては，指定時間内にボックスに投函する必要がありますので注意してください）。

学事センターレポートボックス受付時間

火･水曜日，木･金曜日　8 時 45 分～16 時 45 分

※受付曜日・時間等を変更する場合は，掲示等でお知らせします。

※その他の事務取扱時間については 9 ページも参照してください。

(2) 学事センターへの提出を指示された場合は，学事センター指定のレポート提出用紙（2 枚複写式）に必要事項を記入し，添付してください（2 枚とも）。レポート提出用紙は学事センターに備えてあります。

(3) 一度提出したレポートの変更・訂正は，提出期間内でも認めません。

6. 成績通知

成績結果を記載した学業成績表を，保証人宛に郵送します。春学期終了科目については 9 月中旬に，通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については 3 月中旬に発送となります。

<u>学業成績表は，いかなる事情があっても再発行いたしません</u>。また，成績の照会もいたしませんので，各自の責任において保管してください。

なお，取得した科目の成績が成績証明書に記載される時期は，翌年度の 4 月以降となります。ただし，卒業決定者の証明書については申請方法を 1 月に掲示します。

Ⅳ　諸　届

以下の事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・就学届・退学届

「病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には，保証人連署の上願い出て必要の期間休学することができる」（学則第 152 条）

本年度休学希望者は，11 月末日までに学習指導と面接し，休学願（所定用紙）に承認印を受けたうえで学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は，医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3 月 31 日）までとします（13 ページも参照してください）。休学が次の年度に及ぶ場合は，改めて許可を得なければなりません。休学の期間が終了した場合は，速やかに就学届を提出しなければなりません。なお，病気を理由に休学をしていた場合には，あわせて医師の診断書を提出してください。

退学予定者は，退学届に本人・保証人の署名捺印のうえ，学生証を添えて学事センターへ提出しなければなりません。

2. 留　　学

「本大学が教育上有益と認めたときは休学することなく，外国の大学に留学することを許可することがある」（学則第 153 条）

留学に関する手続き（国外留学申請書の提出）はあらかじめ学事センターで相談・確認のうえ，所定の手続きをしてください。学習指導との面接を含めて，遅くとも出発の 1 ヶ月前には済ませてください。また，帰国後は速やかに就学届を提出しなければなりません。なお，商学部での留学に関する取扱いについては，13 ページを参照してください。

3. 住所変更届（本人・保証人），保証人変更届，改姓（名）届，国籍変更

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類（所定用紙は学事センターにあります）

●住 所 変 更 届：在学カード

●保証人変更届：変更届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），保証人住民票

●改姓（名）届：改姓（名）届，在学カード，誓約書（本人・保証人押印），戸籍抄本，学生証再交付願

●国　籍　変　更：戸籍謄本（コピー），住民票

なお，履修上の連絡，あるいはその他の重要な事柄の処理に際し，これらの変更届が出されていない場合は，極めて重大な支障をきたすことがありますので，十分に注意してください。

V　各種証明書

証明書の発行，申込み，受取，いずれの場合でも学生証が必要です。

授業料等が未納の場合は，すべての証明書が発行できません。

【各種証明書一覧】※料金は改定されることがあります。

証明書種類		三田	手数料	補記（日程等）
在学証明書	和文	●	200円	4月2日12:30～発行
	英文	●※		
成績証明書	和文	●		
	英文	●※		
学部卒業見込証明書	和文	●	200円	5月7日～　学部 4 年生のみ発行
	英文	●※		
履修科目証明書	和文	●	200円	6月1日～発行
	英文	○		
健康診断証明書	和文	●	200円	6月中旬～年度末まで発行
健康診断書	英文	×	—	大学保健管理センターで発行します （詳細は保健管理センターにお問い合わせください）
卒業見込証明付成績証明書	和文	●	400円	5月7日～　学部 4 年生のみ発行
特殊証明書	司法試験受験用単位取得証明書	○	200円	所属キャンパス学事センター窓口で申請してください
	各種資格試験等受験用単位取得証明書	○		
	提出先所定の用紙(リクエストフォーム)を要する証明書	○		
	科目等履修生・特別聴講生に関する各種証明書	○		
その他	学割証（JR 各社共通）	●	無料	**定期健康診断を未受診の場合には発行できません**
	通学証明書	◎		学生証で購入できない区間(鉄道会社を3社以上使用する場合)またはバスなど。 所属キャンパス学事センター窓口で申請してください
	厳封を必要とするもの（和文・英文）	○	—	厳封が必要な場合は，証明書自動発行機で発行できる証明書でも窓口で申請してください

凡例　●　証明書自動発行機で即日発行　◎　窓口で即日発行　○　窓口で数日後発行　×　発行不可

1. 証明書自動発行機で即日発行する証明書

① 学割証（JR 各社共通）は 1 人 1 年間 10 枚まで発行。有効期限は発行日から 3 か月以内（**有効期限内でも離籍した場合は無効**）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。なお，定期健康診断を未受診の場合には，学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

② 各種証明書等で厳封を必要とする場合には，学事センターに申し出てください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません）

③ 健康診断証明書は 6 月中旬以降，当該年度の定期健康診断受診者を対象に発行されます。
なお，奨学金申請等で 6 月中旬以前に証明書が必要な場合は，早めに保健管理センター三田分室受付に相談してください。

④ ※英文証明書は，2003 年 4 月以降の入学者は自動発行機で発行できます。それ以前に入学した学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし，2004 年 4 月以降，窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ，その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

2. 学事センター窓口で申し込み，日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等（例：司法試験用単位取得証明書，他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては，余

裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお，交付には和文書類は申請後標準 3 日，英文書類は申請後標準 1 週間日数を要します。

3. 証明書自動発行機稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱時間内

南校舎 1 階設置発行機　　：9 時 ～ 20 時［授業期間外の土曜日および休日・大学休業日は除く］

注 1）自動発行機は所属キャンパスに関係なく利用できます。

注 2）メンテナンス，故障等により，自動発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し，あらかじめ早めに準備してください。

Ⅵ　教室使用申請について

1. 受付窓口

利用者により，受付窓口が異なりますのでご注意ください。

	利　用　者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター学生生活支援	管財部管財担当
休業期間	学事センター	使用できません	管財部管財担当

2. 授業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は，学事センターに「学内集会届」を提出してください。

(2) 学生団体の場合は，学生総合センター学生生活支援窓口に「学内集会届」を提出してください。

(3) 申請は使用予定日の 2 週間前から 3 日前まで受け付けます（注）。ただし，土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として申請を受け付けません。

(4) 申請者控は，研究会は学事センター，学生団体は学生総合センター学生生活支援窓口でお受け取りください。

(5) 外部団体が使用する場合は，施設使用費等が必要となりますので，管財担当までお問い合わせください。

（注）土曜，日曜，祝日，義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた 3 日前とします。

3. 休業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は，学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては，「会長名」欄（3 枚複写の 3 枚とも）に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。

(2) 学生団体は原則として，使用できません。

(3) 申請は使用予定日の 3 日前まで受け付けます（注）。ただし，土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間中（8 月中旬および年末年始）は原則として申請を受け付けません。

(4) 申請者控は，学事センターでお受け取りください。

(5) 外部団体が使用する場合は，施設使用費等が必要となりますので，管財担当までお問い合わせください。

（注）土曜，日曜，祝日，義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた 3 日前とします。

Ⅶ　学事センターの窓口

1. 学事センター事務取扱時間

月～金曜日…… 8 時 45 分 ～ 16 時 45 分（休業期間中の 11 時 30 分 ～ 12 時 30 分は閉室）

※土曜，日曜，祝日，義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

※事務取扱時間等を変更する場合，および事務室の閉室については，掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

(1) 学籍・成績・履修に関すること

(2) 授業・試験・レポート等に関すること

(3) 時間割に関すること

(4) 休講・補講に関すること

(5) 追加試験の申込み

(6) 休学願・留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届・国籍変更等

(7) 学生証の発行

(8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（おもに証明書自動発行機）

(9) 司法試験等受験のための単位取得証明書の発行

(10) 教室に関すること（ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生生活支援窓口で行います）

(11) 通学証明書の発行

落とし物は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

Ⅷ　教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室に訪ねてください。

○専門科目担当専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）……研究室（三田研究室棟または南館）

○日吉専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎２階）

（注）授業期間終了後に塾外からの出講者（講師）と連絡をとることはできません。学事センターで仲介，連絡等は行いません。

Ⅸ　学生総合センター窓口

学生総合センターには，主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口，就職進路支援を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは，学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて，窓口業務を中心に紹介します。

学生生活支援

○教室等の使用申込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したいときは，使用希望日の３日前（土・日・祝日を除く）までに申し込んでください。土・日・祝日・試験期間中の使用はできません。（「**Ⅵ 教室使用申請について**」も参照）

使用できる時間は次のとおりです。

月～金曜日　　９：00 ～ 20：00

土曜日　　９：00 ～ 18：00

音楽団体指定時間

月～金曜日　　18：10 ～ 20：10

土曜日　　13：00 ～ 18：00

なお，教室以外に利用できるスペースとして，学生談話室Ａ・Ｂと音楽練習室がありますので，使用したい場合は学生生活支援窓口に問い合わせてください。

○学生食堂（山食，西校舎学生食堂（生協食堂），北館学生食堂（ザ・カフェテリア））の使用申込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が，学生食堂をパーティー等で利用する場合は，学生生活支援担当が予約受付窓口となります。予約後２週間以内に学内集会届を提出し正式申込をしてください。学内集会届が提出されなかった場合，予約が取り消されることがありますので注意してください。食事の内容等については学内集会届提出後，学生食堂に直接相談してください。なお日曜・祝日は利用できません。

○学外行事届，団体割引の受付

公認学生団体や研究会で，合宿・コンサート・パーティーなどの学外行事を行う場合には，その４日前（土・日・祝日を除く）までに学外行事届を提出してください。あわせて団体割引やゴルフ場使用税免除にかかわる証明が必要な場合は申し出てください。なお，届け出があった活動は傷害保険の対象となります（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。

○組織届の受付

クラブ，サークル等を新設する場合は，所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと，学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生生活支援窓口に各自で問い合わせをしてください。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は，学生生活支援窓口に届け出て，許可を受けることが必要です。

○備品使用申請の受付

公認学生団体で，ステッカー，ワイヤレスマイク，塾旗，水差，椅子，机等を借用したい場合は，使用希望日の４日前（土・日・祝日を除く）までに申請してください。

○郵便物の取扱い

外部から送付される各公認学生団体宛の郵便物は，学生総合センター内のメールボックスに区分けしておきますので，学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお，個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

○車輌入構申請の受付

塾生の車輌入構は認められていませんが，やむをえず車輌入構の必要がある場合は，入構希望日の４日前（土・日・祝日を除く）までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎１階の学生ラウンジには学生が利用できるパソコンが常設されています。開室時間は８：45～21：00です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および，第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は，塾生間の連絡用として利用できます。A4 用紙 1 枚のみ掲示可能ですが，必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。なお，DENGON に掲示するには，学生総合センター窓口に申し出て掲示物受付簿を記入してください。

○大学生活懇談会について

学生総合センター「大学生活懇談会」では，講演会や見学会をはじめスキー企画等さまざまな催物を随時行っています。多くの方のご参加をお待ちしております。企画内容については構内のチラシやポスター，学生総合センターホームページをご参照ください。

○遺失物の取り扱い

届けられた遺失物は学生生活支援窓口にて保管しています。

○その他窓口配付・閲覧関係

窓口には財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。ボランティア募集や公募関係の案内もファイルされていますのでご自由に閲覧してください。

○奨　学　金

奨学金窓口において，概ね 4 月初旬から奨学金案内を配布し，出願受付を行います。

●慶應義塾大学奨学金〔給付〕

5 月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎 1 階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●慶應義塾大学特別奨学金〔給付〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し，経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。募集日程は西校舎 1 階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4 月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と，第二種（きぼう 21 プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。募集日程は西校舎 1 階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●地方公共団体，社・財団法人等の各種奨学金〔給付・貸与〕

募集は主に 4・5 月に行います。募集日程はその都度，西校舎 1 階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

●指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に 4 月に行います。募集日程はその都度，西校舎 1 階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度（利子給付奨学金制度付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で，学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば，誰でも申請することが可能です。在学中の借入れに伴う利子は，規程に従い，慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により，適用制度が異なりますので，詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を提示し，病院や診療所で受診した場合，健康保険が適用された自己負担分の一部について，学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは，医療機関によって異なりますので，以下に従って手続きしてください。なお，給付方法は銀行振込となりますので，口座登録が必要です。

(1)　慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際，保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し，振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月 20 日に，入院は翌々月 20 日に，給付金が振り込まれます。

(2)　一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口に置いてある「医療費領収証明書」に，病院で 1 か月ごとの診療内容を記入してもらい，塾生記入欄には各自記入して，学生生活支援窓口へ提出してください。ただし，「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の 3 点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが，必ず「医療費領収証明書」に保険者番号，傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め，4 か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月 20 日です。

組合ではこのほか，契約旅館に対する宿泊費補助や，海の家，スキーハウスの開設などを行っています。さらに，日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは，入学時に配付した「健保の手引き」（学生総合センター窓口にも置いてあります）をご参照ください。

就職・進路支援

就職・進路支援は，就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ，会社案内，OB・OG 情報，インターンシップ情報などを，南校舎地下 1 階の学生総合センター就職・進路支援事務室，1 階の就職資料室にて，自由な利用に供しています。また，ホームページでは，求人企業一覧や説明会案内なども掲載しています。

3 年生に対しては，10 月から 2 月にかけて多様な専門家等による講演会，就職ガイダンス，公務員志望者のための説明会，OB・OG

や内定者によるパネルディスカッションなどをキャンパス内で開催しています。また，就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し，3 年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をするなかでわからないこと，困ったことがあった場合には，いつでも個別相談にも応じています。

就職・進路支援を，皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室（西校舎地下 2 階）

学生相談室は，学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について，気軽に相談できるところです。相談には，可能な限りその場で応じますが，原則として予約制となります（電話予約可）。相談内容については，固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また，相談内容によっては，必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。

また，学生相談室では，カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう，さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

学生総合センター窓口取扱時間

―学生生活支援，就職・進路支援―

月～金曜日…… 8 時 45 分 ～ 16 時 45 分（休業期間中の 11 時 30 分 ～ 12 時 30 分は閉室）※都合により閉室することがあります。

土　曜　日……閉室

―学生相談室―

月～金曜日…… 9 時 30 分 ～ 16 時 30 分

土　曜　日……閉室

昼　休　み……11 時 30 分 ～ 12 時 30 分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために，大学で保険料の全額を負担し，日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

① 正課を受けている間

講義，実験・実習，演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい，次に掲げる間を含みます。

イ．指導教員の指示に基づき，卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし，もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において，これらに従事している間を除きます。

ロ．指導教員の指示に基づき，授業の準備もしくは後片付けを行っている間，または授業を行う場所，大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

② 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式，オリエンテーション，卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有，使用または管理している施設内にいる間。ただし，寄宿舎にいる間，大学が禁じた時間もしくは場所にいる間，大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④ 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより，大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので，上記活動中に万一事故にあった場合は，学生生活支援窓口で相談のうえ，所定の手続きを行ってください。また，本保険の適用が円滑に行われるよう，ゼミ合宿を学外で行う場合，および公認学生団体が学外で活動する場合は，その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については，直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては，保険と共済の 2 つがあり，加入希望の場合は直接それぞれに申し込んでください。

「学生総合補償制度」は ㈱慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に，「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」は慶應生活協同組合に，資料請求してください。

連絡先　㈱慶應学術事業会　　Tel.. 03-3453-6098

慶應生活協同組合　　Tel.. 045-563-8489

X　定期健康診断について

定期健康診断は，学校保健法に基づいて全学年を対象に年 1 回実施しています。

学則第 179 条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので，必ず受診してください。

未受診の場合には，「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

※海外の教育機関に留学する場合の取扱いについて（商学部）

(1)　在学期間中に留学を希望する場合，「留学」と「休学」の２通りに分けられます。

		留　学	休　学
種類		教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等） なお，留学には ①「交換留学」 ②「奨学金による留学」 ③「私費留学」の３つの区別があります。	語学研修 その他左記の留学と認定されない場合
期間	申請期間	留学の開始日から最長１年まで	年度末日（３月31日）まで
		●年度の途中に開始し，年度の途中に終了することが可能です。 （例）2007. 9. 22～2008. 9. 21	●年度末をまたいで休学する場合は，新年度に再度休学願を提出してください。 ●休学の開始日がいつであっても<u>その年度はすべて休学の扱いになります。</u> ●休学願の提出締切はその年度の11月末日です。
	延長	１回まで可能 （最長で留学開始日から２年まで） それ以降は「休学」となります。	次年度も休学する場合は，再度休学願を提出してください。
		●延長する場合，「国外留学申請書」を改めて提出してください。	
学費・渡航費	学費減免措置	●１年目：減免制度はありません。 ●２年目：減免される場合があります。	減免制度はありません。
		●留学開始日から１年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）および実験実習費の半額を免除します（留学許可通知とともに申請書類を保証人宛に送付します）。	
	渡航費補助	「交換留学」および「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので，国際センターで所定用紙を受け取ってください。	
単位取得・認定	留学期間を含む履修を	年度の途中から留学する場合は，留学前に履修申告した科目を留学後継続履修し，単位取得することが可能です （同一科目同一担当者が原則となります）。	休学中の年度は履修できません。
		●必ず留学前に各科目担当者に，留学終了後に継続して履修する意志があることを伝えておいてください。	［年度始めから休学］履修申告は不要です。休学願を履修申告日までに提出してください。 ［年度途中から休学］<u>４月に履修申告した科目はすべて削除されます。</u>
	留学した大学で取得した単位の認定	30単位を超えない範囲で，慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。	単位認定はありません。
		●認定を希望する場合は，帰国後速やかに学事センターに申し出のうえ，就学届提出時に申請することを原則とします。 なお，認定単位により帰国年度末の進級・卒業を希望する場合は，原則として１月末日を期限とします。	
在学年数への算入	進級・卒業	１年間に限り留学期間を慶應義塾大学の在学年数に算入することがあります。ただし，遡及卒業は認められません。	在学年数に算入されません。 休学終了後は原級にとどまります。
		［例］３年夏から留学し，１年後帰国した場合，在学年数への算入が認められれば第４学年に遡及進級となり，その年度末に卒業することも可能です。ただし，４年生夏に留学し，１年後帰国した場合，卒業は早くても帰国した年度の年度末になります。	

・網掛け部分については (2) を参照してください。

※<u>注意</u>　TOEFL，GRE，GMAT等受験の際，身分証明書としてパスポートが必要になります。
早めに準備するよう心掛けてください。

(2)

単位取得・認定	留学期間をはさむ履修	継続履修の条件	同一科目同一担当者が原則です。 体育実技は，①履修登録が学期開始日前で，②履修定員に余裕があり，③健康診断証明書を持参した場合のみ可能になります。
	外国で取得した単位	認定対象となる科目	原則として専門教育科目・語学科目です（総合教育科目は含まれません）。 また，既に単位を取得した科目と同一の科目名での認定は原則としてできません。認定を申し出た科目がすべて認められるとも限りません。
		履修上限との兼ね合い	認定の結果，認定された単位と履修申告した単位を合計して履修上限単位を超えても，そのまま履修できます。削除等の必要はありません（ただし，認定した科目と同一名称科目の履修申告は原則としてできません）。
在学年数	進級・卒業	遡及進級の条件	<商学部３年生で留学> １年後帰国した際，４年生への進級を希望する場合は，次の条件を満たすことが必要となります。 ・以下の①と②の合計が12単位（３年生から４年生への進級条件）以上であること ①留学前に３年生で履修し取得した単位 ②留学先で取得した単位で認定されたもの ※遡及進級を希望される際の研究会の扱いについては，事前に学事センターにご確認ください。

秋学期から休学する際の履修申告していた科目の取扱いについて	秋学期（9/22～11/30（休学締切日））に休学を開始する場合，それまでに修得した春学期終了科目はすべて削除されます。

(3) その他

●学籍についての注意

留学は二重学籍を認めるものではありませんので，次の点に注意してください。

① 慶應義塾大学で取得した単位を外国大学に振り替えた場合（Transfer）その単位は慶應義塾大学から抹消される。

② 外国大学で学位を取得せずに帰国する場合，①により抹消した単位は慶應義塾大学での単位として認定し，外国大学で取得した単位も慶應義塾大学に振り替え（Transfer）可能とする。

③ 外国大学で学位を取得した場合，外国大学に振り替えた（Transfer）単位および外国大学で取得した単位ともに外国大学での取得単位として扱う。

なお，上記のことについて確認するために，帰国後に成績証明書の提出を求めることがあります。

履 修 申 告 の し か た

Ⅰ．履修申告について

1. 履修申告方法について

原則として，学事 Web システムにより申告してください。やむをえない場合は履修申告用紙で申告できますが，両方法を併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

学事 Web システムにより登録を行うと，即時にエラーチェックおよび一部の学則判定が行われ，メッセージが表示されます（ただし，最終的な履修科目およびエラー等の確認は，本人宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください）。

2. 履修申告上の注意

履修申告にあたっては，2006 年度の学業成績表を保証人宛に送付してありますので，各自保証人からそれを受け取り，取得した科目を確認し「履修要項」「履修申告のしかた」（本項）を熟読して，申告してください。特に誤登録，申告漏れ等によって不都合が生じることがあります（進級・卒業に影響する場合もあります）ので十分に注意してください。

原則として，申告期間後は，履修科目の変更・追加・取消しを認めません。また，閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後，登録科目一覧画面を印刷，あるいは履修申告用紙をコピーし，時間割とともに控えとして保管してください。期日までに申告しない場合は，原則として修学の意志がないものとして退学処分にすることとなります。（学則第188条）

3. 学事 Web システムによる申告日程

4 月 13 日（金）10 時 ～ 4 月 17 日（火）14 時

※期間中は何回でも履修の修正が可能です。最終日に初めて申告するのではなく，なるべく早いうちから申告を行うようにしてください。ただし，毎日午前 4 時から 1 時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止しています。

4. 履修申告用紙による申告日（履修申告用紙提出日）

4 月 17 日（火）8 時 45 分～ 14 時　学事センター前受付ボックス

5. 履修に関する疑問点，その他については履修申告の前日までに，学習指導担当または学事センター窓口に問い合わせてください。
6. 履修申告科目確認表（履修申告した授業科目のリスト）は 5 月上旬に送付します。確認のうえ，年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題（申告漏れ，科目間違い等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは掲示により指示します）で，この期間経過後は確認は終了したものとみなします。
7. 時間割は変更することがありますので，掲示で確認のうえ申告してください。
8. 登録されていない授業科目を受験しても一切無効ですので，単位は取得できません。

Ⅱ．専攻科目Ⅳ類【05学則】/ 専攻科目Ⅲ類【99学則】の履修者数調整について

外国語特殊（99学則のみ開講），専攻演習については，履修申告の前に事前登録が必要です。事前登録を怠ると履修できませんので十分注意してください。あわせて別紙「専攻科目Ⅳ類（旧：Ⅲ類）履修希望クラスの申告について」を参照してください。また，外国語演習，関連課題研究についても，担当者による履修者数の事前調整が行われることがあります。詳細は 53 ページ以降の講義要綱・シラバス部分で確認し，必ずガイダンス（4 月 4 日午後。詳細は別紙参照のこと）と初回授業に出席してください。

Ⅲ．分野の選択について

履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（A 欄申告）と，各自分野を選択しなければならない場合があります（申告の際は 2 桁の B 欄分野番号を登録します）。

【05学則適用者】〈登録番号のみで自動的に分野が登録される科目（A 欄申告，通常はこちら）〉

・商学部 3 ・ 4 年設置の授業科目
・商学部 1 ・ 2 年設置の授業科目（日吉設置）
・履修案内 34 ページに掲載の他学部設置総合教育科目*
・（商学関連科目として登録する）「全学部共通　外国語科目履修案内」（以下の URL 参照）に掲載の他学部設置科目* http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html
・（商学関連科目として登録する）諸研究所（センターを含む）設置科目 ○教職課程センター設置科目は「自由科目Ⅱ」として登録されます。 ○体育研究所設置科目は「総合教育科目Ⅴ類」として登録されます。 ○諸研究所（センターを含む）設置科目を自由科目で登録したいときは B 欄分野番号を登録して申告してください。 （次表参照）

※　次の＜分野を選択する場合＞の表のうち商学関連科目の欄も参照してください。

【05学則適用者】〈分野を選択する場合（2 桁の B 欄分野番号を登録）〉

・下表に示される科目を履修する場合は B 欄で申告し，その際分野欄には 2 桁の B 欄分野番号を登録してください。

科目種類		授業科目	B欄分野
商学関連科目	第3･4学年配当科目	商学部に設置されている科目のうち，あらかじめ商学関連科目として履修するもの	50
		他学部設置の授業科目（前頁の*の科目は除く）	51
自由科目	自由科目Ⅰ (*卒業単位には含まれません)	○商学部設置科目（必修科目は，履修を許可された場合のみ） ○他学部設置の授業科目 ○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○体育研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○アート・センター設置講座 ○知的資産センター設置講座 ○外国語学校設置講座のうち，商学部および他学部に設置されていない外国語（2007年度は対象科目無し）	60
	自由科目Ⅱ (*卒業単位には含まれません)	○メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○教職課程センター設置科目 ○教育免許取得のために履修する教職課程授業科目	61

【99学則適用者】〈登録番号のみで自動的に分野が登録される科目（A 欄申告，通常はこちら）〉

・商学部 3 ・ 4 年設置の授業科目
・商学部 1 ・ 2 年設置の授業科目（日吉設置）
・履修案内 51 ページに掲載の他学部設置総合教育科目*
・（自主選択科目として登録する）「全学部共通　外国語科目履修案内」（以下の URL 参照）に掲載の他学部設置科目* http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html
・（自主選択科目として登録する）諸研究所（センターを含む）設置科目 ○教職課程センター設置科目は「自由科目Ⅱ」として登録されます。 ○体育研究所設置科目は「総合教育科目Ⅳ類」として登録されます。 ○諸研究所（センターを含む）設置科目を関連科目や自由科目で登録したいときは B 欄分野番号を登録して申告してください。（次表参照）

※　次の＜分野を選択する場合＞の表のうち自主選択科目の欄も参照してください。

【99学則適用者】〈分野を選択する場合（2 桁の B 欄分野番号を登録）〉

・下表に示される科目を履修する場合は B 欄で申告し，その際分野欄には 2 桁の B 欄分野番号を登録してください。

科目種類		授業科目	B欄分野
専攻科目Ⅳ類	関連科目	他学部および諸研究所（センター等を含む）に設置されている科目で教授会が適当と認める授業科目（43 ページ参照）	41
自主選択科目	第3･4学年配当科目	専攻演習D (4)　専攻演習S (2)　外国語演習D (4)　外国語演習S (2) 関連課題研究D (4)　関連課題研究S (2)　外国語特殊（中国語中・上級）(2) （ただし，自主選択科目として履修する場合）	51
		他学部設置の授業科目（前述の*の科目は除く）	
自由科目	自由科目Ⅰ (*卒業単位には含まれません)	○商学部設置科目（必修科目は，履修を許可された場合のみ） ○他学部設置の授業科目 ○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○体育研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○アート・センター設置講座 ○知的資産センター設置講座 ○外国語学校設置講座のうち，商学部および他学部に設置されていない外国語（2007年度は対象科目無し）	60
	自由科目Ⅱ (*卒業単位には含まれません)	○メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○教育免許取得のために履修する教職課程授業科目	61

Ⅳ．学事 Web システムの利用方法

学内のパソコンからは無論のこと，自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば，学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認，また休講・補講情報の確認などが可能です。

学事 Web システムを利用するためには ID（学籍番号）と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが，卒業するまでの間使用することになります。すべて個人管理になりますので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 5 つの機能があります。

① 履修申告（履修申告期間中は，何度でも修正できます）
② 登録済科目の確認（履修申告終了後の，ある一定の期間に自分の登録した科目を Web 上で確認できます）
③ 休講・補講情報の確認
④ パスワード変更
⑤ 学生呼出情報の確認

また，携帯電話では上記のうち，③休講・補講情報の確認，④パスワード変更，⑤学生呼出情報の確認を行うことができます。

…注　意…

学事 Web システムは，4 月 2 日（月）から休講・補講情報の確認ができます。必ず 4 月 6 日（金）までにログインできることを確認してください。もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には，4 月 6 日（金）までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。（2006 年度以前に入学した在学生の初期パスワードは，変更していない場合は 2007 年 3 月に送付した成績表に印字されています）

また，学内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には，三田インフォメーションテクノロジーセンター（ITC：大学院校舎地階）で変更申請の手続きを行ってください。（ただし学事 Web システムは学内のパソコンに限らず，インターネットに繋がるパソコンがあれば，自宅などからでも利用できます）

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは，ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは別になりますのでご注意ください。

（学事 Web システムのユーザー名）　学籍番号
（Windows アカウントのユーザー名）f＊＊＊＊＊＊＊

1．学事Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザーを起動して，同時にログインしないでください。
- 学事 Web システムにログインした後は，ブラウザーの［戻る］および［進む］ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には，［更新］ボタンを押してリロードしてください。
- 学事 Web システムは 30 分間何も操作をしないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては，これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ブラウザーの［戻る］ボタンや［進む］ボタンを何度も押したり，30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合，画面にアクセスエラーと表示されたり，真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には，一旦ブラウザーを終了し，10 秒程度待ってから再度ブラウザーを起動し直してください。このような場合，最後に履修申告メイン画面の［登録］ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- 氏名等に難しい字が使われている場合，画面上にうまく表示できないことがありますが，システム上問題はありません。
- 学事 Web システムは，各種設定（Cookie, SSL, Proxy 等）を正しく行わないと，ログインできない場合があります。各種設定方法については，学事 Web システムのブラウザー用トップページ（http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html）からのリンクを参照してください。

2. 履修の申告

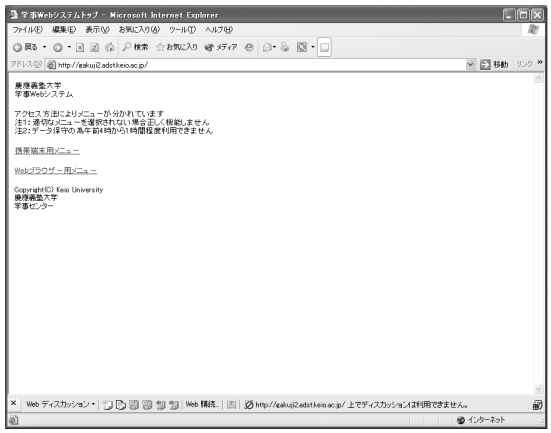
2007 年度の学事 Web システムを利用しての履修申告日程と学事 Web システムの URL は以下のとおりです。

日程：4 月 13 日（金）10 時 ～ 4 月 17 日（火）14 時
学事 Web システムの URL　　http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/

受付期間中に時間割が変更される場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し，必要であれば締切りまでに再申告（申告の修正）を行ってください。

① 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし［ブラウザー用］をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape」などの標準ブラウザーを使用してください。



② 学事 Web システムブラウザー用トップページ

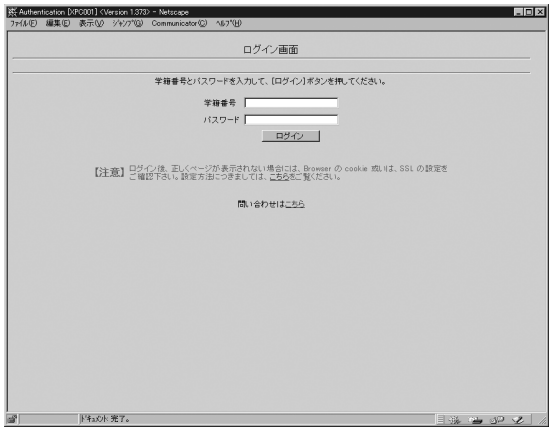
学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの説明）や，よくある質問についての回答などは，このページに用意されています。［ログイン画面へ］ボタンをクリックしてください。

③ ログイン

「ID（学籍番号）」と，事前に通知したパスワードを入力し，［ログイン］ボタンをクリックしてください。画面がうまく表示されない場合は，前述②の画面の「ログインできない時は」を選択し，ブラウザーの設定方法等を確認してください。

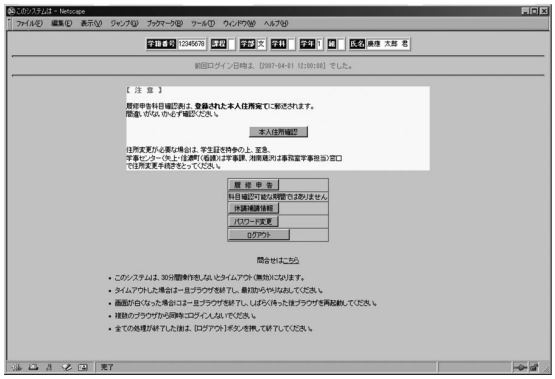
※この画面以降ブラウザーの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザーを起動して，同時にログインしないでください。



④ トップメニュー画面

右の画面（トップメニュー画面）の「本人住所確認」で登録されている住所を確認してください。ここに登録されている住所宛に履修申告科目確認表を郵送します。住所変更が必要な場合は，学生証を持参のうえ，至急学事センター窓口で住所変更手続きをとってください。

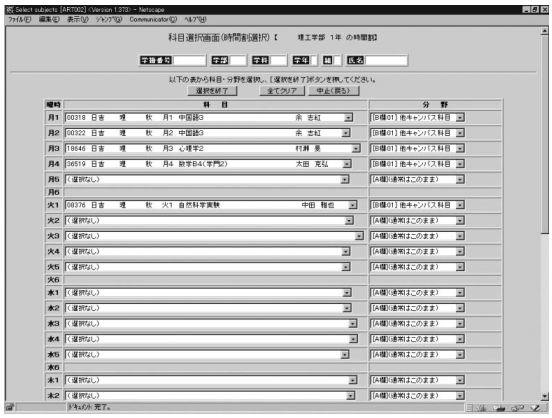


⑤ 履修申告メイン画面

［履修申告］ボタンをクリック後，［Web による履修申告上の注意］をクリックし，必ず注意文を熟読してください。その後，［履修申告メイン画面へ進む］ボタンをクリックしてください。

⑥ 科目の選択

右の画面が「履修申告メイン画面」になります。(1) と (2) の 2 通りの方法で科目の選択ができます。



(1) 時間割から科目を選択するとき

［時間割から選択］ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから，［時間割から選択］ボタンをクリックしてください（初期設定では自分の所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています）。

科目選択画面（時間割選択）が表示されますので，曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。他学部の科目を履修する場合などで，分野を「B 欄」で選択する場合は前項「Ⅲ. 分野の選択について」（15・16 ページ）をよく読んでください。選択が完了したら，［選択を終了］ボタンをクリックしてください。

(2) 登録番号から科目を選択するとき

［登録番号で選択］ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので，履修書類配付時に配付された時間割表に記載されている 5 桁の登録番号を入力してください。［科目名を確認］ボタンを押し，〈科目情報〉欄に表示される科目名，曜日時限などの情報を確認したうえで，最後に［選択を終了］ボタンを押してください。

※ (1) (2) いずれの方法も，分野（A・B 欄）の選択方法は同じですので，「Ⅲ. 分野の選択について」（15・16 ページ）を参照してください。

※ (1) (2) の手順は，連続して行うことができます。

※「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

※ 同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合，一度［選択を終了］ボタンを押し，再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

⑦ 選択した科目の確認

⑥で選択した科目が，一覧表示されますので確認してください。

（選択直後は〈状態〉欄に「未登録」として表示されます）

⑧ 選択した科目を取り消す場合

⑦の画面から，取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ，［選択の取消］ボタンをクリックしてください。その後，一覧表から削除されたことを確認してください。

⑨ 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら，画面一番下の［登録］ボタンを押してください。<u>⑥（選択）および⑧（取消）で行った内容はこの［登録］ボタンを押すまで有効になりません。</u>

⑩ 登録結果表示の確認

履修申告メイン画面の［登録］ボタンをクリックすると，選択した科目について，曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ，その結果が表示されます。各科目の「エラー」欄にメッセージが表示されていないか確認してください（エラーメッセージの詳細については，⑥の「履修申告メイン画面」の STEP 2 の横にある［エラーの詳細説明］をクリックし，参照してください）。<u>右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。「保留中」の場合，エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。</u>さらに，上部の「現在の登録状況」に必要条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控えとしてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は，［履修申告画面へ戻る］ボタンをクリックし，⑥からの手続を再び行ってください。登録内容がこれで良ければ，［履修申告を終了する］ボタンを押してください。

<u>※ ここで Web ブラウザーを終了しないでください。</u>（ブラウザーの右上の×印をクリックして閉じないでください）

⑪ ログアウト

すべての作業終了後は［ログアウト］ボタンをクリックして，ログアウトしてください。

3. 登録済科目確認

履修申告で登録された科目は，4 月 19 日（木）9 時（予定）より，学事 Web システムを利用して再度確認することができます。ただし，5 月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述 2. の④（トップメニュー画面）までは，同様の操作です。画面上の，［登録済科目確認］ボタンを押して，履修申告科目を確認してください。

4. 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから，全キャンパスの休講・補講情報を Web を利用して確認することができます。またこのサービスは，携帯電話からも同様に見ることができます。

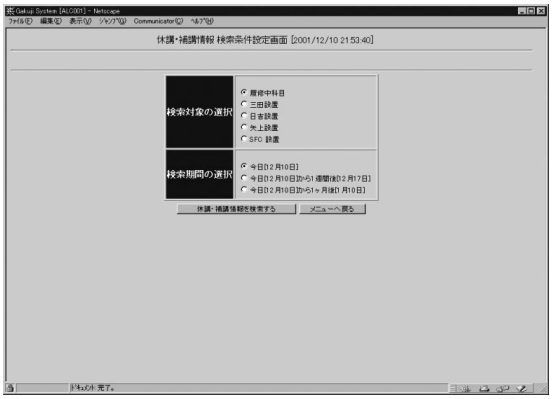
なお，公式の情報は大学の掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので，必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。また，代替講義日の休講は，通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので，塾生ページ（http://www.gakuji.keio.ac.jp/）および各キャンパスの学部掲示板で確認してください。

［ブラウザー編］

① 2. の①から③までを参照して，学事 Web システムにログインしてください。

② 2. の④（トップメニュー画面）の画面から［休講補講情報］ボタンをクリックしてください。

③ 自分の履修科目の休講・補講情報，あるいは他キャンパス設置の科目など，検索するキャンパスの対象を選択してください。また，検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら，［休講・補講情報を検索する］ボタンをクリックしてください。



④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは，休講が取り消された（したがって通常どおり実施する）科目 となりますので注意してください。確認後は［ログアウト］ボタンをクリックして，ログアウトしてください。

［携帯端末編］

① 学事 Web システムの URL（http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/）を携帯電話の画面から入力（詳しくは携帯電話の説明書をお読みください）し，2. の①の画面上で［携帯端末用メニュー］を選択してください。以後，Web 休講・補講情報を繰り返して利用する場合には，上記の学事 Web システムの URL をブックマーク等に登録しておくと便利です。（詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください）

② ［i-mode 専用］もしくは［i-mode 以外の携帯端末］のいずれかを選択してください。

③ ［サーバー１］もしくは［サーバー２］のどちらかを選択してください。選択は任意です。

④ 「学籍番号」とⅣ. で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し，［ログイン］ボタンを押してください。

⑤ この画面から［休講情報］あるいは［補講情報］ボタンを押してください。

※パスワードの変更もこの画面からできますが，ここでは説明を省きます。後述の 5. を参照してください。

⑥ 自分の履修科目の休講・補講情報，あるいは他キャンパス設置の科目など，検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら，［検索画面へ戻る］ボタンを押してください。

5. パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため，セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

① 前述 2. の④（トップメニュー画面）の画面から，［パスワード変更］ボタンをクリックしてください。

②「現在のパスワード」を入力し，「新パスワード」を 2 箇所入力後（再入力欄にも同じものを入力する），［パスワード変更］ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください（大文字／小文字を区別します）。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは，必ず忘れないようにしてください。特に学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください（17 ページ「注意」参照）。

Ⅴ．やむをえない理由で履修申告用紙（マークシート）により履修申告を行う場合について

履修申告用紙記入の際は，以下の点に注意してください。なお，Web による履修申告が行えない理由を問う場合があります。

1. 授業科目名，担当者名と登録番号（5 桁）を十分確認してください。

   1 つの授業科目には 1 つの登録番号が付いています。

   集中講義等，曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても，登録番号は 1 つだけです。その登録番号を 1 つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合，どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできませんので注意してください。

   また，商学部設置科目のうち，他学部・諸研究所と併設している科目については，必ず商学部の設置科目を履修しなければなりません。商学部の時間割の登録番号で登録してください。

2. HB か B の鉛筆を使用してください。誤記，記入漏れがないように，丁寧に記入してください。

   特に「0」と「1」のマークミス等に注意してください。

3. 学籍等の記入方法

   学部，学年，組，氏名，学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。

4. A 欄記入上の注意事項（15・16 ページの〈登録番号のみで自動的に分野が登録される科目〉を申告）

   ア　形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を〇で囲み，曜日・時限を記入します。

   イ　科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は，時間割上段に記載されている教員名を記入します。

   ウ　登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。

5. B 欄記入上の注意事項

   ア　形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を〇で囲み，曜日・時限を記入します。

   イ　科目名・教員名を記入します。

   ウ　登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。

   エ　分野欄：2 桁の履修申告用 B 欄分野番号を記入し，マークします。（16 ページの〈分野を選択する場合〉を参照）

6. 「無効マーク」（A 欄・B 欄に共通）にマークすると，その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，「無効マーク」を利用してください。

7. 履修申告用紙の再交付について

   ①　履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は，なるべく無効マーク欄を使用して無効にしたうえで正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので，その履修申告用紙を持参のうえ，学事センター窓口に申し出てください。

   ②　交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センター窓口に申し出てください。

履　修　要　項【05学則用】

［注意］本冊子１ページを読み，自分に適用される学則を必ず確認してください。
なお，05学則適用者が99学則適用者の科目を履修することはできません。

Ⅰ　開講科目と単位数

2007年度に商学部が三田に設置する科目と単位数は次のとおりです。授業には週１コマ開講される通年科目，春学期または秋学期のみに毎週２コマ開講される集中科目，および週１コマの春学期または秋学期のみの半期科目があります。

科目名の末尾に「Ⅰ／Ⅱ」がつく科目は一方のみの履修が可能ですが，「ａ／ｂ」がつく科目は春学期・秋学期セットで履修しなければなりません。

1．総合教育科目

分類	科　目　名	単位数
Ⅰ類	自然科学概論Ⅰ	2
	自然科学概論Ⅱ	2
Ⅱ類	人間と音楽Ⅰ	2
	人間と音楽Ⅱ	2
	人の尊厳（社会と人権）	2
Ⅲ類	総合教育セミナーＳ（Ⅲ類）	2
	西洋文明学説史Ⅰ	2
	西洋文明学説史Ⅱ	2
	日本文明学説史Ⅰ	2
	日本文明学説史Ⅱ	2
Ⅳ類	データとの対話Ｓ	2

2．専攻科目

(1)　Ⅲ類

①　専攻分野に関する科目

（注）次の表で備考欄が空白の科目は通年科目です。

なお，各論的科目は毎年度開講されるとは限りません。特定期間集中の科目は，掲示板でその期間を確認してください。

分　野	科　目　名	単位数	備　考
Ａ　経営	現代企業経営各論（企業形態）	2	秋　学　期
	現代企業経営各論（企業制度）	2	秋　学　期
	現代企業経営各論（企業戦略）	2	秋　学　期
	現代企業経営各論（企業倫理）	2	春　学　期
	現代企業経営各論（経営経済）	2	秋　学　期
	現代企業経営各論（経営情報論）	2	春　学　期
	現代企業経営各論（経営組織）	2	春　学　期
	現代企業経営各論（組織文化論）	2	秋　学　期
	現代企業経営各論（中小企業経営）	2	秋　学　期
	現代企業経営各論（比較経営論）	2	秋　学　期
	経営管理各論（経営管理）	2	春　学　期
	経営管理各論（経営計画）	2	春　学　期
	経営学説史各論（方法論史）	2	秋　学　期
Ｂ　会計	会計史Ⅰ	2	春　学　期
	会計史Ⅱ	2	秋　学　期
	財務会計各論（会計基礎理論）	2	春　学　期
	財務会計各論（会計測定論Ⅰ）	2	春　学　期

		財務会計各論（会計測定論Ⅱ）	2	秋　学　期
		財務会計各論（現行会計基準概論）	2	秋　学　期
		財務会計各論（国際会計論）	2	春　学　期
		財務会計各論（取得原価主義会計論）	2	春　学　期
		財務会計各論（税務会計論Ⅰ）	2	春　学　期
		財務会計各論（税務会計論Ⅱ）	2	秋　学　期
		財務会計各論（非営利法人会計論Ⅰ）	2	春　学　期
		財務会計各論（非営利法人会計論Ⅱ）	2	秋　学　期
		会計監査各論（公認会計士による財務諸表監査）	2	春　学　期
		管理会計各論（業績評価と会計）	2	春　学　期
		管理会計各論（原価計算論）	2	秋　学　期
		管理会計各論（現代管理会計論）	2	春　学　期
		管理会計各論（原価管理論Ⅰ）	2	秋　学　期
		管理会計各論（サービス業の管理会計）	2	秋　学　期
		管理会計各論（戦略的管理会計）	2	秋　学　期
		会計史各論		休　　講
C　商業		マクロ・マーケティング論	2	春　学　期
		マーケティング学説史	2	秋　学　期
		マーケティング史	2	春　学　期
		マクロ・マーケティング各論（流通論）	2	春　学　期
		ミクロ・マーケティング論	2	春　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（グローバル・マーケティング論）	2	春学期特定
		ミクロ・マーケティング各論（広告論）	2	秋　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（消費者行動論）	2	春　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（製品開発論）	2	春　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（マーケティング経済学）	2	春　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（マーケティングの理論分析）	2	秋　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（マーケティング･リサーチ）	2	春　学　期
D 経済・産業	D１　国際経済	国際経済学Ⅰ	2	春　学　期
		国際経済学Ⅱ	2	秋　学　期
		国際経済学各論（国際経済政策論）	2	秋　学　期
		国際経済学各論（ミクロ貿易論）	2	春　学　期
		世界経済論Ⅰ	2	春　学　期
		世界経済論Ⅱ	2	秋　学　期
		世界経済各論（国際開発協力論）	2	春　学　期
		世界経済各論（中国経済論）	2	春　学　期
		国際金融論Ⅰ	2	春　学　期
		国際金融論Ⅱ	2	秋　学　期
		国際金融各論（国際金融システム論）	2	秋　学　期
	D２　計量経済	理論経済学	4	春学期集中
		理論経済学各論（応用ミクロ経済学）	2	春　学　期
		理論経済学各論（非営利組織論）	2	秋　学　期
		理論経済学各論（マクロ・エコノミクス）	2	春　学　期
		理論経済学各論（マネタリー・エコノミクス）	2	秋　学　期
		経済政策	4	秋学期集中
		経済統計Ⅰ	2	春　学　期
		経済統計Ⅱ	2	秋　学　期
		経済統計各論（数理統計基礎）	2	春　学　期
		経済統計各論（統計的推論）	2	秋　学　期
		計量経済学Ⅰ	2	春　学　期
		計量経済学Ⅱ	2	秋　学　期
		計量経済学各論（マクロ計量経済学）	2	春　学　期
		計量経済学各論（ミクロ計量経済学）	2	秋　学　期

D 経済・産業	D３　金融・保険	金融論Ⅰ	2	春　学　期
		金融論Ⅱ	2	秋　学　期
		金融各論		休　　講
		財政学Ⅰ	2	春　学　期
		財政学Ⅱ	2	秋　学　期
		財政学各論		休　　講
		証券経済論Ⅰ	2	春　学　期
		証券経済論Ⅱ	2	秋　学　期
		証券経済各論（証券制度論）	2	秋　学　期
		保険学Ⅰ	2	春　学　期
		保険学Ⅱ	2	秋　学　期
		保険学各論（生命保険論）	2	春　学　期
		保険学各論（損害保険論）	2	春　学　期
		保険学各論（保険経営論）	2	秋　学　期
		保険学各論（保険数理論）	2	秋　学　期
		リスク・マネジメント各論（現代社会とリスク）	2	秋　学　期
	D４　交通・公共政策・産業組織	産業組織論	4	春学期集中
		産業組織各論（規制の経済学）	2	春　学　期
		産業組織各論（産業組織と企業戦略）	2	春　学　期
		産業組織各論（社会問題の経済学）	2	秋　学　期
		サービス経済学Ⅰ		休　　講
		サービス経済学Ⅱ		休　　講
		交通経済論Ⅰ	2	春　学　期
		交通経済論Ⅱ	2	秋　学　期
		交通経済各論（公益事業論Ⅰ）	2	春　学　期
		交通経済各論（公益事業論Ⅱ）	2	秋　学　期
		交通経済各論（国際交通論Ⅰ）	2	春　学　期
	D５　労働・社会	労働経済学Ⅰ	2	春　学　期
		労働経済学Ⅱ	2	秋　学　期
		産業関係論Ⅰ	2	春　学　期
		産業関係論Ⅱ	2	秋　学　期
		産業関係各論（労務管理論）	4	春学期集中
		産業社会学Ⅰ	2	春　学　期
		産業社会学Ⅱ	2	秋　学　期
		産業社会学各論（経営社会学Ⅰ）	2	春　学　期
		産業社会学各論（経営社会学Ⅱ）	2	秋　学　期
		組織心理学 a	2	春　学　期
		組織心理学 b	2	秋　学　期
		社会保障論Ⅰ	2	春　学　期
		社会保障論Ⅱ	2	秋　学　期
	D６　産業史・経営史	産業史	2	春　学　期
		産業史各論（科学技術政策史）	2	春　学　期
		産業史各論（比較小売業史）	2	秋　学　期
		経営史	2	春　学　期
		経営史各論（アメリカ経営史）	2	春　学　期
		経営史各論（日本経営史）	2	春　学　期

3. 商学関連科目

科　　目　　名	単位数	備　考
変革の時代の企業経営（寄附講座）	4	
資産運用の理論と実務（寄附講座）	2	春　学　期
現代の株式市場と上場会社（寄附講座）	2	秋　学　期
現代の企業金融（寄附講座）	2	秋　学　期
21世紀のマネジメント（特別講座）	2	秋　学　期
経済数学基礎	2	春　学　期
経済数学Ⅰ	2	秋　学　期
経済数学Ⅱ	2	秋　学　期
ゲーム理論	2	春　学　期
法学各論（経済法Ⅰ）	2	春　学　期
法学各論（経済法Ⅱ）	2	秋　学　期
法学各論（商法ⅠA）	2	春　学　期
法学各論（商法ⅠB）	2	秋　学　期
法学各論（商法ⅡA）	2	春　学　期
法学各論（商法ⅡB）	2	秋　学　期
法学各論（租税法Ⅰ）	2	春　学　期
法学各論（租税法Ⅱ）	2	秋　学　期
法学各論（民法ⅠA）	2	春　学　期
法学各論（民法ⅠB）	2	秋　学　期
法学各論（民法ⅡA）	2	春　学　期
法学各論（民法ⅡB）	2	秋　学　期
法学各論（労働法Ⅰ）	2	春　学　期
法学各論（労働法Ⅱ）	2	秋　学　期
経済学史a	2	春　学　期
経済学史b	2	秋　学　期
社会科学の考え方	2	秋　学　期
ジャパニーズ・エコノミー	2	春　学　期
戦略の経済・商業	2	秋　学　期
戦略の経営・会計	2	秋　学　期
イタリア語a	1	春　学　期
イタリア語b	1	秋　学　期
ロシア語a	1	春　学　期
ロシア語b	1	秋　学　期
朝鮮語（初級）a	1	春　学　期
朝鮮語（初級）b	1	秋　学　期
朝鮮語（中級）a	1	春　学　期
朝鮮語（中級）b	1	秋　学　期
アラビア語a	1	春　学　期
アラビア語b	1	秋　学　期
ギリシャ語a	1	春　学　期
ギリシャ語b	1	秋　学　期
ラテン語a	1	春　学　期
ラテン語b	1	秋　学　期

(2)　Ⅳ類

科　目　名	単位数
専攻演習D	4
外国語演習D（ドイツ語）	4
外国語演習D（フランス語）	4
外国語演習D（中国語）	4
外国語演習D（スペイン語）	4
外国語演習S（英語）	2
専門外国書研究（独書）	4
専門外国書研究（仏書）	4
関連課題研究D	4
関連課題研究S	2
研究会	8または4

※他学部設置の研究会を専攻科目Ⅳ類として履修することはできません。商学関連科目・自由科目Ⅰのいずれかで登録してください。

Ⅱ　卒業および進級所要単位数

「学部学則」をあわせて参照してください。

1．卒業所要単位数

授業科目の種類			所要単位数
総合教育科目	Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅲ類 Ⅳ類 Ⅴ類	6 単位以上必要 他学部・諸研究所科目は第1･2学年で8単位まで算入 4 単位まで算入	20単位以上 （うち指定 演習科目 2 単位以上）
外国語科目	英語，ドイツ語，フランス語，中国語， スペイン語のうちから 2 か国語各 8 単位		16単位
基礎科目	Ⅰ類（基礎必修科目） Ⅱ類（基礎基盤科目）	12 単位 4 単位以上	16単位以上
専攻科目	Ⅰ類（専攻核科目） Ⅱ類（専攻基本科目）	10 単位以上 4 単位以上	18単位以上
	Ⅲ類 Ⅳ類	2 単位以上必要 } 46 単位以上	46 単位以上
商学関連科目			12 単位以上
合　　計			128 単位

◇第 4 学年における必要取得単位数……　12単位以上
◇第 3 ・第 4 学年を通じて履修し合格しなければならない単位数……　58単位
（内訳：専攻科目Ⅲ・Ⅳ類と商学関連科目）
（不合格のため再履修した第 1・2 学年配当の必修科目および所定単位不足の選択科目（総合教育科目，基礎科目Ⅱ類，専攻科目Ⅰ・Ⅱ類）は，この 58 単位に含まれません）。

1)　第 4 学年においては最低12単位以上，第 3・4 学年を通じて58単位以上履修し，合格しなければなりません。原級者の場合，1 回めの 4 年生と 2 回めの 4 年生あわせて 12 単位を取得すれば第 4 学年における必要取得単位数を満たします。

2)　総合教育科目Ⅴ類（体育科目）は何単位合格しても進級・卒業所要単位に算入される単位は第 1～4 学年あわせて 4 単位までです。すでに第 1・2 学年でⅤ類を取得している場合は，第 3・4 学年で取得した 4 単位を超える分は，進級・卒業所要単位に算入されません。

3)　**自由科目は進級・卒業所要単位には算入されません。**

4)　商学部の「研究会」は第 3・4 学年を通じて履修し，第 4 学年でのみ 8 単位として履修単位数に算入され，「4 年生で取得しなければならない 12 単位」中の 8 単位として算入されます。

2．第 4 学年への進級所要単位数

第 4 学年に進級するためには専攻科目Ⅲ類，専攻科目Ⅳ類，および商学関連科目のうちから最低 12 単位履修合格しなければなりません。1 単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。

※自由科目は進級所要単位には算入されません。

3．学士入学者

(1)　卒業所要単位数

授業科目の種類			単位数
専攻科目	Ⅰ類（専攻核科目） Ⅱ類（専攻基本科目）	10 単位以上 4 単位以上	18 単位以上
	Ⅲ類 Ⅳ類	2 単位以上必要 } 46 単位以上	46 単位以上
商学関連科目			12単位
合　　計			76単位
◇第 4 学年における必要取得単位数……			12単位以上

1)　専攻科目Ⅰ類には，次の科目を含まなければなりません。
・基本簿記と財務諸表の見方
・経営学（環境と戦略）または経営学（組織と管理）のうち 1 科目
・商業学Ⅰまたは商業学Ⅱのうち 1 科目

2)　**自由科目は進級・卒業所要単位には算入されません。**

(2) 第 4 学年への進級所要単位数

第 4 学年に進級するためには専攻科目Ⅰ類，専攻科目Ⅱ類，専攻科目Ⅲ類，専攻科目Ⅳ類，および商学関連科目のうちから最低 30 単位履修合格しなければなりません。1 単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。

※自由科目は進級所要単位には算入されません。

(3) 履修科目について

①学士入学する以前の学部において取得した単位を認定する場合がありますので，認定を希望するものは学習指導に申し出てください。

②学士入学する以前の学部における履修状況により，学習指導が商学部の必修科目（基礎科目Ⅰ類）の経済学基礎Ⅰ・Ⅱを商学関連科目 12 単位のうちで履修を指定する場合がありますので，学士入学者は 4 月に必ずガイダンスを受けてください。

Ⅲ　履修方法

1. 最高履修単位数について（三田）

1 か年に履修できる単位数の最高限度は 50 単位です。限度を超過して申告した履修科目は無効です。ただし，次の科目の単位数はこれに含まれません。

(1) 不合格のために再履修する第 1・2 学年配当の必修科目（外国語科目，基礎科目Ⅰ類）および単位不足の選択科目（基礎科目Ⅱ類，専攻科目Ⅰ・Ⅱ類）。なお，選択科目のうち，単位不足の分については制限外ですが，余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。

(2) 単位不足の総合教育科目（Ⅰ類 6 単位，および指定演習科目 2 単位含む）。ただし，(1)と同様，単位不足の分については制限外ですが，余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。

(3) 自由科目Ⅰ

8 単位以内に限り履修できます。対象科目は 33 ページを参照してください。

(4) 自由科目Ⅱ

単位数の制限はありません。対象科目は 33 ページを参照してください。

2. 研究会の履修について

研究会を履修する学生は，志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け，担当者に入会許可を得ていなければなりません。また，第 3・4 学年を通じて履修するものですが，第 4 学年でのみ 8 単位として履修単位数に算入されます（第 3 学年では履修単位数に算入されません）。ただし，履修申告は第 3 学年では「研究会（3 年）」を，第 4 学年では「研究会（4 年）」をそれぞれ申告しなければなりません。なお，研究会を退会した場合は，速やかに学事センターに「研究会退会届（所定用紙）」を提出してください。

（他学部の研究会について）

他学部の研究会を履修する際は商学関連科目・自由科目Ⅰのいずれかで登録してください。専攻科目Ⅳ類として履修することはできません。

3. 専攻演習 D・S の履修について

商学部設置の研究会を履修している人は，専攻演習 D・S を専攻科目Ⅳ類として履修することはできません。商学関連科目として履修してください。（外国語演習 D・S・関連課題研究 D・S は専攻科目Ⅳ類として履修することができます）

4. 商学関連科目の履修について

① 商学関連科目は第 3・4 学年であわせて 12 単位まで進級・卒業所要単位数に算入されます。商学部が商学関連科目として設置している科目，商学部に設置されている科目のうち，あらかじめ商学関連科目として履修申告した科目，および他学部（諸研究所やセンター等を含む）設置科目のうち商学部設置科目と同一名称の科目および商学部と併設されている科目を除いたものから選択できます。なお，「6. 重複履修について」の項も参照してください。

② 商学関連科目として専攻演習 D・S，外国語演習 D・S，関連課題研究 D・S を履修する場合は，専攻科目の専攻演習 D・S，外国語演習 D・S，関連課題研究 D・S とは区別して B 欄で履修申告してください。ただし，専攻科目として申告したクラスが不合格で商学関連科目として申告したクラスが合格した場合でも，そのクラスを専攻科目に振り替えることはできません。また，商学関連科目として希望するクラスに，専攻科目としての希望者が多い場合は専攻科目の希望者を優先します。

③ 他学部の科目および諸研究所設置科目は自由科目としても履修できますが，履修申告時に自由科目として申告した科目を後に商学関連科目に振り替えることはできません。

5. 他学部・諸研究所・他地区の履修について

他学部および諸研究所（センター等含む）設置科目を履修する場合，各学部および共通掲示板で履修不可の科目が無いかを確認したうえで，事前に履修を希望する授業科目の担当者の許可を得てから（承認印は不要，口頭承認で可）履修申告してください。諸研究所科目では，事前に手続きが必要なものもありますので，履修案内で確認して必ず済ませておくようにしてください。他学部・諸研究所科目の履修申告の際には，分野の指定が必要になる場合があります。詳細は，15・16 ページの「Ⅲ. 分野の選択について」の項を参照してください。

なお，三田の経済学部，法学部に設置されている科目を履修する場合は，それぞれ「経済学部 3・4 年授業時間割［05 学則適用者用］」，「法学部法律学科 3・4 年授業時間割」の 2005 年度以降入学者用部分，「法学部政治学科 3・4 年授業時間割」に記載されている科目を登録してください。

他地区設置科目を履修する場合は，三田の設置科目と時間が重複しないように注意してください。特に，時限が連続（例　1 時限三田，2 時限他地区）した履修は不可能ですので注意してください。なお，昼休みを挟んだ場合は可とします。移動時間を十分考慮のうえ履修計画を立ててください。移動不可能と思われる履修申告をした場合は三田の履修科目を無効とします。定期試験は授業時間割と異なる時間帯で試験が行われることがありますので，試験時間割が他の地区の科目と重複することがあります。その場合の取扱いについては試験時間割発表時に掲示しますので，確認して所定の手続きをとってください。

6. 重複履修について

① 曜日，時限を重複して履修した授業科目は無効です。

② 同一名称の科目は，同一学年内および学年が異なっても重複して履修することはできません（原則として担当者が異なっている場合でも不可）。ただし，以下の例外があります。

・一方の科目を自由科目Ⅰとして履修申告すれば，重複履修が認められます。ただし，自由科目Ⅰは進級・卒業所要単位に算入されません。履修申告時に自由科目Ⅰとして申告した科目の分野を後に変更することもできません。

・商学関連科目として履修可能な外国語科目は科目名が同じでも担当者が異なれば履修を認めます。科目名と担当者が同じでも内容が異なる場合には担当者の承認を得ることを条件に履修を認めます。専攻演習 D，外国語演習 D，関連課題研究 D は担当者が異なる場合に限り，一方を商学関連科目としての履修を認めます。専攻演習 S，外国語演習 S，および関連課題研究 S は，担当者が同じでも内容が異なれば商学関連科目としての履修を認めますが，担当者の承認が必要です。また，以前に商学関連科目で履修している場合は，自由科目Ⅰとしてしか履修できません（再度，商学関連科目として履修することはできません）。詳細は「4. 商学関連科目の履修について」の項を参照してください。

・進級不合格者が同一学年内に単位を取得した科目の成績評価はすべて認められますが，同じ科目を履修上限の 50 単位の枠内で再履修することもできます。この場合は評価の良い方がその科目の成績評価として記録されます。ただし自由科目Ⅰとして単位を取得した科目の再履修はできません。

・総合教育科目については，「総合教育セミナー（他学部設置少人数セミナー含む）」と総合教育科目Ⅳ類の「データとの対話 D」，「データとの対話 S」に関しては，サブタイトルが異なれば重複履修が可能です（総合教育セミナー（他学部設置少人数セミナー含む）は担当者の承認も必要）。また，総合教育科目Ⅱ類の諸科目は担当者が異なれば重複履修可能です。「総合教育セミナー」以外のⅡ類科目は，同じ担当者の場合は原則重複履修が認められませんが，必要な許可を受ければ履修が可能になります。なお，Ⅴ類の体育実技科目も同名科目を重複履修することができます。

③ 商学部と他学部に同じ名称の科目が設置されている場合には，商学部が設置している科目のみ履修することができます。

他学部科目は履修できません。履修申告は無効となります。

ただし「研究会」については，志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け，授業担当者の入会許可を得られれば，他学部のものも履修できます（商学部の「研究会」と他学部の「研究会」の重複履修も可能です）。

④ 商学部と他学部とで併設されている以下の科目を履修する場合は，たとえ科目名が異なっても商学部の設置科目を履修しなければなりません。

商学部設置科目	他学部併設科目（他学部での科目名）		
	経済学部設置科目	法学部設置科目	国際センター設置科目
総合教育セミナーS（Ⅲ類）			日本における外資系企業
国際経済学Ⅰ・Ⅱ		国際経済論Ⅰ・Ⅱ	
世界経済論Ⅰ・Ⅱ		国際経済論Ⅰ・Ⅱ	
法学各論（経済法Ⅰ）		経済法Ⅰ	
法学各論（経済法Ⅱ）		経済法Ⅱ	
法学各論（租税法Ⅰ）	租税法 a	租税法Ⅰ	
法学各論（租税法Ⅱ）	租税法 b	租税法Ⅱ	
法学各論（労働法Ⅰ）	労働法 a	労働法Ⅰ	
法学各論（労働法Ⅱ）	労働法 b	労働法Ⅱ	
経済学史 a・b	経済学史Ⅰ a・b		

⑤ 以下の科目は同一名称とみなされる科目の一覧です。同一名称とみなされる科目を重複して履修する場合，両方を卒業単位に含めることはできません。どちらか一方を自由科目として登録してください。

商学部設置科目	同一名称とみなされる他学部併設科目		
	経済学部設置科目	法学部設置科目	総合政策・環境情報学部設置科目
世界経済論Ⅰ・Ⅱ	世界経済論 a・b		
国際金融論Ⅰ・Ⅱ	国際金融論 a・b		国際金融論
経済政策	経済政策論 a・b	経済政策Ⅰ・Ⅱ	
経済統計Ⅰ・Ⅱ	経済統計 a・b		
計量経済学Ⅰ・Ⅱ	計量経済学中級 a・b		
金融論Ⅰ・Ⅱ	金融論 a・b		
財政学Ⅰ・Ⅱ	財政論 a・b	財政論Ⅰ・Ⅱ	
産業組織論	産業組織論 a・b		
労働経済学Ⅰ・Ⅱ	労働経済論 a・b	労働経済論Ⅰ・Ⅱ	
産業社会学Ⅰ・Ⅱ	産業社会学 a・b		
法学各論（商法ⅠA）	商法Ⅰ a	商法ⅠA	
法学各論（商法ⅠB）	商法Ⅰ b	商法ⅠB	
法学各論（商法ⅡA）	商法Ⅱ a	商法ⅡA	
法学各論（商法ⅡB）	商法Ⅱ b	商法ⅡB	
法学各論（民法ⅠA）	民法Ⅰ a	民法ⅠA	
法学各論（民法ⅠB）	民法Ⅰ b	民法ⅠB	
法学各論（民法ⅡA）	民法Ⅱ a	民法ⅡA	
法学各論（民法ⅡB）	民法Ⅱ b	民法ⅡB	

8. 第1・2学年の不合格科目の履修について

(1) 日吉でのガイダンスについて

必修の外国語科目に不合格がある者は，三田には特修授業等は設置されていませんので，日吉設置の授業科目を履修しなければなりません。「商学部外国語科目履修案内」をあわせて参照してください。なお，以下のとおり日吉でガイダンスを行いますので必ず出席してください。

4月4日（水）13：00～14：30

英語・ドイツ語履修者	23番教室
英語・フランス語履修者	J21番教室
英語・中国語履修者	J24番教室
英語・スペイン語履修者	22番教室

(2) 不合格のために再履修する第1・2学年設置の以下の必修科目は第3学年で履修することを原則とします。第3学年で単位が取得できない場合，第4学年で履修しなければなりませんが，授業時間割が重複したり，定期試験で日吉・三田の試験が重複して受験できず卒業できなくなることがありますので注意してください。

○外国語科目2か国語16単位
○基礎科目Ⅰ類12単位
○基礎科目Ⅱ類4単位
○専攻科目Ⅰ類10単位以上
○専攻科目Ⅱ類4単位以上
} Ⅰ・Ⅱ類合計18単位以上

なお，総合教育科目は卒業までに20単位必要になりますが，第3学年での履修の仕方および成績によっては，第4学年に進級できても第4学年の履修申告時点で卒業できないことが決定する場合があります。卒業所要単位を考慮に入れて誤りがないよう充分に注意してください。

(3) 中国語Ⅲa, Ⅲbが不合格の場合，日吉設置の特修クラス中国語Ⅹa, Ⅹbを履修しなければなりません。中国語Ⅹa, Ⅹbは2つ設置されますが，クラス指定になります。履修者は，学事センターで自分の履修クラスを確認してください。なお，クラス変更に関する注意事項および所定の用紙は学事センター窓口で配付しています。間違ったクラスで履修した場合，成績がつきませんので，充分に気を付けてください。

9. 強化プログラムについて

各プログラムに定められた条件を満たした場合，「強化プログラム修了」の認定証が学部から授与されます。各プログラムの概要，詳細な認定の条件については別冊の「強化プログラム履修案内」を参照してください。

Ⅳ　その他

1. 退学処分について

① 4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は学則第156条により退学処分となります。

② 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められたとき，履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できないときなどには学則第188条により退学処分となります。

2. 再試験について

商学部学生に対しては再試験は行いませんので注意してください。

3. 学業成績について

学業成績の評語は，A，B，C，Dの4段階で示されます。A，B，Cは合格，Dは不合格です。所定の授業に出席し，評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に評語が決まります。また，教授会が認めた特定の授業科目は，評語をP，Fの2種とし，Pを合格，Fを不合格とします。なお，他大学等で履修した科目の単位を認定した場合は，Gとします。

商学部所属の学生で履修した科目の成績評語に対して，確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える者は，質問制度を利用することができます。詳細は，提出期限を掲示で確認のうえ，学事センター窓口にお問い合わせください。なお，提出期限を過ぎたものはいかなる理由があっても一切受け付けませんので注意してください。また，**この制度を利用せずに，直接授業担当者に問い合わせることはできません。不正行為とみなされる場合もありますので注意してください。**

V　商学部【05学則】の分野番号表（下線のついている科目は今年度開講されません）

科目種類（括弧内は卒業所要単位数）		分野	授業科目	申告欄	B欄分野
総合教育科目（20単位以上）	Ⅰ類（6単位以上）	01-01-01	総合教育セミナーD(Ⅰ類)(4)　総合教育セミナーS(Ⅰ類)(2) 他学部少人数セミナー(Ⅰ類)(2または4)	A欄	
		01-01-02	化学Ⅰ･Ⅱ(実験を含む)(各3)　生物学Ⅰ･Ⅱ(実験を含む)(各3) 物理学Ⅰ･Ⅱ(実験を含む)(各3)		
		01-01-03	宇宙の科学(2)　基礎の数学(2)　健康科学(2)　現代化学概論(2)　現代生物学概論(2) 自然人類学(2)　心理学Ⅰ･Ⅱ(各2)　人類学Ⅰ･Ⅱ(各2)　生命の科学(2) 生命現象の分子科学(2)　地学Ⅰ･Ⅱ(各2)　地学a･b(各2)　地球科学概論(2) 地球科学概論Ⅰ･Ⅱ(各2)　天文学Ⅰ･Ⅱ(各2)　天文学a･b(各2)　自然科学概論Ⅰ･Ⅱ(各2)		
	Ⅱ類	01-02-01	総合教育セミナーD(Ⅱ類)(4)　総合教育セミナーS(Ⅱ類)(2) 他学部少人数セミナー(Ⅱ類)(2または4)		
		01-02-02	映像・音響文化論(2)　音楽Ⅰ･Ⅱ(各2)　音楽a･b(各2)　科学史Ⅰ～Ⅳ(各2) 漢文a･b(各2)　近代思想史Ⅰ･Ⅱ(各2)　近代思想史a･b(各2) 経済人類学a･b(各2)　言語学Ⅰ～Ⅳ(各2)　言語認識論(2)　現代芸術論(2) 現代思想論(2)　現代社会論(2)　現代世界史(2)　現代日本史(2) 現代メディア論(2)　国語国文Ⅰ･Ⅱ(各2)　国語国文a･b(各2) ジェンダー論Ⅰ･Ⅱ(各2)　社会科学概論Ⅰ･Ⅱ(各2) 社会学Ⅰ･Ⅱ(各2)　社会学a･b(各2)　社会心理学Ⅰ･Ⅱ(各2) 宗教学Ⅰ･Ⅱ(各2)　宗教学a･b(各2)　住宅・建築史概論(2)　女性学(2) 身体文化論(2)　人文総合講座(2)　政治学Ⅰ･Ⅱ(各2)　世界の政治(2) 造形･デザイン論(2)　地域研究(2)　地域生態文化論(2)　地域文化論(2) 地域文化論Ⅰ～Ⅳ(各2)　中国事情(2)　地理学Ⅰ･Ⅱ(各2)　地理学a･b(各2) 哲学Ⅰ･Ⅱ(各2)　哲学a･b(各2)　日本の政治(2)　人間と音楽Ⅰ･Ⅱ(各2) 美術Ⅰ･Ⅱ(各2)　美術a･b(各2)　人の尊厳（社会と人権）(2) 文化人類学(2)　文学Ⅰ･Ⅱ(各2)　文学a･b(各2)　法学Ⅰ･Ⅱ(憲法を含む)(各2) 倫理学Ⅰ･Ⅱ(各2)　倫理学a･b(各2)　歴史Ⅰ･Ⅱ(各2)　歴史a･b(各2) 論理学Ⅰ･Ⅱ(各2)　論理学a･b(各2)　論理学序論(2)　論理学本論(2)		
	Ⅲ類	01-03-01	総合教育セミナーD(Ⅲ類)(4)　総合教育セミナーS(Ⅲ類)(2) 社会との対話D(4)　社会との対話S(2)　アカデミック･スキルズⅠ～Ⅳ(各2) 他学部少人数セミナー(Ⅲ類)(2または4)		
		01-03-02	21世紀の実学(2)　近代日本と福澤諭吉(2)　情報リテラシー基礎(4) 身体／感覚文化(2)　生命の教養学(2)　西洋文明学説史Ⅰ･Ⅱ(各2) 戦争と社会(2)　日本の産業と経営(2)　日本文明学説史Ⅰ･Ⅱ(各2) 比較文化論a･b(各2)　東アジアの中の近代日本(2)　表象文化論a･b(各2) 文明学説史Ⅰ･Ⅱ(各2)　民族文化論(2)　ラテンアメリカ研究a･b(各2)		
		01-03-03	アラビア語a･b(各1)　イタリア語入門Ⅰ･Ⅱ(各1)　イタリア語入門a･b(各1) ○その他，商学部設置の外国語科目（必修語学を必修分とは別に履修する場合） ○他学部設置の科目で担当教員に履修が許可されたもの（設置学部の必修科目および商学部設置科目と同一名称の科目を除く） ○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○知的資産センター設置講座	B欄	38
	Ⅳ類	01-04-01	確率論基礎(2)　ゲーム理論基礎(2)　線形代数演習(2) 微積分演習(2)　線形代数(2)　中級線形代数(2)　中級微積分(2)	A欄	
		01-04-02	データとの対話D(4)　データとの対話S(2)		
		01-04-03	英語アカデミックライティング(2)　英語ディスカッション(2)		

総合教育科目（20単位以上）	Ⅳ　類		01-04-03	英語ディベート(2)　英語プレゼンテーション(2) 英語リーディングセミナー(2)　英語リスニングセミナー(2)	A欄
			01-04-04	ドイツ語インテンシブⅢ(2)　ドイツ語インテンシブⅥ(2)	
			01-04-05	フランス語インテンシブⅢ(2)　フランス語インテンシブⅥ(2)	
			01-04-06	中国語インテンシブⅢ(2)　中国語インテンシブⅥ(2)	
			01-04-07	スペイン語インテンシブⅢ(2)　スペイン語インテンシブⅥ(2)	
	Ⅴ　類 (4単位まで算入)		01-05-01	体育実技Ａ(1)　体育実技Ｂ(1)	
			01-05-02	体育学講義(2)　体育学演習(1)	
外国語科目（計16単位）	第1学年配当科目（2か国語各4単位）		02-01-01	英語(各1)	
			02-01-02	ドイツ語(各1)	
			02-01-03	フランス語(各1)	
			02-01-04	中国語(各1)	
			02-01-05	スペイン語(各1)	
			02-01-11	日本語(外国人留学生)(各1)	
	第2学年配当科目（2か国語各4単位）		02-02-01	英語(各1)	
			02-02-02	ドイツ語(各1)	
			02-02-03	フランス語(各1)	
			02-02-04	中国語(各1)	
			02-02-05	スペイン語(各1)	
			02-02-11	日本語(外国人留学生)(各1)	
基礎科目	Ⅰ類 基礎必修科目		03-01-01	経済学基礎Ⅰ(2)　経済学基礎Ⅱ(2)	
			03-01-02	微積分Ⅰ(2)　微積分Ⅱ(2)	
			03-01-03	統計学Ⅰ(2)　統計学Ⅱ(2)	
	Ⅱ類 基礎基盤科目		03-02-01	経済史Ⅰ(2)　経済史Ⅱ(2)	
			03-02-02	社会経済学Ⅰ(2)　社会経済学Ⅱ(2)	
			03-02-03	私法基礎Ⅰ(2)　私法基礎Ⅱ(2)	
専攻科目	Ⅰ類 専攻核科目		04-01-01	経営学(環境と戦略)(2)　経営学(組織と管理)(2)	
			04-01-02	基本簿記と財務諸表の見方(2)	
			04-01-03	商業学Ⅰ(2)　商業学Ⅱ(2)	
			04-01-04	産業経済論ａ(2)　産業経済論ｂ(2)	
	Ⅱ類 専攻基本科目		04-02-01	応用経営学(企業をめぐる諸課題) (2)	
			04-02-02	応用簿記(4)　財務会計論(4)　管理会計論(4)　監査論(2)　企業法(4)	
			04-02-03	マーケティング・マネジメント論(2)	
			04-02-04	経済学Ⅰ(2)　経済学Ⅱ(2)	
専攻科目（三田設置）（Ⅲ・Ⅳ類あわせて46単位）	Ⅲ類	Ａ経営	04-03-01	現代企業経営各論(2)　経営管理各論(2)　経営学説史各論(2)	
		Ｂ会計	04-03-02	会計史Ⅰ・Ⅱ(各2)　財務会計各論(2)　会計監査各論(2) 管理会計各論(2)　会計史各論(2)	
		Ｃ商業	04-03-03	マクロ・マーケティング論(2)　マクロ・マーケティング各論(2) ミクロ・マーケティング論(2)　ミクロ・マーケティング各論(2) マーケティング学説史(2)　マーケティング史(2)	
		Ｄ経済産業　D1 国際経済	04-03-04	国際経済学Ⅰ・Ⅱ(各2)　国際経済学各論(2)　世界経済論Ⅰ・Ⅱ(各2) 世界経済各論(2)　国際金融論Ⅰ・Ⅱ(各2)　国際金融各論(2)	
		Ｄ経済産業　D2 計量経済	04-03-05	理論経済学(4)　理論経済学各論(2)　経済政策(4)　経済統計Ⅰ・Ⅱ(各2) 経済統計各論(2)　計量経済学Ⅰ・Ⅱ(各2)　計量経済学各論(2)	
		Ｄ経済産業　D3 金融・保険	04-03-06	金融論Ⅰ・Ⅱ(各2)　金融各論(2)　財政学Ⅰ・Ⅱ(各2)　財政学各論(2) 証券経済論Ⅰ・Ⅱ(各2)　証券経済各論(2)　保険学Ⅰ・Ⅱ(各2) 保険学各論(2)　リスク・マネジメント各論(2)	
		Ｄ経済産業　D4交通・公共政策・産業組織	04-03-07	産業組織論(4)　産業組織各論(2)　サービス経済学Ⅰ・Ⅱ(各2) 交通経済論Ⅰ・Ⅱ(各2)　交通経済各論(2)	
		Ｄ経済産業　D5 労働・社会	04-03-08	労働経済学Ⅰ・Ⅱ(各2)　産業関係論Ⅰ・Ⅱ(各2)　産業関係各論(4) 産業社会学Ⅰ・Ⅱ(各2)　産業社会学各論(2) 組織心理学ａ・ｂ(各2)　社会保障論Ⅰ・Ⅱ(各2)	

専攻科目(三田設置)(Ⅲ・Ⅳ類あわせて46単位)	Ⅲ類 D 産業経済 D6 産業史・経営史	04-03-09	産業史(2)　産業史各論(2)　経営史(2)　経営史各論(2)	A 欄	
	Ⅳ　類 (2 単位以上)	04-04-01	専攻演習Ｄ(4)		
			専攻演習Ｓ(2)		
			外国語演習Ｄ(4)		
			外国語演習Ｓ(2)		
			専門外国書研究(4)		
			関連課題研究Ｄ(4)		
			関連課題研究Ｓ(2)		
		04-04-02	研究会(３年生)(0)		
		04-04-03	研究会(４年生)(８または４)		
商学関連科目	第３・４学年のみ (12 単位)	05-01-01	21世紀のマネジメント(2)　経済数学基礎(2)　経済数学Ⅰ(2)　経済数学Ⅱ(2) ゲーム理論(2)　法学各論(2)　経済学史ａ・ｂ(各２) 変革の時代の企業経営(4)　現代の株式市場と上場会社(2)　現代の企業金融(2) 資産運用の理論と実務(2)　イタリア語ａ・ｂ(各１)　ロシア語ａ・ｂ(各１) 朝鮮語(初級)ａ・ｂ(各１)　朝鮮語(中級)ａ・ｂ(各１)　アラビア語ａ・ｂ(各１) ギリシャ語ａ・ｂ(各１)　ラテン語ａ・ｂ(各１)		
		05-01-02	社会科学の考え方(2)　ジャパニーズ・エコノミー(2)　戦略の経済・商業(2) 戦略の経営・会計(2)		
		05-01-03	商学部に設置されている科目のうち，あらかじめ商学関連科目として履修申告したもの	B 欄	50
		05-01-04	○他学部設置の科目で担当教員に履修が許可されたもの （設置学部の必修科目および商学部設置科目と同一名称の科目を除く）		51
			○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○アート・センター設置講座 ○知的資産センター設置講座	A 欄	
自由科目	自由科目Ⅰ （＊卒業単位には含まれません。 1カ年につき８単位まで）	06-01-01	○商学部設置科目（必修科目は，履修を許可された場合のみ） ○他学部設置の授業科目 ○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○体育研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○アート・センター設置講座 ○知的資産センター設置講座 ○外国語学校設置講座のうち，商学部および他学部に設置されていない外国語 （2007 年度は対象科目無し）	B 欄	60
	自由科目Ⅱ （＊卒業単位には含まれません）	06-01-02	○メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○教職課程センター設置科目 ○教員免許取得のために履修する教職課程授業科目		61

（注）専攻科目Ⅲ類の各論的科目の(　)内の科目名は省略してあります。

※三田設置の総合教育科目について

三田における他学部設置（他地区を除く）の授業科目のうち，以下の授業科目は，商学部の総合教育科目として扱われます。
履修申告に際しては，以下の点に注意してください。

① 以下の授業科目については下表中の分野以外での履修申告はできません（商学関連科目として履修申告できません）。
② 履修申告用紙の場合はA欄で申告してください（Web申告の場合はB欄分野番号の指定は必要ありません）。※22ページ参照
③ 履修人数が多い場合は設置学部の学生が優先となります。必ず履修申告前に授業担当者に許可をもらうようにしてください。
④ 講義要綱・時間割は設置学部のもので確認してください（学事センターにて閲覧できます）。

授業科目の種類	分野	科目名	設置学部
総合教育科目Ⅰ類	01-01-03	数学Ⅴ	法
		数学Ⅵ	法
		統計学Ⅲ	法
		統計学Ⅳ	法
総合教育科目Ⅱ類	01-02-01	人文科学研究会Ⅰ	法
		人文科学研究会Ⅱ	法
		人文科学研究会Ⅲ	法
		人文科学研究会Ⅳ	法
	01-02-02	映画演劇論Ⅰ	文
		映画演劇論Ⅱ	文
		映画演劇論Ⅲ	文
		映画演劇論Ⅳ	文
		ロシア文学	文
		芸術と文明	文
		現代芸術Ⅰ	文
		現代芸術Ⅱ	文
		詩学Ⅰ	文
		詩学Ⅱ	文
		地域研究－中国事情Ⅴ	経
		地域研究－中国事情Ⅵ	経
総合教育科目Ⅲ類	01-03-02	基礎情報処理	文
		自然科学特論Ⅰ	法
		自然科学特論Ⅱ	法

商学部　卒業単位数チェック表【05 学則用】

※必ず本要項を参照して，チェックしてください。

			必要単位数		取得単位数			
1・2年時取得単位	総合教育科目	Ⅰ類	6 単位以上	20単位以上（卒業までに）［うち指定演習科目 2 単位以上］	Ⅰ類		計	［うち指定演習科目］ 単位
		Ⅱ類			Ⅱ類			
		Ⅲ類	他学部・諸研究所設置科目は 8 単位まで算入		Ⅲ類			
		Ⅳ類			Ⅳ類			
		Ⅴ類	4 単位まで算入		Ⅴ類			
	外国語	外国語1	8 単位					
		外国語2	8 単位					
	基礎科目	Ⅰ類（基礎必修科目）	12 単位					
		Ⅱ類（基礎基盤科目）	4 単位以上					
	専攻科目	Ⅰ類（専攻核科目）	10単位以上	18 単位以上	Ⅰ類		計	
		Ⅱ類（専攻基本科目）	4 単位以上		Ⅱ類			
	小計（1）		70 単位					

※ 上記の必要単位数に取り残しの単位があったとしても，合計で 70 単位以上取得していれば 3 年生に進級できます。
ただし，取り残した単位は，以下の 3・4 年生で必要な 58 単位とは別に必要となりますので，以下の 3・4 年生必要単位数の 58 単位に含めて数えないように注意してください。

			必要単位数		取得単位数			
3・4年時取得単位	専攻科目	Ⅲ類		46 単位以上	Ⅲ類		計	
		Ⅳ類	2単位以上		Ⅳ類			
	商学関連科目		12単位以上					
	小計（2）		58 単位					

合計（1）＋（2）	128 単位	
4 年生取得単位	12 単位以上	
（3 年生）第 4 学年への進級条件	12 単位以上	

（注）総合教育科目は学則上，卒業までに 20 単位以上取得すれば良いことになっていますが，科目の性質や，カリキュラムの計画を考えるとできるだけ 1・2 年で履修しておくのが望ましいため，1・2 年生の科目として掲載しています。

履　修　要　項【99 学則用】

［注意］本冊子 1 ページを読み，自分に適用される学則を必ず確認してください。
なお，99 学則適用者が 05 学則適用者の科目を履修することはできません。

Ⅰ　開講科目と単位数

2007 年度に商学部が三田に設置する科目と単位数は次のとおりです。授業には週 1 コマ開講される通年科目，春学期または秋学期のみに毎週 2 コマ開講される集中科目，および週 1 コマの春学期または秋学期のみの半期科目があります。

科目名の末尾に「Ⅰ／Ⅱ」がつく科目は一方のみの履修が可能ですが，「a／b」がつく科目は春学期・秋学期セットで履修しなければなりません。

（注）新カリキュラム導入に伴い，＊がついている科目は次年度以降も開講する予定はありませんので，注意して履修計画を立ててください。＊がついていない科目でも予告なく休講になる場合があります。

1. 総合教育科目

分類	科　目　名	単位数
Ⅰ類	自然科学概論Ⅰ	2
	自然科学概論Ⅱ	2
Ⅱ類	人間と音楽Ⅰ	2
	人間と音楽Ⅱ	2
	人の尊厳（社会と人権）	2
Ⅲ類	総合教育セミナーS（Ⅲ類）	2
	西洋文明学説史Ⅰ	2
	西洋文明学説史Ⅱ	2
	日本文明学説史Ⅰ	2
	日本文明学説史Ⅱ	2

2. 専攻科目

(1)　Ⅲ類

科　目　名	単位数	科　目　名	単位数
専攻演習D	4	関連課題研究S	2
外国語演習D（ドイツ語）	4	研究会	8 または 4
外国語演習D（フランス語）	4	＊外書演習	2
外国語演習D（中国語）	4	＊外国語特殊（英語演習）	2
外国語演習D（スペイン語）	4	＊外国語特殊（ドイツ語口語表現）	2
外国語演習S（英語）	2	＊外国語特殊（フランス語上級－講読）	2
外国語特殊（中国語中・上級）	2	＊外国語特殊（フランス語上級－演習）	2
ドイツ語専門書研究	4	＊外国語特殊（スペイン語）	2
フランス語専門書研究	4	＊専門演習	2
関連課題研究 D	4	＊専門外国書研究	2

※他学部設置の研究会を専攻科目Ⅲ類として履修することはできません。関連科目・自主選択科目・自由科目Ⅰのいずれかで登録してください。

(2)　Ⅳ類

①　専攻分野に関する科目

（注）次の表で備考欄が空白の科目は通年科目です。
なお，各論的科目は毎年度開講されるとは限りません。特定期間集中の科目は，掲示板でその期間を確認してください。

※ 専攻科目の科目名について
履修案内その他において「～各論」と表記されている科目について，学部学則では「～各論Ⅰ」・「～各論Ⅱ」と表記しています。繁雑さを避けるため通常使用するに当たっては「～各論」という表記に統一します。

分　野		科　目　名	単位数	備　考
経営	A　経営	《総論的科目》		
		＊現代企業経営論		休　　講
		＊経営管理論		休　　講
		＊経営学説史		休　　講
		《各論的科目》		
		現代企業経営各論（企業形態）	2	秋　学　期
		現代企業経営各論（企業制度）	2	秋　学　期
		現代企業経営各論（企業戦略）	2	秋　学　期
		現代企業経営各論（企業倫理）	2	春　学　期
		現代企業経営各論（経営経済）	2	秋　学　期
		現代企業経営各論（経営情報論）	2	春　学　期
		現代企業経営各論（経営組織）	2	春　学　期
		現代企業経営各論（組織文化論）	2	秋　学　期
		現代企業経営各論（中小企業経営）	2	秋　学　期
		現代企業経営各論（比較経営論）	2	秋　学　期
		経営管理各論（経営管理）	2	春　学　期
		経営管理各論（経営計画）	2	春　学　期
		経営学説史各論（方法論史）	2	秋　学　期
会計	B　会計	《総論的科目》		
		財務会計論	4	
		管理会計論	4	
		会計史	4	
		(注)「管理会計論」は，2006 年度以前に「管理会計各論（原価計算論）」の単位を取得済みの場合は履修できません。		
		《各論的科目》		
		財務会計各論（会計基礎理論）	2	春　学　期
		財務会計各論（会計測定論Ⅰ）	2	春　学　期
		財務会計各論（会計測定論Ⅱ）	2	秋　学　期
		財務会計各論（現行会計基準概論）	2	秋　学　期
		財務会計各論（国際会計論）	2	春　学　期
		財務会計各論（取得原価主義会計論）	2	春　学　期
		財務会計各論（税務会計論Ⅰ）	2	春　学　期
		財務会計各論（税務会計論Ⅱ）	2	秋　学　期
		財務会計各論（非営利法人会計論Ⅰ）	2	春　学　期
		財務会計各論（非営利法人会計論Ⅱ）	2	秋　学　期
		会計監査各論（公認会計士による財務諸表監査）	2	春　学　期
		管理会計各論（業績評価と会計）	2	春　学　期
		管理会計各論（原価管理論Ⅰ）	2	秋　学　期
		管理会計各論（サービス業の管理会計）	2	秋　学　期
		管理会計各論（戦略的管理会計）	2	秋　学　期
		会計史各論		休　　講
商業	C　商業	《総論的科目》		
		マクロ・マーケティング論		休　　講
		ミクロ・マーケティング論	4	
		《各論的科目》		
		マクロ・マーケティング各論（商業経済学）	2	春　学　期
		マクロ・マーケティング各論（マーケティング学説史）	2	秋　学　期
		マクロ・マーケティング各論（マーケティング史）	2	春　学　期
		マクロ・マーケティング各論（流通論）	2	春　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（グローバル・マーケティング論）	2	春学期特定
		ミクロ・マーケティング各論（広告論）	2	秋　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（消費者行動論）	2	春　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（製品開発論）	2	春　学　期

商業		ミクロ・マーケティング各論（マーケティング経済学）	2	春　学　期
		ミクロ・マーケティング各論（マーケティング･リサーチ）	2	春　学　期
経済・産業	D　国際経済	《総論的科目》		
		国際経済学	4	
		世界経済論	4	
		国際金融論	4	
		《各論的科目》		
		国際経済学各論（国際経済政策論）	2	秋　学　期
		国際経済学各論（ミクロ貿易論）	2	春　学　期
		世界経済各論（国際開発協力論）	2	春　学　期
		世界経済各論（中国経済論）	2	春　学　期
		国際金融各論（国際金融システム論）	2	秋　学　期
	E　計量経済	《総論的科目》		
		理論経済学Ⅱ	4	春学期集中
		経済政策	4	秋学期集中
		経済統計	4	
		計量経済学	4	
		《各論的科目》		
		理論経済学各論（応用ミクロ経済学）	2	春　学　期
		理論経済学各論（非営利組織論）	2	秋　学　期
		理論経済学各論（マクロ・エコノミクス）	2	春　学　期
		理論経済学各論（マネタリー・エコノミクス）	2	秋　学　期
		経済政策各論		休　　講
		経済統計各論（数理統計基礎）	2	春　学　期
		経済統計各論（統計的推論）	2	秋　学　期
		計量経済学各論（マクロ計量経済学）	2	春　学　期
		計量経済学各論（ミクロ計量経済学）	2	秋　学　期
	F　金融・保険	《総論的科目》		
		金融論	4	
		財政学	4	
		証券経済論	4	
		保険学	4	
		《各論的科目》		
		金融各論		休　　講
		財政学各論		休　　講
		証券経済各論（証券制度論）	2	秋　学　期
		保険学各論（生命保険論）	2	春　学　期
		保険学各論（損害保険論）	2	春　学　期
		保険学各論（保険経営論）	2	秋　学　期
		保険学各論（保険数理論）	2	秋　学　期
		リスク・マネージメント各論（現代社会とリスク）	2	秋　学　期
	G　産業・交通	《総論的科目》		
		産業組織論	4	春学期集中
		サービス経済学		休　　講
		交通経済論	4	
		《各論的科目》		
		産業組織各論（規制の経済学）	2	春　学　期
		産業組織各論（産業組織と企業戦略）	2	春　学　期
		産業組織各論（社会問題の経済学）	2	秋　学　期
		サービス経済学各論		休　　講
		交通経済各論（公益事業論Ⅰ）	2	春　学　期
		交通経済各論（公益事業論Ⅱ）	2	秋　学　期
		交通経済各論（国際交通論Ⅰ）	2	春　学　期

経済・産業	H　労働・社会	《総論的科目》		
		労働経済学	4	
		産業関係論	4	
		産業社会学	4	
		組織心理学	4	
		社会保障論	4	
		《各論的科目》		
		労働経済学各論		休　　講
		産業関係各論（労務管理論）	4	春学期集中
		産業社会学各論（経営社会学Ⅰ）	2	春　学　期
		産業社会学各論（経営社会学Ⅱ）	2	秋　学　期
		組織心理学各論		休　　講
		社会保障各論		休　　講
	I　産業史・経営史	《総論的科目》		
		産業史	2	春　学　期
		経営史	2	春　学　期
		《各論的科目》		
		産業史各論（科学技術政策史）	2	春　学　期
		産業史各論（比較小売業史）	2	秋　学　期
		経営史各論（アメリカ経営史）	2	春　学　期
		経営史各論（日本経営史）	2	春　学　期

②　その他の科目

科　　目　　名	単位数	備　考
変革の時代の企業経営（寄附講座）	4	
資産運用の理論と実務（寄附講座）	2	春　学　期
現代の株式市場と上場会社（寄附講座）	2	秋　学　期
現代の企業金融（寄附講座）	2	秋　学　期
21世紀のマネジメント（特別講座）	2	秋　学　期
数学各論（経済数学基礎）	2	春　学　期
数学各論（経済数学Ⅰ）	2	秋　学　期
数学各論（経済数学Ⅱ）	2	秋　学　期
数学各論（ゲーム理論）	2	春　学　期
情報処理Ⅲ		休　　講
情報処理Ⅳ		休　　講
法学各論（経済法Ⅰ）	2	春　学　期
法学各論（経済法Ⅱ）	2	秋　学　期
法学各論（商法ⅠA）	2	春　学　期
法学各論（商法ⅠB）	2	秋　学　期
法学各論（商法ⅡA）	2	春　学　期
法学各論（商法ⅡB）	2	秋　学　期
法学各論（租税法Ⅰ）	2	春　学　期
法学各論（租税法Ⅱ）	2	秋　学　期
法学各論（民法ⅠA）	2	春　学　期
法学各論（民法ⅠB）	2	秋　学　期
法学各論（民法ⅡA）	2	春　学　期
法学各論（民法ⅡB）	2	秋　学　期
法学各論（労働法Ⅰ）	2	春　学　期
法学各論（労働法Ⅱ）	2	秋　学　期
経済学史a	2	春　学　期
経済学史b	2	秋　学　期
ジャパニーズ・エコノミー	2	春　学　期
戦略の経済・商業	2	秋　学　期
戦略の経営・会計	2	秋　学　期

3. 自主選択科目

科　目　名	単位数	備　考
イタリア語a	1	春　学　期
イタリア語b	1	秋　学　期
ロシア語	2	
朝鮮語（初級）	2	
朝鮮語（中級）	2	
アラビア語	2	
ギリシャ語	2	
ラテン語	2	

Ⅱ　卒業および進級所要単位数

「学部学則」をあわせて参照してください。

1. 卒業所要単位数

授業科目の種類			所要単位数
総合教育科目	Ⅰ類 Ⅱ類 Ⅲ類 Ⅳ類	6単位以上必要 4単位まで算入	20
外国語科目	英語，ドイツ語，フランス語，中国語， スペイン語のうちから2か国語各8単位		16
基礎科目	Ⅰ類 Ⅱ類A群 Ⅱ類B群 Ⅱ類C群	6 4 2 2	14
専攻科目	Ⅰ類 Ⅱ類	4 8	12
	Ⅲ類 Ⅳ類	2単位以上必要 } 46	46
自主選択科目	所要単位 第1･2学年　8単位（第1･2学年で履修合格したもの） 第3･4学年　12単位（第3･4学年で履修合格したもの） （この所要単位数には総合教育科目･基礎科目･専攻科目のうち所定単位数を超えて履修合格した単位は，自動的に，自主選択科目として算入されます。また，履修学年には充分注意してください。）		8 12
合　計			128

◇第4学年における必要取得単位数……12単位以上
◇第3・第4学年を通じて履修し合格しなければならない単位数……58単位
（内訳：専攻科目Ⅲ・Ⅳ類と第3・4学年の自主選択科目）
（不合格のため再履修した第1・2学年配当の必修科目および所定単位不足の選択科目（総合教育科目，基礎科目Ⅱ類，専攻科目Ⅰ・Ⅱ類）は，この58単位に含まれません）。

1)　関連科目は専攻科目Ⅳ類のなかに8単位まで卒業所要単位として算入されます。

2)　自主選択科目については，上の表の内訳にあるように，3・4年では12単位分その枠が用意されています。
商学部が自主選択科目として設置している科目をそのまま履修する他に，他学部や諸研究所の科目を自主選択科目として履修する，又は勉強をさらに深めたい者は，総合教育科目・基礎科目・専攻科目の内必須とされている単位数以上に履修し合格した場合，その単位は12単位を上限に，自動的に自主選択科目として算入されます。

3)　第4学年においては最低12単位以上，第3・4学年を通じて58単位以上履修し，合格しなければなりません。原級者の場合，1回めの4年生と2回めの4年生あわせて12単位を取得すれば第4学年における必要取得単位数を満たします。

4)　総合教育科目Ⅳ類（体育科目）は何単位合格しても進級・卒業単位に算入される単位は第1～4学年あわせて4単位までです。すでに第1・2学年でⅣ類を取得している場合は，第3・4学年で取得した4単位を超える分は，進級・卒業所要単位に算入されません。

5)　**自由科目は進級・卒業所要単位には算入されません。**

6)　商学部の「研究会」は第3・4学年を通じて履修し，第4学年でのみ8単位として履修単位数に算入され，「4年生で取得しなければならない12単位」中の8単位として算入されます。

2. 第 4 学年への進級所要単位数

第 4 学年に進級するためには専攻科目Ⅲ類，専攻科目Ⅳ類，および関連科目，総合教育科目，自主選択科目のうちから最低 12 単位履修合格しなければなりません。1 単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。

※自由科目は進級所要単位には算入されません。

※関連科目は，何単位履修合格しても進級・卒業所要単位に算入される単位は，第 3・4 学年あわせて 8 単位までです。

3. 学士入学者

(1) 卒業所要単位数

授業科目の種類			単位数
専攻科目	Ⅰ類 Ⅱ類	4 8	12
	Ⅲ類 Ⅳ類	2 単位以上必要 46	46
自主選択科目	12単位まで算入		12
合　　計			70
◇第 4 学年における必要取得単位数……			12単位以上

1) 関連科目は専攻科目Ⅳ類のなかに 8 単位まで卒業所要単位として算入されます。

2) 自主選択科目は第 3 ・ 4 学年において履修した専攻科目のうち12 単位の範囲内で上記の所定単位数を超えて履修合格した単位をもって充てることができます。

3) **自由科目は進級・卒業所要単位には算入されません。**

(2) 第 4 学年への進級所要単位数

第 4 学年に進級するためには専攻科目Ⅰ類，専攻科目Ⅱ類，専攻科目Ⅲ類，専攻科目Ⅳ類，および関連科目（何単位履修合格しても第 3・4 学年あわせて 8 単位までしか算入されません），自主選択科目のうちから最低24単位履修合格しなければなりません。 1 単位でも不足すると不合格となりますので注意してください。

※自由科目は進級所要単位には算入されません。

(3) 履修科目について

①学士入学する以前の学部において取得した単位を認定する場合がありますので，認定を希望するものは学習指導に申し出てください。

②学士入学する以前の学部における履修状況により，学習指導が商学部の必修科目（基礎科目Ⅰ類）の商学概論，経済学を自主選択科目 12 単位のうちで履修を指定する場合がありますので，学士入学者は 4 月に必ずガイダンスを受けてください。

Ⅲ　履修方法

1. 最高履修単位数について（三田）

1 か年に履修できる単位数の最高限度は50単位です。限度を超過して申告した履修科目は無効です。ただし，次の科目の単位数はこれに含まれません。

(1) 不合格のために再履修する第 1 ・ 2 学年配当の必修科目（外国語科目，基礎科目Ⅰ類）および単位不足の選択科目（基礎科目Ⅱ類，専攻科目Ⅰ・Ⅱ類）。なお，選択科目のうち，単位不足の分については制限外ですが，余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。

(2) 単位不足の総合教育科目。ただし，(1)と同様，単位不足の分については制限外ですが，余裕をみて余分に履修申告する場合のオーバーする分については制限に含まれます。

(3) 自由科目Ⅰ

8 単位以内に限り履修できます。対象科目は 50 ページを参照してください。

(4) 自由科目Ⅱ

単位数の制限はありません。対象科目は 50 ページを参照してください。

2. 研究会の履修について

研究会を履修する学生は，志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け，担当者に入会許可を得ていなければなりません。また，第 3 ・ 4 学年を通じて履修するものですが，第 4 学年でのみ 8 単位として履修単位数に算入されます（第 3 学年では履修単位数に算入されません）。ただし，履修申告は第 3 学年では「研究会（ 3 年）」を，第 4 学年では「研究会（ 4 年）」をそれぞれ申告しなければなりません。なお，研究会を退会した場合は，速やかに学事センターに「研究会退会届（所定用紙）」を提出してください。

（他学部の研究会について）

他学部の研究会を履修する際は関連科目・自主選択科目・自由科目Ⅰのいずれかで登録してください。専攻科目Ⅲ類として履修することはできません。

3. 専攻演習 D・S の履修について

商学部設置の研究会を履修している人は，専攻演習 D・S を専攻科目Ⅲ類として履修することはできません。自主選択科目として履修してください。（外国語特殊・外国語演習 D・S・関連課題研究 D・S は専攻科目Ⅲ類として履修することができます）

4. 自主選択科目の履修について

① 自主選択科目は第 3 ・ 4 学年であわせて12単位まで進級・卒業所要単位数に算入されます。商学部が自主選択科目として設置している科目，および他学部（諸研究所やセンター等を含む）設置科目のうち商学部設置科目と同一名称の科目および商学部と併設されている科目を除いたものから選択できます。

また，第 3・4 学年において履修した商学部設置科目のうち卒業所定単位数を超えて履修合格した単位を 12 単位の範囲内で充てることもできます。この場合は改めて自主選択科目として履修申告する必要はありません。なお,「7. 重複履修について」の項も参照してください。

② 自主選択科目として専攻演習 D・S，外国語演習 D・S，外国語特殊，関連課題研究 D・S を履修する場合は，専攻科目の専攻演習 D・S，外国語演習 D・S，外国語特殊，関連課題研究 D・S とは区別して B 欄で履修申告してください。ただし，専攻科目として申告したクラスが不合格で自主選択科目として申告したクラスが合格した場合でも，そのクラスを専攻科目に振り替えることはできません。また，自主選択科目として希望するクラスに，専攻科目としての希望者が多い場合は専攻科目の希望者を優先します。

③ 他学部の科目および諸研究所設置科目は自由科目や関連科目としても履修できますが，履修申告時に自由科目や関連科目として申告した科目を後に自主選択科目に振り替えることはできません。

5. 関連科目の履修について

三田設置の他学部および諸研究所（センター等を含む）の科目のうち，商学部設置科目と同一名称の科目および商学部に併設されている科目を除いたもので，総合教育科目および外国語科目以外の科目でなくてはいけません。関連科目として認められない科目は，自由科目Ⅰとして登録される場合もありますので注意してください。

第 3 ・ 4 学年を通じて 8 単位までが専攻科目Ⅳ類として進級・卒業所要単位に算入されます（8 単位を超えた分は，自主選択科目としても算入されません）。ただし，履修単位数は，すべて履修単位数制限に算入されますので注意してください。なお，他学部の科目および諸研究所設置科目は自由科目や自主選択科目としても履修できますが，履修申告時に自由科目や自主選択科目として申告した科目を後に関連科目に振り替えることはできません。

6. 他学部・諸研究所・他地区の履修について

他学部および諸研究所（センター等含む）設置科目を履修する場合，各学部および共通掲示板で履修不可の科目が無いかを確認したうえで，事前に履修を希望する授業科目の担当者の許可を得てから（承認印は不要，口頭承認で可）履修申告してください。諸研究所科目では，事前に手続きが必要なものもありますので，履修案内で確認して必ず済ませておくようにしてください。他学部・諸研究所科目の履修申告の際には，分野の指定が必要になる場合があります。詳細は，15・16 ページの「Ⅲ. 分野の選択について」の項を参照してください。

なお，三田の経済学部，法学部に設置されている科目を履修する場合は，それぞれ「経済学部 3・4 年授業時間割［05 学則適用者用］」,「法学部法律学科 3・4 年授業時間割」の2005年度以降入学者用部分,「法学部政治学科 3・4 年授業時間割」に記載されている科目を登録してください。

他地区設置科目を履修する場合は，三田の設置科目と時間が重複しないように注意してください。特に，時限が連続（例　1 時限三田，2 時限他地区）した履修は不可能ですので注意してください。なお，昼休みを挟んだ場合は可とします。移動時間を十分考慮のうえ履修計画を立ててください。移動不可能と思われる履修申告をした場合は三田の履修科目を無効とします。定期試験は授業時間割と異なる時間帯で試験が行われることがありますので，試験時間割が他の地区の科目と重複することがあります。その場合の取扱いについては試験時間割発表時に掲示しますので，確認して所定の手続きをとってください。

7. 重複履修について

① 曜日，時限を重複して履修した授業科目は無効です。

② 同一名称の科目は，同一学年内および学年が異なっても重複して履修することはできません（原則として担当者が異なっている場合でも不可）。ただし，以下の例外があります。

・一方の科目を自由科目Ⅰとして履修申告すれば，重複履修が認められます。ただし，自由科目Ⅰは進級・卒業所要単位に算入されません。履修申告時に自由科目Ⅰとして申告した科目の分野を後に変更することもできません。

・自主選択科目として履修可能な外国語科目は科目名が同じでも担当者が異なれば履修を認めます。科目名と担当者が同じでも内容が異なる場合には担当者の承認を得ることを条件に履修を認めます。専攻演習 D，外国語演習 D，関連課題研究 D，外国語特殊は担当者が異なる場合に限り，一方を自主選択科目としての履修を認めます。専攻演習 S，外国語演習 S，および関連課題研究 S は，担当者が同じでも内容が異なれば自主選択科目としての履修を認めますが，担当者の承認が必要です。また，以前に自主選択科目で履修している場合は，自由科目Ⅰとしてしか履修できません（再度，自主選択科目として履修することはできません）。詳細は「4. 自主選択科目の履修について」の項を参照してください。

・2004 年度までに「外国語特殊」の単位を取得した者は，2005 年度以降に同じ語種の「外国語演習」の履修はできません（同名科目とみなすため）。ただし，担当者が異なる場合に限り，自主選択科目としての履修を認めます。

・進級不合格者が同一学年内に単位を取得した科目の成績評価はすべて認められますが，同じ科目を履修上限の 50 単位の枠内で再履

修することもできます。この場合は評価の良い方がその科目の成績評価として記録されます。ただし自由科目Ⅰとして単位を取得した科目の再履修はできません。

・総合教育科目については，例えば「歴史」と「歴史Ⅰ」・「歴史Ⅱ」，「歴史a」・「歴史b」は，同一名称の科目とみなすため重複履修できません。ただし，基礎科目Ⅱ類Ａ群の「情報処理Ⅱ」と「総合教育セミナー（他学部設置少人数セミナー含む)」に関しては，サブタイトルが異なれば重複履修が可能です（総合教育セミナー（他学部設置少人数セミナー含む）は担当者の承認も必要)。また，総合教育科目Ⅱ類の諸科目は担当者が異なれば重複履修可能です。「総合教育セミナー」以外のⅡ類科目は，同じ担当者の場合は原則重複履修が認められませんが，必要な許可を受ければ履修が可能になります。なお，Ⅳ類の体育実技科目も同名科目を重複履修することができます。

③　商学部と他学部に同じ名称の科目が設置されている場合には，商学部が設置している科目のみ履修することができます。

他学部科目は履修できません。履修申告は無効となります。

ただし「研究会」については，志望の研究会が行う所定の入ゼミ選考を受け，授業担当者の入会許可を得られれば，他学部のものも履修できます（商学部の「研究会」と他学部の「研究会」の重複履修も可能です)。

④　商学部と他学部とで併設されている以下の科目を履修する場合は，たとえ科目名が異なっても商学部の設置科目を履修しなければなりません。

商学部設置科目	他学部併設科目（他学部での科目名）		
	経済学部設置科目	法学部設置科目	国際センター設置科目
総合教育セミナーＳ（Ⅲ類）			日本における外資系企業
財務会計論	会計学	会計学	
国際経済学		国際経済論	
世界経済論		国際経済論	
法学各論（経済法Ⅰ）		経済法	
法学各論（経済法Ⅱ）		経済法	
法学各論（租税法Ⅰ）	租税法	租税法	
法学各論（租税法Ⅱ）	租税法	租税法	
法学各論（労働法Ⅰ）	労働法	労働法	
法学各論（労働法Ⅱ）	労働法	労働法	
経済学史ａ・ｂ	経済学史Ⅰ		

⑤　以下の科目は同一名称とみなされる科目の一覧です。同一名称とみなされる科目を重複して履修する場合，両方を卒業単位に含めることはできません。どちらか一方を自由科目として登録してください。

商学部設置科目	同一名称とみなされる他学部併設科目	
	経済学部設置科目	法学部設置科目
簿記論	簿記	
世界経済論	世界経済論ａ・ｂ	
国際金融論	国際金融論ａ・ｂ	
経済政策	経済政策論／経済政策論ａ・ｂ	経済政策Ⅰ・Ⅱ
経済統計	経済資料論／経済統計ａ・ｂ	
計量経済学	計量経済学Ⅰ／計量経済学Ⅱ／計量経済学中級ａ・ｂ	
金融論	金融論ａ・ｂ	
財政学	財政論／財政論ａ・ｂ	財政論／財政論Ⅰ・Ⅱ
産業組織論	産業組織論ａ・ｂ	
労働経済学	労働経済論／労働経済論ａ・ｂ	労働経済論／労働経済論Ⅰ・Ⅱ
産業社会学	産業社会学ａ・ｂ	
法学各論（商法ⅠＡ）	商法Ⅰ／商法Ⅰａ	商法Ⅰ／商法ⅠＡ
法学各論（商法ⅠＢ）	商法Ⅰ／商法Ⅰｂ	商法Ⅰ／商法ⅠＢ
法学各論（商法ⅡＡ）	商法Ⅱ／商法Ⅱａ	商法Ⅱ／商法ⅡＡ
法学各論（商法ⅡＢ）	商法Ⅱ／商法Ⅱｂ	商法Ⅱ／商法ⅡＢ
法学各論（民法ⅠＡ）	民法Ⅰ／民法Ⅰａ	民法Ⅰ／民法ⅠＡ
法学各論（民法ⅠＢ）	民法Ⅰ／民法Ⅰｂ	民法Ⅰ／民法ⅠＢ
法学各論（民法ⅡＡ）	民法Ⅱ／民法Ⅱａ	民法Ⅱ／民法ⅡＡ
法学各論（民法ⅡＢ）	民法Ⅱ／民法Ⅱｂ	民法Ⅱ／民法ⅡＢ

8. 第１・２学年の不合格科目の履修について

(1) 日吉でのガイダンスについて

必修の外国語科目に不合格がある者は，三田には特修授業等は設置されていませんので，日吉設置の授業科目を履修しなければなりません。「商学部外国語科目履修案内」をあわせて参照してください。なお，以下のとおり日吉でガイダンスを行いますので必ず出席してください。

４月４日（水）13：00～14：30

英語・ドイツ語履修者	23 番教室
英語・フランス語履修者	J21 番教室
英語・中国語履修者	J24 番教室
英語・スペイン語履修者	22 番教室

(2)　不合格のために再履修する第１・２学年設置の以下の必修科目は第３学年で履修することを原則とします。第３学年で単位が取得できない場合，第４学年で履修しなければなりませんが，授業時間割が重複したり，定期試験で日吉・三田の試験が重複して受験できず卒業できなくなることがありますので注意してください。

○外国語科目２か国語 16 単位

○基礎科目Ⅰ類６単位

○基礎科目Ⅱ類Ａ群４単位，Ⅱ類Ｂ群２単位，Ⅱ類Ｃ群２単位

○専攻科目Ⅰ類４単位，Ⅱ類８単位

なお，総合教育科目は卒業までに 20 単位必要になりますが，第３学年での履修の仕方および成績によっては，第４学年に進級できても第４学年の履修申告時点で卒業できないことが決定する場合があります。卒業所要単位を考慮に入れて誤りがないよう充分に注意してください。

※新カリキュラム導入に伴う注意事項

商学部では 2005 年度入学者より新カリキュラムが導入されました。ただし，2004 年度以前の入学者の卒業・進級条件は変わりません。第１学年の不合格科目を再履修する際には，「2004 年度以前入学者用」の時間割で履修クラスを確認するようにしてください。

また，日吉設置の総合教育科目は半期科目移行に伴い，以下のように多くの科目名が変更となっています。

［総合教育科目　半期科目移行に伴う科目の見方］

・科目名の末尾にⅠ，Ⅱがつくもの（ただし外国語科目は除く）

半期完結型科目で成績は，Ⅰが春，Ⅱが秋にそれぞれつきます。

先習条件※がある場合やセットでの履修が推奨されている場合もありますので，シラバスで確認してください。

※「○○Ⅱ」を履修するには，原則として「○○Ⅰ」を履修しなければならない。

・科目名の末尾に a，b がつくもの

セット履修しなければいけない科目で，成績は a，b いずれにも学年末につきます。

・科目名の末尾に D，S がつくもの

D は通年もしくは半期集中科目で４単位，S は半期科目で２単位になります。

※科目廃止に伴う注意点

①　旧学則科目は，以下の表のとおり，新学則科目と併設（合同授業）になります。

	旧学則科目名	旧学則単位数	新学則科目名	新学則単位数
基礎Ⅰ類	経済学	4.0	経済学基礎Ⅰ	2.0
			経済学基礎Ⅱ	2.0
	商学概論 ※44ページ②参照	2.0	基本簿記と財務諸表の見方	2.0
			経営学（環境と戦略）	2.0
			経営学（組織と管理）	2.0
			商業学Ⅰ	2.0
			商業学Ⅱ	2.0
基礎ⅡＡ	情報処理Ⅰ	4.0	情報リテラシー基礎	4.0
	情報処理Ⅱ	4.0	データとの対話D	4.0
	社会科学の考え方 ※44ページ③参照	4.0	社会科学概論Ⅰ・Ⅱ	2.0×2
			近代思想史Ⅰ・Ⅱ	2.0×2
	簿記論	4.0	簿記Ⅰ・Ⅱ（経済学部用科目）	2.0×2
基礎ⅡＢ	数学基礎	2.0	休講	—
	微分法 ※44ページ④参照	2.0	微積分Ⅰ	2.0
			微積分Ⅱ	2.0
	線形代数	2.0	線形代数（自主強化科目）	2.0
	数理計画法	2.0	ゲーム理論基礎（自主強化科目）	2.0
	解析Ⅰ	2.0	中級線形代数	2.0
	解析Ⅱ	2.0	中級微積分	2.0
基礎ⅡＣ	統計学Ⅰ	2.0	統計学Ⅰ	2.0
	統計学Ⅱ	2.0	統計学Ⅱ	2.0
専攻Ⅰ類	経済史	4.0	経済史Ⅰ	2.0
			経済史Ⅱ	2.0
	私法基礎	4.0	私法基礎Ⅰ	2.0
			私法基礎Ⅱ	2.0
	社会経済学	4.0	社会経済学Ⅰ	2.0
			社会経済学Ⅱ	2.0
専攻Ⅱ類	経営学	4.0	経営学（環境と戦略）	2.0
			経営学（組織と管理）	2.0
	商業学	4.0	商業学Ⅰ	2.0
			商業学Ⅱ	2.0
	産業経済論	4.0	産業経済論 a	2.0
			産業経済論 b	2.0
	会計学	4.0	財務会計論	4.0
	理論経済学Ⅰ	4.0	経済学Ⅰ	2.0
			経済学Ⅱ	2.0

② 「商学概論」選択の注意

	経営学既習者もしくは 履修希望者	商業学既習者もしくは 履修希望者
基本簿記と財務諸表の見方	○	○
経営学（環境と戦略）	×	○
経営学（組織と管理）	×	○
商業学Ⅰ	○	×
商業学Ⅱ	○	×

○は履修可，×は履修不可

③「社会科学の考え方」選択の注意

基礎科目Ⅱ類 A 群「社会科学の考え方」として履修する場合は，　登録番号「25528」

総合教育科目Ⅱ類「社会科学概論Ⅰ・Ⅱ」として履修する場合は，社会科学概論Ⅰ登録番号「55340」

社会科学概論Ⅱ登録番号「91688」

総合教育科目Ⅱ類「近代思想史Ⅰ・Ⅱ」として履修する場合は，　近代思想史Ⅰ登録番号「09315」

近代思想史Ⅱ登録番号「08926」

④「微分法」選択の注意

「微分法（微積分Ⅰ）」,「微分法（微積分Ⅱ）」として，2 科目とも履修が可能ですが，その場合には，どちらかを自由科目として申告してください。どちらを自由科目とするかは選択することが出来ますが,「微分法（微積分Ⅱ）」を自由科目にすることをお勧めします（履修申告後の基礎科目Ⅱ類 B 群と，自由科目の単位交換は認めません)。

⑤　時間割の見方（例）

時間割には，以下のように表記されます。

商学概論（基本簿記と財務諸表の見方）

社会科学の考え方（社会学概論Ⅰ・Ⅱ）

(3)　中国語第Ⅲが不合格の場合，日吉設置の特修クラス中国語第 X を履修しなければなりません。中国語第 X は 2 つ設置されますが，クラス指定になります。履修者は，学事センターで自分の履修クラスを確認してください。なお，クラス変更に関する注意事項および所定の用紙は学事センター窓口で配付しています。間違ったクラスで履修した場合，成績がつきませんので，充分に気を付けてください。

Ⅳ　その他

1. 退学処分について

①　4 年間で第 3 学年に進級し得ない者および第 3・4 学年併せて 4 年在学し卒業し得ない者は学則第 156 条により退学処分となります。

②　大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められたとき，履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できないときなどには学則第 188 条により退学処分となります。

2. 再試験について

商学部学生に対しては再試験は行いませんので注意してください。

3. 学業成績について

学業成績の評語は，A，B，C，D の 4 段階で示されます。A，B，C は合格，D は不合格です。所定の授業に出席し，評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に評語が決まります。また，教授会が認めた特定の授業科目は，評語を P，F の 2 種とし，P を合格，F を不合格とします。なお，他大学等で履修した科目の単位を認定した場合は，G とします。

商学部所属の学生で履修した科目の成績評語に対して，確固たる根拠をもって問い合わせたいと考える者は，質問制度を利用することができます。詳細は，提出期限を掲示で確認のうえ，学事センター窓口にお問い合わせください。なお，提出期限を過ぎたものはいかなる理由があっても一切受け付けませんので注意してください。また，**この制度を利用せずに，直接授業担当者に問い合わせることはできません。不正行為とみなされる場合もありますので注意してください。**

Ⅴ　商学部【99学則】の分野番号表（下線のついている科目は今年度開講されません）

科目種類（括弧内は卒業所要単位数）		分野	授業科目	申告欄	B欄分野
総合教育科目（20単位以上）	Ⅰ類（6単位以上）	01-01-01	宇宙と生命(4)　宇宙と人間(4)　宇宙の科学(2)　基礎の数学(2)　健康科学(2) 現代化学概論(2)　現代生物学概論(2)　自然科学概論Ⅰ･Ⅱ(各2)　自然人類学(2) 植物の科学(2)　心理学(4)　心理学Ⅰ･Ⅱ(各2)　人類学(4)　人類学Ⅰ･Ⅱ(各2) 生態学(2)　生命現象の分子科学(2)　生命の科学(2)　地学(4)　地学Ⅰ･Ⅱ(各2) 地学a･b(各2)　地球科学概論(2)　地球科学概論Ⅰ･Ⅱ(各2) 天文学(4)　天文学Ⅰ･Ⅱ(各2)　天文学a･b(各2)　動物の科学(2)	A欄	
		01-01-02	化学(6)　化学Ⅰ･Ⅱ(実験を含む)(各3)　生物学(6)　生物学Ⅰ･Ⅱ(実験を含む)(各3) 物理学(6)　物理学Ⅰ･Ⅱ(実験を含む)(各3)		
		01-01-03	総合教育セミナー(Ⅰ類)(2または4)　総合教育セミナーD(Ⅰ類)(4) 総合教育セミナーS(Ⅰ類)(2)　他学部少人数セミナー(Ⅰ類)(2または4)		
	Ⅱ類	01-02-01	音楽(4)　音楽Ⅰ･Ⅱ(各2)　音楽a･b(各2)　映像・音響文化論(2)　科学史(2) 科学史Ⅰ～Ⅳ(各2)　漢文(4)　漢文a･b(各2)　経済人類学(4) 経済人類学a･b(各2)　言語学(4)　言語学Ⅰ～Ⅳ(各2)　言語･社会論(2) 言語認識論(2)　言語･文化論(2)　現代芸術論(2)　現代思想論(2) 現代世界史(2)　現代日本史(2)　現代メディア論(2)　国語国文(4) 国語国文Ⅰ･Ⅱ(各2)　国語国文a･b(各2)　ジェンダー論Ⅰ･Ⅱ(各2)　宗教学(4) 宗教学Ⅰ･Ⅱ(各2)　宗教学a･b(各2)　住宅・建築史概論(2)　女性学(2) 身体文化論(2)　人文総合講座(2)　造形･デザイン論(2)　地域研究(2または4) 地域生態文化論(2)　地域文化論(2)　地域文化論Ⅰ～Ⅳ(各2)　中国事情(2) 哲学(4)　哲学Ⅰ･Ⅱ(各2)　哲学a･b(各2)　人間と音楽Ⅰ･Ⅱ(各2)　美術(4) 美術Ⅰ･Ⅱ(各2)　美術a･b(各2)　人の尊厳（社会と人権）(2)　文学(4) 文学Ⅰ･Ⅱ(各2)　文学a･b(各2)　文化人類学(2)　民族音楽学(4)　倫理学(4) 倫理学Ⅰ･Ⅱ(各2)　倫理学a･b(各2)　歴史(4)　歴史Ⅰ･Ⅱ(各2)　歴史a･b(各2) 論理学(4)　論理学Ⅰ･Ⅱ(各2)　論理学a･b(各2)　論理学序論(2)　論理学本論(2)		
		01-02-02	近代思想史(2または4)　近代思想史Ⅰ･Ⅱ(各2)　近代思想史a･b(各2) 現代社会論(2)　社会科学概論(4)　社会科学概論Ⅰ･Ⅱ(各2)　社会学(4) 社会学Ⅰ･Ⅱ(各2)　社会学a･b(各2)　社会心理学Ⅰ･Ⅱ(各2)　政治学(4) 政治学Ⅰ･Ⅱ(各2)　世界の政治(2)　地理学(4)　地理学Ⅰ･Ⅱ(各2)　地理学a･b(各2) 日本の政治(2)　法学(憲法を含む)(4)　法学Ⅰ･Ⅱ(憲法を含む)(各2)		
		01-02-03	総合教育セミナー(Ⅱ類)(2または4)　総合教育セミナーD(Ⅱ類)(4) 総合教育セミナーS(Ⅱ類)(2)　他学部少人数セミナー(Ⅱ類)(2または4)		
	Ⅲ類	01-03-01	21世紀の実学(2)　社会との対話Ⅰ(2)　社会との対話Ⅱ(2または4)　社会との対話D(4) 社会との対話S(2)　日本の産業と経営(2)　アカデミック･スキルズⅠ～Ⅳ(各2)		
		01-03-02	近代日本と福澤諭吉(2)　自然とヒト(4)　情報文化とヴァチュアル･リアリティ(2) 身体／感覚文化(2)　スタディ･スキルズⅠ･Ⅱ(各2)　生命の教養学(2) 西洋文明学説史(4)　西洋文明学説史Ⅰ･Ⅱ(各2)　戦争と社会(2)　地域と文化(4) 日本文明学説史(4)　日本文明学説史Ⅰ･Ⅱ(各2)　比較文化論(4)　比較文化論a･b(各2) 東アジアの中の近代日本(2)　表象文化論(4)　表象文化論a･b(各2) 文明学説史(4)　文明学説史Ⅰ･Ⅱ(各2)　放送文化とヴァチュアル･リアリティ(2) 民族文化論(2)　ラテンアメリカ研究(4)　ラテンアメリカ研究a･b(各2)		
		01-03-03	総合教育セミナー(Ⅲ類)(2または4)　総合教育セミナーD(Ⅲ類)(4) 総合教育セミナーS(Ⅲ類)(2)　他学部少人数セミナー(Ⅲ類)(2または4)		
	Ⅳ類（4単位まで算入）	01-04-01	保健衛生(1)　体育理論(1)　体育学講義(2)　体育学演習(1)		
		01-04-02	体育実技Ⅰ(1)　体育実技Ⅱ(1)　体育実技A(1)　体育実技B(1)		
外国語科目（計16単位）	第1学年配当科目（2か国語各4単位）	02-01-01	英語(各2)		
		02-01-02	ドイツ語(各2)		
		02-01-03	フランス語(各2)		
		02-01-04	中国語(各2)		
		02-01-05	スペイン語(各2)		

外国語科目(計16単位)			02-01-11	日本語(外国人留学生)(各2)		A欄
	第2学年配当科目(2か国語各4単位)		02-02-01	英語(各2)		
			02-02-02	ドイツ語(各2)		
			02-02-03	フランス語(各2)		
			02-02-04	中国語(各2)		
			02-02-05	スペイン語(各2)		
			02-02-11	日本語(外国人留学生)(各2)		
基礎科目	Ⅰ類(6単位)		03-01-01	商学概論(2)　経済学(4)		
	Ⅱ類	A群(4単位)	03-02-01	簿記論(4)　社会科学の考え方(4)　情報処理Ⅰ(4) 情報処理Ⅱ(4)		
		B群(2単位)	03-02-02	数学基礎(2)　線形代数(2)　微分法(2)　解析Ⅰ(2)　解析Ⅱ(2) 数理計画法(2)		
		C群(2単位)	03-02-03	統計学Ⅰ(2)　統計学Ⅱ(2)		
専攻科目(日吉設置)		Ⅰ類(4単位)	04-01-01	経済史(4)　社会経済学(4)　私法基礎(4)		
		Ⅱ類(8単位)	04-02-01	経営学(4)　会計学(4)　商業学(4)　理論経済学Ⅰ(4) 産業経済論(4)		
専攻科目(三田設置)(Ⅲ・Ⅳ類あわせて46単位)	Ⅲ類(2単位以上)		04-03-01	外書演習(2)		
				専門外国書研究(2)		
				専門演習(2)		
				外国語特殊(2)		
				専攻演習D(4)		
				専攻演習S(2)		
				外国語演習D(4)		
				外国語演習S(2)		
				ドイツ語専門書研究(4)		
				フランス語専門書研究(4)		
				関連課題研究D(4)		
				関連課題研究S(2)		
			04-03-02	研究会(3年生)(0)		
			04-03-03	研究会(4年生)(8または4)		
	Ⅳ類	A経営	04-04-01	総論的科目	現代企業経営論(4)　経営管理論(4)　経営学説史(4)	
			04-04-02	各論的科目	現代企業経営各論(2または4) 経営管理各論(2または4)　経営学説史各論(2または4)	
		B会計	04-04-03	総論的科目	財務会計論(4)　管理会計論(4)　会計史(4)	
			04-04-04	各論的科目	財務会計各論(2または4) 会計監査各論(2または4) 管理会計各論(2または4) 会計史各論(2または4)	
		C商業	04-04-05	総論的科目	マクロ・マーケティング論(4) ミクロ・マーケティング論(4)	
			04-04-06	各論的科目	マクロ・マーケティング各論(2または4) ミクロ・マーケティング各論(2または4)	
		D国際経済	04-04-07	総論的科目	国際経済学(4)　世界経済論(4)　国際金融論(4)	
			04-04-08	各論的科目	国際経済学各論(2または4) 世界経済各論(2または4) 国際金融各論(2または4)	

専攻科目（三田設置）（Ⅲ・Ⅳ類あわせて46単位）	Ⅳ類	E計量経済	04-04-09	総論的科目	理論経済学Ⅱ(4)　経済政策(4)　経済統計(4) 計量経済学(4)	A欄	
			04-04-10	各論的科目	理論経済学各論(2または4)　経済政策各論(2または4) 経済統計各論(2または4) 計量経済学各論(2または4)		
		F金融・保険	04-04-11	総論的科目	金融論(4)　財政学(4)　証券経済論(4)　保険学(4)		
			04-04-12	各論的科目	金融各論(2または4)　財政学各論(2または4) 証券経済各論(2または4)　保険学各論(2または4) リスク・マネージメント各論(2または4)		
		G産業・交通	04-04-13	総論的科目	産業組織論(4)　サービス経済学(4)　交通経済論(4)		
			04-04-14	各論的科目	産業組織各論(2または4)　サービス経済学各論(2または4) 交通経済各論(2または4)		
		H労働・社会	04-04-15	総論的科目	労働経済学(4)　産業関係論(4)　産業社会学(4) 組織心理学(4)　社会保障論(4)		
			04-04-16	各論的科目	労働経済学各論(2または4) 産業関係各論(2または4) 産業社会学各論(2または4) 組織心理学各論(2または4) 社会保障各論(2または4)		
		I産業史・経営史	04-04-17	総論的科目	産業史(2)　経営史(2)		
			04-04-18	各論的科目	産業史各論(2または4)　経営史各論(2または4)		
		Jその他	04-04-19		情報処理Ⅲ(4)　情報処理Ⅳ(2)　経済学史(4)　ジャパニーズ・エコノミー(2) マーケティング戦略(2)　経済学史a･b(各2)		
			04-04-20		数学各論(2または4)		
			04-04-21		法学各論(2または4)		
			04-04-22		21世紀のマネジメント(2)　変革の時代の企業経営(4) 資産運用の理論と実務(2)　現代の株式市場と上場会社(2)　現代の企業金融(2) デリバティブ(2)　ポートフォリオ・マネジメント(2) バンキング・ビジネス(2)　経済の構造変化と雇用制度(4)　企業の社会性(4) 製品・ブランドをつくりマネジメントする(4)　変革の時代を生き抜くための経営(4) 企業の社会的責任（CSR）を考える(4) ブランド創造とコミュニケーションの新展開(4)		
			04-04-23		戦略の経済・商業(2)　戦略の経営・会計(2) 環境の経済・経営・商業・会計(2)　イノベーションの経済・経営・商業・会計(2) 非営利組織の経済・経営・商業・会計(2)　戦略の経済・経営・商業・会計(2)		
		関連科目（8単位まで算入）	04-04-25		他学部および諸研究所(センター等を含む)に設置されている科目で教授会が適当と認める授業科目（43ページ参照）	B欄	41
自主選択科目（20単位）	第1・2学年配当科目（8単位）		——		＊総合教育科目・基礎科目・専攻科目Ⅰ・Ⅱ類のうち所定単位数を超えて履修合格した単位をもって充てることもできます。 (1・2年で履修合格したものに限られます)	A欄	
			05-01-01		商学部設置の外国語科目 ドイツ語インテンシブ(2)　フランス語インテンシブ(2)　中国語週3クラス(2) スペイン語第X(2)　スペイン語インテンシブ(2)　アラビア語Ⅰ(2) 英語アカデミックライティング(2)　英語ディスカッション(2) 英語ディベート(2)　英語プレゼンテーション(2)　英語リーディングセミナー(2) 英語リスニングセミナー(2)　英語第X－レベル2(2)，レベル3(2)，レベル4(2) 英語第X－TOEFL／TOEIC Practice(2) イタリア語入門(2)　イタリア語入門a･b(各1)　イタリア語入門Ⅰ・Ⅱ(各1) 確率論基礎(2)　線形代数演習(2)　微積分演習(2)		
					他学部設置の授業科目(単位数は当該学部の学則に従う)	B欄	51
					○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座	A欄	

自主選択科目（20単位）	第1・2学年配当科目（8単位）	05-01-01	○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○アート・センター設置講座 ○知的資産センター設置講座	A欄	
		05-01-02	英語第X－TOEFL／TOEIC(2)		
	第3・4学年配当科目（12単位）	——	＊総合教育科目・基礎科目・専攻科目のうち所定単位数を超えて履修合格した単位をもって充てることもできます。 (3・4年で履修合格したものに限られます)		
		05-01-01	英語第XX－レベル2(2)　英語第XX－レベル3(2) 英語第XX－レベル4(2) 英語第XX－TOEFL／TOEIC Practice(2) ドイツ語第XX(2)　フランス語第XX(2)　中国語第XX(2) スペイン語第XX(2)　イタリア語(2)　イタリア語a･b(各1)　朝鮮語(2) ロシア語(2)　ギリシャ語(2)　ラテン語(2)　アラビア語(2)		
			外書演習(2)　外国語特殊(2)　外国語演習D(4)　外国語演習S(2)　専門演習(2) 関連課題研究D(4)　関連課題研究S(2)　専攻演習D(4)　専攻演習S(2) （ただし，自主選択科目として履修する場合）	B欄	51
			他学部設置の授業科目		
			○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○アート・センター設置講座 ○知的資産センター設置講座	A欄	
		05-01-02	英語第XX－TOEFL／TOEIC(2)		
自由科目	自由科目Ⅰ （＊卒業単位には含まれません。1カ年につき8単位まで）	06-01-01	○商学部設置科目（必修科目は，履修を許可された場合のみ） ○他学部設置の授業科目 ○言語文化研究所設置講座 ○メディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○体育研究所設置講座 ○福澤研究センター設置講座 ○外国語教育研究センター設置講座 ○国際センター設置講座 ○保健管理センター設置講座 ○情報処理教育室設置講座 ○アート・センター設置講座 ○知的資産センター設置講座 ○外国語学校設置講座のうち，商学部および他学部に設置されていない外国語（2007年度は対象科目無し）	B欄	60
	自由科目Ⅱ （＊卒業単位には含まれません）	06-01-02	○メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修するメディア・コミュニケーション研究所設置講座 ○教員免許取得のために履修する教職課程授業科目		61

（注）専攻科目Ⅳ類の各論的科目の(　)内の科目名は省略してあります。

※三田設置の総合教育科目について

三田における他学部設置（他地区を除く）の授業科目のうち，以下の授業科目は，商学部の総合教育科目として扱われます。
履修申告に際しては，以下の点に注意してください。

① 以下の授業科目については下表中の分野以外での履修申告はできません（関連科目・自主選択科目として履修申告できません）。
② 履修申告用紙の場合はA欄で申告してください（Web申告の場合はB欄分野番号の指定は必要ありません）。※22ページ参照
③ 履修人数が多い場合は設置学部の学生が優先となります。必ず履修申告前に授業担当者に許可をもらうようにしてください。
④ 講義要綱・時間割は設置学部のもので確認してください（学事センターにて閲覧できます）。

授業科目の種類	分野	科目名	設置学部
総合教育科目Ⅰ類	01-01-01	数学Ⅴ	法
		数学Ⅵ	法
		統計学Ⅲ	法
		統計学Ⅳ	法
総合教育科目Ⅱ類	01-02-01	映画演劇論Ⅰ	文
		映画演劇論Ⅱ	文
		映画演劇論Ⅲ	文
		映画演劇論Ⅳ	文
		ロシア文学	文
		芸術と文明	文
		現代芸術Ⅰ	文
		現代芸術Ⅱ	文
		詩学Ⅰ	文
		詩学Ⅱ	文
		地域研究－中国事情Ⅴ	経
		地域研究－中国事情Ⅵ	経
	01-02-03	人文科学研究会Ⅰ	法
		人文科学研究会Ⅱ	法
		人文科学研究会Ⅲ	法
		人文科学研究会Ⅳ	法
総合教育科目Ⅲ類	01-03-02	基礎情報処理	文
		自然科学特論Ⅰ	法
		自然科学特論Ⅱ	法

商学部　卒業単位数チェック表【99 学則用】

※必ず本要項を参照して，チェックしてください。

			必要単位数		取得単位数			
1・2 年時取得単位	総合教育科目	Ⅰ類	6単位以上	20 単位以上（卒業までに）	Ⅰ類		計	
		Ⅱ類			Ⅱ類			
		Ⅲ類			Ⅲ類			
		Ⅳ類	4単位まで算入		Ⅳ類			
	外国語	外国語 1	8 単位					
		外国語 2	8 単位					
	基礎科目	Ⅰ類	6 単位					
		Ⅱ類Ａ群	4 単位					
		Ⅱ類Ｂ群	2 単位					
		Ⅱ類Ｃ群	2 単位					
	専攻科目	Ⅰ類	4 単位					
		Ⅱ類	8 単位					
	自主選択科目（総合教育科目・基礎科目・専攻科目の必要単位数超過分も含む）		8 単位					
	小計（1）		70 単位					

※上記の必要単位数に取り残しの単位があったとしても，合計で 70 単位以上取得していれば 3 年生に進級できます。ただし，取り残した単位は，以下の 3・4 年生で必要な 58 単位とは別に必要となりますので，以下の 3・4 年生必要単位数の 58 単位に含めて数えないように注意してください。

			必要単位数		取得単位数			
3・4年時取得単位	専攻科目	Ⅲ類	2 単位以上	46 単位以上	Ⅲ類		計	
		Ⅳ類	関連科目は 8 単位まで算入		Ⅳ類			
	自主選択科目（総合教育科目・専攻科目の必要単位数超過分も含む）		12単位					
	小計（2）		58 単位					

合計（1）＋（2）	128 単位	

4 年生取得単位	12 単位以上	

（3 年生）第 4 学年への進級条件	12 単位以上	

（注1）総合教育科目は学則上，卒業までに 20 単位以上取得すれば良いことになっていますが，科目の性質や，カリキュラムの計画を考えるとできるだけ 1・2 年で履修しておくのが望ましいため，1・2 年生の科目として掲載しています。

（注2）（2001 年度以前入学者への注意）3 年に進級する為には 68 単位以上取得すれば良いことになっているため，もし1・2 年次取得の自主選択科目が 8 単位に満たないまま 3 年生に進級した場合は，とりあえず 1・2 年次取得の総合教育科目を自主選択科目にまわして補います。3・4 年生では，この補った総合教育科目（自主選択科目にまわした分）の単位も余計に取得する必要があります。

講 義 要 綱・シ ラ バ ス

※ 今年度の開講科目のみ掲載しています。学期の記載のないものは通年科目です。

※ 科目名の前に【05】と記載されているものは2005年度以降入学者のみ，【99】と記載されているものは2004年度以前入学者のみ履修できます。

※ 科目名の末尾に「Ⅰ，Ⅱ」と記載されているものは半期ごとに履修できますが，「a，b」と記載されているものは春学期・秋学期セットでしか履修できません。

〔講義要綱〕

総合教育科目

自然科学概論Ⅰ（春学期）　　准教授　**長谷川　由利子**
宇宙・生命の誕生と進化　　専任講師　**新　田　宗　土**

授業科目の内容：
わたしたちが，その上で生活していることをほとんど意識していない地球はどのようにして生まれたのでしょうか？地球が属している太陽系は？太陽系が属している宇宙は？また，地球上に最初に誕生した生命はどのようなもので，どのようにしてヒトへとつながっていったのでしょうか？この講義では，誕生と進化について宇宙と生命の観点から解説します。
テキスト：
使用しません。
参考書：
講義中に適宜紹介します。

自然科学概論Ⅱ（秋学期）　　教　授　**表　　賽**
科学と技術の最先端　　教　授　**福　澤　利　彦**

授業科目の内容：
科学の進歩は，これまでに幾度となく人間の世界観を変えてきました。また，その応用技術は，我々の身近な生活のみならず，政治・経済・社会にも大きな影響を及ぼしてきました。今世紀になって，科学と技術はさらに発展し，我々に大きなインパクトを与えようとしています。本講義では，物理学と生物学の分野における科学と技術の最先端を紹介します。秋学期の前半では「相対論と量子論に関する基礎と応用」を，後半では「生命のしくみとバイオ技術」を解説します。
テキスト：
使用しません。
参考書：
使用しません。

人間と音楽Ⅰ（春学期）
歴史・文化・社会における音楽
講　師　**早稲田　みな子**

授業科目の内容：
世界の様々な音楽文化を，その歴史・文化・社会との関わりの中で考察し，音楽に関する概念・価値観・理論の多様性，音楽の持つ多様な意義・機能，音楽の流動性・可変性などについて理解できるようにする。春学期の主なテーマは音楽と宗教・文化政策，音楽家の社会的地位，および労働の歌である。個々の事例を通して，「音楽と人間の関わり」というより大きなテーマを考察する基礎力を養うことを目的とする。
テキスト：
特になし。授業中随時参考資料を配布する。
参考書：
特になし。

人間と音楽Ⅱ（秋学期）
歴史・文化・社会における音楽
講　師　**早稲田　みな子**

授業科目の内容：
世界の様々な音楽文化を，その歴史・文化・社会との関わりの中で考察し，音楽に関する概念・価値観・理論の多様性，音楽の持つ多様な意義・機能，音楽の流動性・可変性などについて理解できるようにする。秋学期の主なテーマは，労働の歌，抗議の歌，音楽と観光産業・人種問題・戦争，ポピュラー音楽の生成，および楽器の伝播である。個々の事例を通して，「音楽と人間の関わり」というより大きなテーマを考察する基礎力を養うことを目的とする。
テキスト：
特になし。授業中随時参考資料を配布する。
参考書：
特になし。

人の尊厳（社会と人権）（春学期）
文学部　名誉教授　**関　場　　武**
文学部　教授　**渡　辺　秀　樹**
文学部　教授　**安　藤　寿　康**

授業科目の内容：
われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき，今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が，国内には少年犯罪や同和問題，性差別や児童虐待，さまざまなハラスメント，いじめなどの諸問題が，また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が，そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら，実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき，自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には，これらの問題について考え，さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが，この講義の目的である。

総合教育セミナーＳ（Ⅲ類）（春学期）
Foreign Companies in Japan–a Success or a Failure?
講　師　ハリス，グレアム

授業科目の内容：
This course will explain the role of forein companies in Japan since the Meiji Restoration, through the “Bubble era” and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.
テキスト：
Current materials will be used.

西洋文明学説史Ⅰ（春学期）
キリスト教と儒教の古典主義的近代化―その 1―
教　授　**松　村　　宏**

授業科目の内容：
福沢諭吉と丸山真男によって行われた各西洋文明学説の検討を手がかりに，ヴィンデルバントの哲学史とヴェーバーの文明史を再検討する。とくに日本文明学説史との併行異同関係を考え，世界市民文明学説への展望を拓く。実はプラトンとソフィストの論争は世界史を貫いて厳存しており，この問題の解法史を辿り新たな工夫をこらす。いわゆる関係（相関）主義ならびに外在要因対応としての人間研究である。具体的には，ヴェーバーの「儒教と道教」の対訳構成資料を読みこむことから始める。ヴェーバーには日本古学派以来の日本近代化がぬけているので大幅な見解の組みかえを行う。
テキスト：
上記四者の原本と翻訳本を多く参照するが，必要箇所を編集して複写を配布する。
参考書：
・ヴィンデルバントの「哲学史」
・ヴェーバーの「経済と社会」と「宗教社会学論集」

西洋文明学説史Ⅱ（秋学期）

キリスト教と儒教の古典主義的近代化―その 2―

教　授　**松　村　　宏**

授業科目の内容：

福沢諭吉と丸山真男によって行われた各西洋文明学説の検討を手がかりに，ヴィンデルバントの哲学史とヴェーバーの文明史を再検討する。とくに日本文明学説史との併行異同関係を考え，世界市民文明学説への展望を拓く。実はプラトンとソフィストの論争は世界史を貫いて厳存しており，この問題の解法史を辿り新たな工夫をこらす。いわゆる関係（相関）主義ならびに外在要因対応としての人間研究である。具体的には，ヴェーバーの「儒教と道教」の対訳構成資料を読みこむことから始める。ヴェーバーには日本古学派以来の日本近代化がぬけているので大幅な見解の組みかえを行う。

テキスト：

上記四者の原本と翻訳本を多く参照するが，必要箇所を編集して複写を配布する。

参考書：

・ヴィンデルバントの「哲学史」
・ヴェーバーの「経済と社会」と「宗教社会学論集」

日本文明学説史Ⅰ（春学期）

古代から近代までの論語老子解釈史―その 1―

教　授　**松　村　　宏**

授業科目の内容：

福沢諭吉と丸山真男の近代文明学説の原型を日本近世の徂来学に求め，論語と老子・孫子を連動させた日本独自の近代文明学説の枠組を創出した思案の跡を辿る。そして上級武士道と市民文明の生成を研究する。

テキスト：

・荻生徂来『論語徴』（平凡社東洋文庫一と二）。
・論語徴原文，論語古訓外伝，論語稽古などの原文と上泉信綱文書など資料は，配布する。

参考書：

丸山真男『日本政治思想史研究』（東大出版会）

日本文明学説史Ⅱ（秋学期）

古代から近代までの論語老子解釈史―その 2―

教　授　**松　村　　宏**

授業科目の内容：

福沢諭吉と丸山真男の近代文明学説の原型を日本近世の徂来学に求め，論語と老子・孫子を連動させた日本独自の近代文明学説の枠組を創出した思案の跡を辿る。そして上級武士道と市民文明の生成を研究する。

テキスト：

・荻生徂来『論語徴』（平凡社東洋文庫一と二）。
・論語徴原文，論語古訓外伝，論語稽古などの原文と上泉信綱文書など資料は，配布する。

参考書：

丸山真男『日本政治思想史研究』（東大出版会）

【05】データとの対話 S（春学期）

R による経済分析のための統計的方法

教　授　**新　保　一　成**

授業科目の内容：

諸君は，日吉での統計学，さらに三田において様々な専門分野に必要な統計的分析手法を勉強している。この講義では，R という統計分析環境によって，コンピューターを用いた統計的分析のための技術の初歩を習得することを目的とする。

参考書：

樋口美雄・太田清・新保一成,『入門パネルデータによる経済分析』,日本評論社，2006年

【05】専攻科目Ⅲ類
【99】専攻科目Ⅳ類

〔 A 経 営 〕

現代企業経営各論（企業形態）（秋学期）
名誉教授 **植 竹 晃 久**

授業科目の内容：
企業環境の変化のもとで，企業とは何か，企業は誰のために，どのように運営されるべきかということがあらためて問われてきているが，そうした問題設定をふまえて，現代企業の特徴とその制度的枠組みについて考察していく。
テキスト：
植竹晃久（2007）『現代企業経営論：現代の企業と企業理論』税務経理協会。近刊。
参考書：
・吉森賢（2005）『経営システムⅡ・経営者機能』（放送大学教育振興会）
・植竹晃久・仲田正機編著（1999）『現代企業の所有・支配・管理：コーポレート・ガバナンスと企業管理』（ミネルヴァ書房）

現代企業経営各論（企業制度）（秋学期）
准教授 **谷 口 和 弘**

授業科目の内容：
企業は，補完的な制度 ― 戦略，ガバナンス・システム，そして企業文化など ― の複合体とみなすことができる。本講では，組織経済学や戦略経営論の研究成果をふまえたうえで，環境変化のなかで，企業の境界と組織アーキテクチャがいかに変化していくかを検討する。とくに，企業の性質，リーダーシップ，比較コーポレート・ガバナンスと会社法の変化，「選択と集中」の戦略，モジュール化，そして資本主義の進化などにかかわる問題を考察する予定である。
テキスト：
・谷口和弘 (2006)『企業の境界と組織アーキテクチャ：企業制度論序説』NTT 出版。
参考書：
・谷口和弘 (2006)『戦略の実学：際立つ個人・際立つ企業』NTT 出版。
・J. ロバーツ（谷口和弘訳）(2005)『現代企業の組織デザイン：戦略経営の経済学』NTT 出版。
・R. ラングロワ・P. ロバートソン（谷口和弘訳）(2004)『企業制度の理論：ケイパビリティ・取引費用・組織境界』NTT 出版。
・青木昌彦（瀧澤弘和・谷口和弘訳）(2001)『比較制度分析に向けて』NTT 出版。
・鈴木清之輔 (1999)「現代企業の株式所有構造と支配構造：企業の所有・支配分析の基礎視角」植竹晃久・仲田正機編『現代企業の所有・支配・管理：コーポレート・ガバナンスと企業管理システム』ミネルヴァ書房，pp.23-38.

現代企業経営各論（企業戦略）（秋学期）
名誉教授 **十 川 廣 國**

授業科目の内容：
本講義は，現代企業の戦略行動のあり方を理論的・実証的両側面から考えることに目的がある。そのため，まずは戦略論の発展の流れと企業が抱える課題について検討し，戦略経営のパースペクティブの重要性を明らかにする。そのうえで企業の競争優位構築とその行動について議論することになる。
テキスト：
特になし
参考書：
・十川廣國『企業の再活性化とイノベーション』中央経済社，1997 年
・十川廣國『新戦略経営：変わるミドルの役割』文眞堂，2002 年
・十川廣國『CSR の本質：企業と市場・社会』中央経済社，2005 年

現代企業経営各論（企業倫理）（春学期）
准教授 **梅 津 光 弘**

授業科目の内容：
昨今の企業不祥事の多発や不透明な取り引き慣行への批判などから，企業倫理やコンプライアンス，またコーポレート･ガバナンスの問題が企業経営の中核を担う課題として日本でも自覚されるようになってきた。このクラスではこうした事情を踏まえて，近年アメリカを中心に急成長してきた“Business Ethics（企業倫理学・経営倫理学）”という新学問領域の概説を行いながら，企業経営における社会的･道義的責任とは何かを共に考えてみたい。企業倫理は日本企業が今後直面する規制緩和，国際化，職場環境の多様化，社会全体の成熟化などの企業経営を取り巻く環境の変化との関係から今後もその重要性が増すと考えられる。また，国際化，地球環境保全，従業員の人権，社会貢献といった「新たな規範」に関する問題は，企業だけでなくあらゆる組織が取り組まなければならない課題でもある。参加者との活発な討論を通じて，国際的にも通用する経営理念と指導原理とを確立する契機になればと思う。
テキスト：
・『ビジネスの倫理学』（丸善，2002）
その他必要な文献やケースは適宜プリントにして配布する。

現代企業経営各論（経営経済）（秋学期）
教 授 **菊 澤 研 宗**

授業科目の内容：
現代企業経済学のフロンティアといわれている「取引コスト理論」，「エージェンシー理論」，「所有権理論」などの「組織の経済学」を数式を一切用いずに平易に説明し，これらの理論に基づいて日米独企業組織の効率性と非効率性を比較制度分析する。
テキスト：
菊澤研宗著『組織の経済学入門』有斐閣　2006 年。
参考書：
菊澤研宗著『比較コーポレート・ガバナンス論』有斐閣　2004 年。
菊澤研宗編著『業界分析組織の経済学』中央経済社　2006 年。

現代企業経営各論（経営情報論）（春学期）
准教授 **神 戸 和 雄**

授業科目の内容：
企業経営における情報の取り扱いに関する理解を深め，経営情報システムの活用と問題点を把握することを目的とする。
テキスト：
必要に応じて資料を配布する。インターネット経由での配布を予定している。
講義資料プリントは Web ページ http://www.kambe.net/info2007/ よりダウンロードすること。ユーザ名･パスワードは初回授業で伝達。
参考書：
必要に応じて紹介する。

現代企業経営各論（経営組織）（春学期）
教 授 **渡 部 直 樹**

授業科目の内容：
― 組織・市場・情報 ―
本講義では，従来からの組織に関する有力なアプローチをレビューするとともに，近年盛んになりつつある経済学的アプローチ，及びゲームの理論からのアプローチ，更に進化論的なアプローチといったものを検討し，これらを用いてわが国における組織問題－企業内のみならず企業間の－を説明することにある。
テキスト：
テキストについては，授業の進行にあわせて具体的に指示する。

参考書：
・谷口和弘「戦略の実学」NTT出版，2006年
・ダウマ＝シュルーダー著「組織の経済学入門」文真堂，2007年

現代企業経営各論（組織文化論）（秋学期）
准教授　**佐　藤　　和**

授業科目の内容：
特にバブル崩壊以降，従来の日本型経営を行ってきた企業では，大きな変革が進行している。果たして「日本的」な要素は，21 世紀にはすべて姿を消してしまうのだろうか。本講義では，現代企業経営を組織文化論という視点から捉え，特に国や社会の持つ文化との関係を踏まえて考えてみたい。
テキスト：
必要に応じて講義の中で紹介する。
参考書：
必要に応じて講義の中で紹介する。

現代企業経営各論（中小企業経営）（秋学期）
教　授　**高　橋　美　樹**

授業科目の内容：
日米経済・産業のダイナミズム喪失が懸念される中，今日，中小企業は「日本経済再建の担い手」とまで呼ばれるようになっています。この授業では，「活力ある多数派」，「自己実現に挑戦する場」，「二重構造の底辺」など，様々に論じられる中小・ベンチャー企業を題材に，①中小企業について基礎的な知識を身につけること，②商業学，経営学，経済学など多様なバックグランドをもつ諸君が分野を超えて意見を交わし，自分の頭で考える楽しさを味わってもらうこと，③これから社会に出ようとする諸君が自分自身の価値観，人生観，社会観を見直す契機を与えること，を講義の目標にしたいと思います。
テキスト：
最初の授業時に示します。
参考書：
・佐藤芳雄・巽信晴編著［1996］「新中小企業論を学ぶ（新版）有斐閣選書」
・松田修一［2005］『ベンチャー企業第 3 版』（日経文庫）日本経済新聞社
・植田浩史ほか［2006］『中小企業・ベンチャー企業論』有斐閣コンパクト
・渡辺幸男ほか［2006］『20世紀中小企業論』有斐閣アルマ
必要に応じて，講義中に紹介します。

現代企業経営各論（比較経営論）（秋学期）
准教授　**前　田　　淳**

授業科目の内容：
1989 年のマルタ会談でゴルバチョフとブッシュが冷戦の終結を宣言するや，1990 年 10 月 3 日，東西ドイツが統一し，翌 1991 年にはソビエト連邦が解体した。現代社会主義体制の崩壊と体制転換が旧ソビエトと東欧諸国を襲っている。現代社会主義体制における経済モデル・経営モデルを明らかにした上で，体制崩壊後の旧東独の体制転換方法と経済と企業の新たな課題について検討していきたい。
テキスト：
特に指定しない。
参考書：
講義の中で紹介する。

経営管理各論（経営管理）（春学期）
戦略構築と組織設計のマネジメント
教　授　**今　口　忠　政**

授業科目の内容：
経営管理とは企業の目標を達成するために，メンバーの協働を確保して効果的に実現するための活動である。そのためには，いかに目標を設定すれば良いか，設定した目標をどのような方法で実現するのか，役割分担をどのようにすれば良いか，動機づけやリーダーシップをどのように発揮すれば良いか等の問題を解決しなければならない。経営管理とはこのような一連の行動を指したものであるが，その巧拙によって生産性や企業業績が左右される。
講義はマネジメントに対する考え方を理論的に説明するとともに，実際の事例を用いて，できるだけ理解しやすいように心がける。
テキスト：
今口忠政著「戦略構築と組織設計のマネジメント」（中央経済社，2001 年，2500 円）
参考書：
教科書に記載，他は講義中に紹介します。

経営管理各論（経営計画）（春学期）　教　授　**岡　本　大　輔**

授業科目の内容：
経営計画を策定する際多くの手法が用いられる。そのほとんどは大型コンピュータ，パソコン上を走るソフトウエアによって行なわれる。従って多くの場合，結果のアウトプットだけが示され，途中の考え方，プロセスは示されない。重要なことはアウトプットの数字をどう解釈するかであるが，プロセスを理解していないと間違った判断を下す恐れが大きくなる。本講義では現代企業が利用している数学的・統計的手法を使いこなすため，それら手法のプロセス理解を目的としている。
テキスト：
清水龍瑩（岡本大輔補訂）『経営数学』慶應義塾大学出版会，2003年

経営学説史各論（方法論史）（秋学期）
教　授　**榊　原　研　互**

授業科目の内容：
経営学が学問として成立してから約 1 世紀が経過し，経営学は今日社会科学の 1 学科として確固たる市民権を獲得するに至っている。しかしこのことは，経営学がもはや十分な体系性を具えているということではない。むしろ今日の経営学の対象領域の拡大は，学際的研究の名のもとに多種多様な理論や命題を次々と生み出し，それは「セオリー・ジャングル」と呼ぶにふさわしい様相を呈している。こうした状況にあって，われわれがさらに実り豊かな発展を経営学に期待しようと思うならば，われわれは何よりもこれら諸理論・諸学説の関係を明らかにし，かつそれらの科学性や説明力を批判的に吟味する必要がある。このような問題意識から，本講義では，まず科学的知識とはどのようなものかという方法論的基本問題から説き起こし，経営学の科学化をめぐって先人たちが払ってきた多くの努力の成果をドイツやアメリカの諸学説を通して明らかにしながら，経営学の今日的課題を考察する。
テキスト：
とくに指定しない。
参考書：
・G.シャンツ著，榊原訳『経営経済学の課題と方法』同文舘，1991年
・H.ウルリッヒ・G. プロープスト著，榊原他訳『全体的思考と行為の方法』文眞堂，1997 年
・M. ヴェーバー著，富永他訳『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波書店，1998 年
・K. R. ポパー著，久野・市井訳『歴史主義の貧困 ― 社会科学の方法と実践』中央公論新社，1961 年
その他，授業中に適宜紹介する。

〔 B 会 計 〕

【05】会計史Ⅰ（春学期）/ 会計史Ⅱ（秋学期）
【99】会計史（通年）　教　授　**友　岡　　賛**

授業科目の内容：
そもそも会計とは何か，をかんがえる手掛かりとして，会計というものが経てきた変遷の姿，ときの経過にともなって過去から現在

にいたるまで移り変わってきたそのプロセスをみる。方法としては，経済発展のプロセスに沿った通史的なそれが採用される。

また，会計の変遷と相即不離の関係にある企業形体の変遷を検討し，とりわけ，今日もっとも一般的な企業形体であるところの株式会社というそれについて，そもそも株式会社とは何か，をかんがえる。

テキスト：

・友岡賛『会計プロフェッションの発展』有斐閣
・友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣

参考書：

・友岡賛（編）『会計学の基礎』有斐閣
・友岡賛『会計の時代だ』筑摩書房

財務会計各論（会計基礎理論）（春学期）

教　授　**友　岡　　賛**

授業科目の内容：

会計にかかわる基本的な問題をかんがえる。会計という行為の目的から説き起こし，会計公準論および会計主体論を検討の上，会計における認識，測定，および伝達にかかわる諸原則を論ずる。

テキスト：

・友岡賛（編）『会計学の基礎』有斐閣
・友岡賛，福島千幸『アカウンティング・エッセンシャルズ』有斐閣

参考書：

・友岡賛『歴史にふれる会計学』有斐閣
・友岡賛『会計の時代だ』筑摩書房

財務会計各論（会計測定論Ⅰ）（春学期）

准教授　**前　川　千　春**

授業科目の内容：

近年，わが国においてもキャッシュ・フロー計算書が貸借対照表・損益計算書とともに基本財務諸表の一つとして位置づけられるようになってきた。当科目は，キャッシュ・フロー計算書の意義ならびに他の財務諸表との関係を理解し，個別キャッシュ・フロー計算書の具体的な作成方法・読み方を習得することを目的にしている。

テキスト：

第１回の授業の際に指示する。

参考書：

必要に応じてプリントを配付する。

財務会計各論（会計測定論Ⅱ）（秋学期）

准教授　**前　川　千　春**

授業科目の内容：

近年，わが国においてもキャッシュ・フロー計算書が貸借対照表・損益計算書とともに基本財務諸表の一つとして位置づけられるようになってきた。当科目は，連結会計の基礎を理解し，連結キャッシュ・フロー計算書の具体的な作成方法・読み方を習得することを目的にしている。

テキスト：

第１回の授業の際に指示する。

参考書：

必要に応じてプリントを配付する。

財務会計各論（国際会計論）（春学期）　教　授　**伊　藤　　眞**

授業科目の内容：

国際財務報告基準 IFRSs（国際会計基準 IASs を含む。）の歴史，日米とのコンバージョン・プロジェクトを含む現状と今後の展開を簡潔に紹介，IAS 財務諸表の作成と表示に係るフレームワーク，主要な IASs の会計基準―棚卸資産，キャッシュ・フロー計算書，法人所得税（税効果を含む。），金融商品等を簡単な設例及び事例とともに解説

テキスト：

ゼミのホームページからダウンロード

参考書：

・International Financial Reporting Standards 2007（原書），IASB
・『国際財務報告基準書』2004　企業会計基準委員会訳（発行元）雄松堂出版　2005
・『国際財務報告基準ハンドブック　第２版』みすず監査法人　中央経済社　2006
・『国際財務報告基準の適用ガイドブック』あずさ監査法人　中央経済社　2005
・『国際財務報告基準の実務』デロイトトウシュトーマツ（編集）中央経済社　2005
・『会計学入門』第７版 千代田邦夫 中央経済社 2006（初心者用）

（相性のよいものを使用すること。ただし，本によっては原書の最新版がすべて反映されているわけではないので要注意）

財務会計各論（現行会計基準概論）（秋学期）

教　授　**伊　藤　　眞**

授業科目の内容：

会計ビッグバンといわれる会計基準の整備改善が行われ，連結財務諸表原則及び外貨建取引等会計処理基準の改訂，並びに税効果会計に係る会計基準，連結キャッシュ・フロー計算書等の作成基準，研究開発費等に係る会計基準，退職給付に係る会計基準，及び金融商品に係る会計基準等の設定が行われた。その後も固定資産の減損に係る会計基準，企業結合に係る会計基準の設定が行われた。これらの現在実務で適用されている会計基準について，その考え方及び会計処理について，事例又は簡単な設例とともに概要を講義する。

テキスト：

レジュメを配布又はホームページからダウンロード

参考書：

各基準及び実務指針（日本公認会計士協会による監査小六法に掲載されている。）

・入門書『会計学入門』第 7 版　千代田邦夫，中央経済社　2006（毎年春に改訂されるので最新版を使用すること）
・『ゼミナール現代会計入門』第６版　伊藤邦雄　日本経済新聞社出版局　2006（毎年春に改訂されるので最新版を使用すること）
・『会計学講義』醍醐聡　東京大学出版会　2004

財務会計各論（取得原価主義会計論）（春学期）

名誉教授　**笠　井　昭　次**

授業科目の内容：

今日，制度的には，取得原価・時価・増価が併存する会計になっているが，理論的には，そうした会計実践が合理的に説明されているとは言い難い。その原因は，主に，取得原価主義会計論の理論的欠陥が，明確になっていない点にある。そうした視点から，貨幣性資産・費用性資産分類を検討する。

テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』（慶應義塾大学出版会）

財務会計各論（税務会計論Ⅰ）（春学期）

准教授　**髙　久　隆　太**

授業科目の内容：

税務会計とは，法人税を中心に，課税の基準となる課税所得の計算や課税価額の評価を目的とする会計であり，企業会計に立脚しつつ，租税法独自の調整を加えて作成されるものである。したがって，企業会計及び租税法の理解が不可欠である。

講義においては，初めに我が国租税制度の概要について説明し，その後法人税の課税所得の基礎的な計算構造等について理解する。

テキスト：

小川洌・小澤康人編「税務会計の基礎」創成社

参考書：

講義の中で指示する。

財務会計各論（税務会計論Ⅱ）（秋学期）
准教授　**髙　久　隆　太**

授業科目の内容：
法人税の課税所得の計算及び税額計算を中心とした税務会計について理解することを目的とするが，あるべき税制のあり方や税務行政についても検討する。また，最近脚光を浴びている国際課税についても触れることとしたい。
テキスト：
小川洌・小澤康人編「税務会計の基礎」創成社
参考書：
講義の中で指示する。

財務会計各論（非営利法人会計論Ⅰ）（春学期）
講　師　**千　葉　　洋**

授業科目の内容：
本講義では非営利法人の概要をみたあと，とくに私立学校法人の会計をとりあげ，以下の順で考察することにする。
Ⅰ　学校法人会計の概要
Ⅱ　資金収支計算の構造
Ⅲ　消費収支計算の構造
Ⅳ　基本金の特質
テキスト：
特に指定しないが，その都度指示するほか，随時プリントを配布する。

財務会計各論（非営利法人会計論Ⅱ）（秋学期）
講　師　**千　葉　　洋**

授業科目の内容：
本講義では非営利法人の概要をみたあと，とくに国立大学法人の会計をとりあげ，以下の順で考察することにする。
Ⅰ　国立大学法人会計の概要
Ⅱ　貸借対照表の構造
Ⅲ　損益計算書の構造
Ⅳ　キャッシュ・フロー計算書の構造
Ⅴ　国立大学法人等業務実施コスト計算書の構造
テキスト：
特に指定しないが，その都度指示するほか，随時プリントを配布する。

会計監査各論（公認会計士による財務諸表監査）（春学期）
監査論　　教　授　**永　見　　尊**

授業科目の内容：
公認会計士による財務諸表監査は，「監査主体論」「監査証拠論」「監査報告論」の３つの側面から把握することができます。本講義では，証券取引法に基づく財務諸表監査において，独立性の問題，監査証拠，リスク・アプローチ，内部統制，監査意見の形成およびゴーイング・コンサーン問題といった，これら３つの側面に見られるさまざまな論点を学んでいきます。
テキスト：
最初の時間に指定します

【05】管理会計各論（現代管理会計論）（春学期）
管理会計各論（原価計算論）（秋学期）
【99】管理会計論（通年）　　教　授　**横　田　絵　理（春）**
准教授　**吉　田　栄　介（秋）**

授業科目の内容：
【春学期】
近年管理会計の分野で話題になっているトピックスの中から経営組織と会計に関するいくつかのテーマを取り上げ事例とともに論じます。
【秋学期】
この授業では，日吉の『管理会計論』において原価計算の基礎概念，個別・総合原価計算を既習であることを前提に，残された代表的原価計算手法である標準原価計算と直接原価計算を中心に講義・議論・演習をおこなう。実際の計算を通じて理解を深めるため，毎回の演習および小テストを予定している。
テキスト：
【春学期】
特になし
【秋学期】
上埜進・杉山善浩・島吉伸・窪田祐一・吉田栄介『管理会計の基礎』税務経理協会。
参考書：
【春学期】
授業内に提示
【秋学期】
興津裕康・岡野憲治・吉田栄介編著『基礎から学ぶ現代原価計算』白桃書房。
その他，トピックに応じて，適宜紹介する。

管理会計各論（業績評価と会計）（春学期）
講　師　**内　山　哲　彦**

授業科目の内容：
本講義では，管理会計の領域のうち，特に業績評価に係わる諸技法と諸問題について取り上げる。業績評価は，管理会計が資することを目的とする経営管理の中心に位置する。その巧拙は，経営上のパフォーマンスへの影響にとどまらず，そこで働く人達にも直接に係わる問題である。単に会計的な技法だけを扱うのではなく，広く経営管理における業績評価の問題とそこでの会計情報の役割に焦点を当てる。
テキスト：
特に指定しない。適宜，講義資料プリントを配布する予定である。
参考書：
講義の進行に合わせて，適宜参考文献を紹介する。

管理会計各論（原価管理論Ⅰ）（秋学期）
准教授　**吉　田　栄　介**

授業科目の内容：
この授業では，組織行動における原価管理（コストマネジメント）の様々なトピックスについて講義・議論する。ここでコストマネジメントとは「製品・サービスの適正なコスト水準を確保する」ことを意図するだけではなく，「コストの観点からビジネス・システム全体の最適化」を意図するアプローチである。
参考書：
・上埜進・杉山善浩・島吉伸・窪田祐一・吉田栄介『管理会計の基礎』税務経理協会。
・興津裕康・岡野憲治・吉田栄介編著『基礎から学ぶ現代原価計算』白桃書房。
・吉田栄介『持続的競争優位をもたらす原価企画能力』中央経済社。
その他，トピックに応じて，適宜紹介する。
履修者へのコメント：
原価計算の基本的な知識を有していることを履修の前提とする。各自，原価管理のひとつのトピックスについて，20分程度の発表を義務づける。報告テーマの割り当てのため，第１回の授業を必ず出席すること。
成績評価方法：
・試験の結果（期末試験を６割）
・平常点：出席状況および授業態度（発表と議論への参加など平常点を４割）

管理会計各論（サービス業の管理会計）（秋学期）
講　師　**青　木　章　通**

授業科目の内容：
この授業では，非営利組織を含むサービス産業において，会計情報が経営のためにいかに用いられているのかを学習します。管理会計や原価計算の枠組みは，伝統的に製造業を中心に構築されてきました。しかし，サービス産業は製造業とは異なる経営上の課題を抱えていますので，注目すべきポイント，採算管理の方法，会計情報の使い方なども製造業とは違ったものであるはずです。授業では，金融業界，ホテル業界，百貨店，医療（病院），行政（地方自治体），鉄道・バスといった業界について学びます。
テキスト：
特になし。毎回プリントを配布致します。
参考書：
中村清・山口祐司編『ホスピタリティマネジメント ― サービス競争力を高める理論とケーススタディ』，生産性出版，2002 年。

管理会計各論（戦略的管理会計）（秋学期）
教　授　**園　田　智　昭**

授業科目の内容：
管理会計は，企業を経営するために必要な会計情報を，経営者・管理者・現場の作業員に提供します。この講義では，経理や人事などの本社管理機能を企業グループ内で集約した組織であるシェアードサービスセンター（SSC）の運営における戦略的管理会計に関係した問題を論じます。
テキスト：
園田智昭『シェアードサービスの管理会計』中央経済社

【99】財務会計論（通年）　名誉教授　**笠　井　昭　次**

授業科目の内容：
現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし，その点に関する私見を一方的に述べるのではなく，他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて，受講生諸君が，みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。
テキスト：
笠井昭次著『現代会計論』（慶應義塾大学出版会）

〔　C　商　業　〕

【05】マクロ・マーケティング論（春学期）
【99】マクロ・マーケティング各論（商業経済学）（春学期）
マクロ･マーケティング･システムと社会とのインタラクション
教　授　**高　橋　郁　夫**

授業科目の内容：
生産，流通，消費の連係を巨視的に捉え，それをマーケティング・システムと呼ぶとき，本講はシステムそれ自体と，加えて，それを取り巻く社会とのインタラクションを対象とする。
テキスト：
毎回，プリントを配布する。
参考書：
・清水猛（1988）『マーケティングと広告研究【増補版】』千倉書房。
・田村正紀（2001）『流通原理』千倉書房。
・高橋郁夫（2004）『消費者購買行動－小売マーケティングへの写像【増補版】』千倉書房。

【05】マーケティング学説史（秋学期）
【99】マクロ・マーケティング各論
（マーケティング学説史）（秋学期）
教　授　**堀　越　比呂志**

授業科目の内容：
今世紀初頭に始まったとされるマーケティング研究の諸成果の展開を時間を追って概観しながら，その知的到達点の構造を明らかにすることによって，マーケティング研究をより深く理解することが本講座の目的である。
テキスト：
テキストは特に用いない。
参考書：
・堀越比呂志『マーケティング・メタリサーチ ― マーケティング研究の対象・方法・構造 ―』千倉書房
・堀田一善『マーケティング思想史の中の広告研究』日本経済新聞社
その他主要参考文献は随時紹介する。

【05】マーケティング史（春学期）
【99】マクロ・マーケティング各論
（マーケティング史）（春学期）　名誉教授　**堀　田　一　善**

授業科目の内容：
およそ人間社会におけるほとんどすべての制度や仕組みあるいは行動様式は，直面する問題を解決しようと腐心してきた人々の努力の所産に他ならない。今日，マーケティングと呼ばれている企業の市場支配的あるいは市場適応的行動様式もその例外ではない。本講では，マーケティングがとりわけ純粋な形式をもって発展してきたと言われているアメリカを中心に，19 世紀半ば以降の諸企業を取り巻く経済的，政治的，あるいは社会的状況要因に触発された市場の競争条件の変化と関係づけて，目的志向的な企業の行為様式としてのマーケティングがどのように進化してきたのか，そしてそれが個別経済的にも社会経済的にも無視できない影響力を有するようになってきた様相を，方法論的個体主義ないし制度主義的個人主義の観点に立って，状況の論理に照らして解明することを目的とする。
テキスト：
テキストは特に指定しない。
参考書：
・堀田一善著『マーケティング思想史の中の広告研究』（日本経済新聞社，2003 年，3000 円）
・堀田一善著『マーケティング思想史―メタ理論の系譜―』（中央経済社，2006 年，3000 円）

マクロ・マーケティング各論（流通論）（春学期）
名誉教授　**清　水　　猛**

授業科目の内容：
本講は生産者から流通業者を経て消費者に至る流通過程をマクロの視点からシステム的に考察することにより，わが国の流通の実態と変動を解明することを狙いとする。このための枠組みとしては，構造，行動，成果の関係がそのベースとして用いられる。
テキスト：
特になし
参考書：
特になし
随時紹介する

【05】ミクロ･マーケティング論（春学期）
ミクロ･マーケティング各論（マーケティングの理論分析）（秋学期）
【99】ミクロ･マーケティング論（通年）

教　授　**樫　原　正　勝**

授業科目の内容：

本講義は，私達が日常経験的に目にすることが出来るマーケティング現象の背後にどのような経済原理が働いているかを理解することを目的としている。こうした能力を養うべく，理論的，原理的諸知識を学び取るとともに，事物を見えないところまで堀り下げて抽象的にとらえる仕方を学び，現実を理論の目で認識することをマーケティングの場で試みようとするものである。

テキスト：

適当なテキストがないので講義ノートによる。講義資料として毎時間プリントを配布する。

参考書：

多岐にわたるため授業中にその都度指示する。

ミクロ・マーケティング各論（グローバル・マーケティング論）（春学期特定期間集中）

特別招聘教授　**ギャート，ケネス　C.**

授業科目の内容：

The course introduces the topic of global marketing, examines the elements of the global marketing environment, examines topics related to entering into global marketing activities, and reexamines the marketing mix (product, promotion, price, distribution) in the context of global marketing.

Although trade has been conducted across national boundaries for centuries, the amount of global business conducted has accelerated at an increasing rate in recent years. Technology has fueled this escalation as well as geo-political changes (i.e., collapse of Soviet Union), growth in certain emerging countries (i.e., China, India), multi-lateral trade agreements (i.e., EU, WTO), and the growing power of multinational corporations. More companies each day realize that they cannot continue to exist without embracing global interdependencies.

テキスト：

Keegan and Green (2005), *Global Marketing*, 4th edition, Pearson Prentice Hall.

参考書：

Handouts will be provided by the professor throughout the course.

ミクロ・マーケティング各論（広告論）（秋学期）

准教授　**小　野　晃　典**

授業科目の内容：

本講では，マーケティング論の主要な下位分野の１つである広告論が取り上げられる。企業は自社製品の存在や優位性を潜在顧客に知らせるために，広告を行うかもしれない。また，広告イメージという名で知られているように，製品によってではなく広告によって優位性を確立しようとするかもしれない。多様な機能を有する広告と，それに対する消費者の認知的反応とを探ることによって，本講は，例えば「広告は消費者の購買行動にどのような影響を及ぼしうるのだろうか」や「どのような状況の下でどのような広告が有効なのだろうか」といった問いに関心を持つ学生に対して，研究サポートを提供する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考書の推薦を求める学生に対しては，個々人の関心の方向や理解の度合いに応じて個別に紹介したい。

ミクロ・マーケティング各論（消費者行動論）（春学期）

准教授　**斎　藤　通　貴**

授業科目の内容：

企業のマーケティング行動は，市場（消費者）への適応行動という特徴を強調する。すなわち，消費者がどの文化の中で，どのようなライフ・スタイルを持ち，どのように商品やサービスを選択・購買し，どのように使用し，どのような満足や不満を形成するか，といった消費者の行動を理解することが有効なマーケティング戦略策定の礎になることは言うまでもない。

ミクロ・マーケティング各論（製品開発論）（春学期）

教　授　**濱　岡　　豊**

授業科目の内容：

この授業では，マーケティングにおいて 4P の一つとしてとらえられている「製品」について，特に「開発」する段階に注目する。そこで行われている手法について紹介する一方，ケース演習やプロジェクトなどを通じて，それらを体得してもらいたい。なお，便宜上，「製品」という言葉をあてるが，製品のみならずサービスについても可能な手法について紹介する。

テキスト：

特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。　http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka

参考書：

上記参照

ミクロ･マーケティング各論（マーケティング経済学）（春学期）

専任講師　**鄭　　潤　澈**

授業科目の内容：

近年の経済学は古典的な完全市場の分析から進化をしつづけて，様々な実際の経営分野において応用されています。欧米の多くのビジネス・スクールや MBA コース等において「Managerial Economics」が基本・コア科目になっているという事実は，正にマーケティング経済学がマーケティングや経営戦略など経営学のなかで占めている現在の位置を示しています。本授業では「市場，競争，戦略」という，経営学を学ぶ上でもっとも重要な３つの分野を経済学の観点から講義していきます。

テキスト：

丸山雅祥『経営の経済学：Business Economics』（有斐閣）2005 年

参考書：

丸山雅祥・成生達彦『現代のミクロ経済学』（創文社）1997 年

ミクロ・マーケティング各論（マーケティング・リサーチ）（春学期）

准教授　**里　村　卓　也**

授業科目の内容：

どのような製品・サービスを扱っている企業であれ，顧客のニーズを把握し満足させるためには，顧客に関する情報を収集し分析しなければならない。マーケティング・リサーチとは企業が特定のマーケティング課題について行う意思決定を支援するための情報機能である。「どのような消費者が我々の製品を購買してくれそうか」「どのような新製品を開発すればよいか」等の具体的課題についてよりよく答えるためにはマーケティング・リサーチによって得られた情報を利用することが必要となってくる。

本講ではマーケティング・リサーチを理解するとともに，マーケティング課題をリサーチ課題として定義し，情報収集・分析・レポート作成までを行う能力を修得することを目的とする。

テキスト：

特に指定しない。資料は担当教員のホームページ（http://www.fbc.keio.ac.jp/~Satomura/MR2007）で配布予定。

参考書：

授業中に適宜指示する。

〔 D1／D 国 際 経 済 〕

【05】国際経済学Ⅰ（春学期）/ 国際経済学Ⅱ（秋学期）
【99】国際経済学（通年） 教 授 **遠 藤 正 寛**

授業科目の内容：
国際経済学（国際貿易・国際金融）の基礎を講義します。
テキスト：
Paul. R. Krugman and Maurice Obstfeld, “International Economics: Theory and Policy, Seventh Edition,” Addison Wesley, 2005（旧版で翻訳書有）

国際経済学各論（国際経済政策論）（秋学期）
商学研究科 教授（フジタ･チェアシップ基金） **小 島 明**

授業科目の内容：
一般的な原論的知識を前提とし，国際経済の現場，最前線に案内する。冷戦の終焉，世界的な市場経済化ドミノ，情報通信革命などを背景に世界経済の構造変化が速している。時には変化のスピードが速く，既存の理論を現実が追い越す。そうした激動する世界の中における各国の経済政策の在り方，相互依存の実態を追う。実体経済の現場から政策当局者，経営者，研究者が今，何を考え，どうした問題意識を持つかを点検する。理論と現実の橋渡しをする。
テキスト：
・各国政府・研究機関，研究者の最新論文，資料を（インターネット等を通じ）活用。
・「通商白書」2005，2006
参考書：
OECD，IMF 等の Reports

国際経済学各論（ミクロ貿易論）（春学期）
専任講師 **安 藤 光 代**

授業科目の内容：
本講義では，国際経済学のうち，応用ミクロ経済学である国際貿易論に関連したテーマを幅広く取り上げる。国と国との生産配置や貿易パターンを説明する理論モデルについても取り扱うが，本講義では特に，貿易政策とその厚生効果，サービス貿易，海外直接投資と企業活動の国際化，GATT/WTO と自由貿易協定などのテーマに焦点をあてる。国際経済のグローバル化が急速に進展する中，現実経済の分析に役立つ理論はどれか，あるいは逆に理論に立脚した実証・政策分析はいかに行えばよいのかについて議論し，現代の国際経済が抱える諸問題について経済学的な視点から理解を深めていきたい。
テキスト：
木村福成（2000）『国際経済学入門』日本評論社

【05】世界経済論Ⅰ（春学期）/ 世界経済論Ⅱ（秋学期）
【99】世界経済論（通年） 教 授 **和 気 洋 子**

授業科目の内容：
世界経済はいつも変動の中にある。それがどのような変動として実際に観測されるか，その変動要因が何であるか，その変動をどのように管理・統治できるか，その変動メカニズムをどのように理論化できるか，そして今後の世界経済をどのように展望できるかなど，知的関心は広くて深い。今 21 世紀を迎え，世界経済では，グローバリズムの功罪，WTO の役割，FTA の進展，EU 通貨統合の進展，東アジア地域の変容，資源・エネルギー問題の深刻化，貧困問題・地球環境問題・安全・安心の暮らし・企業の社会的責任の視点など，新たな課題に向けて，新たな挑戦が始まっている。本講義では，世界経済論Ⅰ／世界経済論Ⅱを通じて，現代および将来の産業経済社会をめぐる諸課題の本質を探る手がかりを得るために，イギリス産業革命から現代社会に至る技術進歩と経済発展の歴史とそれに関わる諸理論を展望し，そのなかで貿易政策論・国際マクロ経済論・開発経済論・環境経済学などで得られる学説史的な知見がいかに援用できるかを実践的に論じる。
参考書：
・石井・清野・秋葉・須田・和気・ブラギンスキー共著『入門・国際経済学』有斐閣 2003 年
・森田・天野編著『地球環境問題とグローバルコミュニティー』岩波書店 2002 年
・松村・関下・藤原・田中『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社 2003 年

世界経済各論（国際開発協力論）（春学期）
講 師 **後 藤 一 美**

授業科目の内容：
(1) 概要：開発援助を含む国際開発協力の世界は，一見きれいごとのように見えても，その実，利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係が渦巻く同床異夢の世界である。世界の開発・環境・人権・平和をめざす「政府開発援助」(ODA) という名の美徳のかたまりをある種の隠れ蓑にしながら，あまたの組織や集団や個人が，「私」の夢と欲望と使命で織りなした「公」の装いを表現することによって，それぞれの行動を展開している。わが国 ODA50 年余の歴史を回顧すれば，戦後の国際社会における日本という国とその民の「自分探しの旅」であったといえよう。ODA は，「国際社会で日本という国と国民を映し出す鏡である」という。「顔の見える援助」「声の聞こえる援助」というかけ声と裏腹に，日本のアイデンティティ（自分らしさ）は，国際社会の他のアクターとの関係性において，どれほどまでに発現されているのだろうか。また，援助という手段をとおした「国益」の実現への寄与が求められる昨今，日本が追及する目標とは，はたしてどのようなものであろうか。
(2) 目的：本講義の目的は，日本の国際開発協力に関する主要な援助形態と行動主体を中心として，その実態と特色を明らかにするとともに，今後の課題と展望を提示することである。本講義では，国際開発協力の基礎を学習しながら，「開発援助政策論」（援助行政と開発行政の相互作用に係る制度・実施・評価の実態分析に基づく問題解決アプローチ）を展開することによって，将来，国際開発協力の世界で活躍する人材の育成をめざしたい。
(3) 手法：本講義は，①ビデオ（日本語・英語），②講義（OHP 使用），③質疑応答の 3 点セットを組み合わせながら，開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので，特段の予備知識は必要としていない。また，講師による一方的講義スタイルではなく，受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより，受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。
テキスト：
後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』〈シリーズ国際開発：第 4 巻〉日本評論社，2005 年。
〈講義資料・参考資料・参考文献リスト〉授業のなかで配布。
参考書：
・後藤一美（監修）『国際協力用語集』〈第 3 版〉，国際開発ジャーナル社，2004 年。
・荒木光弥，『1970 年代途上国援助―歴史の証言』『1980 年代途上国援助―歴史の証言』『1990 年代途上国援助―歴史の証言』国際開発ジャーナル社，1997 年＆ 2005 年。
・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 ― 共生の世界と日本の ODA』〈第 3 版〉有斐閣，2003 年。
・渡辺利夫・三浦有史『ODA（政府開発援助）― 日本に何ができるか』中公新書，2003年。

世界経済各論（中国経済論）（春学期） 准教授 **孟 若 燕**

授業科目の内容：
今日に当たって中国に関するグッドニュースがたくさん出てきます。一つの最も成長の高い国として，今世紀半ば頃には経済規模が日本やアメリカを凌駕してトップに走るのではと予測されることもあります。一方，決して明るくない知らせも毎日ほど目に当たります。貧富格差の拡大，農村経済の停滞，社会保障制度の未整備，河川や大気汚染の進行など，成長の副産物なのか，改革の不十分さを語るものなのか，議論の余地が残っているまま成長のマイナス要因であることに間違いない。この授業では，こうした過渡期にある中

国の経済政策の転換，経済成長の要因および成長・改革の過程に伴った諸問題を解説します。

テキスト：

特に指定なし。

参考書：

・Chow, Gregory C., China's Economic Transformation, Blackwell, 2002
・加藤弘之・上原一慶『中国経済論』，ミネルヴァ書房，2004
・林毅夫・蔡昉・李周［共著］，渡辺利夫監訳，『中国の経済発展』，日本評論社，1997
・厳善平『農民国家の課題』，名古屋大学出版社，2002
・井出亜夫編著『アジアのエネルギー・環境と経済発展』，慶應義塾大学出版会，2004
・井村秀文・勝原健著『中国の環境問題』，東洋経済新報社，1995
・渡辺利夫編『東アジア経済連携の時代』，東洋経済新報社，2004
・渡辺利夫編『ジレンマのなかの中国経済』，東洋経済新報社，2003

【05】国際金融論Ⅰ（春学期）/ 国際金融論Ⅱ（秋学期）
【99】国際金融論（通年）　　教　授　**深　尾　光　洋**

授業科目の内容：

為替相場の変動，国際収支の不均衡などの国際金融に関連する諸問題を理解するために必要不可欠な諸概念と分析ツールを説明する。その基礎に立って，変動相場制下における経済政策運営，欧州通貨統合の背景，国際通貨政策等について理解を深めることを目標とする。

参考書：

授業開始後，関連文献や統計図表等をレジメとして生協経由で配布するので購入すること。

国際金融各論（国際金融システム論）（秋学期）
講　師　**斉　藤　国　雄**

授業科目の内容：

この授業では，現行国際金融システムの基本的問題である「国際収支の不均衡と為替レートの不安定性」を取り上げる。具体的には，アジア通貨危機等の通貨・債務危機の原因と対応，米国の対外赤字とドルの機軸通貨としての持続可能性，また，米国の対極にある日本や中国等の黒字国の抱える問題等を検討・考察する。また，IMF等の国際金融機関の実施する金融支援や G7 等の主要国間のマクロ政策協調が，国際金融システムに及ぼす影響についても考察する。授業では，まず，国際金融の仕組みと制度的側面を概括する。次に，為替レートおよび国際収支はどのように決定されるかについての理論，および，国際金融システムの歴史をレビューする。その上で，現行国際金融システムの問題点を，具体的なケースについて考察する。すなわち，①アジア危機におけるタイ，インドネシア，韓国等の危機対応および IMF による支援，②機軸通貨国である米国の経常収支赤字の問題，③およびその対極にある黒字国の日本および中国の抱える問題，を考察する。

テキスト：

指定せず。講義資料プリントを配布。

参考書：

・Krugman/Obstfeld, "International Economics — Theory and Policy (Seventh Edition)", 2000
・白井早百里，"入門現代の国際金融 — 検証経済危機と為替制度"，東洋経済新報社，2002

〔 D2／E　計　量　経　済 〕

【05】理論経済学（春学期集中）
【99】理論経済学Ⅱ（春学期集中）　　教　授　**桜　本　　光**

授業科目の内容：

経済現象を巨視的・微視的にとらえるマクロ・ミクロ経済理論を学ぶことにより，歴史的な転換期を迎えている世界経済特に，東アジアや米国と日本経済との相互依存関係を正確に理解し，現在の諸問題を整理し，今後の世界経済と日米経済の方向を議論できるような学生を養成する。

本科目は，本学部における経済関連及び他の専門科目の履修に際して，基礎的な理解を深めるために必要な科目の一つと考えられ，一年時履修の経済学の中・上級コースにあたる。

テキスト：

・Dornbusch, R. and S. Fischer (1994) Macroeconomics. Sixth edition (first edition, 1978), McGraw-Hill.（廣松／ドーンブッシュ／フィッシャー，マクロ経済学（上下）「改訂版」CAP出版）

参考書：

・W. H. ブランソン（嘉治･今野訳）マクロ経済学（上下）マグロウヒル.
・R. ドーンブッシュ（大山他訳）国際マクロ経済学 文眞堂.
・W. J. イーシア（小田・太田訳）現代国際経済学（国際マクロ）多賀出版.

理論経済学各論（応用ミクロ経済学）（春学期）
教　授　**中　島　隆　信**

授業科目の内容：

本講義では，学生諸君が日吉で学んできた標準的価格理論をより発展させ，ヒト，モノ，カネの資源配分メカニズムをそれらが取引される市場の競争性との関連から説明する。

テキスト：

黒田昌裕・中島隆信『テキストブック　入門経済学』（東洋経済新報社），2001 年

理論経済学各論（非営利組織論）（秋学期）
教　授　**中　島　隆　信**

授業科目の内容：

本講義の目的は非営利組織が現代の市場経済において果たす役割について需要と供給の両面から解説することを目的とする。非営利組織は営利を目的としない組織という意味の名称であるが，実際は残余利益を配分しないという原則の下で活動する民間法人のことをいう。そのため，非営利組織の行動を分析するには通常の利潤最大化とか株価最大化という行動原理を適用することができない。また，利益配分を行わないため，組織の所有者が存在せず，通常の営利企業のようなガバナンス（統治）システムが機能しない。こうした様々な特徴を持つ非営利組織を経済学ではどのように扱うかについて講義していく。講義の後半では，学校法人，宗教法人，社会福祉法人など具体的な非営利組織に関する事例研究を紹介する。

テキスト：

・中島隆信『お寺の経済学』（東洋経済新報社，2005 年）
・中島隆信『障害者の経済学』（東洋経済新報社，2006 年）
・中島隆信『これも経済学だ！』（ちくま新書，2006 年）

理論経済学各論（マクロ・エコノミクス）（春学期）
准教授　**渡　部　和　孝**

授業科目の内容：

標準的な学部生向けの中級教科書を用い，経済成長，マクロ経済学のミクロ的基礎について学ぶ

テキスト：

「マンキュー　マクロ経済学Ⅱ」 N・グレゴリー・マンキュー著，足立英之，地主敏樹，中谷武，柳川隆訳，東洋経済新報社

理論経済学各論（マネタリー・エコノミクス）（秋学期）
准教授　**渡　部　和　孝**

授業科目の内容：

米国の実践的教科書を用い，資金の貸し手が資金の借り手の経営情勢等について完全には情報を持たないという，いわゆる，「情報の非対称性」を理論的背景に，金融政策，金融監督政策，金融機関経営，金融市場について学ぶ。

テキスト：

"Financial Markets and Institutions" fifth edition by Frederic S. Mishkin and Stanley G. Eakins, Pearson Education

参考書：

日本経済新聞

経済政策（秋学期集中） 教 授 **樋 口 美 雄**

授業科目の内容：

経済のグローバル化，産業構造の変化，少子高齢化の進展により，日本経済は大きな変革に迫られている。日本経済の特質を理解し，市場メカニズムと制度政策の関係について，マクロ経済学，ミクロ経済学の視点から考察し，これからの経済社会のあり方を検討していくのがこの授業の目的である。

参考書：

樋口美雄『雇用と失業の経済学』日本経済新聞社

その他は授業中に指示する

【05】経済統計Ⅰ（春学期）/ 経済統計Ⅱ（秋学期）
【99】経済統計（通年） 教 授 **新 保 一 成**

授業科目の内容：

経済分析では，分析者の手で制御された実験によってデータを得ることは困難である。したがって，われわれは官庁等によって調査された統計データを使うことが多い。調査データを利用する場合には，そのデータの性質を熟知していることが，適切な統計的分析方法を選択するためにも必要である。春学期には，統計調査と統計的分析手法の関連について説明した後に，調査統計としての一次統計の代表的なものについて取り上げる。秋学期には，加工統計（二次統計）としての国民経済計算および産業連関表を中心に説明する。

参考書：

樋口美雄・太田清・新保一成，『入門パネルデータによる経済分析』，日本評論社，2006 年

経済統計各論（数理統計基礎）（春学期）
教 授 **早 見 均**

授業科目の内容：

目的：データの分析に利用される統計的手法は各分野で日々開発されておりたいへんなバラエティがある。そのため詳しく統計学を知らないでもパソコンのソフトの使い方さえわかればどんどん結果を出してくれる状況にある。ただし利用するときに失敗しないためには統計学の基礎は必須となる。この授業ではパソコンソフトを利用する際の仮定や計算結果の解読と利用者の知識のギャップを少しでも埋めるため，必要となる統計学の基礎を省略をせずに解説したい。主に計量経済分野へつながるような課題を考えている。

メインテーマ：分布理論である。多くの場合，経済行動のモデル化には多数の経済主体を扱うため統計的接近を利用するが，そのために必要な道具である。頭も少しは使うかもしれないが，ここではむしろ手を使って計算する。式の展開など計算をたくさんして慣れてもらいたい。もちろん，できるかぎり利用例・応用例を示したいと思うが，時間の関係で思うようにいかないことがあるので，関連する分野（計量経済学，計量経済学各論，あるいは数学各論，特に確率解析）の講義で補って欲しい。この授業は単独でも履修可能だが，秋学期に開講される経済統計各論（統計的推論）とつながることを想定しているので，そちらのシラバスも参考にすること。

つけたし：参考書の Casella and Berger はよく利用されている教科書で，この講義では参考にしている部分が多く，最新の統計的手法につながる基礎的な概念を丁寧に説明してある。また，この授業は大学院の統計学基礎理論と併設されている。

テキスト：

http://news.fbc.keio.ac.jp/~hhayami　ないし

http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami

に講義メモを掲載する。パスワードを設定することがあるので，授業の際の説明に注意すること。準備状況にもよるが keio.jo の利用もあるので注意してほしい。

参考書：

・G. Casella and R. L. Berger (2002) *Statistical Inference*, 2nd ed., CA: Duxbury Thomson Learning.

・岩田暁一『経済分析のための統計的方法第 2 版』東洋経済新報社，1983 年。

経済統計各論（統計的推論）（秋学期） 教 授 **早 見 均**

授業科目の内容：

目的：統計的推定・検定のやや進んだ内容を理解して，利用上の制約や最近の統計学で話題となっている分野がどのようにしてその制約を乗り越えようとしているかを概観する。

内容：漸近理論の初歩，十分統計量，最尤法，尤度比検定などを解説したのち，モデル選択の指標として利用されている情報量規準 (AIC) の考え方，ブートストラップ推定法や最近の計算統計の簡単な話題，確率過程のパラメターの推定方法など時間があるかぎり紹介していきたい。

この授業は単独でも履修可能だが，春学期の経済統計各論（数理統計基礎）とつながっている部分が多い。そのため数理統計基礎のシラバスも参考にして欲しい。各手法の応用や具体例については，関連する計量経済学，計量経済学各論などの講義で補って欲しい。

テキスト：

http://news.fbc.keio.ac.jp/~hhayami　ないし

http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami

に講義メモを掲載する。パスワードを設定することがあるので，授業の際の説明に注意すること。準備状況によっては keio.jo の利用もあるので注意すること。

参考書：

・G. Casella and R. L. Berger (2002) *Statistical Inference*, 2nd ed., CA: Duxbury Thomson Learning.

・岩田暁一『経済分析のための統計的方法第 2 版』東洋経済新報社，1983 年。

【05】計量経済学Ⅰ（春学期）/ 計量経済学Ⅱ（秋学期）
【99】計量経済学（通年） 教 授 **牧 厚 志**

授業科目の内容：

計量経済学Ⅰでは 2 年生で学習した統計学の復習をかねて，経営学，会計学，マーケティングを専攻しており，数量分析に興味を持っている学生にも理解しやすい授業をする。その内容は基礎編としてデータの整理と見方，確率変数と分布，推定と検定，回帰分析をスカラー表示とマトリクス表示で講義する。そして応用編として，経済分析ばかりでなく，経営，会計，マーケティングの分野の分析も紹介する。計量経済学Ⅱでは計量経済分析を行う際に必要な理論の具体的特定化，推定，検定などについて講義をする。

テキスト：

・『応用計量経済学入門』（牧　厚志，日本評論社，2001）

・『経済経営のための統計学』（牧他，有斐閣，2005）

参考書：

『経済分析のための統計的方法』（岩田暁一，東洋経済）

計量経済学各論（マクロ計量経済学）（春学期）
准教授 **山 本 勲**

授業科目の内容：

パソコンや統計パッケージの普及によって，実証分析を行うこと自体は容易になっているが，分析結果を正しく解釈し，適切な含意を導出するには，経済学や計量経済学の知識が不可欠である。そこで，この授業では，経済学や計量経済学の知識をもとに，実証分析の結果を適切に理解できるようになることを主な目的とする（実際に実証分析ができるようになることは目的としないため，他の科目の履修等で補うことが望ましい）。

具体的には，まず，実証分析を行うための基礎的な計量経済手法を学習する。そのうえで，様々な実証分析結果を題材に，分析手法や利用データの妥当性，推計結果を見る際のポイントや留意点等を解説する。取り上げる題材は，マクロ変数等の時系列データを用い

た経済分析であり，経済白書から学術論文まで多岐にわたる。
計量経済学の事前知識は必要としないが，履修者は経済学について中級程度の知識を持っていることを前提とする。

テキスト：
授業において適宜指定。

参考書：
授業において適宜指定。

計量経済学各論（ミクロ計量経済学）（秋学期）
准教授　**山　本　　勲**

授業科目の内容：
パソコンや統計パッケージの普及によって，実証分析を行うこと自体は容易になっているが，分析結果を正しく解釈し，適切な含意を導出するには，経済学や計量経済学の知識が不可欠である。そこで，この授業では，経済学や計量経済学の知識をもとに，実証分析の結果を適切に理解できるようになることを主な目的とする（実際に実証分析ができるようになることは目的としないため，他の科目の履修等で補うことが望ましい）。
具体的には，まず，実証分析を行うための基礎的な計量経済手法を学習する。そのうえで，様々な実証分析結果を題材に，分析手法や利用データの妥当性，推計結果を見る際のポイントや留意点等を解説する。取り上げる題材は，地域別データや個票データ等の横断面データを用いた経済分析であり，経済白書から学術論文まで多岐にわたる。
履修者は春学期の計量経済学各論（マクロ計量経済学）を履修しているか，同等の知識を有していることを前提とする。

テキスト：
授業において適宜指定。

参考書：
授業において適宜指定。

〔 D3／F　金　融　・　保　険 〕

【05】金融論Ⅰ（春学期）/ 金融論Ⅱ（秋学期）
【99】金融論（通年）　教　授　**金　子　　隆**

授業科目の内容：
今日の経済では，家計が貯蓄をして企業が投資をするというように，多くの場合，貯蓄主体と投資主体が分かれて存在している。貯蓄が投資と有効に結びつくためには，貯蓄主体から投資主体への資金の融通，すなわち金融（finance）が効率的に行われる必要がある。さもないと，企業の投資は抑制され，経済の成長は著しく損なわれてしまう。その意味で，金融は今日の経済においてきわめて重要な役割を担っている。その金融のメカニズムを主として資金の面から解明していこうとするのが商学部の金融論である。
Ⅰ（春学期）では，金融の基礎概念を解説した後に，金融市場における金利・価格の決定メカニズムを中心に講義する。Ⅱ（秋学期）では，経済主体（家計・企業・銀行）の金融行動と金融政策を中心に講義する。新学則適用の履修者はⅠとⅡをセットで履修することが望ましい。特に，Ⅱだけを履修しても授業内容に付いて来られない可能性が大である。
なお，各論科目の「資本市場論」と「企業金融論」は担当者の都合で今年度は休講とするが，来年度にこれらを履修することを考えている人は，今年度に本科目を履修しておくことを勧める。

テキスト：
テキストは使用しない。代わりに講義ノート（レジュメ）を私のホームページからダウンロードしてもらい，使用する。ユーザー名とパスワードについては初回のガイダンス時に指示する。

参考書：
初回のガイダンス時に参考文献リストを配布する。

【05】財政学Ⅰ（春学期）/ 財政学Ⅱ（秋学期）
【99】財政学（通年）　教　授　**跡　田　直　澄**

授業科目の内容：
意義と目的：政府は家計や企業とならぶ一つの経済主体である。その行動原理は，税を中心とした収入を制約としながら，さまざまな支出を行い，国民の厚生・福利をできるだけ極大化していくことにある。20 世紀には混合経済体制という考え方の下，政府は経済活動にも積極的に介入してきた。先進諸国の中で，日本は最も強くかつ大規模に介入してきたといえるが，近年，行財政改革の名の下に，そうした政府活動に一定の枠をはめようという議論も強まっている。そこで，本講義では，現代社会において，政府は経済活動にいかに関わるべきかという問題を基本テーマとして，以下のような内容で講義を行う。

テキスト：
特に指定しない

参考書：
特に指定しない

【05】証券経済論Ⅰ（春学期）/ 証券経済論Ⅱ（秋学期）
【99】証券経済論（通年）　名誉教授　**赤　川　元　章**

授業科目の内容：
証券経済論は特殊な領域の応用経済学である。本講義の目的は，「証券」の本質およびこの「証券」より構成されるシステムの構造の解明を主な対象とする。出来うる限り，実際に則して展開する予定である。授業内容の理解を容易にするために，図解・数値例・新聞記事・統計資料などを活用して具体的に説明する。試験ないしレポートは学期末に指示する。参考文献は講義中に必要があれば，適時明らかにする。講義の概要は以下の通り。

[春学期]
Ⅰ　経済発展と証券制度
(1)「証券」の用語について　(2)「証券」の具体的内容とその原初形態　(3)　証券資本主義
Ⅱ　有価証券の基礎理論―擬制資本論の展開
(1)　法律的・経済的アプローチ　(2)　有価証券の概念　(3)　資本の構造と資本の証券化　(4)　証券市場と金融市場
Ⅲ　証券市場の性格と役割
(1)　企業金融の変化　(2)　有価証券を用いた資金調達　(3)　発行市場と流通市場　(4)　景気循環と証券市場　(5)　投資家の構造変化　(6)　証券市場の組織

[秋学期]
Ⅳ　証券取引の方法
(1)　取引所取引　(2)　信用取引　(3)　先物取引　(4)　オプション取引
Ⅴ　証券価格の決定論
(1)　証券価格の決定要因　(2)　株価指標　(3)　債権の利回り　(4)　ポートフォリオ分析　(5)　投資信託
Ⅵ　経済体制と証券制度→国有化と民営化（移行期経済論），持ち株会社論 etc.
Ⅶ　世界の証券制度
(1)　ドイツ　(2)　アメリカ　(3)　中国

テキスト：
原則として使用しない。

参考書：
授業の中で指摘する。

証券経済各論（証券制度論）（秋学期）　講　師　**齊　藤　壽　彦**

授業科目の内容：
公債・社債・株式の発行と流通の仕組みについてできるだけわかりやすく講義する。これらを理解することは今日の産業社会を理解する上できわめて重要である。信用論をふまえつつ証券制度について説明する。とくに日本の証券制度の現状について述べる。

テキスト：
齊藤壽彦『信頼・信認・信用の構造』改訂版（泉文堂，2005 年，3300 円）

【05】保険学Ⅰ（春学期）/ 保険学Ⅱ（秋学期）
【99】保険学（通年） 教 授 **堀 田 一 吉**

授業科目の内容：
国民生活に深い関わりのある保険業界は，金融改革の進展の中でいま大きな環境変化を迎えている。本講義は，特徴的な保険の構造を経済学的に解説すると同時に，他の経済諸制度との関連性を図りながら，現代社会の抱える諸課題を保険学の立場から見直してみる。そして，現代生活において，保険がいかなる機能を担っているかをできるだけ現状に即して多面的に検証してみる。
テキスト：
堀田一吉『保険理論と保険政策 ― 原理と機能 ―』東洋経済新報社
参考書：
・堀田一吉・岡村国和・石田成則編著『保険進化と保険事業』慶應義塾大学出版会
・庭田範秋監修（2002）『新世紀の保険』慶應義塾大学出版会
・下和田功編（2004）『はじめて学ぶリスクと保険』有斐閣
・庭田範秋（1995）『新保険学総論』慶應義塾大学出版会
・真屋尚生（2004）『保険の知識（第 2 版）』日本経済新聞社

保険学各論（生命保険論）（春学期） 講 師 **宮 地 朋 果**

授業科目の内容：
生命保険の歴史は古く，概念は，古代ギリシャ（紀元前 500 頃）の宗教的慈悲組織にまで遡ることができるが，諸科学の成果を取り入れた近代的保険制度は，18 世紀になってからのことであり，比較的新しいともいえる。超高齢社会を控えて，生活保障を支える上で，生命保険の果たす役割は，近年一段と大きくなっている。他方，国民経済的には，生命保険に対する需要の高まりが，生命保険業の金融業としての地位を高くしている。本講義では，現代社会において生命保険がいかなる機能を果たしているかを単なる技術論ではなくて，社会保障や企業保障など他の関連制度と関係づけながら，多面的に論じるつもりである。
テキスト：
(1) 堀田一吉編著『民間医療保険の戦略と課題』（勁草書房）
(2) 堀田一吉・岡村国和・石田成則編著『保険進化と保険事業』（慶應義塾大学出版会）
参考書：
(1) 堀田一吉『保険理論と保険政策』（東洋経済新報社）
(2) 山中宏編『生命保険読本』（東洋経済新報社）
(3) ニッセイ基礎研究所『生命保険の知識』（日本経済新聞社）

保険学各論（損害保険論）（春学期） 講 師 **岡 村 国 和**

授業科目の内容：
本講義の目的は，損害保険に関する保険理論の理解と現実の保険現象を分析する能力を修得することにあります。さしあたり，保険の概論と，リスクと保険の関係を整理することから始めます。次いで，近代保険業の生成・発展を概観するために，産業革命期前後保険の歴史および明治期以降の保険の歴史を簡単に整理します。現代保険の複雑な現象を解明するためには近代保険業の生成・発展の歴史的分析は欠かせません。
保険の基本構造は理論的には単純明快ですが，実際には多様な応用が施されているために，一見して複雑な感じがすると思います。こうした複雑に見える保険の理論的構造を分解して単純化した後に再構築することにより，損害保険のさまざまな特徴を浮き彫りにすることができるのです。保険の基礎的・技術的特徴を理解することなしには，実社会における損害保険市場の諸問題を理解することは困難なものになるでしょう。
なお，損害保険市場の分析に関しては産業組織論からのアプローチを用います。具体的には市場構造，市場行動，市場成果の各ブロック間の相互関係の説明，および保険規制がこれら各ブロックにいかなる影響を与えるかなどについて講義します。
これらを理解した上で，最終的には，損害保険会社の倒産と消費者保護について講義します。その骨子は，保険企業の存続保証を前提とした契約者保護（いわゆる船団体制）と保険市場の効率性の両立を考えることであり，また「契約者の直接保護を前提とした契約者保護システム」（いわゆるセーフティネットの張り替え）を考察することによって，保険市場の効率性と保険契約者の保護を整合的に接続するシステムを模索することです。
テキスト：
分量がかなり多くなることが想定されますので，使用しません。要点をパワーポイントなどを使用して説明します。場合によっては資料なども配付することがあります。
参考書：
庭田範秋編『保険学』成文堂。
その他，講義中に適宜指示します。

保険学各論（保険経営論）（秋学期） 講 師 **岡 村 国 和**

授業科目の内容：
保険業を取り巻く環境変化のスピードは加速されてきています。保障業務を本来業務としつつも同時に肥大化・拡大化しつつある金融業務（これまでは派生業務としてかつて位置づけられていた）は，今や本来業務の中に取り込まれつつあり，保険業及び保険経営を質的に変化させようとさえしています。保険経営の質的変化が保険業の本質的性格に及ぼす影響は計り知れないものがあります。また金融業の業態間の垣根問題をめぐる緊張関係が今や無視しえないレベルにまで達していますので，ここで保険業の本質的性格を再度検討することの意義は決して小さくはないと確信しています。
本講で講義される「保険経営論」は，広義には経済学の一分科としての経営学に属し，狭義には特殊（業種別）経営学の一部としての「保険経営論」に位置づけられます。さしあたり，総論として保険経営の諸特徴を概観し，その後，企業形態について，とくに相互会社と株式会社の比較検討を行います。
本講義の中心課題は，保険業の収益構造の理解にあります。生命保険と損害保険では収益構造に大きな違いがありますので，その点を十分理解するように心がけてください。
なお，最終的には規制緩和の環境変化の下での保険業の行動原理と競争をめぐる諸問題について「多様化する行動原理と経営目的」を念頭に置きつつ講義を進めていくことを予定しています。
テキスト：
使用しません。オリジナルのパワーポイントのスライドを使用します。
参考書：
① 堀田一吉・岡村国和・石田成則共編著『保険進化と保険事業』慶應通信。
② 庭田範秋編著『保険経営論』有斐閣。
③ 庭田範秋編著『保険学』成文堂。
その他，補足資料などを配布することがあります。

保険学各論（保険数理論）（秋学期） 講 師 **荻 原 邦 男**

授業科目の内容：
保険数理とは，保険料の計算から，将来の保険給付に備える責任準備金の積立，剰余金の分析，配当還元に至る，保険特有の数理的事項の総称です。本講義では，生命保険の仕組みの理解や保険会社の経営分析に不可欠な保険数理の基本的事項を説明します。併せて，生保保険会計の特徴を説明し，保険数理，保険会計の今日的なトピックスについても取り上げます。
テキスト：
使用せず
参考書：
指定せず

【05】リスク・マネジメント各論（現代社会とリスク）（秋学期）
【99】リスク・マネージメント各論（現代社会とリスク）（秋学期）
教　授　**堀　田　一　吉**

授業科目の内容：
現代社会において，われわれが直面するリスクは巨大化，多様化，複雑化している。こうした中で，安定的かつ効率的な経済発展のために，近年，リスクマネジメントのあり方についての関心が急速に高まってきている。本講義では，主として，企業活動の観点から，実際の事例を交えながら，リスクマネジメントの考え方ならびに課題を論じる。

テキスト：
特定のテキストは指定しないが，参考書を随時紹介する。

参考書：
・亀井利明『リスクマネジメント総論』同文館
・甲斐良隆・加藤進弘『リスクファイナンス入門』金融財政事情研究会
・新日本監査法人『統合リスク管理』金融財政事情研究会
・インターリスク総研『実践リスクマネジメント』経済法令研究会
・武井勲『リスクマネジメントと危機管理』中央経済社

〔 D4／G　産　業　・　交　通 〕

産業組織論（春学期集中）　教　授　**井　手　秀　樹**

授業科目の内容：
産業組織論は応用ミクロ経済学の一分野です。この講義では，なるべく具体的な事例を取り上げながら，現実の様々な企業行動が経済厚生に与える影響（独占・寡占問題），さらには独占禁止政策・公共政策の必要性を論じます。なお，独占禁止法に関しては，専門の科目として「経済法」があります。

テキスト：
植草・井手他「現代産業組織論」NTT 出版

参考書：
新庄浩二（編）『産業組織論』有斐閣ブックス

産業組織各論（規制の経済学）（春学期）
産業組織各論（社会問題の経済学）（秋学期）
教　授　**中　条　　潮**

授業科目の内容：
この講義では，社会的・経済的問題とそれに対する政府の規制や慣習に関する課題を経済学的に検討する。

あらゆる社会・経済活動は多かれ少なかれ規制を受けているが，これは「公共性」，すなわち市場の失敗・欠落の議論によって説明することができる。交通や通信の公共性，金融や保険の自由化，農業保護，流通規制，外国人労働者規制，住宅問題，発展途上国への経済援助といった様々な経済問題は，市場の失敗の視点から分析することよって政策判断に寄与することが可能である。したがって，商学部の産業・経済分野を学ぶ者にとっては，政府規制の問題は必須的バックグラウンドであると言える。

また，経営・会計分野の学生にとっても，企業の経営分析や財務分析を行なうにあたって，政府規制は少なからず影響を与える変数である。たとえば，規制下にある企業の経営指標は一般的に安定的であるが，それは政府の保護によるものであって経営政策に基づく安定度ではないかもしれない。

さらに，規制は経済上の規制にとどまらない。我々の日常生活は多くの規制にとりかこまれている。たとえば，麻薬の所持・使用，一方的な離婚，希少動物の捕獲，プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制は一見，社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえるが，人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実に照らせば，これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。

それゆえ，医療，自然保護，公害，教育，国防，福祉，死刑廃止論議など，社会的問題とされている様々な問題についても，それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し，それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論することが可能である。

このように，市場介入の意義・妥当性を研究することによって，経済制度・社会制度を経済学的に分析するのが本講義の目的である。

テキスト：
〔春学期〕
・中条潮『規制破壊』（東洋経済新報社）
・藤井・中条編『現代交通政策』（東大出版会）第 4 章
〔秋学期〕
・中条潮『景気復活最後の切札―規制改革なくして日本再生なし―』小学館文庫

参考書：
必要があればその都度指示する。

産業組織各論（産業組織と企業戦略）（春学期）
教　授　**高　橋　美　樹**

授業科目の内容：
産業組織論は，他の学問分野と密接な関連をもって発展してきました。本講義では，関連分野の中でもとくに企業戦略論との関連に注目し，企業のとる様々な戦略的行動，また，企業競争力の源泉について議論したいと思います。

テキスト：
特に指定しません。

参考書：
・D. ベサンコほか［2002］『戦略の経済学』ダイヤモンド社
このほかの参考書は，必要に応じて，講義中に紹介し，またプリントを配布します。

【05】交通経済論Ⅰ（春学期）/ 交通経済論Ⅱ（秋学期）
【99】交通経済論（通年）　准教授　**伊　藤　規　子**

授業科目の内容：
講義は，
① 交通分野の産業に属する企業の構造と行動の一般的な理論，
および，
② 国土政策も含めた交通政策を分析する際のベンチマークがどのようなものであるか，
を理解してもらうことを目的とする。

交通サービスは，社会的生活に不可欠であり，また交通インフラは社会資本であるがゆえに，一般的に，供給が競争市場に任されることが稀な領域として受け入れられてきた。

しかしながら，近年では資源配分の効率性からの視点での見直しが行われ，交通分野での規制の緩和は徐々に日本でも導入されてきた。経験的に形成されてきた理論の見直し，実際の交通機関分担バランス変化の反映，中央・地方政府のあり方の転換といった要素が，こうした動きの基となっている。

春学期（交通経済論Ⅰ）では交通市場の特徴をカバーしながら，交通企業およびミクロ経済学との整合性に焦点をおく。秋学期（交通経済論Ⅱ）は，社会資本投資および交通政策に重きを置いた形で話を進める。

テキスト：
特に指定はない

参考書：
・竹内・山内『交通経済学』有斐閣アルマ
・藤井・中条編『現代交通政策』（東大出版会）
・岡野行秀編『交通の経済学』（有斐閣）
・永井・藤井・阪本他『経済政策入門（2）』（有斐閣）
・前田義信『交通経済要論』（晃洋書房）
・斉藤峻彦『交通市場政策の構造』（中央経済社）
旧図書館のリザーブブックで閲覧できます。

交通経済各論（公共事業論Ⅰ）（春学期）

専任講師　**田　邉　勝　巳**

授業科目の内容：

公共事業論は電力・電気通信・交通などの公益事業分野を対象にする応用経済学の一分野です。一般的に公益事業分野は，市場の失敗が発生しやすい市場構造であり，パレート効率的な市場成果の実現が困難になるため，公的部門が何らかの政策介入をしています。この講義では各公益事業の具体的な問題を論じるだけではなく，公的介入に関する様々な経済理論を学びます。春学期では，公的規制の根拠，規制の仕組み，代表的な規制手段である料金規制の理論モデルを学びます。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

・植草益（2000）『公的規制の経済学』NTT 出版
・K. E. トレイン（1998）『最適規制』文真堂
・S. J. ブラウン，D. S. シブレー（1993）『公益企業の料金理論』日本評論社
・江副憲昭（2003）『ネットワーク産業の経済分析』勁草書房
・依田高典（2001）『ネットワーク・エコノミクス』日本評論社
・清野一治（1993）『規制と競争の経済学』東京大学出版会

交通経済各論（公共事業論Ⅱ）（秋学期）

専任講師　**田　邉　勝　巳**

授業科目の内容：

公共事業論は電力・電気通信・交通などの公益事業分野を対象にする応用経済学の一分野です。一般的に公益事業分野は，市場の失敗が発生しやすい市場構造であり，パレート効率的な市場成果の実現が困難になるため，公的部門が何らかの政策介入をしています。この講義では各公益事業の具体的な問題を論じるだけではなく，公的介入に関する様々な経済理論を学びます。秋学期では春学期の議論を踏まえ，規制下でも一定の競争効果を狙うインセンティブ規制，ネットワーク産業特有の問題と解決策，公企業と民営化の問題，そして公益事業の各論と諸外国の政策を学びます。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

・植草益（2000）『公的規制の経済学』NTT 出版
・K. E. トレイン（1998）『最適規制』文真堂
・S. J. ブラウン，D. S. シブレー（1993）『公益企業の料金理論』日本評論社
・江副憲昭（2003）『ネットワーク産業の経済分析』勁草書房
・依田高典（2001）『ネットワーク・エコノミクス』日本評論社
・清野一治（1993）『規制と競争の経済学』東京大学出版会

交通経済各論（国際交通論Ⅰ）（春学期）

国際海上輸送　　講　師　**織　田　政　夫**

授業科目の内容：

国際交通の一手段というよりも，主要な国際物流手段である「海上輸送」は，一国の産業経済ならびに国民経済のいわばインフラストラクチャーとして，現代の生産および流通活動の根幹を成している。『交通経済各論（国際交通論Ⅰ）』は，その海運活動が営まれる「国際海運市場」がどのような構造になっており，そこでどのような競争が展開されているかを分析し，市場構造と競争の本質を明らかにする。これによって，海運業の市場構造ならびに競争の実態，それに景気変動のメカニズムを知るとともに，世界海運を構成する主要海運勢力について把握する。

次いで，この国際海運市場で営まれる「海運業経営の特性」を明らかにし，続いて「海運政策」の形態，海運政策と海運業経営との係わり，わが国の海運政策課題等について考察することによって，国際海運活動全般について理解を深めることを目標とする。

テキスト：

特に指定しない。必要に応じて講義資料プリントを配布する。

参考書：

・織田政夫著『海運要論』（海文堂，1996 年）
・織田政夫著『国際複合輸送の実務』（海文堂，1992 年）

〔 D5／H 労 働 ・ 社 会 〕

【05】労働経済学Ⅰ（春学期）／労働経済学Ⅱ（秋学期）
【99】労働経済学（通年）

［春学期］労働経済学の基本枠組
［秋学期］雇用と労働市場の実証分析

教　授　**清　家　　篤**

授業科目の内容：

［春学期］

現在の労働市場で起きていることを経済学の枠組みを使って理解，分析できるようにするための基本枠組みを理解してもらうことを目的にしています。内容は次の通りです。

〔Ⅰ〕労働経済分析の枠組み
（1）労働経済学とは何か
　(i)　科学としての労働経済学
　(ii)　2 つの均衡概念
　(iii)　経済学における労働概念
（2）労働力の観測
　(i)　労働力とは何か
　(ii)　労働力の観測指標
（3）労働統計
　(i)　労働統計の概略
〔Ⅱ〕労働の需給
（1）労働供給
　(i)　性・年齢別労働力率の観測
　(ii)　就業・最適労働供給時間の決定
　(iii)　労働供給曲線の導出
（2）労働需要
　(i)　労働需要の決定要因
　(ii)　産業別労働需要の変動
　(iii)　最適労働需要の決定
　(iv)　労働需要曲線の導出
〔Ⅲ〕労働市場
（1）失業
　(i)　失業とは何か
　(ii)　失業にかんする経験法則
　(iii)　日本の失業構造
（2）労働力のフロー表
　(i)　労働力のフローとは何か
　(ii)　フロー表を使った分析
（3）労働市場における情報の役割
　(i)　情報の不完全性
　(ii)　情報の不完全性ゆえに生じる経済主体の行動
　(iii)　情報の不完全性と企業組織

［秋学期］

労働経済学の枠組みを使って，現在の労働市場の構造変化や，それに応じた雇用制度の変革について分析できるようにすることを目的にしています。内容は次の通りです。

〔Ⅰ〕労働経済学の枠組み
（1）市場の均衡
（2）主体の均衡
（3）市場の不完全性
〔Ⅱ〕経済の構造変化
（1）人口の少子高齢化
　(i)　世界に類を見ない高齢化
　(ii)　経済成長の結果としての高齢化
　(iii)　人口の構造変化に応じた制度変革の必要性
（2）企業をとりまく競争構造の変化

(i) 国際競争環境の変化
(ii) 国内競争環境の変化
(iii) IT 化の進展
(iv) 多様化する雇用・就業構造
〔Ⅲ〕雇用制度変革の方向
(1) 人口高齢化に対応した雇用制度変革
(i) 高齢者の労働供給
(ii) 高齢者の労働需要
(iii) 年齢を基準としない雇用制度の必要性
(2) 競争環境変化に対応した雇用制度変革
(i) 賃金・処遇制度の変革
(ii) 多様化する雇用・就業構造に応じた雇用制度変革
(3) 雇用調整慣行の変化
(i) 雇用調整とはなにか
(ii) 雇用調整行動の変化
(iii) 労働市場を通じた雇用保障の必要性
(4) 人的資本投資
(i) 人的資本投資理論
(ii) 教育の経済分析
〔Ⅳ〕雇用政策の変革
(1) 雇用の規制改革
(i) 労働・雇用規制の経済学的根拠
(ii) 雇用の規制緩和
(iii) 外国人労働力問題
(2) ワーク・ライフ・バランス
(i) ワーク・ライフ・バランスとは
(ii) 労働時間短縮の理論
(3) 労使関係
(i) 集団的労使関係の意義
(ii) 変化する労使関係
(iii) 新しい労働契約のあり方

テキスト：
清家篤『労働経済』(東洋経済新報社)

参考書：
生産性労働情報センター『活用労働統計』(社会経済生産性本部生産性情報センター)
その他の資料もそのつど適宜指定します。

【05】産業関係論Ⅰ（春学期）/ 産業関係論Ⅱ（秋学期）
【99】産業関係論（通年） 講 師 **菊 野 一 雄**

授業科目の内容：
近代以降の工業化社会を，我々は「インダストリアル・ソサエティー」ないし「ビジネス・ソサエティー」と呼び，豊かな生活を約束された素晴しい社会と思い込んできた。しかし，インダストリーは「勤勉」，ビジネスは「忙しい」(ビジー）であり「物的豊かさ」を求めて「物の加工」に忙しい時代であった。「忙しい」とは「心を亡ぼす」ことである。事実，我々は物的に豊かになればなる程，心を亡ぼしてきたように思う。だが，それは何故か。
何故，物的豊かさを求めて工業を興し，労働の細分化（分業）と機械化を推進すればする程，雇用をめぐる諸関係（産業関係）にさまざまな矛盾（副作用）が生じてきたのか。商（ビジネス）学部において産業（インダストリー）関係論を学ぶ意義はまさにこの点の解明にある。
産業関係（Industrial Relations = IR）という用語は 1910 年代頃から英米において使われてきたが，いまだ研究者の間で共有できる統一的な概念や理論体系を有していない。産業関係（IR）は広義には「雇用関係から派生する全ての行動，ないし雇用過程に関連する全ての行動」(D. ヨーダー）であるが，本講義では労働市場と雇用管理の接点に焦点をあてていきたい。

テキスト：
・菊野・八代編著『雇用・就労変革の人的資源管理』中央経済社
・菊野一雄『現代社会と労働』慶應義塾大学出版会

参考書：
・菊野一雄『Humanization of Work and Japanese Personnel Management』(英文）楽出版
・菊野一雄『模索時代の人間と労働』中央経済社
・菊野他編著『雇用管理の新ビジョン』中央経済社
・今村仁司『仕事』弘文堂
・今田高俊『自己組織性』創文社
・加藤尚武『環境倫理学のすすめ』丸善
・二神恭一編『戦略的人材開発』中央経済社

産業関係各論（労務管理論）（春学期集中）
教 授 **八 代 充 史**

授業科目の内容：
労務管理とは，市場経済において最大利潤の獲得という目的の下に企業が行うヒトの管理についての諸活動を総称したものである。
この講義では，昇進・昇格，人事考課といった労務管理の諸活動についての基本知識を与えることを重視する。ただこうした労務管理の諸活動の背景にある理論的な意味や歴史的な経緯も，この講義の重要な課題である。

テキスト：
・佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理（新版)』有斐閣アルマ，2003 年。
・佐藤博樹・藤村博之・八代充史『マテリアル人事労務管理』有斐閣，2000 年。

参考書：
・白井泰四郎『現代日本の労務管理（第 2 版)』東洋経済新報社，2002 年。
・八代充史『管理職層の人的資源管理―労働市場論的アプローチ』有斐閣，2002 年。
・菊野一雄・八代充史編『雇用・就労変革の人的資源管理』中央経済社，2003 年。

【05】産業社会学Ⅰ（春学期）/ 産業社会学Ⅱ（秋学期）
【99】産業社会学（通年）
［春学期］―理論編―
［秋学期］―実態編―
教 授 **三 浦 雄 二**

授業科目の内容：
［春学期］
産業社会学Ⅰ（理論編）は，産業社会についての研究成果の理論的水準を紹介，検討することを目的にしている。産業社会は，産業革命以降我々人類が追求してきた社会の在り方で，今日ではその先端部は内外に〈豊かさ〉を誇示するまでになっており，中国やインドに見られるように，世界中の国がその躍進に懸命になっているものである。その実態は，企業を中心にした産業活動が活発化し，その成果が社会生活の機能水準を押し上げ，賃金労働者としてこの活動に加わっていく人々がこの機能を享受しながらも，仕組み化した社会に規範的に従って行くという形を取る。当然，社会の在り方としてはプラスとマイナスを持ったものである。長い間人類の関心の中心にあっただけに，これまでに実に多様な研究成果が残されている。それらを，産業社会のさらなる維持・発展を念頭に，社会学，すなわち社会の秩序的な在り方の科学的追究，を軸に整理していくことになる。
［秋学期］
産業社会学Ⅱ（実態編）は，現代日本社会の産業社会としての特徴を説明し，問題点を検討することを目的にしている。日本は明治期の近代的工業化の採択以来産業社会を目指し，形の上では昭和の初めにこれに到達しているが，第二次世界大戦の不幸によって殆どやり直しに近い体験をし，その後の経済復興，高度成長を経て，1970 年代の半ばに世界でも数少ない高度産業社会の段階に達した。高度産業社会は〈豊かさ〉が人々の生活の前提になっている社会であり，工業化の最先端にあって，世界のあこがれを一身に集める存在になっている。日本の〈豊かさ〉は，前世紀末に我々が体験したバブルの破裂によっても基本的には変わっていない。だが，〈豊かさ〉は社会の仕組みが生み出すもので，〈豊か〉であり続けようとする限り，我々はそれなりの無理を仕組みに対して日常的に引き受けなければならないことになる。そうした問題の幾つかを取り上げ，その改善

を模索していきたい。
テキスト：
テキストは使用せず，講義を中心としている。
参考書：
講義の中で紹介している。

産業社会学各論（経営社会学Ⅰ）（春学期）
講　師　**塚　本　成　美**

授業科目の内容：
経営社会学の特徴は，企業経営を社会不安や社会問題のひとつの源泉として認識するところにある。企業経営は利益を追求する経済団体でありながら，従業員（人間）の社会組織によって活動し，生活（社会）にたいして財やサービスを提供することで事業をささえる。企業経営は，経済性と社会性の両方を要求される本質的に矛盾をはらんだ存在なのである。この矛盾が，様々な社会不安や社会問題をひきおこす要因となることがある。
本講義では，以上のような経営社会学の視点から，経営の社会的問題性の根底にある経済性と社会性の矛盾をあきらかにしつつ，現代の社会問題と企業経営の関係性を追究したい。企業活動に携わるものは，経済的合理的思考だけでなく，経営の社会的影響力にたいするふかい洞察力を必要とする。
テキスト：
なし（講義のなかでプリントを配布します）
参考書：
・安田尚道『持続的発展の経営学：企業と市民の共生を考える』唯学書房 2006 年
・石坂巌編著『文明の実業人』巌書房 1998 年

産業社会学各論（経営社会学Ⅱ）（秋学期）
講　師　**塚　本　成　美**

授業科目の内容：
現代人は何らかの職業をもって，具体的な企業経営の職場に配属され，同僚や上司や部下との社会関係の現実のなかで，仕事上の義務をはたすことを余儀なくされている。経営生活の現実は，勤労者の人格やものの考え方に影響をおよぼすとともに，経営の在り方は社会の在り方をきめる。勤労者にとっての経営の現実は，労働特性と職場社会関係によって規定される。とくに，職場社会関係は，一方で，企業の管理組織の支配下にあり，他方で，組織とは別に経営や職場の集団的統一性や凝集性，集団意識を醸成する。組織管理と職場集団の間でおくる生活こそが，勤労者にとって経営の現実を構成し，その性格構造と人格の独立性の基礎となる。
本講義では，ドイツ経営社会学の形成過程をたどりながら，経営と職場の社会的側面をあきらかにしたい。それにより，経営あるいは職場とは何かを考え，職業生活の社会的現実を洞察するための素材を提供したい。
テキスト：
なし（講義のなかでプリントを配布します）
参考書：
・安田尚道『持続的発展の経営学：企業と市民の共生を考える』唯学書房 2006 年
・石坂巌編著『文明の実業人』巌書房 1998 年

【05】組織心理学 a（春学期）/ 組織心理学 b（秋学期）
【99】組織心理学（通年）　准教授　**吉　川　肇　子**

授業科目の内容：
組織と個人の適合的関係について，心理学的視点から検討します。そのために，組織心理学の基本的な知識を学びます。講義とともに，授業内に実習や LTD 学習を行い，体験的に理解を深めることをねらっています。
テキスト：
外島裕・田中堅一郎（編著）産業・組織心理学エッセンシャルズ　ナカニシヤ出版
参考書：
レイボー・チャーネス・キッパーマン・ベイシル（著）丸野・安永（訳）討論で学習を深めるには― LTD 話し合い学習法―　ナカニシヤ出版

【05】社会保障論Ⅰ（春学期）/ 社会保障論Ⅱ（秋学期）
【99】社会保障論（通年）
再分配政策の政治経済学　教　授　**権　丈　善　一**

授業科目の内容：
社会保障関連の文献を読んでもらっては，レポートを書いてもらう，そういう形の講義にしたいと考えている。
文献は，できるだけ，旧図書館リザーブブックコーナーに配置しておく。
暇があれば，趣のある旧図書館にこもり読書をする。そういうライフスタイルに耐えられる人の受講をもとめる。
はじめは文献に書かれていることに歯が立たない，講義での話の意味がわからない，そういう状態だと思う。
しかしながら，講義に出席しつづけているうちに，本に書かれていること，新聞や雑誌に書かれていたりテレビで論じられていることの意味がしだいにわかるようになり，さらには，ひろく世間一般では社会保障とまったく関係なく論じられている諸々の事柄と社会保障との密接な関係が見えはじめてくる――はずである。
時機にあった社会保障関連の題材を使って，いろいろと話をしているために，講義で話している内容は毎年大きく異なっている。よって，最近は，3 年次に履修して単位を取得した 4 年生が飛び入りで講義に出席する傾向もでてきており，個人的には，この傾向を大いに歓迎している。昨年度履修した学生も，時間があれば顔を出すことをすすめたい。昨年度よりは，わたくし自身，すこしばかり多くの知識を身につけて，わずかばかりに多くの経験と思索を重ね話がバージョンアップしているかもしれない。そしておそらく，昨年度とは違った文献をすすめているはずである。
春には春に起こった社会保障関連の出来事をきっかけとして，社会保障についての歴史的理論的な話をし，秋は，春の話を基礎にしながら秋に起こった出来事を題材として話をする。よって，秋のみの受講は難しいとおもう――のみならず，春だけの履修もひかえてもらいたい。
なお，この講義の長年の特徴の一つは，講義専用のホームページから資料をダウンロードしてもらうとともに，ホームページを通じて社会保障に関連する情報を，随時，君たちに提供できるシステムを活用していることにある。1999 年より始めたこの方法のおかげで，タイムリーかつ相当の量の情報を，毎週，君たちに提供できるようになっている。
テキスト：
〈旧図書館リザーブブックコーナーに配置している〉
・権丈善一（2006）『医療年金問題の考え方 ― 再分配政策の政治経済学Ⅲ』慶應義塾大学出版会
・権丈善一（2005）［初版，2001］『再分配政策の政治経済学Ⅰ ― 日本の社会保障と医療』慶應義塾大学出版会
・権丈善一（2004）『年金改革と積極的社会保障政策 ― 再分配政策の政治経済学Ⅱ』慶應義塾大学出版会
参考書：
講義のなかで適宜指示する。

〔 D6／Ⅰ　産　業　史　・　経　営　史 〕

産 業 史（春学期）　教　授　**牛　島　利　明**

授業科目の内容：
この講義では明治期から戦時期にいたる日本の産業発展とそれを支えた制度的要因を事例としてとりあげ，産業の発展・衰退の過程，産業間の相互依存関係，個別産業と経済全体との関連について理解を深めることを目的とする。
テキスト：
特に指定しない。

参考書：

参考文献は必要に応じてその都度指示するが，さしあたり下記の文献を参照されたい。

・橋本寿朗『近代日本経済史』岩波書店，2000 年。
・西川俊作ほか編『日本経済の 200 年』日本評論社，1996 年。

産業史各論（科学技術政策史）（春学期）

情報技術の発展に従来の科学技術政策が対応できるのか？

講　師　**ルイス，ジョナサン**

授業科目の内容：

科学技術政策を政府，企業，そして社会全体の視点から議論する。代表的な研究を紹介した後，情報技術の両分野を中心に具体的なケースを考察する。

使用言語：日本語と英語。

This course provides an overview of science and technology policy, from government, enterprise and broader social perspectives. It introduces some key research and presents a variety of case studies from the field of information technology.

I use both Japanese and English in the lecture.

参考書：

・Castronova, E. (2005). *Synthetic worlds: the business and culture of online games*. Chicago: University of Chicago Press.
・Christensen, C. M. (2000). *The innovator's dilemma: the revolutionary national bestseller that changed the way we do business* (1st HarperBusiness ed.). New York: HarperBusiness.
・Lessig, L. (2004). *Free culture: how big media uses technology and the law to lock down culture and control creativity*. New York: Penguin Press.
・Mani, S. (2002). *Government, innovation, and technology policy: an international comparative analysis*. New horizons in the economics of innovation. Cheltenham, UK; Northampton, MA: Edward Elgar Pub.
・Mowery, D. C. and N. Rosenberg (1998). *Paths of Innovation: Technological Change in 20th Century America*. Cambridge University Press.
・Rogers, E. M. (2003). *Diffusion of innovations*(5th ed.). New York: Free Press.
・Thomas, D. (2002). *Hacker culture*. Minneapolis: University of Minnesota Press.
・Weber, S. (2004). *The success of open source*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
・加藤弘一 著『電脳社会の日本語』文春新書，2000.
・中山茂 他 編『通史　日本の科学技術』ガクヨウ書房，1995.

産業史各論（比較小売業史）（秋学期）　教　授　**平　野　　隆**

授業科目の内容：

本講義は，19 世紀後半以降の日本，イギリスおよびアメリカにおける近代小売業の成立・発展過程を比較検討し，各国の異なる社会的・歴史的背景要因が，小売業の発展パターンにどのように反映したか考察する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

講義中に適宜指示する。さしあたり，以下の文献を参照されたい。

・J. ベンソン，G. ショー編，前田他訳（1996）『小売システムの歴史的発展』中央大学出版部。
・山本武利・西沢保編（1999）『百貨店の文化史―日本の消費革命―』世界思想社。

経 営 史（春学期）　教　授　**平　野　　隆**

授業科目の内容：

今日の企業が直面している諸問題の本質を把握するためには，それらが歴史的に形成されてきた過程を理解することが不可欠である。この講義では，まず経営史学の基本的な考え方と方法について解説し，つづいて18世紀以降のイギリス，アメリカおよび日本におけるモダン・ビジネスの形成・発展と企業経営の展開過程を概観する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考文献は講義中に適宜指示する。さしあたって以下の文献をあげておく。

・大河内暁男『経営史講義』（第 2 版）東京大学出版会，2001 年。
・宮本又郎ほか『日本経営史』有斐閣，1995 年。
・鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史』有斐閣，2004 年。

経営史各論（アメリカ経営史）（春学期）

講　師　**安　部　悦　生**

授業科目の内容：

企業と企業家の発展を理解する。産業史，経済史，経営学，経営組織論，経営戦略論，ミクロ理論などをすでに勉強したか，それらと並行して，勉強することが望ましい。

テキスト：

『ケースブック　アメリカ経営史』有斐閣，2002 年

参考書：

・安部悦生『経営史』日経文庫，日本経済新聞社，2002
・『経営学のすべてがわかる本』学習研究社，2004

経営史各論（日本経営史）（春学期）　教　授　**吉　田　正　樹**

授業科目の内容：

この講義は，わが国の急速な工業発展を理解するため，近代動力技術の導入と普及過程を考察していく。考察は電気利用を中心として，電力産業と電気機械産業の生成と発展，さらに産業発展のキーパーソンとなった技術者，経営者の行動と思想に触れていく。

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜指示していく。

【05】専攻科目Ⅳ類
【99】専攻科目Ⅲ類

1. 目的および概要

専攻科目Ⅳ類（【99】専攻科目Ⅲ類）に配当された科目は，いずれも商学部の専門的な内容を少人数クラスでセミナー形式または演習形式で学び研究するための科目です。専門の研究をセミナー形式ですすめていく科目もあれば，専門のバックグラウンドとなるような知識を外国語で書かれた原書で演習する科目もあります。それぞれの科目の大まかな内容は，次のとおりです。

＊専門外国書研究（【99】○○語専門書研究）：
高度な専門的研究を，原書を教材に演習形式で行う科目です。

＊専攻演習：
研究会に属さない学生のために，専門科目の基礎を演習形式で勉強する科目です。

＊外国語演習（【99】外国語特殊）：
三田へ来てからも外国語を学びたい学生諸君を対象に設けられた，中・上級向けの演習形式の授業です。

＊関連課題研究：
これまで学んできた知識を専門分野と関連づけながら，小人数のゼミ形式で深めていく科目です。

＊研究会：
2年間にわたって，特定分野の研究を演習形式で行う科目です。

専攻科目Ⅳ類（【99】専攻科目Ⅲ類）に属する以上の科目の中から，1科目2単位以上を履修しなければなりません。ただし，同一科目内では原則1クラスしか選択できません。また，研究会を選択する場合は，担当教員の承認を得て，第3・第4学年にわたって履修しなければならず，専攻科目Ⅳ類（【99】専攻科目Ⅲ類）として専攻演習を履修することはできませんので，注意してください。

2. 担当者間の取り決め

成績評価の方法や出席の取扱いに関する担当者間のバラツキや，情報の不徹底からくる不満を少しでも解消するため，原則として，担当者間で次のような取り決めをしてあります。

（なお，以下の取り決めはあくまでも原則であって，実際の授業は担当者の裁量によって運営されます。）

イ）成績評価について：各人の基本方針をあらかじめ講義要綱に明記する。

ロ）出席の取扱いについて（共通ルール）：年間3分の1程度を超えて欠席した場合は不合格とする。共通ルールを採用しない場合は，それと同等以上の負担を課す。

3. 履修希望クラスの選択・申告

履修案内と一緒に配付された案内で確認してください。

【専攻演習】

専攻演習D（経営学）（秋学期集中）　准教授　**神　戸　和　雄**

授業科目の内容：
企業経営に関する基本的な知識を習得するとともに各自が興味をもった企業および産業に関して調査，発表を行い質疑応答を通じて実際の企業経営に関する理解を深めることを企図している。

テキスト：
必要に応じて資料を配布する。

参考書：
必要に応じて紹介する。

専攻演習D（経営学）（秋学期集中）　准教授　**佐　藤　　和**

授業科目の内容：
経営思想の変遷についての英書を輪読する事で，Reading 力をつけるとともに経営学の流れを学ぶ。

テキスト：
Stuart Crainer, *Key Management Ideas, the thinkers who changed the management world, third edition*, Financial Times / Prentice Hall, 1998

参考書：
梶川達也訳『マネジャーのための経営思想ハンドブック』ピアソン・エデュケーション，2002

専攻演習D（経営学）　准教授　**前　田　　淳**

授業科目の内容：
経営学，経済に関する基本的問題と知識についての理解を深めてもらう。企業経営，日本経済，さらには世界経済についての問題意識を持ち，現代的意義をも把握できるよう指導していきたい。

テキスト：
『日本経済を問う』伊藤光晴著（岩波書店）
他1～2冊を予定している。

参考書：
授業の中で随時紹介する

専攻演習D（会計学）（春学期集中）　教　授　**園　田　智　昭**

授業科目の内容：
企業で行われている活動を改善するためのさまざまな手法や組織化などに関する文献を3～4冊取り上げて輪読する。具体的には，リエンジニアリング，ミニプロフィットセンターなどを取り上げる予定である。

テキスト：
ハマー，チャンピー『リエンジニアリング革命』日経ビジネス人文庫
他数冊を予定（上記文献以外は授業中に指示する）

専攻演習D（会計学）（秋学期集中）　准教授　**吉　田　栄　介**

授業科目の内容：
この授業では，管理会計研究の最先端の論文を原文（英語）で読み，考え，議論することを通じて，管理会計の技法的特徴ではなく，社会科学としての管理会計研究の深みに触れてもらいたい。とりわけ管理会計技法が組織変革に与える影響を取り扱う論文を対象とする。

テキスト：
第1回目の講義において，扱う論文を指定する。世界トップクラスの研究雑誌 Management Accounting Research と Accounting Organization and Society から選択する予定である。

参考書：
上埜進・杉山善浩・島吉伸・窪田祐一・吉田栄介『管理会計の基礎』税務経理協会。
その他，トピックに応じて適宜紹介する。

専攻演習D（商業学）（春学期集中）
マーケティング・コミュニケーション
准教授　**里　村　卓　也**

授業科目の内容：
マーケティング・コミュニケーションの役割と効果について考えます。
前半はテキストを利用して広告効果について学びます。後半はマーケティング・コミュニケーションに関する原著論文をとりあげ，報告と議論をしてもらいます。

テキスト：
Tellis, Gerard J. (2004) “Effective Advertising: Understanding When, How and Why Advertising Works,” Sage Publications.

専攻演習D（商業学）（秋学期集中）
市場と競争　　専任講師　**鄭　　潤　澈**

授業科目の内容：
マクミラン著，「経営戦略のゲーム理論」と “Reinventing the Bazaar: A Natural History of Markets” の輪読を通して，専門書と外書の両方を勉強していくことによって，市場と競争に関する専門的な知識の習得と外書の読解力の向上を目指します。そして，テキストを読むだけでなく，自分で内容を要約してきてプレゼンテーション形式で発表し，感想，疑問点，関連する内容などをみんなで討議することによって，研究会のような双方向形式の授業に参加することができます。
テキスト：
・ジョン・マクミラン著，伊藤秀史・林田修訳，「経営戦略のゲーム理論」有斐閣，2001
・J. McMillan 著，“Reinventing the Bazaar: A Natural History of Markets” W. W. Norton & Company, Inc., 2002

専攻演習D（経済・産業）（春学期集中）
専任講師　**安　藤　光　代**

授業科目の内容：
この授業では，国際経済学に関連したテキストを輪読しながら，国際経済問題について経済学的な視点で学ぶ。とりわけ，グローバル化が急速に進展する世界経済の中で目覚ましい成長を遂げている中国に焦点をあて，さまざまな角度から議論していく。テキストの輪読に加え，履修者には，授業で扱う内容に関連したテーマを選び，実際のデータを用いたレポート（英語）を作成して提出してもらう。
テキスト：
Bergsten C. Fred, Bates Gill, Nicholas R. Lardy, Derek Mitchell eds. (2006) *China: The Balance Sheet - What the World Needs to Know Now about the Emerging Superpower.* - Institute for International Economics and Center for Strategic and International Studies
テキストの内容については，the Peterson Institute for International Economics のウェブサイト（http://bookstore.petersoninstitute.org/book-store/04648.html）を参照のこと。

専攻演習D（経済・産業）　　専任講師　**田　邉　勝　巳**

授業科目の内容：
身近な経済現象に関するテキストを輪読しながら，経済学的な考え方を養います。テキストについては第１回目の授業時に受講者と相談した上で決めます。報告者は担当する章について発表し，討論者や授業参加者からの質問に答える形で授業を進めます。
テキスト：
ティム・ハートフォード『まっとうな経済学』ランダムハウス講談社　他
参考書：
必要に応じて授業中に紹介します。

専攻演習D（経済・産業）（秋学期集中）
准教授　**山　本　　勲**

授業科目の内容：
この授業では，金融経済に関する分析（特に労働市場分析）を英語で記述した論文・本・記事等を履修者による輪読形式で読み進める。授業では，難しい英単語や英語表現を詳細に理解することよりも，要旨や主張を効率的に理解することや，英文としての論旨の立て方や英語論文の形式を学習することを優先する。また，教材は主に経済学の分野から選定するため，数式や図表の読解も授業内容に含まれる。
テキスト：
授業において適宜指定。
参考書：
授業において適宜指定。

専攻演習D（経済・産業）　　准教授　**渡　部　和　孝**

授業科目の内容：
米国の政治・経済情勢についての書籍をテキストに討論する。
テキスト：
“The Right Nation: Why America Is Different?”, John Micklethwait and Adrian Wooldridge, Penguin Books または “What’s the Matter with Kansas?”, Thomas Farnk, Metropolitan Books。進度によっては両方使います。

【外国語演習】

外国語演習 D（ドイツ語）
ドイツ語を話し，読み，聞き，書く。
教　授　**フォーグル，ヴァルター**

授業科目の内容：
すでに２～３年ドイツ語を履修した学生を対象にした本授業は，そこで習得したドイツ語の基礎能力をさらに発展，充実することを目指しています。ドイツ語圏で出版されている目下最も新しい教科書のひとつを用いて，学生は毎回システィマチックにドイツ語を「話し，読み，聞き，書く」能力を鍛えられるしくみです。
テキスト：
Schritte International 3　著者：Silke Hilpert, Daniela Niebisch, Sylvette Penning-Hiemstra, Franz Specht, Monika Reimann, Andreas Tomaszewski, Marion Kerner, Dr. Dörte Weers
ISBN 3-19-001853-7 出版社：Max Hueber Verlag
参考書：
なし

外国語演習D（フランス語）
フランス語会話の実践
訪問講師（招聘）　**アブリアル，ジャンーピエール**

授業科目の内容：
会話を通して，1・2年生で学んだフランス語の知識をコミュニケーション・ツールとして活用するトレーニングをします。
テキスト：
プリントを配布します。

外国語演習D（フランス語）
現代フランスと現代の世界をフランス語で読む
教　授　**橋　本　順　一**

授業科目の内容：
フランス語を浴びるように読むことを目的とします。現代フランスそして現代の世界をよりよく知るために近代（19 世紀）までさかのぼってフランスおよびヨーロッパのひいてはアジアの歴史・社会・政治を復習することもあります。
テキスト：
基本的には Web 上のフランス語圏サイトで入手できるもの。
参考書：
よい辞書は最良の参考書です。また１年生の時に使用した教科書はそれに次ぐ参考書です。いつもこの二つを傍らに置くように。

外国語演習D（中国語）（火曜1限クラス）
中国語読解　　教　授　**許　　曼　麗**

授業科目の内容：
この授業は，中国語の文章を正確に翻訳する練習が中心となる演習授業である。文学，政治，経済，文化習慣等様々な分野の文章を精読する。言葉の表面的な意味を理解するのみならず，時代背景を理解し，書き手のメッセージも読みとれる読解力を養うことがこの授業の目標である。文章を訳すプロセスを通して，文法事項を再確

認し，定着を図りたい。テキストの他に，時の話題に関する記事なども随時取り上げる予定である。

テキスト：

テキスト：未定

テキストのほかプリントを配布

外国語演習D（中国語）（火曜２限クラス）

中国語ヒアリング　　教　授　**許　　曼　麗**

授業科目の内容：

この授業は生活にまつわる会話文を中心に，ヒアリング練習を行なう演習授業である。

生活一般の様々な場面において，必要な言い回しや，人々のやり取りを繰り返して聞くことを通して，内容を把握し，同じ場面に出会う時に使えるように学習する。

各場面について，先ず新出単語を学習してから，会話文を数回聞く。次に，聞いた会話の内容について，問答や穴埋め練習などの練習をした上，発展練習を行なう。

最後に，学習した会話文を暗記して，発表する。

テキスト：

プリントを使用

参考書：

必要に応じて紹介する

外国語演習D（中国語）（月曜４限クラス）

ビジネス中国語会話　　講　師　**張　　明　傑**

授業科目の内容：

ビジネスの場におけるスムーズなコミュニケーションに役立つことを目的とする。実際のビジネス場面会話を学習し，中国語の基礎表現力と応用力を向上させることに重点をおいて練習を行う。

テキスト：

『実用ビジネス中国語会話』（大内田三郎著，駿河台出版社）

参考書：

副教材として，『実用中国語会話』（張明傑著，金星堂）を使う。（必要に応じてコピーして配布する）

外国語演習D（中国語）（月曜５限クラス）

作文　　講　師　**張　　明　傑**

授業科目の内容：

就職後仕事に役立つビジネス中国語を勉強し，特にビジネス関係の文書の作成をめざす。内容はFAX・メール通信，電話連絡，スピーチの三部から成る。

テキスト：

プリントを配布する。

参考書：

中国語関連の辞書を持参すること。

外国語演習D（スペイン語）　　准教授　**瀧　本　佳容子**

授業科目の内容：

時事的で幅広いテーマに関する，新聞・雑誌・小説などさまざまなジャンルの文章を講読する授業です。ある程度のボリュームのある文章を読んで大意をつかむことに慣れてもらうのが目的です。比較的平易なものから始めて，新聞の社説を読めるぐらいのレベル到達を目指します。

テキスト：

プリントを配布します。

外国語演習D（スペイン語）　　講　師　**ヨルディ，マリア　C.**

授業科目の内容：

TEMA: PERFECCIONAR EL ESPAÑOL Y ESTUDIAR PARA EL EXAMEN DE “DELE”

En esta clase al tratarse de estudiantes que tienen un nivel superior del espaól, a la vez que es un repaso de lo estudiado hasta ahora, se desea que sea a su vez una mayor profundización y que también se pueda conseguir pasar el examen de “DELE”.

En esta metodología de la clase se consigue COMPRENSIÓN DE TEXTOS

Hay una serie de condiciones para poder tomar esta clase:

1) No se pueden matricular los alumnos que hayan sacado uno o más “C” en los años anteriores.

Pero, sin embargo, aquellos alumnos que hayan sacado uno o más “C” en el Español I y II, pero que hayan sacado “A” y “B” en el Español III y IV PUEDEN MATRICURLARSE.

2) Sólo se admiten a los alumnos que hayan aprobado en el 5 o algún grado superior en el “Kentei” de español.

3) La asistencia a la presentación (gaidansu) es obligatoria. Aquellos que no se presenten ese día no se aceptan.

También se necesita que los alumnos estén dispuestos a realizar las tareas que cada semana se les dará, así como a preparar y repasar para la clase.

テキスト：

LIBRO DE TEXTO:

PREPARACIÓN CERTIFICADO INICIAL, Español lengua extranjera.

Edt：出版社：EDELSA

著者：Marta Baralo, Berta Gibert,...

外国語演習S（英語）（春学期）

効果的英語読解　　教　授　**浅　川　順　子**

授業科目の内容：

効果的に英文を読むためのスキルを身につけることがこの授業のねらいです。授業計画で述べるような演習を通して，速やか且つ正確に情報・要旨を把握し，それについて自らの意見を持つことのできる能動的読解を目指します。演習には自らの知識や意見を発表することも含まれます。

題材として扱う英文は現代社会の諸問題を論じたものが中心となりますが，履修者が強く関心を持つトピックも随時取り入れて行く予定です。

テキスト：

授業時に配布または入手方法を指示します。

外国語演習S（英語）（秋学期）

効果的英語読解　　教　授　**浅　川　順　子**

授業科目の内容：

効果的に英文を読むためのスキルを身につけることがこの授業のねらいです。授業計画で述べるような演習を通して，速やか且つ正確に情報・要旨を把握し，それについて自らの意見を持つことのできる能動的読解を目指します。演習には自らの知識や意見を発表することも含まれます。

題材として扱う英文は現代社会の諸問題を論じたものが中心となりますが，履修者が強く関心を持つトピックも随時取り入れて行く予定です。

テキスト：

授業時に配布または入手方法を指示します。

外国語演習 S（英語）（春学期）

英語で学ぶ環境問題　　准教授　**大　矢　玲　子**

授業科目の内容：

急速なグローバル化が進む社会のなかで，英語で情報を収集，理解し，自分の意見を発表する能力はますます重要になっています。この授業では環境問題を題材とし，英語で書かれたさまざまな論説文の読解とディスカッション，また学生自身の関心にもとづくプレゼンテーションなどを通して，総合的な英語力を養うことを目標とします。また新聞記事に基づいたエクササイズも随時取り入れます。

テキスト：
講師が編纂したテキストを毎回の授業中に配布します。

外国語演習S（英語）（秋学期）
英語で学ぶアジア　　准教授　**大　矢　玲　子**

授業科目の内容：
急速なグローバル化が進む社会のなかで，英語で情報を収集，理解し，自分の意見を発表する能力はますます重要になっています。この授業では，アジアの国々の政治，経済，文化に関わる最新の話題を題材とし，英語で書かれたさまざまな論説文の読解とディスカッション，また学生自身の関心にもとづくプレゼンテーションなどを通し，総合的な英語力を養うことを目標とします。また新聞記事に基づいたエクササイズも随時取り入れます。
テキスト：
講師が編纂したテキストを毎回の授業中に配布します。

外国語演習S（英語）（春学期）
Effective Presentation and Introduction to Cognitive Science
准教授　**深　澤　はるか**

授業科目の内容：
This course gives students the opportunities to investigate how to make an impressive and effective presentation by introducing the basic contents of cognitive science. Cognitive science is “the study of human intelligence in all of its forms, from perception and action to language and reasoning”. The articles used in this course are written by linguists, psychologists, philosophers, computer scientists, biologists, and engineers. We will study “human intelligence” from various angles.
テキスト：
The course packet, which includes all the reading materials, will be purchased at Coop.
参考書：
An Invitation To Cognitive Science: LANGUAGE vol. 1
edited by Daniel N. Osherson and Howard Lasnik
A Bradford Book The MIT Press (1990).

外国語演習S（英語）（秋学期）
Cognitive Scientific Approach to Gender and Effective Presentation
准教授　**深　澤　はるか**

授業科目の内容：
The purpose of this course is two-fold. First, it will investigate gender differences from the viewpoint of cognitive science: (1) how men and women’s brain structures are different, (2) whether the differences actually affect on human’s behavior such as thinking, memory, language, decision making, etc. Second, it will study how to make an impressive and effective presentation from the psychological viewpoint.
テキスト：
Pease, Allan & Barbara Peace (2001) “Why men don’t listen and women can’t read maps” Orion Books Ltd.
参考書：
To be announced.

【外国語特殊】

【99】外国語特殊（中国語中・上級）　准教授　**段　　瑞　聡**

授業科目の内容：
本講義は中国語の基礎をすでに学んだ学生のための中・上級クラスである。1・2 年次で学習した発音・文法など基礎的な知識を復習しながら，さらに中国語の聴力・表現力・読解力の向上を図る。それと同時に，中国の歴史・文化・政治・社会などに関する知識を紹介し，現代中国に対する関心と理解がいっそう深められることを目的とする。
テキスト：
張継濱・小川文昭著『中国って　どんな国？』，白水社，2007 年。

【専門外国書研究／○○語専門書研究】

【05】専門外国書研究（独書）
【99】ドイツ語専門書研究
准教授　**前　田　　淳**

授業科目の内容：
基本的なドイツ語学習能力を前提に，ドイツにおける企業，経済，政治，社会問題を扱う文献，雑誌記事，新聞記事を読みながら，ドイツが直面する課題について理解を深めていきたい。
テキスト：
特に指定しない。コピーを配布する。

【05】専門外国書研究（仏書）
【99】フランス語専門書研究　　講　師　**大　井　正　博**

授業科目の内容：
フランス語の基礎を学んだ人に対して，経済記事や専門書を読むために必要な手引きをするのがこの講座の目的である。テキストとしては下記のものを使用し，日本人にはあまりなじみのないフランス経済の諸問題に対する知識を学ぶとともに，慣用的なフランス語の経済用語のマスターに努める。
テキスト：
J. et G. Grémond, “L’économie française face aux défis mondiaux”, Hatier

【関連課題研究】

関連課題研究 D（英語）
SEMINAR IN GLOBAL BUSINESS STRATEGY
教　授　**トビン，ロバート I.**

授業科目の内容：
This course examines issues related to global business strategy including innovation, strengths of Japanese and foreign capital companies, technological innovation, entrepreneurship, marketing, joint ventures, and global leadership styles.
The course will be conducted as a seminar with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, research assignments, and a market simulation.
This course is conducted entirely in English and enrollment is limited to 20 students. See the website, www.tobinkeio.com for additional information.
テキスト：
・World View: Global Strategies for the New Economy, edited by Jeffrey Garten, Harvard Business School Press, 2000.
・Markstrat Business Simulation

関連課題研究D（英語）
International Business Management　准教授　**吉　田　友　子**

授業科目の内容：
多くの企業が海外進出をするに伴い様々な問題に直面する。この授業では国際企業が対面する様々な問題を検討していきたい。授業ではケーススタディーを英語でディスカッションしたり，ビデオをみたり，シミュレーションをしたり，と学生主体型の授業です。授業はすべて英語で行われ，学生の積極的な参加を求めています。
テキスト：
プリントを授業で配ります。

参考書：
適宜指摘します。

関連課題研究D（ドイツ語）
ドイツの文化の遺産から現代の社会像まで
教　授　**フォーグル，ヴァルター**

授業科目の内容：
「ドイツの文化の遺産から，現代の社会像まで」というテーマで編まれた講読テキスト。カフカ，ニーチェ，ドイツのことわざ，トルコ人作家の小説，環境や遺伝子に関する論考，ドイツ人による日本論―バラエティに富んだ30篇を精選。文法を学び終えた段階の学習に最適。
テキスト：
Horizonte　東京大学ドイツ語教材，東京大学教養学部ドイツ語部会 編，ISBN 4-13-082150-4
参考書：
なし

関連課題研究D（中国語）
中国政治と日中関係　　准教授　**段　　瑞　聡**

授業科目の内容：
本講義は，1・2 年次で，商学部設置の「中国事情」，中国関連の「総合教育セミナー」およびそれらと関連する科目を履修した学生を対象とする。
これまで学んだ知識を基礎として，「中国政治」もしくは「日中関係」に関する特定のテーマについてさらに深く掘り下げ，1 年間で卒業論文に準ずるレポートを完成することを目標とする。
テキスト：
・家近亮子・唐亮・松田康博編著『5分野から読み解く現代中国』，晃洋書房，2005 年。
・家近亮子・松田康博・段瑞聡編著『日中関係』，晃洋書房，2007 年刊行予定。
参考書：
・国分良成編『中国の統治能力』，慶應義塾大学出版会，2006 年。
・劉傑・三谷博・楊大慶編『国境を越える歴史認識』，東京大学出版会，2006 年。
・国分良成編『中国政治と東アジア』，慶應義塾大学出版会，2004 年。
・毛里和子・張蘊嶺編『日中関係をどう構築するか』，岩波書店，2004 年。
・家近亮子著『日中関係の基本構造』，晃洋書房，2004 年。

関連課題研究D（中国語）　　准教授　**孟　　若　燕**

授業科目の内容：
この授業は皆さんの中国経済リサーチの第一歩とします。中国経済を全般的に理解するうえに，履修者各自の研究テーマを絞り，発表・討論し，最終的に論文にまとめていきます。参考文献や統計資料などは中国語のものが多いので，これまで身につけた語学知識をフルに活用し，語学運営能力をさらにアップすることも目標のひとつです。
テキスト：
・Chow, Gregory C., China’s Economic Transformation, Blackwell, 2002.（コメント：中国経済および関連分野を全面的に紹介し，経済理論と中国事情をバランスよく書かれたわかりやすい学生向けのテキストです。）
参考書：
履修者各自の興味関心に応じて随時に指示します。

関連課題研究D（スペイン語）
スペイン語圏諸国の地域研究　　教　授　**横　山　和加子**

授業科目の内容：
この関連課題研究は，スペイン，ラテンアメリカ，カリブ地域などのスペイン語圏諸国に関する理解を深め，専門性のある知識を身につけることを目的とするセミナー形式の授業である。日吉でスペイン語を履修しスペイン語圏諸国について関心を深めた学生や，日吉の総合教育セミナーでこの地域について学んだ学生の参加を歓迎する。
「地域研究」とは，学問分野の枠にとらわれず，その地域に見られる現象や特徴を理解する，あるいはその地域の問題に対処するために，必要と思われるさまざまな方法を駆使して行う「地域」密着型の研究といえる。参加者は，この地域の中で何らかのテーマを定め，それに迫るための方法を考えながら，情報を集め，関連分野の知識を広げて，最終的にそのテーマで専門性のある報告を作成するという作業を，一年を通じておこなう。報告は小論文の形で提出する。
スペイン，ラテンアメリカ，カリブ地域は，同じスペイン語圏とはいうものの，それぞれが置かれている現状は大きく異なる。また。地域研究が上記のような学際的研究であることにより，扱う内容は，経済，社会，政治，文化，歴史，民族，大衆芸能からスポーツまでと非常に多岐にわたる。参加者はその中から，一年をかけて研究するに足る大きな関心をよせるテーマを選ばなければならい。商学部の専攻と合わせて，将来の自分のキャリアにとって有意義と思われるテーマを選ぶこともできよう。総合教育セミナーで扱ったテーマをさらに掘り下げることもできよう。いずれの場合にも，要求される専門性にみあった文献を集めたり，可能であれば自ら調査を行う必要がある。地域固有のテーマでは，それに関する日本語文献が乏しいことが少なくない。その場合はスペイン語や英語などの文献を使用する。担当教員は学生の希望と能力に応じたテーマ設定が行えるよう指導する。
この科目は「強化プログラム（スペイン語）」の単位認定科目のひとつである。「強化プログラム」を通じてスキルアップを目指す学生諸君には是非履修してもらいたい。
テキスト：
オリエンテーションで指示する。
参考書：
参考文献はセミナーの中で順次指示する。

関連課題研究 S（数学）（春学期）　　教　授　**小　宮　英　敏**

授業科目の内容：
意思決定の数学的理論を輪読の形で学ぶ。意思決定の理論は古典的な最適化理論と比較的新しい研究分野であるゲーム理論を含む。これらの話題を数学的に厳密な形で議論を進める能力を養うことがこの授業の目的である。
テキスト：
C. D. Aliprantis and S. K. Chakrabarti, Games and Decision Making, Oxford Univ. Press, 2000
参考書：
授業中の適当な時期に言及する。

【研究会】

研　究　会
財政学　　教　授　**跡　田　直　澄**

授業科目の内容：
なぜ 20 歳から国民年金の保険料を払わなければならないのか。なぜアルバイトで稼いだお金に税金がかかるのか。なぜ営団だけではなく都営地下鉄が必要なのか。なぜ国立大学が必要なのだろうか。われわれの生活の身近なところで，政府部門はかなりの規模で活動している。その実態を知り，なぜそうした組織や制度が作られたのかを探り，その上で本当に必要か否かを検討する必要がある。本研究会では，こうした問題を議論しながら，政府部門のあり方を考えていきたい。

研　究　会　　専任講師　**安　藤　光　代**

授業科目の内容：

本研究会では，国際経済学のうち実物面を扱う国際貿易論（直接投資を含む）を中心に，発展途上経済を分析する開発経済学とあわせて，経済理論，実証・政策研究の両面から学んでいく。国際経済のグローバル化が急速に進展する中，現実経済の分析に役立つ理論はどれか，あるいは逆に理論に立脚した実証・政策分析はいかに行えばよいのかについて議論し，現代の国際経済が抱える諸問題について経済学的な視点から理解を深めていきたい。

テキスト：

・Markusen, J., R., Melvin, J. R., Kaempfer, W. H., & Maskus, K. E（1995）*International Trade: Theory and Evidence*, McGraw-Hill.

・World Bank（2006）An East Asian Renaissance: *Ideas for Economic Growth*.

研　究　会　　教　授　**井　手　秀　樹**

授業科目の内容：

産業組織論に関する基本的文献の輪読と最近のトピックについて，産業組織論の観点から分析する能力を養う。

研　究　会　　准教授　**伊　藤　規　子**

授業科目の内容：

本研究会は，形式上は「交通・公益事業論・規制の経済学」をタイトルに掲げています。インフラストラクチャー（社会資本）・交通・公益事業といった産業分野に対する介入や規制が社会にどんな影響を及ぼすか，また実際にどういう成果を与えてきたか，といったテーマを追求することが中心になっています。

ただ，そういった方面においてリサーチを深めれば深めるほど，日本における政府の役割・政策の方向がいかに特殊であるのかが浮かびあがってくるのも事実です。そして，公的介入の程度・方法を研究しようとする場合に，同時に日本経済・社会の特殊性も見えてきます。契約社会である西欧で元々発展してきた経済理論を，そのまま現実の日本の経済活動に適用して考えるのは少々難しいのですが，日本がどう特殊なのかという点をあえて考えることで，表面的な学習だけでなく幅広く批判的に考える力をつけていくメンバーが最近多くなっています。ですから，本研究会では交通や公益事業というような狭い分野だけではなく，日本における市場の働き方全般について考察することも一つの目的です。

研究に必要な分析方法を学ぶための導入として，まず春学期に3年生には経済学的なものの考え方，ミクロ経済学，産業組織論に取り組んでもらうことになります。そして，秋学期に三田祭で発表するプロジェクトを進めながら，プロジェクト・テーマにそくした形で，他にも何らかの応用的な分野―例えば公共経済学，財政学，公共選択論など―の考え方にもなじむことになります。

もう一つ，ゼミのメンバーに「独立心」を持ってもらうことも本研究会の目的です。自ら疑問を投げかけ，何が問題なのか，なぜ問題なのか，どのように問題なのかを徹底して考え抜き，独自のものの考え方ができることをめざしています。大上段に振りかぶって言うなら，自分で自分を教育するという意味での「独立自尊」の精神をメンバーに持ってもらうことが本研究会の理想とも言えます。

知識・考え方がネットワークとしての広がりをみせてこそ「研究会」の役割があると考えられるので，担当教員は強制的に何かを「教え込む」ことは基本的には行ないません。また，何かを誰かから与えられてくるまで待っていようというようなスタンスも期待していません。「自分のプロジェクト」，「自分の卒論」という意識で責任を持って，各メンバーにリサーチをしてもらいます。

研　究　会（3年）

金融商品会計論　　教　授　**伊　藤　　眞**

授業科目の内容：

この研究会の研究対象は，金融商品に関する会計である。金融商品とは何か。金融資産／負債に係る発生の認識，消滅の認識，評価，ヘッジ会計，そして，複合金融商品の会計処理方法の検討（日本基準を主軸として，必要に応じ，IAS，米国基準も探る）を通じて，分析と総合，論理的思考方法，発表方法，討論方法を学ぶ。

金融商品会計の原点である，金融商品に関する会計基準，金融商品会計に関する実務指針，及び金融商品会計に関するQ＆A等の輪読を行い，設例を解く。毎回担当者がレジメを作成し，解説し，質疑応答・討論する。

卒論については，各自が自由なテーマを選定し，執筆する。

テキスト：

金融商品に関する文献（金融商品に関する会計基準，金融商品会計に関する実務指針，金融商品会計に関するQ＆A等々の原典）

参考書：

・「金融商品の完全解説 - 6訂版」伊藤･荻原編著，財経詳報社，2006

・改訂増補版「金融商品会計・外貨建取引の実務」日本公認会計士協会編，税務研究会出版局，2001

研　究　会（4年）

金融商品会計論その2＋企業組織再編論

教　授　**伊　藤　　眞**

授業科目の内容：

卒論（テーマは各自が自由に選定）については，最初に研究テーマ・方針を報告し，研究途中で2～3回程度及び最終段階で，その内容を報告する。

卒論テーマの報告以外のときは，有価証券・金銭の信託・デリバティブ・債権以外の具体的な金融資産／負債に係る発生の認識，消滅の認識，評価を通じて，分析と総合，論理的思考方法，発表方法，討論方法を学ぶ。

毎回担当者がレジメを作成し，解説し，質疑応答・討論を行う。

参考書：

・「金融商品の完全解説 - 6訂版」伊藤･荻原編著，財経詳報社

・改訂増補版「金融商品会計・外貨建取引の実務」日本公認会計士協会編，税務研究会出版局

・金融商品に関する文献（金融商品に関する会計基準，金融商品会計に関する実務指針，金融商品会計に関するQ＆A等々〈監査小六法（平成19年版を入手すること）に掲載〉の原典）。

研　究　会

企業の成長・衰退と戦略的マネジメント

教　授　**今　口　忠　政**

授業科目の内容：

研究会は，経営現象に対して理論的な考察ができる能力，創造的に対処できる能力，わかりやすくプレゼンテーション（発表）する能力を育成することを目的とする。そのため，1) 戦略的マネジメントに関する文献の輪読，2) 現実の企業動向をもとに分析する学習，3) 研究課題を解決するグループ実習と発表，4) 各自の研究課題に対する研究発表などを取り入れて進める。

具体的には，文献を輪読し発表しながら，理論的な概念を学習することから始め，発表，質問，コーディネートの役割を体験できるようにする。夏休みの合宿（2泊3日を予定）では，各自の研究課題に関する発表を中心とし，普段の研究会では時間的に実施が難しい問題解決の実習やケース研究を行う。

秋学期は，研究課題に関するさらに高度な文献を輪読し，グループごとに課題の設定，資料の収集・分析，発表を中心とした研究会を行い，三田祭の発表準備も並行して実施する。最終的に，1年間の内容をレポートにまとめて提出する。

テキスト：

上記タイトルに関連する書物を輪読し，適宜，関連する論文や資料等を配布します。

参考書：

随時，研究会の場で紹介します。

研　究　会　　教　授　**牛　島　利　明**

授業科目の内容：

この研究会では，明治期から現代にいたる日本の産業・経営の「歴史」を研究分野とします。しかし，産業史・経営史研究は決して過去のみに完結するものではありません。その重要な課題のひとつは「いま現在」私達が抱える問題の歴史的な背景を読み解くことによって新たな展望を獲得する，ということにあります。ある問題がどのような社会的・経済的要因の相互作用の中で形成されたのか，さらに今なぜ変化しつつあるのか（またはなぜ変化しないのか），その理由を歴史的文脈の中で解き明かすことが研究上の重要な視角の一つなのです。

問題意識なしに歴史を見ても，それは無味乾燥な出来事の羅列にすぎません。今日的な問題を考える上で，できあいの説明，根拠のない通説を疑い，長期的な視野を持って考えることができるかどうか，ということが大切です。ゼミで扱うテーマは産業・経営の歴史にかかわるものであれば特に限定しません。共同研究や個々人の卒論作成を通じ，鋭い問題意識，的確な情報収集と分析をもとに議論を進める能力を培う。これをゼミの最終目的にしたいと考えています。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

必要に応じてその都度指示する。

研　究　会　　准教授　**梅　津　光　弘**

授業科目の内容：

本研究会は企業倫理 (Business Ethics) および企業と社会 (Business and Society)，経営社会政策 (Corporate Social Policy) などの分野を研究する集まりであり，以下にあげる諸点をその研究目的とします。

1) 企業経営を経営学のみならず哲学・倫理学的な視点からもとらえ，それらを理論，実践，制度の側面から分析，調査して課題事項の理解を深めるとともに，提言や政策立案などを考察すること。
2) 企業経営を事業体をとりまく様々なステイクホルダーとの関係からとらえ，そこにあらわれる経済的，法的，倫理的，社会貢献的などの企業社会責任の理解を深めるとともに，提言や政策立案などを考察すること。
3) 今後発展の予想される NGO，NPO などの非営利組織の在り方を考察し，そうした組織と企業との連携の可能性，企業の先導，経営者のリーダーシップのあり方などの理解を深めるとともに，提言や政策立案などを考察すること。

3 年生は企業倫理学，企業社会責任論に関する主要文献をテキストに使い，発表とケース討論を中心に進める予定です。

4 年生は卒論中間発表を中心に進める予定です。

参加者はこうした分野に関心を持ち，2 年間真剣に研究してみようという意志のあること，専門の論文が読める程度の英文の読解能力のあること，春学期に開講している現代企業経営各論（企業倫理）を同時履修することなどです。

テキスト：

4 月の最初の授業の時に説明します。

研　究　会
国際経済学　　教　授　**遠　藤　正　寛**

授業科目の内容：

この研究会では，様々な国際経済問題について，主に経済学の視点から分析することを目的とします。対象とする国際経済問題は問いません。卒業論文として，各自が習得した経済学の分析道具を用いて，課題に対して理論的にアプローチし，独自の結論を導き出すことを目指します。

テキスト：

Paul. R. Krugman and Maurice Obstfeld, “International Economics: Theory and Policy, Seventh Edition.” Addison Wesley, 2005

研　究　会　　教　授　**岡　本　大　輔**

授業科目の内容：

本研究会は日本企業の経営方法，行動，成果の評価分析を目的としている。これは通常言われる経営学研究に他ならない。ただしその方法として実証研究に重点を置き，各要因と成果との関係を計量的に評価する，という特色を持っている。

従来日本の経営学はアメリカの経営管理論，ドイツの経営経済学などを中心に発展してきた。しかし絶えざる日本経済の成長，発展の結果，いまや日本の経営は，良い意味でも悪い意味でも，世界の注目を浴びるようになった。そこで，日本の経営を対象とした日本独自の経営学を研究する必要が生じてきた。そのためには従来の文献研究に加えて，実際の日本の経営，企業行動を把握するための実証研究が不可欠なのである。

そこで本研究会では各種経営学の文献に触れ，経営学の基礎を学び，また実証研究の武器となる統計的手法を修得する，といった目的を持って活動を行なう。さらにこれらをもとに 4 年生修了時には全員が卒業論文を書けるよう，指導する。

研　究　会　　准教授　**小　野　晃　典**

授業科目の内容：

当ゼミで学ぶことは，以下に列挙されるとおりである。

〈マーケティング論〉

マーケティング論は，売手の対市場活動であるマーケティング活動，買手の消費者行動，および，両者の相互作用によって生ずる社会現象を研究対象とする学科領域と見なすことができる。具体的には例えば「なぜ消費者はこのブランドを選択したのか」，「なぜこの広告は効果的に売上に貢献しているのか」といった種々の課題に解答を与えるような理論の構築を目指す研究分野である。

〈広告論＋消費者行動論〉

マーケティング論は広範な研究対象を持っているが，当ゼミ担当教員は広告論と消費者行動論を中心に研究している。製品情報に関わるコミュニケーション（売手の広告・プロモーション，買手の情報検索や口コミ活動）が関心対象である，ただし，多種の戦略を総合的に立案することを尊重するマーケティングにあって，この主題のみがゼミ生に強調されることはない。

〈理論研究＋実証研究〉

研究対象と並んで重要なのが，研究方法である。論理的な筋道を立てて思考するために，当ゼミでは「論証」が重視される。他方，現状を把握したり理論と現実の対応をチェックしたりするために，「実証」も重視される。

当ゼミでは，既存の理論や実例を知識として蓄積することを最終目標とはしない。古い理論の難点を指摘して新しい理論を創造すること，あるいは，実例のなかの諸要素を解析して次に起こる現象を説明・予測することが重視される。

〈自主性＋社会性〉

当ゼミでは，ゼミ生の自主性が尊重される。高度な研究意欲と研究成果が維持されるかぎり，ゼミ生は教員から研究のテーマや内容を強制されることはない。普段のゼミ活動はゼミ生によって主導され，教員はそのコーディネータないしコメンテータの役割を演じることになる。

他方，当ゼミでの共同生活は，ゼミ生の社会性を養う。自分のアイディアを皆の前でプレゼンすることや，個性を発揮しつつも仲間と強調しあうことを学ぶ。その他，ゼミの組織運営や活動企画も社会性の向上に貢献すると見込まれる。

研　究　会　　教　授　**樫　原　正　勝**

授業科目の内容：

マーケティング現象を経済学的接近をもって認識，分析する「マーケティング経済学」および「経済学方法論」を研究する。授業では「マーケティング論」「経済学」「方法論」の基本文献を併行的に輪読し，それぞれを関連付けながら総合的理解をめざす。

テキスト：
・マーケティング関係：オルダーソン「動態的マーケティング行動」，丸山雅祥「流通の経済分析」，その他
・経済学関係：メンガー「一般理論経済学1，2」，オドリスコル／リッツォ「時間と無知の経済学」，ハイエク「個人主義と経済秩序」その他オーストリア派経済学の著作
・方法論関係：K. ポパー「フレームワークの神話」「客観的知識」その他

参考書：
その都度指示する

研　究　会
金融論・ファイナンス　　教　授　**金　子　　隆**

授業科目の内容：
金融に関する様々な事象を，経済学的な視点から理論的かつ実証的に分析する。新聞などで目にする金融的なトピックスについて，ただ表面的な知識を得るだけでなく，問題を発見し，背後にある本質を理解し，通説や政策の妥当性を検討する。そうした作業を通して，物事の是非を先入観抜きで客観的に判断し，自分の考えを論理的に述べる力を養ってもらう。これがゼミで私がもっとも心掛けている点である。

テキスト：
今年度は3年生向けに企業金融論に関する以下の2冊をこの順番で輪読する予定。
・砂川伸幸『コーポレート・ファイナンス入門』日経文庫　日本経済新聞社　2004年
・S. Ross, R. Westerfield, and B. Jordan, *Essentials of Corporate Finance* (5th ed.) McGraw-hill/Irwin, 2007

研　究　会　　准教授　**神　戸　和　雄**

授業科目の内容：
当研究会は経営学の領域一般を研究対象としているが，特に企業における情報の取り扱いに注目して研究を行う方向を企図している。
近年，インターネットの急速な普及に伴い，情報ネットワークに関する関心が高まりつつあるが，現実の企業においての情報システムの導入は必ずしも円滑に行われているとは言い難い側面がある。情報システムの大規模投資に見合うだけの効果が得られるかどうかは個別企業の特性にどれだけ合致した情報システムを構築，運用できるかにかかっている。情報技術の進歩は目覚ましいものがあり，的確な方向性を見出すためにはある程度，技術的な側面を理解することも必要になってくるものと考えている。
着実な分析を行うために，まず経営学の基礎的な知識の確認を行うことが必要となる。3年生の前半は経営学の基礎的な知識を確認するための基本文献を輪読する。それと併せて，企業経営の評価を行うために財務データによる分析を3名程度の小人数グループにより行う。基本文献の輪読は主として授業時間中に，財務データに基づく企業分析は各グループが個々に進めてゆくこととなる。

研　究　会　　教　授　**菊　澤　研　宗**

授業科目の内容：
「組織の経済学」あるいは「新制度派経済学」と呼ばれている取引コスト理論，エージェンシー理論，所有権理論や「行動経済学」あるいは「経済心理学」と呼ばれている限定合理性アプローチを徹底的に理解し，それを経営組織，経営戦略，コーポレート・ガバナンス問題に応用し，最終的に卒業論文を書き上げることを目的とする。

テキスト：
・菊澤研宗著『組織の経済学入門』有斐閣2006年
・菊澤研宗編著『業界分析　組織の経済学』中央経済社2006年
・菊澤研宗著『比較コーポレート・ガバナンス論』有斐閣2004年

研　究　会　　准教授　**吉　川　肇　子**

授業科目の内容：
この研究会では，人間の社会的な行動を，実証的な手法を用いて分析することを目的としています。
3年生では，(1) 調査や実験をもとにした論文を批判的に読む訓練をします。(2) 調査や実験の手法を身につけます。(3) 英語の論文をもとに，卒業論文の計画を立てます。
4年生では，データをもとにした卒業論文の作成を行います。

テキスト：
・浜田　麻里（著）大学生と留学生のための論文ワークブック　くろしお出版
・吉田寿夫（著）本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本　北大路書房
・他3冊（開講時に指示します。）

研　究　会　　准教授　**木　戸　一　夫**

授業科目の内容：
この研究会では，システム・組織・制度に共通する相互作用，特に補完性，を数理的に研究します。
Machiavelli や孫子などの古典の教え，システムの法則から，企業組織における仕組み，世の中の仕組みまで，広く研究対象とします。頻繁に観察される法則や仕組みには，必ず，理論的妥当性があるはずです。
ゲーム理論と，スーパーモジュールの理論（補完性を定式化するための新しい理論）を武器に，モデル化という形で，理論的根拠を追求していきます。これに行動経済学の知見をスパイスとして加味すると，世の中が見えてきます。
「可能性の追求」をモットーとして，なぜそうなっているのか？どうしたら現状を変えられるのか？あるいは逆に，どうしたら現状を維持できるのか？とことん追求します。
3年次は理論的文献の輪読が中心，4年次は個別研究が中心になります。

研　究　会　　教　授　**工　藤　教　和**

授業科目の内容：
個別産業史，比較産業史，経済史，経営史などの分野から各自卒業論文の課題を設定し，完成に向けて努力することを基本とする。その上で，研究会構成員が討論を通じてそれを援助する。分析に必要な基本的な知識・手法などについては研究会のとくに初期に集中して身に付けることになる。また，現実社会に対する問題意識（それは歴史研究の出発点でもある）を磨くために現代の社会経済についてのディベート，時事問題討論を行なう。

テキスト：
大河内暁男（著）『経営史講義　第2版』東京大学出版会　2001年

参考書：
・武田晴人（編）『日本産業発展のダイナミズム』東京大学出版会　1995年
・湯沢威（編）『イギリス経済史 —盛衰のプロセス—』有斐閣 1996年
・中川敬一郎『比較経営史序説』東京大学出版会　1981年
・ジェフリー・オーウェン（著）和田一夫（監訳）『帝国からヨーロッパへ—戦後イギリス産業の没落と再生』名古屋大学出版会 2004年

研　究　会　　教　授　**黒　川　行　治**

授業科目の内容：
私の見るところ，会計とは，企業の経済的活動及びその結末を測定・伝達する人間の行為であり，また測定・伝達された情報を解釈・利用する人間の行為である。かかる見地に立つと，人間の行為を研究対象とする他の学問の方法論が会計を研究対象とする会計学においても用いることができるのではないかと考えられる。学際的研究という言葉がいわれてから久しいが，事実，会計学は今や，行動科学，意思決定論，情報理論，財務論，社会学，政治学といった隣接

諸科学の影響を受けて，非常に多様な学説あるいはアプローチが乱立する時代を迎えている。

かかる会計学の現状の中で，私自身の目標は，学際的アプローチによって会計行為を再解釈することー時には理論モデルを使った演繹，また時には統計手法を使った実証ーであった。何故ならば，かかるアプローチにもとづく解釈結果が既存の解釈を補強し，あるいは凌駕するような新発見となるかもしれないからである。

私がこれまで行なってきた研究は，①キャッシュフロー計算書の有用性の検証と財務流動性の新指標の開発，②企業の会計代替案選択行為および会計手続変更に関する実証的研究，③意思決定論を用いたエージェンシーセオリーの探究，④会計学の分野におけるプロスペクトセオリーの適用等の心理学的研究，⑤株式評価と合併比率の決定に関する実証的研究，⑥M＆Aと連結・合併会計との関連，⑦オフバランス取引と会計認識・測定，⑧会計・監査の変容と市場の論理に関する研究等である。

もちろん，これらは私の個人的研究テーマであって，ゼミ生諸君の卒論のテーマとして固執するものではない。

テキスト：

3年生，4年生：

パレプ・バーナード・ヒーリー著　斉藤静樹監訳

『企業分析入門』（第2版）東京大学出版会，2001年。

研　究　会　　教　授　**権　丈　善　一**

授業科目の内容：

http://fbc.keio.ac.jp/~kenjoh/seminar/ を参照してもらいたい。

研　究　会　　准教授　**斉　藤　通　貴**

授業科目の内容：

私の研究領域は，マーケティング戦略と消費者行動論である。P.ドラッカーは，マーケティングの目的は「セリング（販売・売込み）を不必要にすること」と述べている。これは，消費者(市場)のニーズをよく理解し，そのニーズに対して適切な製品をデザインし，広告や他のコミュニケーション手段によって，買手に製品のコンセプトやアイディアが良く理解され，適切な価格，場所で売られれば，売込みをしなくても消費者の満足をもたらして売れる，ということを表している。この売れの仕組み作りこそがマーケティング戦略だと言ってもいいだろう。このドラッカーの考え方の焦点となっているのは消費者であり，消費者の理解なくしては効果的なマーケティングの展開は不可能である。

では，消費者行動研究の対象とはどのようなものなのだろう。第一に，標的市場の選定に必要な研究が挙げられる。経済的な豊かさと物質的な充足は，モノの所有ではなく，製品やサービスの生活における意味やコンセプトを消費する成熟した市場を産んだ。つまり，モノを持つことによる満足から，生活を豊かにし，自己実現を達成する小道具，大道具として製品やサービスが買われるようになったのである。その結果，企業は特定のニーズやライフスタイルを共有する部分市場に狙いを定め，製品開発を行い，その他のマーケティング手段を用いて消費者の満足を得ようと努力する。こうした目標となる市場（標的市場）を決定するためには，経済的要因，人口統計学要因，生活研究やライフスタイルからの分析を組み合わせて行うことが必要となる。

第二に，どのように消費者は購入ブランドを決めるか，といった選択行動の研究が挙げられる。消費者は，自らの経験や知識，知人や友人の話，広告や雑誌などの情報をもとに購入ブランドを決めていく。こうした情報の処理プロセスの理解は，有効なマーケティング戦略意思決定において非常に重要なテーマである。

この他にも，どんなタイプの人がオピニオンリーダーとなるか，文化や人種の違いが購買行動にどんな影響を与えるか，近未来の消費トレンドはどうなるか，などなど多様な研究がある。

いずれも，マーケティング戦略を考えていくうえで不可欠であり，消費者行動を理解との有効な戦略を策定するには，心理学，社会心理学，社会学，文化人類学をはじめ多くの学問分野の成果を援用したインターディシプリナリー（学際的）な視点が必要である。

以上，簡単に消費者行動研究について触れてきたが，こうした研究を中心に据え，ゼミ員の関心に基づいてマーケティング，流通についても広く考えていきたい。

研　究　会　　教　授　**榊　原　研　互**

授業科目の内容：

当研究会は，経営学の学説史的分析を主たる目的とする。

経営学説史というと，過去の経営学説や理論を年代順に整理して紹介するだけの学問と思われがちだが，むしろ歴史を学ぶ本当の意味は，過去を通して現在を知ることにある。つまり経営学説史の意義とは，経営学の発展のために先人達が払ってきた多くの努力の成果を理解し，それらを正確に位置づけることでこの学問の現状を知り，またそれによって将来の発展のための手掛りを得ることにある。

経営学は学問としてすでに1世紀の歴史をもち，今日では社会科学の1学科として確固たる市民権を獲得している。しかし近年における対象領域の拡大や研究分野の細分化は，隣接諸科学との境界をますます不明確にし，今や経営学は「セオリー・ジャングル」と形容されるほど錯綜した様相を呈している。それだけに，目下の経営学にさらに実り豊かな発展を望もうとすれば，既存の諸理論，諸学説の体系的な整序が何よりも急務な課題となる。とりわけ新しい理論が次々と唱えられる今日，学説史の理解なしにそれらの真価を見極めることは不可能であろう。

もっともその場合，観点の選択次第で多様な学説史が描けることを知ることは重要である。したがって学説史の研究にあっては，「科学の進歩とは何か」「理論の真の理解とは何か」といった根本的な問題を避けて通ることはできない。それには単に経営学の知識のみならず，方法論や哲学などの幅広い知識が必要とされるのである。

本研究会ではこのような問題意識に基づき，まず学説分析に必要な基礎知識の習得を目指す。とくに方法論の習得は決して容易なものではなく，多くの努力と忍耐を要するが，研究会ではこうした思考のトレーニングを通して，幅広いものの見方，考え方を養成してゆくつもりである。

研　究　会

連結財務諸表会計の比較研究

Comparative analysis of accounting for consolidated financial statements

商学研究科教授（大正製薬チェアシップ基金）　**坂　本　道　美**

授業科目の内容：

最近の連結範囲をめぐる会計不信を踏まえ，当研究会は連結財務諸表に係る幅広い会計処理を日米及び国際会計基準を参考に比較研究することを目指す。連結会計は，連結財務諸表の目的，連結範囲，企業結合，のれんの処理とその後の測定，未実現利益の消去等の諸問題をかかえている。日本の会計基準と国際会計基準のコンバージェンス，米国FASBと国際会計基準審議会（IASB）との連結に係るフェイズⅡプロジェクトの動向を調査研究することによって，日本の会計基準における課題の分析とその解決方法を討論する。

具体的な研究テーマの主要内容は以下の通り。

・連結の範囲，SPC，投資事業組合の連結範囲
・資本連結手続，少数株主持分
・外国子会社財務諸表の換算
・親子会社間の会計処理統一
・企業結合
・のれんの会計処理
・減損会計，廃止事業
・税効果会計
・関連会社に対する投資

連結財務諸表原則，企業結合等に係る基準の原典（日本語又は英文）の輪読を行い，設例を解く。毎回担当者がレジュメを作り，解読し，質疑応答・討論する。

テキスト：

日本の連結会計原則及びその実務指針，企業結合に係る会計基準及びそれに係る適用指針等の原典を含む監査小六法（平成19年度版）を入手のこと

・IFRS 3 “Business Combinations”, IAS 27 “Consolidated and

Separate Financial Statements”
・FAS 141 “Business Combinations” FAS 142 “Goodwill and Other Intangible Assets” ARB 51 “Consolidated Financial Statements”
・“International Financial Reporting Standards 2006（2007版は2007年3月又は4月発行予定）— incorporating International Accounting Standards and Interpretations” IASB（英語に強い人はこれを TEXT とすることを推奨する。しかし，強制ではない。）

『国際財務報告基準書2004』 IASB，企業会計基準委員会訳，発行元：雄松堂出版，2005年9月は品切れである。2007年版の翻訳の発行が2007年に予定されている。

上記事情のため，必要な資料は配布する。

参考書：

・『連結会計ハンドブック第３版』, 監査法人トーマツ編, 中央経済社
・『国際財務報告基準ハンドブック第２版』みすず監査法人，中央経済社，2006

研　究　会
計量経済学・国際産業連関分析　　教　授　**桜　本　　光**

授業科目の内容：

当研究会の研究領域は，計量経済学であるが特に，国際産業連関表を用いた世界経済と日本との相互依存関係を分析する産業連関分析を専攻する。本ゼミでは，専攻分野の研究は勿論，より広く現代の経済現象を実証科学の立場で正確に理解し，自ら判断し行動できるような一般的知性をも養成する。サブゼミでは，計量分析の基礎知識を確保するのに必要な書物，論文等を適時輪読する。過去の卒業論文は，原則として統計資料を使った計量分析を伴う研究が多いが，テーマ及び分析手法は各自自由である。

テキスト：

必要に応じて，授業中に指示する。

研　究　会　　准教授　**佐　藤　　和**

授業科目の内容：

本研究会は，現代企業経営についての実証研究の方法を学び，卒業時までに全員が各自の研究を卒業論文としてまとめることを目標としている。

実証研究とは，理論だけを単独で研究したり，逆にただ単に事例（ケース）を集めたりするだけではなく，両者を組み合わせることによって，企業経営を理論から導かれた仮説を通して考え，データや事例によって検証してゆく方法論である。

そして計量経営学 (Manage-metrics) の研究会として，少なくとも「数字」には強くなってもらいたい。まず企業に関するデータの収集・分析の方法を体系的に学び，さらにその実習を通じて統計的な分析の「結果」を吟味できる能力を身につけてもらいたい。そこでは必ずしも数学的な「知識」は要求されないが，統計的な「センス」を磨いてほしいのである。

そして各人の問題意識に合わせて，３年でのグループ研究及び４年での卒論の研究テーマは，広く経営学全般から自由に選んで取り組んでほしい。

研究会は一般の授業とは異なり，各メンバーのより能動的な参画が要求される。研究会の活動内容や雰囲気を，自分たちで積極的に創り出していこうと考えている学生を希望したい。

研　究　会
マーケティングと消費者行動　　准教授　**里　村　卓　也**

授業科目の内容：

本ゼミでは，マーケティング現象をモデルにもとづいて理解できるようになることを目的とする。マーケティングおよび消費者行動のモデル化が本ゼミの主なテーマとなる。複雑なマーケティング現象を理解し，マネジリアルに活用していくためには，抽象化・単純化された「モデル」を用いて分析していくことが有用である。本ゼミでいう「モデル」とは数理的なモデルだけでなく，概念的なもの，グラフィカルなもの等，現象を抽象化する手段全般を指す。現象を抽象化することは理論的考察へとつながり，またデータを利用した計量的な分析も可能となる。

研究会の参加者は，「モデル」と「データ」を利用しながら各自興味のあるマーケティング上のテーマについて探求を行っていくことになる。

研　究　会　　専任講師　**鄭　　潤　澈**

授業科目の内容：

本研究会は，近年の日本そして全世界の企業経営，産業，経済の様々なホット・トピックスの中から興味を引く課題を選んで実態調査と分析を行い，その結果を発表するグループ課題の形式で行われます。「企業，産業の変化・変革」を基本テーマとして，様々な企業，産業の①歴史　②現状　②今後の調査と分析を行い，実際に役に立つインプリケーションを構築することを目標とします。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に必要に応じて紹介します。

研　究　会　　教　授　**新　保　一　成**

授業科目の内容：

研究会では，持続的可能な社会をテーマに数量分析をおこないます。産業連関分析をおもな分析道具とします。わたしたちが生活する社会は，気候変動問題（地球温暖化や異常気象による災害など），環境問題，食，住居，健康などにかんして，生活の安全性や人類社会の持続性を脅かす問題に直面しています。研究会では，ゼミ員が協働して，関連するさまざまな領域の情報を収集し，持続可能な社会の将来シナリオを描きます。その将来シナリオを実現するためのコストと社会経済構造はいったいどのようなものであるかを，産業連関分析の手法を用いて包括的，数量的，そして詳細に分析します。持続可能社会のシナリオは，ゼミ員が組織するプロジェクトで１年に少なくともひとつ，３年生と４年生協働で作成します。分析の成果を報告書としてまとめ，三田祭において３年生と４年生協働で発表します。プロジェクトを進めていく過程で，資料の収集の仕方，文献の読み方，パソコンをもちいたデータ分析の方法，論文の書き方，プレゼンテーションの仕方など，分析に必要で，かつ将来役に立つスキルを身につけていくことになります。また，視野を狭めないため，多元的に考える習慣をつけるために，一月にいちどの割合でゼミの時間を読書会にします。読書会では，指定された本について自由闊達に議論したいと思います。

テキスト：

1. Wassily W. Leontief (1985) “Input-Output Analysis”, in W. W. Leontief, *Input-Output Economics*, Second Edition, pp. 19-40, New York: Oxford University Press.
2. Wassily W. Leontief (1970), “Environmental Repercussions and the Economic Structure”, *Review of Economics and Statistics*, 52, 262-72.
3. Wassily W. Leontief (1974), “Structure of the World Economy: Outline of a Simple Input-Output Formulation”, Nobel Memorial Lecture, reprinted in *American Economic Review*, December, 823-34.

研　究　会　　教　授　**清　家　　篤**

授業科目の内容：

この研究会では，自分の頭でものを考えられる人間を育てることを目的にしています。そのときどきの環境のもとで大切なことは何かを判断し，行動できる知性を身につけるということです。これは意識して磨かないと身につきません。

そのためには，自分の身の廻りのことや社会現象にいつもみずみずしい関心をもつことがまず必要です。そのうえで，その自分の関心のあることを，できるだけ論理的に説明するトレーニングをしなくてはなりません。

具体的には，ゼミ員に卒業論文を書いてもらうことによってこのトレーニングを行います。論文のテーマはおよそ世の中に存在する

ものであれば何を選んでもかまいません。またそれを，説明する方法も，論理的であるかぎり特に限定はしません。要は，私や他のゼミ員を納得させられるかどうかということ，そして社会に新たな叡智をもたらすものであるかどうかということです。

3年生は，まず最初に，卒業論文を書くための基礎能力，すなわち問題発見能力，分析能力，表現力を身につけるために，毎回1～2名のレポーターに課題を与えて報告してもらいます。また4年生は卒業論文の中間報告を中心に活動します。いずれも報告者以外のゼミ員は，必ずひとつは質問ないしコメントをする義務を負うということにしています。またゼミ員全員で分担を決めて参加する三田祭の共同研究や，野外の企業見学といったことも行っています。

研　究　会　　教　授　**園　田　智　昭**

授業科目の内容：

私の研究分野は管理会計論です。管理会計は，企業を経営するために必要な会計情報を，経営者・管理者・現場の作業員に提供します。管理会計を理解するためには，その前提として広く企業活動全般について理解する必要がありますので，本研究会ではそれらについての学習も補足的に行います。

テキスト：

最初の時間に指定します。

参考書：

最初の時間に指定します。

研　究　会　　准教授　**髙　久　隆　太**

授業科目の内容：

本研究会では，租税法及び税務会計を研究対象とするが，特に国際課税（国際租税法）に焦点を当てて研究することを目的としている。

近年，企業活動のより一層の国際化，企業組織形態の多様化等を背景に，クロスボーダー取引が拡大かつ複雑化してきている。この結果，各国の課税権が衝突し，国際的二重課税が生じる可能性が高くなっている。企業にとっては，どの国へどのような企業形態で進出するかは重要な経営判断項目となっており，国際税務戦略の必要性が高まっている。一方，国家にとっては，他国の課税権との競合を調整しつつ，課税の空白を防止することにより，自国の課税権を確保しなければならない。

こうした状況下，租税条約，租税法といった国際租税法及び国際課税の実務を理解することを目標とする。

授業では毎回学生によるプレゼンテーションを行い，その後全員で議論する。

テキスト：

藤本哲也「国際租税法」中央経済社

参考書：

川田剛「国際課税の基礎知識［七訂版］」税務経理協会

研　究　会
マーケティング研究　　教　授　**高　橋　郁　夫**

授業科目の内容：

当研究会は商業学・マーケティング分野に属し，様々なマーケティング現象を理論的・実証的に解明するための基礎知識とその方法を習得することを目標としている。その上で，マーケティング戦略の立案等の応用面にも目を向け，マーケティング的なものの見方を養うことも重視している。

具体的な研究方法としては，学術書および論文の講読に加え，コンピュータによるマーケティング・データの解析，ケース・メソッド，ディベート，合宿研修等を適宜取り入れる。2年間の総合的な学習を通じて，マーケティングに対する専門的知識と企画提案力が身につくように指導して行きたい。

テキスト：

高橋郁夫 (2004)『消費者購買行動 ― 小売マーケティングへの写像【増補版】』千倉書房。

研　究　会
産業組織論／競争戦略論／中小・ベンチャー企業論
教　授　**高　橋　美　樹**

授業科目の内容：

私の研究会では，市場・産業内部での企業間競争の分析を基本とします。各自の研究テーマは，なんらかの形で「市場 (Market)」，「競争」が関連する限り，自由に選択できます。研究会での活動を通じて，専門分野の基礎的知識，問題発見・分析・解決の能力，発表・討論のし方など様々なことを身につけてもらいたいと思います。

具体的な研究対象としては，① 多角化，広告，研究開発，海外進出などの企業戦略，② 製造業にとどまらず，流通分野，公的規制分野等も含む個別産業分析，③ 企業集団・系列などの日本経済・産業の制度分析 ― などが考えられ，その範囲は非常に多岐にわたります。ちなみに，ここ数年の三田祭研究のテーマは「環境問題と中小企業」「ベンチャービジネスの資金調達」「商店街の活性化戦略」「中小企業の戦略的連携」「中小企業の人材活用戦略」「地域活性化と中小企業」「中小企業再生支援と金融機関」「中小製造業の経営革変」などでした。

なお，本研究会での学問的基盤をなす産業組織論は，元来，独占禁止政策・公共政策の理論的なバックグラウンドとして展開されてきました。つまり，産業組織研究の最終的な目的は，企業だけでなく，消費者や政府の立場をも視野に入れ，具体的に公共政策を考察することにあるということです。私自身は，産業組織論の応用として，ベンチャー企業の戦略や中小企業政策の研究を進めています。

なお，研究会に関するより詳しい情報は，下記ホームページにありますので，参照下さい。

http://www.fbc.keio.ac.jp/~takamiki/

テキスト：

最初の授業までに入手方法を示します。

参考書：

必要に応じて，授業中に紹介します。

研　究　会　　専任講師　**田　邉　勝　巳**

授業科目の内容：

この研究会は公的部門による何らかの介入が必要になる市場や産業，及びその関連領域が中心的な研究テーマとなります。具体的には産業組織論や交通・公益事業分野，地域経済学，都市経済学など幅広い分野が対象になります。分析ツールは主にミクロ経済学とその応用ですが，簡単な実証分析も合わせて勉強します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

必要に応じて授業中に指示します。

研　究　会　　准教授　**谷　口　和　弘**

授業科目の内容：

現代企業は，さまざまな制度（組織構造，戦略，文化，ガバナンス・システム，ビジネス・モデルなど）によって構成されたまとまりをもつシステム（制度の複合体）としてとらえることができる。とくに近年，企業は経済のグローバル化や ICT（情報・通信技術）の発展による環境変化のなかで，ドラスティックに変化している。本研究会は，比較制度分析，企業制度論，そして戦略経営論の研究成果をふまえたうえで，現実世界で進化を遂げている企業のさまざまな制度的特徴にフォーカスをあてて研究を進めていく。

テキスト：

・谷口和弘（2006）『戦略の実学：際立つ個人・際立つ企業』NTT出版。
・J. ロバーツ（谷口和弘訳）（2005）『現代企業の組織デザイン：戦略経営の経済学』NTT出版。

参考書：

・谷口和弘（2006）『企業の境界と組織アーキテクチャ：企業制度論序説』NTT 出版，近刊。

・R. ラングロワ・P. ロバートソン（谷口和弘訳）（2004）『企業制度の理論：ケイパビリティ・取引費用・組織境界』NTT 出版。
・青木昌彦（滝澤弘和・谷口和弘訳）（2001）『比較制度分析に向けて』NTT 出版。
・P. ミルグロム・J. ロバーツ（奥野正寛・伊藤秀史・今井晴雄・西村理・八木甫訳）（1997）『組織の経済学』NTT 出版。

研　究　会
社会問題の経済学・交通経済学　　教　授　**中　条　　潮**

授業科目の内容：
自由経済体制の中にあっても，我々の日常生活は多くの規制にとりかこまれている。たとえば，麻薬の所持・使用，一方的な離婚，希少動物の捕獲，プロ野球球団の自由な選択等は禁止されている。これらの規制は一見，社会的あるいは道徳的な価値判断に基づくもののようにみえるが，人間の社会的行動はすべて費用と便益に基づいてなされるという事実に照らせば，これらの社会的規制の妥当性を経済学を用いて分析することが可能である。
この研究会では，社会的問題とされている様々な問題について，それらが生じるメカニズムを経済学を用いて分析し，それらの社会問題の解決・改善方法として現行の規制が妥当か否かを議論する。
また，上記の政府規制が特に多く関係している分野が交通と公益事業（電力，ガス，通信等）である。この分野については，上記と同様の公共経済学的なアプローチを行うとともに，交通・公益事業に固有の経済的特徴・問題についても研究する。
したがって，本研究会の論文の過去のテーマ例は，教育自由化，医療保険の民営化，地方分権，農業保護の撤廃，上下水道・電気通信・電力など公益事業の規制緩和，金融規制緩和，外国人労働者問題，政府開発援助，大型店舗規制の廃止，自然保護，ゴミ処理，レンタル CD 問題，刑罰の経済学的考察，芸術保護，性表現，プロ野球，オリンピック，航空，大都市鉄道，新幹線等多岐にわたっている。

研　究　会　　教　授　**友　岡　　賛**

授業科目の内容：
本研究会は会計学の研究会であって，その研究対象は，会計にかかわる問題でありさえすれば，とくに限定しないが，いずれの問題についても，基本的な思考に立ち返って考える研究姿勢を肝要視する。そしてまた，思索と議論とによって理論を構築することの甘苦を共にする。

研　究　会　　教　授　**中　島　隆　信**

授業科目の内容：
本ゼミの目的は，実証科学としての経済学の分析手法を身につけることである。大学卒業後，社会人となる学生諸君にとって最も必要となるのは，社会が様々な問題に直面したときに正しい判断を下せる能力を身に付けておくことである。そして，正しい判断の拠り所となるのは，事実に対する鋭い観察眼と，それを解析するための経済学の理論である。本ゼミは，学生諸君個々人の問題意識を引き出すとともに，それら問題点を実証分析の手法に則って解明し，研究成果をゼミ員との活発な議論を通じて磨き上げて 2 年後の卒業論文の形で完成させるという順序で進めていく。

研　究　会
監査論　　教　授　**永　見　　尊**

授業科目の内容：
この研究会は，「監査論」を中心とし，監査人の独立性とは何か，証拠とはどのような構造となっているのか，最新のリスクアプローチはどのような要素が取り込まれているのか，近年開始されたゴーイング・コンサーン問題（決算日後 1 年の間に企業が倒産の危機に直面している状態）はどのように実施されているのか，といったテーマが研究対象となります。しかしそれだけではなく，企業のコントロールという視点から，現実の経済社会で起きているさまざまな動き，事件あるいは問題などを検討していきたいと思っております。

テキスト：
最初の時間に指定します

研　究　会
マーケティング・サイエンス　　教　授　**濱　岡　　豊**

授業科目の内容：
このゼミでは，複雑に見える「市場」における現象の本質的な部分をみいだし「論理」「モデル」を組立てて，「データ」を用いて検証し，それを実際に「マネジリアル」に役立てようというアプローチ，つまりマーケティング・サイエンスの視点から分析できるようになることを目的とする。
テキスト：
特に指定しない。資料は濱岡のホームページよりダウンロード可能。
http://news.fbc.keio.ac.jp/~hamaoka/
参考書：
上記を参照

研　究　会　　教　授　**早　見　　均**

授業科目の内容：
卒論となる研究論文ないしはそれに類する創作物を仕上げることが研究会の到達目標である。そのためには，研究テーマの選択，構成，必要な資料の収集，適切な分析，類似研究のサーベイ，文章作成上の留意点や論文としての体裁，効果的な発表方法などを身につけていく必要がある。
各自の研究テーマはさまざまで，担当者自身，これまで労働経済や環境問題の分野で，統計的手法を応用して，労働時間・ワークシェアリング，リンクしたマイクロデータによる雇用分析，工学的データや貿易データを産業連関表とリンクさせた環境影響評価，中国と日本の多部門マクロモデルとエネルギーバランスシミュレーションなど分野横断的研究をおこなってきた。したがって，この研究会の得意とする内容は①統計的な手法を利用し，さまざまなデータを加工して，仮説を検証していく計量経済学の領域，②技術や新製品などの情報と産業連関表を利用した環境影響評価，③分析に応じて必要とされる統計学，計算手法，コンピュータ利用など方法論的な課題である。研究分野の内容にこだわらず，重要な意義のあるテーマをいくつか選んで履修者全員で検討したい。
テキスト：
特になし
参考書：
D. Williams (2001) *Weighing the Odds*, Cambridge University Press.

研　究　会　　教　授　**樋　口　美　雄**

授業科目の内容：
このゼミでは，まず経済現象の変化や政策の有効性に関する議論に着目し，つづいてそれらの背景を知る上で必要となる分析ツールを勉強する。そして最終的にはそれらを援用して，自分の興味のある現象を実証的に分析し，政策の是非を評価できるまでになれるよう目指す。研究対象となるテーマは社会現象であれば，とくに問わない。

研　究　会　　教　授　**平　野　　隆**

授業科目の内容：
この研究会は，おもにつぎの二つの分野を領域とする。①近代日本経済史・経営史：幕末・明治維新から現在に至る日本の経済・経営・社会の歴史的研究，および日本と欧米あるいはアジア諸国との比較史的研究。②消費社会論：消費文化と小売業，広告，マスメディアなどの関係についての歴史的・社会学的研究。
3 年次では，専門基本文献の輪読，あらかじめ与えられたテーマによるディベート，各自が選んだ文献・論文のレビューなどにより，経営史・消費社会論の基礎知識，分析方法やプレゼンテーションなどの基本的なアカデミック・スキルの修得を目指す。夏休み以降は，卒論作成のための個別指導（テーマの設定，研究文献・資料の探索，

論文構成，執筆の技法など）を併行して行う。4年次は，主に卒論の中間報告を中心とし，私を含めたゼミ員全員との質疑応答を通じて，より完成度の高い論文に仕上げることを目指す。

研　究　会
国際経済（国際金融論とコーポレート・ガバナンスの国際比較）
教　授　**深　尾　光　洋**

授業科目の内容：
大学での勉強は，試験対策のための短期決戦型になりがちで，陸上競技で言えば，短距離競争のようなものであることが多いように思います。しかし就職してからの社会生活での競争は，むしろ自分でペースを作って自らの市場価値を維持し高めていく，マラソン型のものになります。会社で上司からの仕事を必死にこなしているだけでは，短期的な評価は上がっても，長い目で見ると競争力をなくしてリストラ対象になりかねません。終身雇用・年功序列の日本型人事制度は崩れて行く方向にあり，そうなると自分自身に投資を続け，市場価値を維持できる人と，そうでない人の格差は，長期的には大きなものになることが予想されます。そこで私のゼミでは，就職してからも自分の市場価値を維持し高めていくサバイバルのノウハウを身に付けることを大きな目標にしたいと思います。そのために，読書の仕方，情報整理の仕方，パソコンを使った情報収集や情報交換のやり方について，実践的に学ぶことを目標にします。具体的には，国際金融とコーポレート・ガバナンスの国際比較という金融のマクロとミクロの側面を毎年交互に勉強し，二年間のゼミを通して学ぶことにより，現実の金融・経済動向を見る目を育ててゆきたいと思っています。

参考書：
授業計画を参照。

研　究　会
保険学・保険政策論　　教　授　**堀　田　一　吉**

授業科目の内容：
本研究会は，保険学および保険政策論を研究する。国民生活が豊かになるにつれて，保険制度は，我々の生活に深く浸透し，身近な存在になってきた。我々の安定した生活は，多くの人々との関わりの中で，広い意味で，さまざまな保険制度に支えられているということができる。したがって，我々の研究対象は，生命保険や損害保険に限らず，公的年金や医療保険などの社会保険の分野をも含んでいる。しかも，それぞれに他の制度とのつながりを深めていることから，一つの問題を取り上げる上で，保険制度全体の理解が必要とされる。我々の最終的な課題は，経済活動をより安定的かつ発展的に営むためには，保険制度がどの程度有効に機能するか考究すると共に，その限界を把握することにある。そうした研究過程を通じて，さまざまな社会問題に対する本質的理解と，その解決策を追究する。

テキスト：
・堀田一吉『保険理論と保険政策 ― 原理と機能』東洋経済新報社
・Harrington and Niehaus, Risk Management and Insurance, McGraw Hill.

参考書：
堀田一吉・岡村国和・石田成則編著『保険進化と保険事業』慶應義塾大学出版会

研　究　会　　教　授　**堀　越　比呂志**

授業科目の内容：
本研究会は，マーケティング論の研究会であるが，私の主たる研究領域がマーケティング方法論とマーケティング学説史であるということから，マーケティング論だけでなく，科学哲学および関連諸学科の文献も題材として取りあげられる。本研究会では，このより広い領域の基本的知識の概要を提示した上で，そこから自分のテーマを選定してもらい，論文作成を指導する。
本研究会の目的は，このプロセスからの知識修得よりも，むしろそのプロセスにおける要約力・批判力・構成力という知の技法を磨くことにある。それゆえ，自分の中に表現したい熱いものを持ち，どんなテーマでも自分とつながりがあるのだという気持で，積極的に討論に参加できる人をゼミに迎え入れたい。

参考書：
堀越比呂志著『マーケティング･メタリサーチ』千倉書房 ¥3800＋税

研　究　会　　准教授　**前　川　千　春**

授業科目の内容：
一般に企業会計は，株主や債権者など企業外部の利害関係者に損益計算書・貸借対照表・キャッシュ・フロー計算書等の財務諸表を通じて企業の経営成績および財政状態を報告することを目的とする財務会計と企業内部の管理者各層に意思決定を行いまたは業績を評価するのに有用な会計情報を提供することを目的とする管理会計の2つに大別されるが，当研究会は前者の財務会計を研究対象とする。外部利害関係者に提供される会計情報は法律等の規制を受けることが多いため，財務会計の勉強といえば専ら会計処理や表示に関する現行の諸基準・諸規則を覚え込むことであるかのように思われがちであるが，研究会では，単なる知識の習得ではなく，常に，何故そのようになっているのか，果たしてそれでよいのか，といった問い掛けをし，自分で答えを見出そうとする姿勢を身につけることを目標とする。
3年の本ゼミでは財務会計の基本書を2～3冊選んで輪読を行う。前もって割当てを決め，レジュメの作成・発表という形を採って進めていくが，ゼミそのものは担当者の発表に基づいて全員で議論することが中心となる。4年の本ゼミは主に卒業論文作成のための発表に充てられ，各自2～3回の中間報告を行って最終的な完成を目指す。その他にサブゼミ・合宿・三田祭発表なども行う予定である。

テキスト：
・平野皓正・鉄燿造訳『アメリカ会計セミナー』シュプリンガー・フェアラーク
・岸本光永監訳『ヘルファート企業分析（第2版）』中央経済社
・武田隆二『最新財務諸表論』中央経済社
・広瀬義州『財務会計』中央経済社
など。

参考書：
・田中茂次『現代会計学総論』中央経済社
・桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

研　究　会　　准教授　**前　田　　淳**

授業科目の内容：
現在，国際経営，国際経済をめぐる動向は，実に目まぐるしい。北海道拓殖銀行，山一証券，三洋証券の経営破綻，旧財閥の枠組みを越えたさくら銀行と住友銀行の合併，日産自動車に対するルノーの資本参加，国外に目を転じれば，東西ドイツ統一，欧州連合の結成，ユーロバンクの設立，アジア経済危機など枚挙にいとまがない。この企業・経済を巡る激変の本質や原理を客観的に理解し分析できる能力が益々必要とされる時代となっている。この能力を少しでもより多く身につけてもらうために3つの主たるメニューを用意している。
第1に，基本的な経営学，経済学の文献を輪読し，著者の主張する論点を正しく把握し理解できる能力をつけてもらう。レポーターと司会役を決め，レポーターの報告を基に質疑応答を通して文献の理解度を深めてもらう。
第2に経営分析である。今年は，光学・電機メーカー（キャノン・ソニー・NEC等）の経営分析を予定している。この目的は，論理的思考力と分析力の養成と発展である。
第3に，卒論作成である。上記2項目を通して身につけた論理的思考力，実証的分析力を遺憾なく発揮し，論文作成に取り組んでもらう。論文のテーマは各自が自由に設定する。

参考書：
授業の中で随時紹介する。

研　究　会　　教　授　**牧　　厚　志**

授業科目の内容：
この研究会では「経済を見る目」を養い，複雑な経済現象を自分

なりにわかりやすい言葉で説明できるような能力を開発していきたいと思います。

研　究　会　　教　授　**三　浦　雄　二**

授業科目の内容：

私の研究会は，「経済社会学」の名称のもとで現在我々が展開している経済生活における人間問題の社会構造的背景の究明が試みられる。中心に置かれるのは私自身の専門である産業社会研究（したがって，人間問題として浮かびあがってくるのは労働者の社会的存在性であり，分科社会学の名称としては「産業社会学」がより近い）であるが，研究会としてはやや枠を広げ，経済活動との係わりで生じてくる多様な人間問題の中から各員が知的関心を持つものを選べるようにしてある。しかし，これだけでは些か漠然とし過ぎるので，研究会としては，一方で「社会学的思考法を磨く」ことに努めるとともに，他方で現在の我が国に代表される「資本主義的高度産業社会における人間問題の具体的諸相の確認」が果たされていく。何はともあれ，現代の経済生活は産業社会として結実しているからである。各員はこの二つの方向性を結びつけようとする努力の中から，直接的ないし間接的に自らの研究テーマを選ぶことになっている。

テキスト：

その都度指定する。

参考書：

必要に応じて紹介している。

研　究　会　　教　授　**八　代　充　史**

授業科目の内容：

この研究会では，労務管理論，特に企業の労務管理の実態面に関心を持つ学生を対象に，専門課程の２年間で卒業論文をまとめるために必要な指導を行う。

ただし労務管理の実態については，新聞，雑誌，単行本その他で日々洪水の様に情報が供給されている。こうした「圧倒的」な事実に埋没しないためには，理論的・歴史的視座を持つことが不可欠である。こうした複眼思考で労務管理をとらえることに関心のある学生の参加を歓迎する。

ゼミの活動について触れると，本ゼミでは基本文献を何冊か定めて，その輪読を行う。年度の後半には，卒業論文の指導に入る。また，研究会の参加者には，関心のあるテーマごとにいくつかのサブゼミに分かれてもらい，そこで文献に目を通し，討論を行いながら労務管理について「頭」と「体」で勉強してもらう。

その他，工場見学などの「野外実習」なども行いたいと考えている。

テキスト：

適宜指示する。

参考書：

適宜指示する。

研　究　会　　准教授　**山　本　　勲**

授業科目の内容：

この研究会では，経済学のツールとデータを用いて，現実社会で起きている諸問題を研究する。取り上げるテーマは，金融・経済・社会問題の中から，履修者の関心に合わせて選定する。研究のゴールは，①問題の現状把握，②経済学での解釈，③データを用いたファクト・ファインディング，④問題点の指摘・政策提言とする。原則として研究は2人以上のグループで行い，研究成果の発表はプレゼンテーションと論文執筆によって行う。研究会の運営は，履修者の希望等に合わせて弾力的に行い，履修者の自主性を重視する。このため，履修者には，受身ではなく積極的に研究会へ参加することが期待される。

研　究　会　　教　授　**横　田　絵　理**

授業科目の内容：

このゼミでは経営と会計という視点で研究を進めていく予定です。私の研究の関心は管理会計のほか，組織，組織行動の分野にあります。つまり，会計情報と組織および人に関心を持っています。管理会計はマネジメントに役立つための会計ですから会計についてのみならずマネジメントについても理解を深めなくてはなりません。マネジメントの立場から管理会計を学ぶには，知識のみならず「考える」ことが重要です。そこで，理論および，事例などの検討から自分ならどのように考えるか，ゼミ生同士や他ゼミ，他大生とのディスカッションを中心に運営します。

テキスト：

授業内で提示します

参考書：

授業内で提示します

研　究　会　　産業研究所　教授　**吉　岡　完　治**

授業科目の内容：

この研究会では，「経済活動と地球環境に関する計量分析」を行う。各ゼミ員の自主性を重んじ，ゼミの計画，活動も全てゼミ員が合意のもとで決定していく方式をとります。したがって商学部の学生が卒業までに必要な経済学，商学などの幅広い教養育成は，当ゼミでは行わず授業で補っていただく。ゼミ活動を楽しんで卒業してもらうには，次のような学生が望ましい。

1. 数学，統計学が比較的苦にならない人
2. コンピューター・プログラムに関心を持って，経済分析に活用してみたいと考えている人

研　究　会　　教　授　**吉　田　正　樹**

授業科目の内容：

1. 企業経営と企業者活動について経済的・経営的考察を行いますが，中心的課題となるのは企業経営の発展・成長であり，これを文献および歴史資料等を用いて輪読をおこない，レポートを作成して理解を深めていきます。なお，理論・歴史のいずれの研究領域においても日本とアメリカを中心にとりあげます。
2. 比較検討の視点を養い，また多面的アプローチによる総合的理解力を深めていくうえで，文献精読とその成果発表は欠かせません。このため毎週数人の発表をもとに議論する形式をとっていきますが，具体的な文献リストは春学期最初に提示します。

テキスト：

各人の卒論作成に必要な文献・資料を発表の進行に応じて適宜指示する。

研　究　会　　教　授　**和　気　洋　子**

授業科目の内容：

国境をこえた経済取引にかかわる問題発見とその解明を研究領域とする。したがって，今日では，外国貿易，通商政策，直接投資（多国籍企業），国際金融，国際マクロ運営，開発途上国問題そして地球環境問題とその研究テーマは多岐にわたっている。

当研究会では，経済分析のための理論的素養と，グローバルな視点からの現実認識を２つの基本方針として，グループを中心とした作業や報告，そして討論を通じて自己を磨くことを主眼としている。また，最終的には独自の問題意識にそって各自テーマを絞り，理論と実態を体系的に整理・分析し，卒業論文の作成にあたることになる。

研　究　会　　教　授　**渡　部　直　樹**

授業科目の内容：

私達のゼミナールの研究領域は，大きく分類すれば「経営学」ないし「企業研究」といったジャンルに入る。しかし，このようなことはゼミナールのメンバーが，この領域に属する研究のみに従事することを意味している訳ではない。

つまり私のゼミの各メンバーには，各々が主体的に自分達の領域及び課程を見つけ，これらを深化させていくことが望まれている。各メンバーは自分達の関心に従って，自分自身の問題を自らの方法によって探究し，それを発展させることが常に求められている。そのため各メンバーの研究テーマが，従来の「経営学」の領域からはみ

出してしまうことは，当然のことである。

ゼミナールの各メンバーに望まれることは，より具体的には，三田の2年間という短い時間の中で，いかに自ら問題を深め，他の人とは一味も二味も違った卒業論文を書きあげるかということになる。

しかし，このことは言う程は易すいことではない。私達が皆さんにできることは，この分野の問題はこの様なものであり，これを解決するのはいくつかのやり方が考えられる，といったこと（＝いわば料理のレシピー）を提示することと考えている。どのレシピーを選ぶのか，そしてそれをどのように使うのかは，皆さんゼミの各メンバーの仕事なのである。

テキスト：

テキストは授業の進行にあわせて示すが，今年は以下のものを考えている

・青木昌彦著『比較制度分析に向けて』NTT 出版

・ゲーム理論「批判的入門」

参考書：

参考書は経営学，経済学，ゲーム理論の入門書を使用する予定である。

研　究　会　　准教授　**渡　部　和　孝**

授業科目の内容：

金融政策，金融監督政策，中小企業政策等，政策の経済効果を中心に広く金融・経済現象について，データを用いて実証的に分析，ディスカッションします。

テキスト：

実証分析には統計ソフトウェア STATA，数値解析ソフトウェア MATLAB を用いることを予定している。STATA については，A Gentle Introduction to Stata, Alan C. Acock, STATA Press を用いる。MATLAB については未定。

参考書：

3年次で使用するかは受講生との相談によるが，将来的には「現代マクロ経済学講義―動学的一般均衡モデル入門」，加藤涼，東洋経済新報社を用いる予定。MATLAB を用いて金融政策を分析することを主眼に置き政策実務家により書かれた新しいマクロ経済学のテキスト。

【05】商学関連科目
【99】専攻科目Ⅳ類〔Ｊその他〕

【05】経済数学基礎（春学期）
【99】数学各論（経済数学基礎）（春学期）
教　授　**小　宮　英　敏**

授業科目の内容：
第1学年配当の「微積分Ⅰ」,「微積分Ⅱ」と「線形代数」の履修を前提として，それを補完し経済数学の理論展開を理解するために必要な知識を与えることを目標とする。時間の関係で重要な数学的結果の細かい証明まで扱うことはできないが，その結果の意味の理解と運用ができるよう授業を進める。
テキスト：
使用しない。授業中に資料を配布する。
参考書：
・K. Binmore and J. Davis, Calculas, Cambridge Univ Press 2001.
・R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.

【05】経済数学Ⅰ（秋学期）
【99】数学各論（経済数学Ⅰ）（秋学期）
教　授　**小　宮　英　敏**

授業科目の内容：
「経済数学基礎」または第2学年配当科目の「中級微積分」と「中級線形代数」の履修を前提とし，最適化理論としてまとめられているトピックスの中で基本的なものを学ぶ。経済学における効用最大化，利潤最大化，ゲーム理論における利得最大化などの数学的構造を正確に理解することを目的とする。
テキスト：
使用しない。授業中に資料を配布する。
参考書：
・R. K. Sundaram, A First Course in Optimization Theory, Cambridge Univ. Press 1996.
・K. Binmore and J. Davis, Calculas, Cambridge Univ Press 2001.

【05】経済数学Ⅱ（秋学期）
【99】数学各論（経済数学Ⅱ）（秋学期）
確率論とその応用　　准教授　**安　田　公　実**

授業科目の内容：
社会や自然現象の中に見られる確率現象を論理的に解析するために必要な数学的概念，定式化を学びます。
テキスト：
最初の授業の時に指示。
参考書：
最初の授業の時に指示。

【05】ゲーム理論（春学期）
【99】数学各論（ゲーム理論）（春学期）
准教授　**木　戸　一　夫**

授業科目の内容：
無視し得ない力を持つ複数の主体に係る最適値問題としてゲーム理論を学ぶ。いろいろなタイプのゲームがあるが，この授業では，展開形ゲームとスーパーモジュラー・ゲームを学ぶ。ゲーム理論の前提条件・基本概念・定理および含意を，身近にあるわかりやすいゲームや仕組みと対比させながら学ぶことにより，「使えるゲーム理論」を身につけることを目指す。
テキスト：
ミラー著『仕事に使えるゲーム理論』阪急コミュニケーションズ
参考書：
中山幹夫著『はじめてのゲーム理論』有斐閣ブックス

法学各論（経済法Ⅰ）（春学期）
法学部　教授　**田　村　次　朗**

授業科目の内容：
経済法は，資本主義経済を支える経済憲法である独占禁止法を中心として構成されている。本講義では，経済法について，その理論的支柱である独占禁止法を中心に，法的論点について具体的事例を使い解説する。ただし，本講義では，経済法の理論的側面だけではなく，企業法務など実務において，実際に経済法がどのような機能を果たしているのか，実務特有の問題意識も併せて解説する。
テキスト：
金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法　第二版』（弘文堂 2006）
参考書：
金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』（弘文堂　2006）

法学各論（経済法Ⅱ）（秋学期）
法学部　教授　**田　村　次　朗**

授業科目の内容：
本講義は，経済法Ⅰにおいてとりあげた経済法に関する基本的な理解を前提として，資本主義経済体制を支える経済法に関する最新の論点を取り上げる。特に，経済法を理解する上で重要となる関連分野とのインターフェースなどを重視し，多角的視点から，経済法が経済活動に与えている影響を整理する。たとえば，企業戦略と独占禁止法の関係，経済法分野において浸透しつつある「法と経済学」的な分析手法の現状とその限界，さらに，近年話題となっている企業倫理・企業の社会的責任との関係で重要となるコンプライアンス（法令遵守）などを取り上げる。
テキスト：
金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法　第二版』（弘文堂 2006）
参考書：
金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』（弘文堂　2006）

法学各論（商法ⅠA）（春学期）
会社法講義（前半）　　法学部　准教授　**高　田　晴　仁**

授業科目の内容：
会社法の構造と解釈について講義する。会社法が商法から分離する形で，かつ有限会社法などを統合する形で制定・施行されてからまだ日も浅く，その理解も容易とはいいがたいが，伝統的な法律論の枠組みを前提として現行法を（場合によっては批判的に）分析していくこととしたい。
テキスト：
指定しない。
参考書：
講義中に必要に応じて指示する。

法学各論（商法ⅠB）（秋学期）
会社法講義（後半）　　法学部　准教授　**高　田　晴　仁**

授業科目の内容：
＊法学各論（商法ⅠA）の続きとなるので当該項目を参照のこと。
テキスト：
指定しない。
参考書：
講義中に必要に応じて指示する。

法学各論（商法ⅡA）（春学期）
法学部　教授　**島　原　宏　明**

授業科目の内容：
商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について，体系的に解釈論の解説を行う。一見，手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが，これらは使用される社会が限定されているため，法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。
具体的には，主に約束手形を対象として講義を進めていく。
テキスト：
島原宏明『手形法学への誘い』八千代出版（￥2,500）
参考書：
開講時に指示する。

法学各論（商法ⅡB）（秋学期）　法学部　教授　**島　原　宏　明**

授業科目の内容：
商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について，体系的に解釈論の解説を行う。一見，手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが，これらは使用される社会が限定されているため，法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。
具体的には，主に約束手形を対象として講義を進めていく。
テキスト：
島原宏明『手形法学への誘い』八千代出版（￥2,500）
参考書：
開講時に指示する。

法学各論（租税法Ⅰ）（春学期）
租税実体法の体系化　　法務研究科　教授　**吉　村　典　久**

授業科目の内容：
租税法学は総合科学です。したがって法学方法のみならず，経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は，所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し，歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まることがあっても，減じることはありません。21 世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。
テキスト：
岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい
又は　金子宏『租税法』弘文堂
参考書：
清水敬次『税法』ミネルバ書房，『小六法』有斐閣，『実務税法六法（法令編）』新日本法規出版

法学各論（租税法Ⅱ）（秋学期）
租税実体法の体系化　　法務研究科　教授　**吉　村　典　久**

授業科目の内容：
租税法学は総合科学です。したがって法学方法のみならず，経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は，所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し，歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まることがあっても，減じることはありません。21 世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。
テキスト：
岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』ぎょうせい
又は　金子宏『租税法』弘文堂
参考書：
清水敬次『税法』ミネルバ書房，『小六法』有斐閣，『実務税法六法（法令編）』新日本法規出版

法学各論（民法ⅠA）（春学期）
民法物権法　　講　師　**河　原　　格**

授業科目の内容：
物権・担保物権
日常生活の一部は民法の適用される領域であると思って間違いないほど，その適用範囲は広い。この講義では，金融取引の分野で重要とされる物権法を勉強する。金融分野で活躍したいと思う諸君はぜひ一度聞かねばならない分野である。
テキスト：
[春学期]
河原格『入門　物権法』八千代出版（2004年）2300円
参考書：
いずれも図書館に入っている
田井／岡本／松岡／磯野『新　物権・担保物権法［第2版］』(2005) 3990円

法学各論（民法ⅠB）（秋学期）
民法総則　　講　師　**河　原　　格**

授業科目の内容：
総則
日常生活の一部は民法の適用される領域であると思って間違いないほど，その適用範囲は広い。この講義では，民法の中で最もとっつきにくいとされる民法総則を勉強する。
テキスト：
[秋学期]
斉藤和夫編『レーアブーフ　民法Ⅰ【総則】＜第2版＞』中央経済社（2004年）2500円＋税
参考書：
いずれも図書館に入っている
佐久間毅『民法の基礎Ⅰ　総則　第2版』有斐閣（2005年）2940円

法学各論（民法ⅡA）（春学期）
民法　契約，不法行為　　講　師　**河　原　　格**

授業科目の内容：
契約，不法行為法
日常生活は契約によって規律され，契約によって日々債権・債務（内容）が発生している。このことからも債権そのものは，非常に重要な法律内容と言える。ここでは日常生活に密接な賃貸借，消費貸借，不法行為を中心に講義するので心して勉強してもらいたい。
テキスト：
[春学期]
河原格編著『契約・不法行為入門』（泉文堂）2005年2400円
参考書：
平野裕之『民法Ⅱ』新世社2002年

法学各論（民法ⅡB）（秋学期）
民法　債権総則　　講　師　**河　原　　格**

授業科目の内容：
債権総論
日常生活は契約によって規律され，契約によって日々債権・債務（内容）が発生している。このことからも債権そのものは，非常に重要な法律内容と言える。特に金融関係に進む希望のある諸君にとり，債権譲渡，弁済などの内容は，大変役に立つものである。だから心して勉強してもらいたい。
テキスト：
[秋学期]
河原格『入門　債権総論』（八千代出版）2003年
参考書：
平野裕之『民法Ⅱ』新世社2002年

法学各論（労働法Ⅰ）（春学期）

雇用される労働者（サラリーマン）をめぐる法的問題を分析する

法学部　准教授　**内　藤　　恵**

授業科目の内容：

労働法とは，賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して，労働市場法（雇用保障と求人・求職に関する領域），個別的労働関係法〔使用者と労働者（サラリーマン）の間に生ずる法的問題を議論する領域〕，そして集団的労使関係法〔憲法28条をうけて，使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし，春学期は，個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結，労働条件のあり方，労働契約内容の変更，そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては，下記授業計画をご参照下さい。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償，および集団的労使関係の領域は，Ⅱで講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら，話題となる新しいテーマや法改正についても，随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては，神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『労働法（仮題）』（法律文化社，2007・6月出版予定）を使用する予定です。

但し出版時期が少し遅れますので，当初はWebに講義レジュメをアップロードして進めます。法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので，URLは初回講義の中でお話しします。講義には，六法と判例百選を必ず携行して下さい。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕（有斐閣2002）

参考書：

初心者向けの参考書として，

・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 ― 労働法・社会保障法・税法の基礎知識 ―』（有斐閣，2006）

・西村健一郎・安枝英訷『労働法（第9版）』（有斐閣プリマシリーズ，2006）

大部の概説書に，

・菅野和夫『労働法（第7版・補正版）』（弘文堂）

法学各論（労働法Ⅱ）（秋学期）

雇用される労働者（サラリーマン）をめぐる法的問題を分析する

法学部　准教授　**内　藤　　恵**

授業科目の内容：

労働法とは，賃金を得て生活する者（これを労働者と称します。）と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して，労働市場法（雇用保障と求人・求職に関する領域），個別的労働関係法〔使用者と労働者（サラリーマン）の間に生ずる法的問題を議論する領域〕，そして集団的労使関係法〔憲法28条をうけて，使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし，春学期は，個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結，労働条件のあり方，労働契約内容の変更，そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては，下記授業計画をご参照下さい。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償，および集団的労使関係の領域は，Ⅱで講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら，話題となる新しいテーマや法改正についても，随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては，神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『労働法（仮題）』（法律文化社，2007・6月出版予定）を使用する予定です。

但し出版時期が少し遅れますので，当初はWebに講義レジュメをアップロードして進めます。法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので，URLは初回講義の中でお話しします。講義には，六法と判例百選を必ず携行して下さい。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕（有斐閣2002）

参考書：

初心者向けの参考書として，

・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 ― 労働法・社会保障法・税法の基礎知識 ―』（有斐閣，2006）

・西村健一郎・安枝英訷『労働法（第9版）』（有斐閣プリマシリーズ，2006）

大部の概説書に，

・菅野和夫『労働法（第7版・補正版）』（弘文堂）

経済学史a（春学期）　　経済学部　准教授　**神　代　光　朗**

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての経済思想の歴史を，主に17～19世紀を中心にその成立，展開とその批判に焦点をあてて講ずるが，経済学と国民・民族，諸階級，社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け，私達をとりまく世界史的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを，受講者諸君とともに考えながら講義をすすめたい。経済学史aでは，とりわけ，近代の経済学史の出発点と考えられる重商主義から，その批判としての重農学派とアダム・スミスまでを中心に講ずることによって，近代市民社会の科学としての経済学の成立を解明し，又，それが，政策論や経済思想（経済倫理や市民社会の思想を含む）とどう関連しているかを明らかにしたい。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが，テキストに該当するものであるからして，履修者は必ず出席をし，自らノートを執ること。参考書は学生諸君の理解の補助にはなるが，いかなる通史のテキストにも一長一短はあることを忘れないでほしい。

参考書：

・内田義彦『経済学史講義』未来社，1968年（同社の復刻版もあり）または『内田義彦著作集』第2巻　岩波書店，1989年（2001年より増刷）

・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣，1997年

・早坂忠編『経済学史 ―経済学の生誕から現代まで―』ミネルヴァ書房，1989年

・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社，1952年　又は泉文堂（16刷）

経済学史b（秋学期）　　経済学部　准教授　**神　代　光　朗**

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての経済思想の歴史を，主に17～19世紀を中心にその成立，展開とその批判に焦点をあてて講ずるが，経済学と国民・民族，諸階級，社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け，私達をとりまく世界史的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを，受講者諸君とともに考えながら講義をすすめたい。経済学史bでは，とりわけ，アダム・スミスを創始者としてリカードゥにおいて頂点に達した，古典派経済学とりわけリカードゥとリカードゥ学派が，その後，イギリス近代資本主義内部の矛盾とイギリスとより後発的なヨーロッパ大陸の資本主義との矛盾の中で，経済思想史的にどのような形で批判を生じたかを，イギリスにおけるリカードゥ学派の分解過程，初期の社会主義経済思想，大陸―とりわけ，ドイツの国民経済学や歴史学派を通じて，学説史的にも，方法論的にも解明し，更に「経済学批判」としてのマルクス『資本論』体系の性格をも明らかにしたい。それらを通じて，今日の経済学のあり方をも考えられれば有意義だと思われる。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。私の講義内容そのものが，テキストに該当するものであるからして，履修者は必ず出席をし，自らノートを執ること。参考書は学生諸君の理解の補助にはなるが，いかなる通史のテキストにも一長一短はあることを忘れないでほしい。

参考書：

・内田義彦『経済学史講義』未来社，1968年（同社の復刻版もあり）または『内田義彦著作集』第2巻　岩波書店，1989年（2001年より増刷）
・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣，1997年
・早坂忠編『経済学史 —経済学の生誕から現代まで—』ミネルヴァ書房，1989年
・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社，1952年　又は泉文堂（16刷）

特別講座「21世紀のマネジメント」（秋学期）

コーディネーター　教授　**樫　原　正　勝**
准教授　**佐　藤　　和**

授業科目の内容：

商学部の基本理念の前文には「本学部は，福沢諭吉の実学の精神を『商学』の分野において継承し，現代社会の進歩と変革に対応して，つねに新鮮にして活力のある学部であることを目指す。」とある。

また，基本理念2には「教育にあたっては経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想をもってつねに新しい課題に取組み，体得した科学的方法と商学の専門知識を積極的に問題解決に適用できる人材の育成をめざす」と掲げられている。

本講座は，慶應義塾大学商学部においてかつて学び，実学の精神を「商学」の分野において継承したうえで，現代の産業社会において，経営者（企業家）としてその進歩と変革に携わってこられた方々を講師とする。その講義を通じて，経済社会現象に対する，学生の自主的関心と豊かな発想を涵養することを目的とする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜紹介する。

経済広報センター寄附講座「変革の時代の企業経営」

教　授　**榊　原　研　互**

授業科目の内容：

経済のグローバル化や情報化の進展とともに，企業を取り巻く環境は近年大きく変化している。こうしたなかで，企業がその「強み」をいかに確立し維持していくかは，企業の生き残りにとって最重要の課題であることはいうまでもない。近年日本では少子高齢化が進み，今や団塊世代が企業から大量に退職する時期を迎えている。さらに労働市場の流動化が進み，フリーターに見られるように若者を中心に職業観や就労意識も多様化してきている。こうしたなかで取りざたされているのが，たとえば世代間の知の移転や人材育成の問題である。また市場における競争圧力の高まりは，企業に経営の合理化や事業の見直しを迫っている。M&A や戦略的提携が今日増加の一途をたどっているのも，まさにそれの表れである。しかし他方で敵対的 M&A をめぐる攻防は，「企業は誰のものか」という問題をあらためて提起している。社会的公器としての企業には多様なステークホルダーとの良好な関係が求められているからである。本講義では，こうした変革の時代を現代企業がどのようにとらえ，またそれにどのように対応していこうとしているのかについて，社会の第一線で活躍されている企業の方々の話を伺い，今日の企業経営の課題について考える。

テキスト：

特になし。

参考書：

特になし。

東京証券取引所寄附講座「現代の株式市場と上場会社」（秋学期）

コーディネーター　教授　**伊　藤　　眞**

授業科目の内容：

この講義では，東京証券取引所の上場・ディスクロージャー制度を中心に，証券市場と上場会社との関係について概観する。具体的には，投資者（証券市場）が日本のリーディング･カンパニーたる上場会社に対して要求又は期待するものは何か，この点について，証券市場に関連する法律，経済，経営，会計の各方面における最新動向にも触れながら，証券取引所の制度と実務を通じてみていく。企業経営や企業財務等に関する実践的理解を深める観点から，適宜，具体的な事例なども紹介していく予定である。

参考書：

・「入門 日本の証券市場」東京証券取引所編（東洋経済新報社）
・「こんぷらくんの 30 分で読める！ インサイダー取引規制Ｑ＆Ａ」（東京証券取引所）

日本証券投資顧問業協会・投資信託協会寄附講座
「資産運用の理論と実務」（春学期）

コーディネーター　教授　**堀　田　一　吉**

授業科目の内容：

日本の社会が成熟し豊かになるにつれて，アセット・マネジメント（資産運用）の重要性が増しています。1500兆円の個人の金融資産の運用が，日本の経済の行方や国民の将来の生活設計を大きく左右することになっているのです。皆さん一人一人が個人として金融資産をどのように運用するかということを真剣に学び，理解し，応用できなければなりません。そればかりか，未来の職業人として金融機関に就職する場合は勿論のこと，その他のいかなる職業に就いたとしても，企業財務や年金を通じて資産の運用との関わりから逃れることは出来ません。

経済のグローバル化が進んで，経済を映す鏡である金融資本市場は，新しい経済ニーズに応じて複雑化・高度化しプロフェッショナルな世界になってきています。わが国でも，株主，企業価値，ヘッジファンド，不動産証券化，企業の社会的責任などの言葉が新聞紙上を賑わしています。このような中で，資産運用の本質とは何か，現場に何が起こっているのか，今後どのような方向に進んで行こうとしているのか等について，金融資本市場の最前線で活躍している専門家から生きた声を聞くことが有益です。

こうした時代の変化・社会的要請に答えるべく，本講座では，現代の社会に必要な資産運用の基礎から最先端までを概観します。資産運用の機能や社会的位置付けを踏まえつつ，金融資本市場や法制度などその取り巻く環境，資産運用における投資手法や経済記事の読み方からアセットマネジメント・ビジネスの実態に至るまで，金融知力として皆さん方が個人としてあるいは職業人として身に着けるべきエッセンスを幅広く学ぶことにします。特に，資産運用の重要な概念である「リスク」についての正しい認識を進めます。適切なリスク管理なしにリターンは得られないのが資産運用の本質です。

資産運用ビジネスはめまぐるしく変化しています。数年前の非常識が今の常識に変わる世界です。新しい考え方を体得するために，講義の一部には最新のテーマ設定を行うこととします。

商学部の基本理念とする「経済社会現象に対する自主的関心と豊かな発想」こそが，資産運用の核となるものであることは，授業終了後に受講生諸君が実際に体得出来ることでしょう。

みずほファイナンシャルグループ寄附講座
「現代の企業金融」（秋学期）

コーディネーター　教授　**深　尾　光　洋**

授業科目の内容：

企業の経済活動において，その裏付けとなるのは企業の裁量で活用できる資金であることはいうまでも無い。わが国における企業の資金調達は，間接金融としての銀行借入と直接金融としての株式発行が中心であった。ところが，バブル崩壊後，各企業がバランスシ

ートのスリム化を指向する中，資金調達手法は多様化の一途をたどっている。本講義では，こういった金融システムの変遷，産業構造の変化を踏まえた上で，従来型企業金融の総論をまず解説する。次に資金調達手法を，①保有資産の活用による調達，②間接金融による調達，③直接金融による調達に区分し，ケーススタディを交え解説していく。この構成は企業のバランスシートの資産，負債，資本に概ね対応していることから，財務会計の基本的な知識は必須である。最後に多様化する金融ニーズに対応する新たなビジネスモデルを講義することで本講義の総括とする。

【05】社会科学の考え方（秋学期）　教　授　**榊　原　研　互**

授業科目の内容：

本講義の目的は，一般に社会科学と呼ばれる学問の基本的な考え方の特徴を明らかにすることにある。ここでいう「方法論」とは，データの収集法や収集したデータの処理方法といったいわゆる手法論ではなく，むしろ「社会現象に科学的にアプローチするとはどのようなことか」を考える「学問の学問」を意味している。社会科学に限らずどんな学問であれ，それに取り組もうとする人は，探求されるべき知識が満たさねばならない条件について考えてみる必要がある。さもなければ，われわれは自分たちの研究成果が本当に満足すべきものかどうかを知ることができないからである。したがって方法論は，学問を志す人ならば一度は考えてみるべき基本的な事柄であり，学問の基礎の基礎ということができる。

本講義では，まず「科学的な知識とは何か」という根本的な問題から説き起こし，科学一般の方法について考察した上で，自然科学と社会科学の相違や，経済学，経営学，会計学，マーケティング論などの個別学科における方法論上の諸問題について考察する。なお，履修者数にもよるが，授業は講義形式と輪読・討論形式を織り交ぜながら進める予定である。

テキスト：

・B. マギー著，立花訳『哲学と現実世界―カール・ポパー入門』恒星社厚生閣，2001年
・K. R. ポパー著，久野・市井訳『歴史主義の貧困―社会科学の方法と実践』中央公論新社，1961年

参考書：

・G. シャンツ著，榊原訳『経営経済学の課題と方法』同文館，1991年
・M. ヴェーバー著，富永他訳『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波書店，1998年

ジャパニーズ・エコノミー（春学期）
教授（フジタ・チェアシップ基金）　**小　島　　明**

授業科目の内容：

戦後から現在に至る日本経済を世界経済との関連を重視しながら分析。高度経済成長，制度改革，雇用慣行，企業経営など多面的に論ずる。

1980年代の円高，バブル景気とその崩壊，不良債権問題，直接投資，金融改革，日本的経営の在り方などを議論する。日本が現在直面している政策問題も点検。講義及び討議は英語を使用。

ビデオ，テープなども利用しながら当局者，専門家の生の声，意見に接することができるようにしたい。

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective.

Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialists through Video and tapes etc.

テキスト：

METI "White paper on International Trade", 2004, 2005

参考書：

・"Japan's Policy Trap—Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance", by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)
・"Balance Sheet Recession—Japan's Struggle with Uncharted Economics and its Global Implications", by Richard C. Koo, 2003, John Wiley & Sons Pte Ltd.
・Various reports, working papers by Government, International Organizations (IMF, OECD etc) and by scholors are recommended as needed.

［大学院併設科目について］

「戦略の経済・商業」
「戦略の経営・会計」

以上の大学院併設科目については，以下の基準を満たした意欲のある学生のみ履修可能です。

3 年生
　2 年生までの自由科目を除く A の個数が 24 個以上の者
4 年生
　3 年生までの自由科目を除く A の個数が 23 個以上の者
※ いずれも原則として留年をしたことのある者を除く

以上の基準を満たさない場合の履修申告は無効となります。また基準を満たした場合でも，履修希望者多数の場合は人数調整を行う可能性もありますので，5 月上旬に郵送する「履修申告科目確認表」でエラーメッセージが表示されていないか確認してください。

戦略の経済・商業（秋学期）　准教授　**木　戸　一　夫**
専任講師　**鄭　　潤　澈**

授業科目の内容：

担当　木戸　一夫
授業のガイダンス（第1回）
戦略の経済学的視点（第2回～第7回）

ごく目先の利益ではなく，長期的視点での利益を考えた時，どこにその利益を見出し，いかにしてそれを実現していくのか，といったことを考えるのが戦略的思考と言えよう。本講義では，その中でも，利益の源泉の部分に特に焦点を当て，コア・コンピタンスとなるような補完性の利益の数理的構造を学ぶ。

・概要と基本概念（1回）
・スーパーモジュール性と補完性（1回）
・スーパーモジュール性を示す方法（1回）
・スーパーモジュラー関数の最適化と単調比較静学（2回）
・スーパーモジュラー・ゲーム（1回）

6回目の授業終了後に課すレポートで成績を評価する。

担当　鄭　潤澈
相互依存関係から見た戦略（第8回～第13回）

講義の後半では，応用ミクロ経済学の観点で経済主体の様々な戦略的行動プロセスを考察していく。特に，取引関係などにおいて，個別主体間の相互依存関係（競争と協力）が各自の最適化行動（戦略）にどうつながるのかを理解することを授業の目標とする。

・消費者と生産者との葛藤（1回）
・企業の最適化行動（1回）
・企業間の競争（1回）
・戦略的相互依存関係（1回）
・情報と戦略の関係（1回）
・取引と組織における戦略（1回）

13回目の授業終了後に課すレポートで成績評価をして，前半の成績と合算し総合評価をする。

テキスト：

各講義担当者が必要に応じて指示する。

参考書：

各講義担当者が授業中に適宜紹介する。

戦略の経営・会計（秋学期）

コーディネーター　教授　**今　口　忠　政**

授業科目の内容：

戦略について経営学と会計学の立場からアプローチし，総合的に考察することが目的である。1 回目にオリエンテーションを行った後，経営学から 6 回の講義，会計学から 6 回の講義を行う。

1.　オリエンテーション（9 月27日）　今口忠政

講義の目的，講義形態，評価方法などについて説明をする。

（戦略の経営学的アプローチ）　成城大学　十川廣國

グローバル化の大きなうねりのもと，企業は新たな戦略的対応を試み競争優位を再構築する必要に迫られている。そこで，本講義では，以下のように近年の環境変化と企業の戦略動向を概括し，どのような戦略課題に注目して体質強化を図る必要があるのかについて戦略経営の視点から検討することにしたい。

2.　環境変化と企業の戦略動向（10月4日）

企業に対する実証研究のデータに基づき，最近 10 年の戦略動向についてその特徴を概略する。つまり，企業が最重点とする戦略の変化について確認することによって戦略課題がどのような点に移行してきているのかを明らかにする。

3.　競争力と企業業績（10月11日）

競争力とは，どのように捉えられるべきかについて述べ，競争力と財務業績のかかわりについて，とくに両者の間に存在するズレについて概説する。この点から，競争力を維持するために企業がダイナミックな対応行動をとらなければならない必要性について論じる。

4.　持続的競争優位と戦略経営（10月18日）

2 の議論を受けて，戦略経営の視点から持続的競争優位を構築する課題とは何かについて包括的な説明を行う。戦略経営の視点とは，戦略構築・実行のためには，戦略のみならず組織変革についても同時に考慮されなければならないという見方を指している。それは，後述するように戦略的イノベーションに企業が取り組まなければならないことを意味している。

5.　競争力の源泉としてのコア・ケイパビリティー（10月25日）

戦略的イノベーションは，企業の競争力の源泉となる技術的優位性，つまりコア・ケイパビリティー構築・改善のために実践されなければならないと考えられる。そこで，ここでは，企業の技術ケイパビリティーの意義について概説することになる。

6.　コア・ケイパビリティーと組織（11月1日）

技術ケイパビリティーであるコア・ケイパビリティーはコア・リジディティーに変異する可能性があることが指摘されている。それは組織内での活動が慣性に陥ると，人々の相互作用である「創造的摩擦」が生じず，技術の創造・改善が実現されなくなるからである。ここでは，この点の問題点について概略することになる。

7.　戦略的イノベーションとマネジメント・プロセス（11月8日）

5 に述べた問題点の指摘を受けて，コア・リジディティー回避のためには戦略的イノベーションへの取組が必要となる。そこで，組織能力の問題との関連から「創造的摩擦」を喚起するためのマネジメント・プロセスのあり方について検討し，本講義のまとめとしたい。

（戦略の会計学的アプローチ）　青山学院大学教授　西村優子

8.　戦略的管理会計のフレームワーク（11月15日）

戦略的管理会計のフレームワークを取り上げ，企業目標を達成する戦略の策定と実行に有用な会計情報を説明する。企業目標の指標，事業範囲の戦略的意思決定に関連する会計指標，戦略プロジェクトの選択に関する評価指標について取り扱う。

9.　設備投資意思決定と会計情報（11月29日）

設備投資意思決定に関する経済性分析として，投資回収期間法，内部利益率法，NPV法，投資資本利益率法などを取り上げる。設備投資の投資後は，減損会計基準によって，処理されるため，投資意思決定段階の事前評価と事後評価の関連性を明らかにする。

10. 研究開発戦略投資と会計情報（12月6日）

企業の研究開発戦略投資は，電気機械や医薬品業などの業種では，設備投資額よりも多額な企業が多くみられる。研究開発戦略投資の管理は企業の持続的成長の源泉であり，その管理手法としての，原価企画，予算，投資対効果分析，バランスト・スコアカードについて取り扱う。

11. 戦略的研究開発パートナーシップと会計情報（12月13日）

外部の研究開発資源を活用した戦略的研究開発パートナーシップを取り上げ，それによって得られる成果，ならびに企業業績との関係を考察する。なお，戦略的研究開発パートナーシップには，M&A やジョイント・ベンチャーのようなエクイティ投資に基づくものと，共同研究開発，技術交換協定，ライセンシングのような契約に基づくパートナーシップがある。

12. 戦略に関連する知的資産の評価（12月20日）

戦略的投資プロジェクトから創出・蓄積される知的資産を会計的に測定し評価する方法として，①コスト・アプローチ，②インカム・アプローチ，③マーケティング・アプローチがある。これらの測定方法の理論と計算について，具体的に明らかにする。

13. 戦略的投資に関する会計情報の開示（1月17日）

戦略的投資プロジェクトに関わるリスクの開示，研究開発戦略投資，研究開発戦略投資から創出される特許権，技術，ノウハウに関する情報の有価証券報告書あるいは知的財産報告書による開示の実例を取り上げる。

【05】商学関連科目
【99】自主選択科目

以下のイタリア語，ロシア語，朝鮮語，アラビア語，ギリシャ語，ラテン語については，文学部併設であるため，履修人数が多い場合は文学部生優先となる。
必ず履修申告前に，授業担当者に許可をもらうこと。

イタリア語 a（春学期）/ イタリア語 b（秋学期）
文法の基本とやさしい会話　　講　師　**竹内　マテルダ**

授業科目の内容：
文法について説明します。文法の練習問題だけでなく，読解やリスニングも行います。それについて会話します。
テキスト：
ESPRESSO I　Ed. ALMA

【05】ロシア語 a（春学期）/ ロシア語 b（秋学期）
【99】ロシア語（通年）
ロシア語初級　　講　師　**佐　野　洋　子**

授業科目の内容：
このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし，一年間で現代文を読む上で必要なロシア語文法をすべて習得します。中級レヴェルの文を辞書を用いて読む力をつけることを目的とします。最終的には，各自の専門に従って，独学でもロシア語を続けていける基礎学力をつけたいと思います。
テキスト：
教材は，初回の授業で配布します。
参考書：
辞書が必要になりますが，初回の授業で説明します。

【05】朝鮮語（初級）a（春学期）/ 朝鮮語（初級）b（秋学期）
【99】朝鮮語（初級）（通年）　　講　師　**崔　　鶴　山**

授業科目の内容：
日常的に使う韓国語のための基礎文法知識を習得する授業です。まず，発音と文字体系，文の仕組みになれるようにします。「ハングル」という馴染みのない文字を使う韓国語は一見難しく見えますが，文の構造や語順，漢字語などは日本語のそれととてもよく似ているため，特に日本人には意外と早い上達が期待できる言語です。一年間の学習により，自己紹介，日常の簡単なやりとり，日記などの基本的な口頭表現及び文章表現ができるようになります。平常点，出席を重視します。
テキスト：
「はじめての韓国語」崔鶴山著，白水社

【05】朝鮮語（中級）a（春学期）/ 朝鮮語（中級）b（秋学期）
【99】朝鮮語（中級）（通年）
文学部　教授　**野　村　伸　一（春学期）**
講師　**崔　　鶴　山（秋学期）**

授業科目の内容：
中級レベルのこの授業では１学年に続き，日常的な場面をテーマにした各課のシチュエーションを学習することで，状況に応じた表現方法を習得するとともに，韓国人の会話スタイルについても理解を深めていきます。そのほか，時には映画やドラマ，新聞などを素材にして，生きた韓国語に慣れ，韓国の文化や社会事情に対する理解も高めていきます。
これと関連し，授業では受講生の発表の時間を取るようにします。
一週間に二回の授業は，講師は変わっても，同一教材を用いて進めます。各課ごとに小テストをして，達成度をはかります。
出席，応用問題の回答提出と小テストは一年時と同様に重要です。
授業進度の詳細は初回の授業の時にプリントで示します。
テキスト：
慶應義塾外国語学校編『朝鮮語―中級―』

【05】朝鮮語（中級）a（春学期）/ 朝鮮語（中級）b（秋学期）
【99】朝鮮語（中級）（通年）　　講　師　**李　　泰　文**

授業科目の内容：
この中級は，1 年ほど学習し，基本的な文章体，口語体の読み書きができる人を対象にしています。具体的には，すでに現在・過去・未来といった時制や変則活用，連体形などを一通り習得した皆さんの文型や表現パターンを増やすことを目的としています。
そして，教科書の文型や表現だけではなく，自分の意見や考えを伝えることができるように身につけることを目的としています。
テキスト：
慶應義塾外国語学校のテキスト（中級）
参考書：
油谷幸利他編『朝鮮語辞典』小学館

【05】アラビア語 a（春学期）/ アラビア語 b（秋学期）
【99】アラビア語（通年）
アラビア語の世界とその文化
講　師　**師岡カリーマ，エルサムニー**

授業科目の内容：
アラビア語は，20を超える国，2億人以上の人々が話す国連公用語の一つです。この授業では，アラビア語で文章を読み，自分を表現する力を身に付け，アラブ世界の文化や芸術，常識，メンタリティー，人々の生活等について幅広い知識を修得してもらうことを目的としています。
テキスト：
特に指定しません。プリントを配布します。
参考書：
・「アラビア語入門」本田孝一（白水社）
・「恋するアラブ人」師岡カリーマ，エルサムニー（白水社）
・「アジア読本／アラブ」大塚和夫編（河出書房新社）

【05】ギリシャ語 a（春学期）/ ギリシャ語 b（秋学期）
【99】ギリシャ語（通年）　　講　師　**小　池　和　子**

授業科目の内容：
古典ギリシア語の初等文法を学びます。
テキスト：
水谷智洋著『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）。
その他適宜補助プリントを配布。

【05】ラテン語 a（春学期）/ ラテン語 b（秋学期）
【99】ラテン語（通年）
古典期のラテン語文法学習　　講　師　**平　田　　真**

授業科目の内容：
インド・ヨーロッパ語の一員であると共にロマンス諸語の母体言語でもあるラテン語の基礎文法修得を目標とする。
テキスト：
樋口・藤井共著『詳解ラテン文法』（研究社）
参考書：
・逸身喜一郎著『ラテン語のはなし』（大修館書店）
・小林標著『ラテン語の世界』（中公新書1833）

諸　研　究　所

教職課程センター
言語文化研究所
メディア･コミュニケーション研究所
体育研究所
福澤研究センター
外国語教育研究センター
国際センター
保健管理センター
情報処理教育室
アート・センター

教　職　課　程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合，教職課程を履修することになりますが，学生諸君は教職課程センターにおいて，教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は，学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※　学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に，教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には，日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また，ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については，西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 19 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	講　師	単位数
サンスクリット初級Ⅰ（春）	土田龍太郎	半期 1 単位
サンスクリット初級Ⅱ（秋）	土田龍太郎	
サンスクリット中級Ⅰ（春）	土田龍太郎	
サンスクリット中級Ⅱ（秋）	土田龍太郎	
アラビア語基礎Ⅰ（春）	榮谷温子	
アラビア語基礎Ⅱ（秋）	榮谷温子	
アラビア語現代文講読Ⅰ（春）	榮谷温子	
アラビア語現代文講読Ⅱ（秋）	榮谷温子	
アラビア語古典Ⅰ（春）	岩見　隆	
アラビア語古典Ⅱ（秋）	岩見　隆	
アラビア語文献講読Ⅰ（春）	岩見　隆	
アラビア語文献講読Ⅱ（秋）	岩見　隆	
ヴェトナム語初級Ⅰ（春）	嶋尾　稔	
ヴェトナム語初級Ⅱ（秋）	嶋尾　稔	
ヴェトナム語中級Ⅰ（春）	嶋尾　稔	
ヴェトナム語中級Ⅱ（秋）	嶋尾　稔	
ヴェトナム語文献講読Ⅰ（春）	嶋尾　稔	
ヴェトナム語文献講読Ⅱ（秋）	嶋尾　稔	
ペルシア語初級Ⅰ（春）	関　喜房	
ペルシア語初級Ⅱ（秋）	関　喜房	
ペルシア語中級Ⅰ（春）	岩見　隆	
ペルシア語中級Ⅱ（秋）	岩見　隆	
タイ語初級Ⅰ（春）	三上直光	
タイ語初級Ⅱ（秋）	三上直光	
タイ語中級Ⅰ（春）	ポンシー，ライト	
タイ語中級Ⅱ（秋）	ポンシー，ライト	
トルコ語初級Ⅰ（春）	ヤマンラール，アイドゥン	
トルコ語初級Ⅱ（秋）	ヤマンラール，アイドゥン	
トルコ語中級Ⅰ（春）	ヤマンラール，アイドゥン	
トルコ語中級Ⅱ（秋）	ヤマンラール，アイドゥン	
朝鮮語文献講読Ⅰ（春）	野村伸一	
朝鮮語文献講読Ⅱ（秋）	李　美江	
カンボジア語初級Ⅰ（春）	三上直光	
カンボジア語初級Ⅱ（秋）	三上直光	
ヘブライ語初級Ⅰ（春）	笈川博一	
ヘブライ語初級Ⅱ（秋）	笈川博一	
ヘブライ語中級Ⅰ（春）	笈川博一	
ヘブライ語中級Ⅱ（秋）	笈川博一	
古代エジプト語初級Ⅰ（春）	笈川博一	
古代エジプト語初級Ⅱ（秋）	笈川博一	
古代エジプト語中級Ⅰ（春）	笈川博一	
古代エジプト語中級Ⅱ（秋）	笈川博一	
アッカド語初級Ⅰ（春）	高井啓介	
アッカド語初級Ⅱ（秋）	高井啓介	
アッカド語中級Ⅰ（春）	高井啓介	
アッカド語中級Ⅱ（秋）	高井啓介	

サンスクリット初級Ⅰ（春）
サンスクリット初級Ⅱ（秋）
言語文化研究所　講師　**土　田　龍太郎**

授業科目の内容：
サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて，サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。
参加者は，練習問題の予習が必要となる。
テキスト：
・ヤン・ホンダ著　鎧淳　訳「サンスクリット語初等文法（春秋社）
・辻　直四郎著「サンスクリット文法」（岩波書店）
授業の計画：
・サンスクリット語とはなにか
・子音と母音
・名詞変化の基礎
・動詞変化の基礎
・母音曲用
・子音曲用
・動詞現在組織
・未来及受動変化
・アオリスト活用
・完了活用
・その他の動詞形
・複合語等
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

サンスクリット中級Ⅰ（春）
サンスクリット中級Ⅱ（秋）
言語文化研究所　講師　**土　田　龍太郎**

授業科目の内容：
サンスクリット語の初歩をすでに一通り取得したもののための授業である。
テキスト：
参加者の希望で決める。
授業の計画：
サンスクリットⅡでは，参加者と相談して決めたテキストを講読，文化史宗教史的事項と文法解説を行う。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語基礎Ⅰ（春）
アラビア語基礎Ⅱ（秋）
言語文化研究所　講師　**榮　谷　温　子**

授業科目の内容：
正則アラビア語（フスハー）のアラビア文字の読み方，綴り方からはじめ，一年間で基礎文法を習得することを目的とします。また正則アラビア語による簡単な日常会話フレーズも練習します。
テキスト：
佐々木淑子著『アラビア語入門』（翔文社，2004年，1905円）
必要に応じてプリントや練習問題を配布します。
参考書：
参考書　David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)
授業の計画：
（春）第１回―第６回　アラビア文字のつづり方，名詞の性･格･複数，人称代名詞と前置詞
第７回―第13回　指示代名詞・形容詞・疑問詞および名詞文の構造
（秋）第１回―第７回　動詞完了形・未完了形および受動態・分詞・動名詞・場所名詞
第８回―第13回　不規則動詞および派生形
履修者へのコメント：
アラビア語の文法はテキストでの独習のみでは理解がむずかしい部分が多々あります。一回でも授業を欠席すると継続が困難になります。毎回の出席を心がけてください。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語現代文講読Ⅰ（春）
アラビア語現代文講読Ⅱ（秋）
言語文化研究所　講師　**榮　谷　温　子**

授業科目の内容：
基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して，アラビア語の基本的な文章構造の理解，さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。
テキスト：
プリントを配布します。
辞書は，Hans Wehr, A Dictionary of Modern Written Arabic-Englishを使用します。
参考書：
・佐々木淑子著『アラビア語入門』（翔文社，2004年，1905円）
・David Cowan, An Introduction to Modern Literary Arabic (Cambridge University Press)
授業の計画：
初回には，辞書や文法書，授業の進め方を説明をします。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。その過程で既習の基礎文法や辞書による単語の調べ方を再確認していきます。順次程度の高い文章の講読をしていき，最終的には母音記号のついていない文章を，自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。
（春）第１回―第６回　母音記号がついた平易な短い文章（名詞文・動詞文）の講読。
第７回―第13回　母音記号がついた長い文章を講読。
（秋）第１回―第13回　要所のみに母音記号がついた文章から，最終的には母音記号がつかない文章の講読。
履修者へのコメント：
文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

アラビア語古典Ⅰ（春）
アラビア語古典Ⅱ（秋）
アラビア語講読　言語文化研究所　講師　**岩　見　　隆**

授業科目の内容：
母音符号のついていない普通のアラビア語テクストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテクスト読みにどう生かすかを課題としてやります。
テキスト：
Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie
プリントで配ります
参考書：
井筒俊彦：アラビア語入門，慶應出版社 1950.
授業の計画：
最初の日は，参考書や辞書の紹介などガイダンスをやります。
春学期の間は母音符号が全部ついているテクストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしようと思います。
なお，受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテクスト読みを進めてゆくつもりです。
履修者へのコメント：
少くとも規則動詞原型の完了，未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。）

アラビア語文献講読Ⅰ（春）
アラビア語文献講読Ⅱ（秋）
アラビア語演習　言語文化研究所　講師　**岩　見　　隆**

授業科目の内容：
アラビア語の定評ある古典の中，平易な散文（叙事の文）をあたりまえに読めるようになることを目指します。
テキスト：
受講者と相談して決めます。
参考書：
Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962
授業の計画：
第1回はガイダンスで，参考文献，辞書の使い分けのやり方などを話します。
2回目以降はもっぱらテクスト読みに専念します。
なお，対象が古典ですから，単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思います。
履修者へのコメント：
初等文法の諸規則や用語に慣れていることが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回必ずあてますから，そのつもりで来て下さい。）

ヴェトナム語初級Ⅰ（春）
ヴェトナム語初級Ⅱ（秋）
言語文化研究所　准教授　**嶋　尾　　稔**

授業科目の内容：
ヴェトナム語の基礎知識（発音，綴り字，初級文法，簡単な会話表現）の修得を目指します。
テキスト：
『ベトナム語入門Ⅰ』（慶應外国語学校）
授業の計画：
初回のガイダンスで知らせます。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語中級Ⅰ（春）
ヴェトナム語中級Ⅱ（秋）
言語文化研究所　准教授　**嶋　尾　　稔**

授業科目の内容：
ヴェトナム語の基礎知識を身につけた人を対象に，ヴェトナム語の読解力の修得を目指します。ごく簡単な文章から始めますが，受講者のレベルや要望に応じて時事的な文章（雑誌・新聞の抜粋）に進みます。
テキスト：
初回に受講者と相談して決めます。
参考書：
小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語666』（東洋書店，2005年）
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語文献講読Ⅰ（春）
ヴェトナム語文献講読Ⅱ（秋）
言語文化研究所　准教授　**嶋　尾　　稔**

授業科目の内容：
ヴェトナム語で書かれたヴェトナムの歴史や文化に関する文章を読みます。或いは，ヴェトナム漢文に興味のある受講者があれば，漢文と現代ヴェトナム語の対訳テキストを読みます（この場合，ヴェトナム語未修者でもかまいません）。
テキスト：
初回に受講者と相談して決めます。
参考書：
冨田健次『ヴェトナム語の世界：ヴェトナム語基本文典』（大学書林，2000年）
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語初級Ⅰ（春）
ペルシア語初級Ⅱ（秋）
ペルシア語文法　言語文化研究所　講師　**関　　喜　房**

授業科目の内容：
現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第，易しい文章を読むつもりです。その際，文法書には記されていなかった文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。
テキスト：
岡崎正孝著『基礎ペルシア語』（大学書林）
参考書：
黒柳恒男著『ペルシア語の話』大学書林
授業の計画：
講義計画は以下の通りです。
1－ ガイダンス
2－ 文字の習得
3－ 教科書を用いた文法の学習（計16回）
4－ 易しい現代文を読む練習（計7回）
5－ テスト
履修者へのコメント：
教科書の練習問題を必ず予習すること。
成績評価方法：
・試験の結果による評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

ペルシア語中級Ⅰ（春）
ペルシア語中級Ⅱ（秋）
ペルシア語講読　言語文化研究所　講師　**岩　見　　隆**

授業科目の内容：
ペルシア語の文の流れをつかみとれるように，平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。
テキスト：
受講する人と相談して決めます。
参考書：
Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974
授業の計画：
最初の日にテクストを相談して決めるなどガイダンスをやります。
2回目以後はひたすらテクストを読みます。
履修者へのコメント：
文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価（出席者は毎回あてますから，毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。）

タイ語初級Ⅰ（春）
タイ語初級Ⅱ（秋）
言語文化研究所　教授　**三　上　直　光**

授業科目の内容：
タイ語入門講座。発音，文字の読み書き，初級文法，基本表現の修得を目標とします。
テキスト：
開講時に指示します。

授業の計画：
春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え，後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。
履修者へのコメント：
活気のある授業にしましょう。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価
質問・相談：
授業中・授業後に受け付けます。

タイ語中級Ⅰ（春）
タイ語中級Ⅱ（秋）
言語文化研究所　講師　**ポンシー，ライト**

授業科目の内容：
タイの小学校二年生の教科書より短編ストーリーを用いて，タイ語の運用能力向上を目指します。
テキスト：
プリント使用。
授業の計画：
前期は文章表現と読解力，後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。
履修者へのコメント：
あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい
成績評価方法：
・試験の結果による評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語初級Ⅰ（春）
トルコ語初級Ⅱ（秋）
トルコ語初級
言語文化研究所　講師　**ヤマンラール，アイドゥン**

授業科目の内容：
トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが，簡単な講読も行います。
テキスト：
プリント使用
授業の計画：
（春）第１－２回　トルコ語の特色，母音・子音の調和。
第３－７回　“～は ― です”の構文，助詞（格），副詞，形容詞
第８－13回　動詞（現在・単純過去・超越などの時制）
（秋）第１－４回　動詞（伝聞過去・未来などの時制と複合時制）
第５－８回　分詞
第９－11回　動名詞
第12－13回　条件文，仮定法など
以上は初級文法の主要な学習事項と予定です。授業の進行に応じて順番などが変わるので，一応の目安と考えてください。
成績評価方法：
・試験の結果による評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語中級Ⅰ（春）
トルコ語中級Ⅱ（秋）
トルコ語中級
言語文化研究所　講師　**ヤマンラール，アイドゥン**

授業科目の内容：
初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。
テキスト：
プリント使用
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

朝鮮語文献講読Ⅰ（春）
朝鮮語文献講読Ⅱ（秋）　文学部　教授　**野　村　伸　一**
言語文化研究所　講師　**李　　美　江**

授業科目の内容：
大韓民国という国家，社会の歴史と現状を知るためのテクストを講読します。
今日「韓流」というマスコミにより流布された一種の流行現象に興味を抱く人は多く，皆さんのなかにもそうした人はいるでしょう。そのこと自体はきっかけとしてはいいことです。しかし，それにまつわる言説だけをみていても，けっして内在的な理解には到達し得ないでしょう。
すべて，ものごとには，来歴と「いうにいわれぬこと」があるものです。朝鮮民族にとって，それはどういうものであったのか。それを知らない限り，日本と朝鮮半島は時流の往来をくり返すほかはないでしょう。
テキスト：
韓洪九『大韓民国史 03』，ハンギョレ新聞社，2005年。各自，韓国書籍を扱う書店（例，三中堂，高麗書林）もしくはソウルの大型書店に注文して入手してください。
参考書：
・韓洪九著，高崎宗司監訳『韓洪九の韓国現代史　韓国とはどういう国か』，平凡社，2003年
・同『韓洪九の韓国現代史２　負の歴史から何を学ぶのか』，平凡社，2005年
＊上記の翻訳書は韓洪九『大韓民国史 01』，『大韓民国史 02』に相当します。
http://web.hc.keio.ac.jp/～shnomura/shohvou1.html に書評を掲載しました。
授業の計画：
毎回，原文で４，５頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。
履修者へのコメント：
受講者は朝鮮語を読む準備ができていることが前提となります。口頭での会話能力は必要ありません。ひとまず日本語にした上で，なお，それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ，明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。
この授業に関連することがらは随時，http://web.hc.keio.ac.jp/~shnomura/kougi.html に掲載します。
前期と後期で担当者は代わりますが，教材は同じです。
成績評価方法：
出席すること，翻訳の難しさ・妙味についてのレポートを学期末に提出することで評価します。

カンボジア語初級Ⅰ（春）
カンボジア語初級Ⅱ（秋）
言語文化研究所　教授　**三　上　直　光**

授業科目の内容：
カンボジア語入門講座。発音，文字の読み書き，初級文法，基本表現の習得を目標とします。
テキスト：
開講時に指示します。
授業の計画：
春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え，後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。
履修者へのコメント：
活気のある授業にしましょう。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価
質問・相談：
授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語初級Ⅰ（春）
ヘブライ語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所　講師　**笈　川　博　一**

授業科目の内容：
旧約聖書ヘブライ語の初歩。まったくの初心者を想定している。
テキスト：
テキストは比較的繰り返しの多い創世記を用いるが，プリントを授業で配布する。
参考書：
英語ないしドイツ語による辞書（￥2500 ～￥10000）が必要となるが，それについては授業で案内する。
授業の計画：
まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ，出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1 年終了するころには，辞書の助けを借りて散文をある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。
履修者へのコメント：
週 2 時間程度の予習が必要となる。
成績評価方法：
試験の結果による評価
質問・相談：
質問，相談があれば，hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

ヘブライ語中級Ⅰ（春）
ヘブライ語中級Ⅱ（秋）

言語文化研究所　講師　**笈　川　博　一**

授業科目の内容：
旧約聖書サムエル記の講読。
テキスト：
テキストはプリントを授業で配布する。
参考書：
英語ないしドイツ語による辞書（￥ 2500 ～￥ 10000）が必要となるが，それについては授業で案内する。
授業の計画：
初級でプラクティカルに習得した文法を体系的に復習する。さらにヘブライ語の理解を深め，散文は自由に読めるようにする。後期には詩文にも挑戦したい。
履修者へのコメント：
週 2 時間程度の予習が必要となる。
成績評価方法：
試験の結果による評価
質問・相談：
質問，相談があれば，hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語初級Ⅰ（春）
古代エジプト語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所　講師　**笈　川　博　一**

授業科目の内容：
文法体系が比較的よく分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者を想定している。
テキスト：
テキストは「ヴェナモン」を用いるが，プリントを授業で配布する。
参考書：
5 月ごろから辞書（約￥9000）が必要となるが，それについては授業で案内する。
授業の計画：
まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ，出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1 年終了するころには，後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。
履修者へのコメント：
週 2 時間程度の予習が必要となる。
成績評価方法：
試験の結果による評価
質問・相談：
質問，相談があれば，hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語中級Ⅰ（春）
古代エジプト語中級Ⅱ（秋）

言語文化研究所　講師　**笈　川　博　一**

授業科目の内容：
中期エジプト語の初歩。
テキスト：
テキストは「難破した水夫」であるが，プリントを授業で配布する。
参考書：
辞書は Raymond O. Faulkner “A Concise Dictionary of Middle Egyptian” Oxford（Amazon JP で￥3542），あるいはその日本語訳が必要となる。
授業の計画：
初級でやった後期エジプト語と対比しつつ，より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。
履修者へのコメント：
週 2 時間程度の予習が必要となる。
成績評価方法：
試験の結果による評価
質問・相談：
質問，相談があれば，hirokazu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語初級Ⅰ（春）
アッカド語初級Ⅱ（秋）

言語文化研究所　講師　**髙　井　啓　介**

授業科目の内容：
アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Baby-lonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが，足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら，アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には，ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。
テキスト：
Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institure Press)
参考書：
開講時に指示します。
授業の計画：
以下のようなスケジュールを予定していますが，授業の進み具合に応じて変更することもあります
前後期を通じて
1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞（計三回） ― コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹（計五回，語根の判別，変化，叙法など）とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形（計三回）
7. 動詞 S 語幹とその派生形（計三回）
8. 動詞 N 語幹とその派生形（計三回）
9. アッカド文学の概観
10. ハンムラビ法典，イシュタルの冥界下りなど ― テキストを読みつつ文法事項を確認します（計五回）

履修者へのコメント：
古代メソポタミアの文化，歴史，宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価
質問・相談：
必要があればlampbreaking@ybb.ne.jpまで連絡してください。

アッカド語中級Ⅰ（春）
アッカド語中級Ⅱ（秋）
言語文化研究所　講師　**髙　井　啓　介**

授業科目の内容：
アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら，簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。
テキスト：
テキストはプリントを準備します。
授業の計画：
講義計画
読むテキストについては，初回に受講者と相談の上決定するつもりですが，以下のような内容のテキストを取り上げることになるでしょう。
前期：王碑文，書簡，法律文書，契約文書など（計十三回）
後期：神話・叙事詩，祈り文学，占い文書など（計十三回）
履修者へのコメント：
楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価
質問・相談：
必要があればlampbreaking@ybb.ne.jpまで連絡してください。

メディア・コミュニケーション研究所

メディア・コミュニケーション研究所とは

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は，研究所の専任の先生を中心に新聞・ラジオ・テレビ・雑誌などの在来のメディアと新しいインターネットなどのメディア，それらによるメディア・コミュニケーションの社会的相互作用とジャーナリズムの研究を行うと同時に，研究生と呼ばれる学部生諸君を教育し，各種メディア業界に有為な人材を送り込むための研究・教育機関です。1946（昭和 21）年に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。後に新聞研究所に名称を改め，1996（平成 8）年に 50 回目の誕生日を迎えました。まさに，研究所は日本の戦後とともに歩んできたことになります。

新聞研究所は，第 2 次世界大戦前と戦争中，新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が，戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して，その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに，マスメディア研究を行いうる研究機関の設置をいくつかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾大学であり，後に法学部長になった米山桂三教授に運営が任された，というのがその発端であると伝えられております。

既述の通り，当初，新聞研究室は新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていました（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので参照可能です）。しかし，後に研究機能の重視を目的に名称を研究所に改めました。今日では実習的な側面よりは研究生（研究所に入所した学生はこう呼ばれます）にはマスメディアおよびマスコミュニケーション研究の基礎的教育を行い，専任教員を中心に基礎的な研究に力を入れるようになりました。メディア業界からはすぐに陳腐になりやすい皮相でテクニカルな知識や技術のみを身に付けた人間よりは，基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ，しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められています。そうした要求に沿った教育と，各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし，時代は急速に変わりました。戦後 50 年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく，戦後直後の報道機関といえば活字メディアが中核で，ラジオがそれに付け加わっているだけでした。その後，テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行していきました。近年では地上波だけではなく，衛星放送・衛星通信，ケーブルテレビなど多面的に展開する時代となりました。そして，アナログ時代からデジタル時代へと移行し，インターネットを中核としたマルチ・メディアの展開が叫ばれるようになりました。新聞・ラジオ・テレビとインターネットの融合現象も注目されるようになりました。と同時に，かつては一方向的な伝達が中心だったものが，双方向的なものになりました。その情報通信範囲もパーソナル・ローカル・ナショナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大し，コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化がもたらされました。多チャンネル時代を迎え放送内容も多様になり，アイデアや創造力がメディア業界で働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると，新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになり，1996（平成 8）年には，研究所 50 年の記念式典を行い翌年より名称を現行のものに変更しました。それが，メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による多様なメディア・コミュニケーションの時代に合致した名称に変更したのです。もっとも，メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても，報道ジャーナリズムの健全な発達のため，つまり，民主主義的で自由で公正で時には批判的な報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。

しかし，研究生には報道ジャーナリズムやマスコミュニケーション研究の基本を学び，新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）を十分理解した上に自由に使いこなせるだけの能力を身に付けて欲しいと思っています。そのために，1998（平成 10）年より，メディア・リテラシー向上のため「メディア・ワークショップルーム（MWR)」を開設しています。インターネット放送もはじめました。今では大学生になるまでに，インターネットに十分習熟した学生も増え，より高度なメディア・リテラシーが期待できるので，インターネット放送やオン・ライン新聞を盛んにしたいと思います。それは，研究生が送り手と受け手の双方を融合させることなので，メディア倫理教育の充実が必要です。

1997 年 4 月より，新しい名称でスタートを切った研究所は，2006（平成 18）年に改称後 10 年目の記念の年を迎え，研究所 60 年記念の年となりました。あっという間の 10 年でした。その間のインターネットの普及と展開はめざましく，在来メディアをインターネット会社が買収しようする騒動が日本でも発生しました。今後もそうした激動の 10 年がくり返されると思います。

現在のスタッフは所長，専任および兼担所員，事務職員総勢でも 10 名に満たない小さな研究所ですが，非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生 150 名（2～4 年生）の教育を行っています。本年入所される研究生を含め現在の研究生は，新たなる歴史を刻む当事者です。研究所が大きな成果を生むために大いに頑張ってほしいと思います。そして，綱町三田会（修了生の同窓会）という OB・OG 組織の皆さんの協力を得て，さらなる発展をめざしたいと思います。

◇カリキュラム

1.　設置科目について

研究所には，基礎科目，研究会，特殊研究，基礎演習の 4 つの講義群がある。

このうち，基礎科目は研究生以外（2 年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し，2 年生以上で，三田設置科目を含めて履修可能であるが，学部によっては履修できない場合もあるので，学部履修要項等で確認すること。また，学部での単位の取扱いは，学部履修要項を熟読すること。

・基礎科目（オープン科目）

　メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

・研究会（研究生のみ対象）

　研究所における学習の中心となる科目で，2 年生より履修できる。

・特殊研究（研究生のみ対象）

　少人数の講義で，実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

・基礎演習（研究生のみ対象）

　メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2.　研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は，メディア・コミュニケーションの研究，あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い，同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年 12 月中旬に行われる入所選考に合格し，研究生となることを許可された者は，修了までに合計 28 単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが，それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず，それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

（1）入所説明会（入所申込書配布）11 月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

（2）入所試験（選考）12 月中旬三田で行う。

3.　修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには，以下の各群から所定の単位を合計 28 単位以上取得しなければならない。

・基礎科目　　10 単位以上

・研 究 会　　 8 単位以上※

・特殊研究　　 4 単位以上

・基礎演習　　 2 単位以上

合　　計　　28 単位以上

※ 2～4 年春学期までに研究会 Ⅰ～Ⅴ を順番に履修し 6 単位以上取得する。4 年秋学期には必ず研究会 Ⅵ（論文指導）を履修すること。すなわち，研究会 Ⅰ～Ⅲと研究会 Ⅵ は全員が履修するが，研究会 Ⅳと Ⅴ は必修ではない。

3～4 年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 19 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

＊基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科　目　名	単位数	講　師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春 2／秋 2	大石　　裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春 2／秋 2	鈴木　雄雅
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春 2／秋 2	奥野　昌宏
三田設置科目	メディア社会論Ⅰ（法学部併設）	秋 2	藤田　真文
三田設置科目	メディア法制Ⅰ	春 2	宿南達志郎
三田設置科目	メディア法制Ⅱ	秋 2	大石　泰彦
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	伊藤　高史
三田設置科目	世論Ⅰ	秋 2	竹下　俊郎
三田設置科目	情報行動論Ⅰ	春 2	川浦　康至
三田設置科目	異文化間コミュニケーションⅠ	春 2	白水　繁彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春 2	小川　葉子
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋 2	岩渕　功一
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ	春 2	菅谷　　実
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅱ	秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム総合講座Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	大石・荒田・伊藤高
三田設置科目	コミュニケーション調査法Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	伊藤　陽一
三田設置科目	フジテレビ寄附講座　テレビメディア論Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	石丸・菅谷・豊嶋

＊研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	萩原　　滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	菅谷　　実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	金山　智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	小川　葉子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	大石　　裕
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	伊藤　陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	金　　正勲
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	豊嶋　基暢
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅵ）	春 2／秋 2	藤田　結子

＊特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ	春 2	鈴木　祐司
三田設置科目	放送特殊講義Ⅱ	秋 2	村尾　尚子
三田設置科目	フジテレビ寄附講座　特殊研究Ⅰ・Ⅱ（テレビ・ジャーナリズム）	春 2／秋 2	安倍　宏行
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	木村　良一
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	升野　龍男
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	秋 2	工藤　卓男
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋 2	堀主知ロバート
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春 2／秋 2	小川　浩一
三田設置科目	特殊研究Ⅲ（市民とメディア）	秋 2	金山　智子
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	菅谷･小川･豊嶋･藤田

＊基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	高須賀茂文
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	河内　　孝
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ	春 2	金山　智子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅱ	秋 2	渡辺真由子
三田設置科目	映像コンテンツ制作Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	大久保　成
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習Ⅰ・Ⅱ	春 2／秋 2	田辺　浩介

★印は朝日新聞寄附講座

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論Ⅰ（春）
マス・コミュニケーションと政治　　大　石　　裕

授業科目の内容：
本講義は，マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが，具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際，ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：
・大石裕『コミュニケーション研究（第2版）』慶應義塾大学出版会

参考書：
・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房

授業の計画：
1回　コミュニケーションの類型
2−3回　大衆社会モデル：弾丸効果モデル
4−5回　限定効果モデル
6−7回　強力効果モデル
8−9回　強力影響・機能モデル
10回　批判モデル
11−12回　ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント：
時事問題，とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して，随時解説を行うので，受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法：
・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論Ⅱ（秋）
ジャーナリズムとメディア言説　　大　石　　裕

授業科目の内容：
①ジャーナリズムに関する理論的考察（ニュース論や客観報道論など），②言説分析によるニュース分析，③メディア・イベントとメディア言説，に関して講義する。

テキスト：
・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書：
・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
・鶴木眞編『客観報道』成文堂
・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社

授業の計画：
1−2回　マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
3回　アジェンダ設定メディアとしての新聞
4回　日本のジャーナリズム論の理論的課題
5−6回　ニュース分析の視点
7−8回　客観報道論再考
9−10回　集合的記憶とマス・メディア
11−12回　メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント：
時事問題，とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して，随時解説を行うので，受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法：
・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史Ⅰ（春）
日本の近代化とジャーナリズム　　鈴　木　雄　雅

授業科目の内容：
ジャーナリズムの発展について概説する。文字の誕生から紙，印刷などの複製技術の出現，通信，交通手段の発展が，ジャーナリズムの形式を規定していく状況を眺める。さらに幕末日本に新聞，雑誌が出現してから近代新聞が成長し，その過程でジャーナリズムの機能がどのように近代日本の社会発展と関わりあってきたかを考察する。授業スケジュール・参考文献類については，最初の講義時に発表。
授業サイト URL
http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide07.html

テキスト：
春原昭彦『日本新聞通史［四訂］』（新泉社，2003）

参考書：
宮地正人『国際政治下の近代日本』（山川出版社）ほか。講義時に紹介する

授業の計画：
1. 幕末期から明治初期：瓦版，新聞紙，近代化とメディア，開港場に新聞，英字紙の発達，幕末新聞の特色
2. 慶応4年（明治元年）の新聞紙，日刊紙の登場：明治のコミュニケーション革命
3. 明治初期の新聞界：奨励策と新聞弾圧，小新聞の登場，自由民権運動の勃興と言論機関
4. 明治14年の政変と新聞の政党化：民権派新聞と新聞の脱政党化
5. 明治の新聞人：日清戦争，日露戦争と新聞界
6. 資本主義の成立と商業新聞の成立（新聞の企業化）
7. 政治的キャンペーンとマス・メディアの成立：ラジオの出現と出版・雑誌界の動き
8. 戦時統制への過程，軍の干渉と新聞人の抵抗，製紙会社，通信社の統合
9. 情報局の成立，統制法規の制定，新聞社の統合，戦時下の新聞
10. 敗戦と占領下の新聞，独立回復と復興への歩み
11. 戦後の新聞界の新しい動き（言論性，販売，広告界の変化，技術革新とその対応）
12. テレビ，週刊誌の出現によるメディアの多様化
13. 現代の変化とジャーナリズムの役割

履修者へのコメント：
日本の近代史についてある程度の知識が必要（高校程度の日本史，世界史）

成績評価方法：
学期末試験・出席状況・授業態度などの総合

質問・相談：
授業中ならびに授業後，Eメール

マス・コミュニケーション発達史Ⅱ（秋）
イギリスのジャーナリズム　　鈴　木　雄　雅

授業科目の内容：
ジャーナリズム揺籃の地といわれるヨーロッパ地域のマス・メディアについて学ぶ。外国のマス・メディアを学ぶ基礎的知識・オリエンテーションののち，イギリス・ジャーナリズムの歴史，現状，問題点を探る。
適時，ヨーロッパのマス･メディア，ジャーナリズムの問題をとりあげるが，国際的なマス・メディア産業の動態分析やジャーナリズム研究にとどまらず，その形成過程に多大な影響を及ぼす政治体制や社会構造の変化にも注目する。さらに，常に日本の状況と比較しながら，現代ヨーロッパのマス・メディアの構造と機能を研究する。授業スケジュール・参考文献類については，最初の講義時に発表。
授業サイト URL
http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/keio/guide07.html

テキスト：
とくに指定しない。適時指示する。

参考書：

Euromedia Research Group, *The Media in Europe: The Euromedia Handbook* London: Sage,2004.

授業の計画：

以下の項目について，2 回程度の講義を行う予定。

1. オリエンテーション　ヨーロッパのマス・メディア
2. イギリスのジャーナリズム (1) ジャーナリズムの発生
   日刊紙出現までの英国新聞界の発達過程を概観し，「言論の自由」の概念を考える。
3. イギリスのジャーナリズム (2) ジャーナリズムの近代化
   大衆紙の登場とジャーナリズムの変容
4. イギリスのジャーナリズム (3) 20世紀のメディア・バロンの登場
5. イギリスのジャーナリズム (4) 戦後のイギリス・ジャーナリズム界
   放送の出現とジャーナリズムの衰退
6. イギリスのジャーナリズム (5) 現代ジャーナリズムの抱える諸問題
   1980 年代以降のジャーナリズムの変化

履修者へのコメント：

英国通史ほか英国社会・文化史の基礎知識が必要です。

成績評価方法：

学期末試験・出席状況・授業態度などの総合評価

質問・相談：

授業中ならびに授業後，E メール

国際コミュニケーション論Ⅰ（春）

メディアと国際関係　　**奥　野　昌　宏**

授業科目の内容：

コミュニケーション・メディアを媒介にした国際間の情報・文化の流通にかかわる諸問題を考えていきます。メディアの発達は私たちが関係する世界を拡大してきましたが，一方でさまざまな問題も惹起させており，時として国際的な紛争をも生じさせてきました。

この授業では，コミュニケーションとは何か，メディアとは何か，といった基本的な点から出発して，国際コミュニケーションとは何かという論題に至り，このテーマに関連する諸問題を考察していきます。マス・メディアを中心とするコミュニケーション・メディアと国際的な情報や文化のかかわり，すなわち講義の国際関係を考えることがこの授業の中心です。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

授業の計画：

1. コミュニケーション，メディア，そして国際コミュニケーション
2. メディアの発達と国際的進展
3. マス・メディアの国際化と新世界情報コミュニケーション秩序論争
4. メディアのグローバル化と国際的再編成
5. メディアと国際関係：情報と文化の諸相

それぞれについて 2～3 回の授業を行ないます。

上記のほか，国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが，授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
・授業内試験の結果による評価
・平常点（出席状況および授業態度による評価）

国際コミュニケーション論Ⅱ（秋）

東アジアのメディア・情報・文化　　**奥　野　昌　宏**

授業科目の内容：

東アジアにおけるメディア状況とメディアを介した情報・文化の流通にかかわる諸問題について考えていきます。メディアの発達によって近隣諸国との関係はより緊密になってきましたが，それと同時にさまざまな軋轢も拡大させています。メディアは国際理解の促進役となりますが，時として国際間の紛争を増幅する装置としても働いています。

この授業では，韓国と中国を中心に，東アジアのメディア状況を概観した上でそれらの国々と日本との関係を，国際コミュニケーションの視点から考察します。各国のメディアが情報や文化をめぐる交流と葛藤にどうかかわっているのか，当該地域の人びとの国際理解の促進あるいは阻害の要因としてどのような働きをしているのか。こうした点をともに考えていきたいと思います。

テキスト：

特に定めません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

授業中に適宜紹介します。

授業の計画：

1. ガイダンス：東アジアのメディア概観
2. 韓国のメディア状況と社会・文化
3. 中国のメディア状況と社会・文化
4. 東アジアにおける日本の大衆文化
5. 「韓流」文化の生産と受容
6. 東アジアの国際関係とメディアの役割

それぞれについて 2～3 回の授業を行ないます。

上記のほか，国際コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと思います。そのため授業の進行が多少変更になることがあります。

また必要に応じてビデオ等の視聴覚素材も使用したいと考えています。

履修者へのコメント：

授業は基本的に講義形式で進めますが，授業中に小テストやエッセイなどを課します。これらの課題も成績に反映させます。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
・授業内試験の結果による評価
・平常点（出席状況および授業態度による評価）

メディア社会論Ⅰ（秋）

メディア・コンテンツへの物語論的接近　　**藤　田　真　文**

授業科目の内容：

この授業では，物語論という方法を中心にメディア・コンテンツを分析していきます。授業の約 3 分の 2 は，『ギフト』（1997 年放送）というテレビドラマを分析対象にして，物語構造，映像表現，メディア特性，社会的コード，視聴者による読解など多様な観点からテレビ・テクストの分析を試みます。残りの約 3 分の 1 は，ニュースや CM など他のコンテンツに物語分析を応用していきます。

各回の前半に分析方法を解説し，後半にはドラマの映像を見ながら分析を実践していきます。

テキスト：

藤田真文『ギフト，再配達』せりか書房（2006 年）

補助的に毎回授業中にプリントを配布します（原則として再配布はしません）。

授業の計画：

1. テレビ・テクストの進行 ― 統辞構造［←構造主義・物語論・記号論］
2. テレビ・テクストの時間 ― ストーリーとプロット［←物語論・文学理論］
3. テレビ・テクストの人物関係 ― 範列構造［←構造主義・物語論・記号論］

4. テレビ・テクストの映像表現［←映像論・映像記号論］
5. テレビ・テクストにおける語りと視点［←映像論・文学理論］
6. テレビ・テクストのメディア特性と相互テクスト性［←メディア論・構造主義］
7. テレビ・テクストと社会的コード ― ジェンダー／階級[←フェミニズム論・社会学・記号論］
8. テレビ・テクストにおける登場人物と役者［←精神分析・身体論・映像論・演劇論］
9. テレビ・テクストと視聴者読解 ― 意味をめぐる相互作用・闘争［←読者論・カルチュラル・スタディズ］
10. テクストの責任／視聴者の責任 ― 『ギフト事件』をめぐって［←作家論／読者論・メディア倫理］
11. 他のテクストへの応用① ― 物語としてのニュース
12. 他のテクストへの応用② ― 物語としての CM
13. まとめ

履修者へのコメント：

テレビドラマは比較的なじみのある分析対象ですが，この授業によって常識的なテレビドラマ観を超えてメディア・コンテンツについての新たな視点を提供できればと思っています。

成績評価方法：

・試験の結果による評価（定期試験期間中に実施。評価の 50%）
・レポートによる評価（授業の中間で課題を与える。評価の 50%）

メディア法制Ⅰ（春）
インターネットと情報法　　**宿　南　達志郎**

授業科目の内容：

インターネット時代におけるメディア関連法の枠組みと課題について学ぶ。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

宇賀克也，長谷部恭男編著『法システムⅢ：情報法』放送大学教育振興会（放送大学教材），2006 年
舟田正之，長谷部恭男編『放送制度の現代的展開』有斐閣，2001 年
宿南達志郎「迷惑メール対策の有効性に関する分析」『メディア・コミュニケーション No.57』，2007 年 3 月

授業の計画：

(1) オリエンテーション
(2) 情報倫理
(3) 放送法制（2 回）
(4)
(5) 通信法制（2 回）
(6)
(7) 個人情報保護
(8) 電子商取引（2 回）
(9)
(10) 知的財産法（2 回）
(11)
(12) 迷惑メール対策法
(13) まとめ

成績評価方法：

・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア法制Ⅱ（秋）
「取材・報道の自由」の現状と課題　　**大　石　泰　彦**

授業科目の内容：

本講義は，「取材・報道の自由」をキーワードに，マス・メディア（新聞社・放送局など）やジャーナリストの取材・報道活動にかかわるさまざまな法制度を取り扱う。受講者が，マス・メディア（ジャーナリスト）がひきおこすさまざまな事件について，単に印象批評や感情論ではなく理論的・学問的に分析・批判できるようになること，それがこの講義の目標である。

テキスト：

大石泰彦著『メディアの法と倫理』（嵯峨野書院, 2004 年, 2500 円）

参考書：

特に指示しない。ただ，堀部政男・長谷部恭男編『メディア判例百選』（別冊ジュリスト，有斐閣）は，授業において手薄になりがちな判例に関する知識を補うのに役立つと思われる。

授業の計画：

1. 取材・報道の自由とは何か
2. 行政取材の自由と国家秘密
3. 取材・報道の自由を裏打ちするもの
4. 名誉毀損
5. プライバシー侵害
6. 放送法制

ひとつのテーマに，約 2 回の講義をあてる。

履修者へのコメント：

継続的に新聞を読み，テレビ・ニュースを見る意欲・時間のない者や，「メディアの倫理」を考える授業にふさわしい「学生の倫理」を身につけていない者の受講は望まない。

成績評価方法：

・試験の結果による評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム論Ⅰ（春）
ジャーナリズムと「表現の自由」　　**伊　藤　高　史**

授業科目の内容：

ジャーナリズムが抱えている問題点や課題を，「表現の自由」との関連で解説する。ジャーナリズムについて，一般にどのような問題点が指摘されているのかを整理し，「表現の自由」は今日，どのような状況に置かれているのかを理解させることが目的である。

参考書：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版）

授業の計画：

次の講義計画で講義を行います。

① ガイダンス
②「表現の自由」概論とジャーナリズムの定義，存在意義など（日本国憲法における「表現の自由」の位置づけなど）（3 回）
③ ジャーナリズムと人権を巡る問題（メディアによる人権侵害，差別表現など）（3 回）
④ ジャーナリズムの組織に関わる問題（記者クラブ，メディアの経営問題など）（3 回）
⑤「表現の自由」に関わる法律上の動き（司法判断の流れなど）（3 回）

履修者へのコメント：

教科書はもちろんのこと，指定した参考書など，本をよく読んで授業にのぞむこと

成績評価方法：

試験の結果による評価（原則として，試験のみで成績をつける。教科書の持込は可の予定）

質問・相談：

随時受け付けます。

ジャーナリズム論Ⅱ（秋）
ジャーナリズム研究と社会理論　　**伊　藤　高　史**

授業科目の内容：

ジャーナリズム論Ⅰの内容を踏まえて，ジャーナリズムを社会理論との関連で考える。具体的にどのような報道活動が社会を動かし，そのような報道活動がいかにして生み出されたのかを，実証的かつ理論的に考える力を養成するのが目的。

参考書：

伊藤高史著『表現の自由の社会学』（八千代出版）

授業の計画：
① ガイダンス
② 権力理論とジャーナリズム（2 回）
③ 情報操作とジャーナリズム（2 回）
④ ブルデューの社会理論とジャーナリズム（2 回）
⑤ アジェンダ構築モデルとジャーナリズム（3 回）
⑥「表現の自由」とジャーナリズム（3 回）

履修者へのコメント：
教科書はもちろんのこと，指定した参考書など，本をよく読んで授業にのぞむこと。

成績評価方法：
試験の結果による評価（原則として，試験のみで成績をつける。教科書は持ち込み可とする予定）

質問・相談：
随時受け付けます。

世論Ⅰ（秋）
メディアと世論　　**竹　下　俊　郎**

授業科目の内容：
メディアコミュニケーション，とりわけマスコミュニケーションが，世論の形成や変化とどう関わっているかという問題を主に取り上げる。さらに，世論と政策過程との関連についても触れる予定。

テキスト：
蒲島郁夫・竹下俊郎・芹川洋一『メディアと政治』有斐閣アルマ，2007 年刊行予定。

参考書：
竹下俊郎『メディアの議題設定機能』学文社，1998 年，3,000 円

授業の計画：
(1) 世論をどう定義するか
(2) 戦時宣伝の技法
(3) 放送の大衆動員力：メディアイベントが人を動かす〔1〕
(4) 〃 〔2〕
(5) 選挙キャンペーンと投票行動
(6) 限定効果論の成立と再検討
(7) 現実認識へのメディアの影響：議題設定・プライミング・フレーミング〔1〕
(8) 〃 〔2〕
(9) 価値観・イデオロギーへのメディアの影響：培養理論
(10) 世論過程の動態：沈黙のらせん・第三者効果・空気
(11) メディア・世論・政策過程
(12) ネットとクチコミ
(13) まとめ

成績評価方法：
試験の結果による評価

質問・相談：
授業中・授業後に受け付けます。

情報行動論Ⅰ（春）
ケータイの社会心理学　　**川　浦　康　至**

授業科目の内容：
携帯電話に限定して，パーソナルメディアと対人コミュニケーションのかかわりを考える。

テキスト：
特になし。

参考書：
授業中，随時紹介する。

授業の計画：
1. ガイダンス：授業の進め方など
2. ケータイの歴史
3. メールと通話
4. メールアドレス
5. メール文体
6. 対人過程とケータイ
7. 対人関係とケータイ
8. モノとしてのケータイ
9. ケータイのある生活
10. ネットとケータイ
11. ケータイと社会摩擦
12. ケータイライフの今後
13. まとめ

履修者へのコメント：
受講希望者は第 1 回から出席すること。

成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

異文化間コミュニケーションⅠ（春）
メディアによるイメージ形成と受け手の解釈
白　水　繁　彦

授業科目の内容：
民族や地域社会など，ひろく集団や地域のイメージの形成にはメディアが深く関わってきた。それが当該集団や地域の理解を助けたり，阻害したりしてきた。この授業では，実際にメディアがイメージ形成に関わっている事例をとりあげ，その制作意図を探り，また受け手がそれをどう解釈するか，といったことがらを検討してみたい。

テキスト：
なし。パワーポイントやビデオによる資料提示。

参考書：
・白水繁彦『エスニック文化の社会学』日本評論社　1998 年
・山中速人『イメージの「楽園」―観光ハワイの文化史』筑摩書房　1992 年

授業の計画：
1～2　異文化間コミュニケーションとは
異文化間コミュニケーションの諸相，異文化間コミュニケーションの社会心理学
3～4　メディアのイメージ形成力
メディアメッセージと人びとの知覚，認知：メディアの社会心理学
状況の定義づけ，社会学的事実とメディアメッセージ：メディアの社会学
4～5　民族集団のイメージ形成と宣伝　ヒットラー，ゲッペルスの世界
6～8　地域社会のイメージ形成
ハワイの例，湯布院の例
9～10　「沖縄」イメージ形成の形成
ハワイのウチナーンチュ・ムーブメント
沖縄のウチナーンチュ・ムーブメント
11～12　ワークショップ　メディアメッセージの分析
広告の分析実践　高級ブランドの広告分析，観光フライヤー等の分析
13　全体のまとめ

履修者へのコメント：
好奇心旺盛で，熱心な学生の履修を望みます。授業時間中にしばしばエッセイを書かせます。また，頻繁に質問を発します。それに答える必要がありますので，旺盛な参加意欲が必要です。

成績評価方法：
1. 試験の結果による評価　50％
2. レポートによる評価　エッセイの本数と内容の評価　50％
3. 平常点：上記の 2. と同様

質問・相談：
できれば授業中または授業後に直接質問してください。時間がないときはメールによる質問も受け付けますが返事に時間がかかる場合があります。

メディア文化論Ⅰ（春）
映画コンテンツとクロス・メディア研究　　小　川　葉　子

授業科目の内容：
メディアやジャンルを横断するような映画の名作を視聴し，ディスカッションをおこなうことで，クリエイティヴなメディア文化の担い手を養うことを目的とする。教員の指定リストのなかから，履修者の希望をきいて，毎回映画の上映，ディスカッション，レポート（数回）をおこなう。最後の数回は，履修者自身がぜひ観てもらいたい映画の上映と解説，プレゼンテーションを予定している。

テキスト：
授業中に指示する。

参考書：
授業中に指示する。

授業の計画：
(1) ガイダンスおよび導入
(2) エンタテインメントの歴史（2 ～ 14 は適宜選択）
(3) ニュース
(4) 新聞とジャーナリズム
(5) 人種とエスニシティの表象
(6) ドキュメンタリー
(7) フィルム・ノアール
(8) ミュージカル
(9) スリラーとサスペンス
(10) 古典的物語
(11)
(12) ポストモダニズム
(13) 北欧映画
(14) アジアその他の地域の映画
(15) 映画上映と履修者によるプレゼンテーション（3 回）

履修者へのコメント：
そののちのディスカッションを充実させるため，映画上映中の PC，携帯電話等の使用は控えて下さい。

成績評価方法：
・平常点（出席，授業態度，およびプレゼンテーション）
・数回の小レポート

質問・相談：
授業終了後，あるいは履習者に指示するオフィス・アワーか事前のアポイントメントにより受付ます。

メディア文化論Ⅱ（秋）　　岩　渕　功　一

授業科目の内容：
グローバル化が進展するなかでのメディアと文化の諸問題について考察します。理論と具体例をつなぎ合わせて，世界規模での不均衡と排他的な国境の再生産と，それを乗り越える越境対話の可能性について議論したいと思います。

テキスト：
・「トランスナショナル・ジャパン」（岩渕功一著，岩波書店）
・「文化の対話力」（岩渕功一著，日本経済新聞社）

参考書：
授業中に配布・指示します。

授業の計画：
1. ガイダンス，序（1 回）
2. 文化のグローバル化，脱中心化と東アジア（4 回）
3. 日本における「ソフトパワー」の批判的考察（3 回）
4. 国境の管理とトランスナショナリズム（3 回）
5. ファイナルプロジェクト・プレゼンテーション，統括（2 回）

履修者へのコメント：
プレゼンテーション・討論を中心に授業を進めるので，学生諸君の積極的な参加を期待します。

成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業と政策Ⅰ（春）
メディア政策基礎理論と映像産業政策　　菅　谷　　実

授業科目の内容：
前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論，後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト：
菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』（丸善，2002 年）

授業の計画：
本年は以下の予定で講義を進めます。
オリエンテーション (1)
Ⅰ　基礎理論 (5)
　1　メディア政策
　2　政府規制
　3　メディア市場
Ⅱ　映像コンテンツ産業 (6)
　4　映像コンテンツと映画
　5　映画産業の発展
　6　映像振興政策（欧州，米国，日本）
Ⅲ　まとめ (1)
　7　メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：
コンテンツ産業，映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：
基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。

質問・相談：
毎回講義終了時に質問，相談を受け付けます。

メディア産業と政策Ⅱ（秋）　　宿　南　達志郎

授業科目の内容：
メディア産業に関する政策の動向と今後の課題について日米の比較を行いながら学習していく。

テキスト：
特に指定しない

参考書：
・田原茂行『視聴者が動いた巨大 NHK がなくなる』草思社，2005年
・鈴木健二『地方テレビ局は生き残れるか』日本評論社，2004 年
・谷脇泰彦『融合するネットワーク』かんき出版，2005 年

授業の計画：
(1) オリエンテーション
(2) 放送政策（5 回）
　■ マスメディア集中排除原則
　■ NHK のあり方
　■ 放送のデジタル化
　■ CATV，衛星放送の高度化
(3) 通信政策（3 回）
　■ ネットワークの中立性
　■ 周波数政策
　■ 放送と通信の融合
(4) コンテンツ政策（3 回）
　■ 著作権保護政策
　■ 作り手の育成とローケーション誘致
　■ 海外のコンテンツ政策
(5) まとめ

履修者へのコメント：
情報メディア産業に関心のある学生の履修を歓迎します。

成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

情報産業論Ⅰ（春）
メディア産業概論　　**宿　南　達志郎**

授業科目の内容：
メディア産業について，産業構造，経営戦略，利便性などの観点から，歴史的経緯や今後の課題などについて概要を学びます。ビデオなどを活用して理解しやすく講義します。
テキスト：
特に指定しない
参考書：
・宿南達志郎など著『メディア産業論』有斐閣，2006 年
・電通総研編『情報メディア白書 2007』ダイヤモンド社，2006 年
・総務省編『情報通信白書　平成 18 年版』ぎょうせい，2006 年
授業の計画：
(1) オリエンテーション
(2) メディア産業の歴史（2 回）
(3) 各産業分野の現状と将来
■ コンピュータ業界（2 回）
■ 通信業界（2 回）
■ 放送業界（2 回）
■ 新聞業界（1 回）
■ 出版業界（1 回）
■ 音楽業界（1 回）
(4) まとめ
履修者へのコメント：
情報メディア産業に関する関心がある学生の履修を歓迎します。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

情報産業論Ⅱ（秋）
インターネット・ビジネス論　　**宿　南　達志郎**

授業科目の内容：
インターネット・ビジネスについて，その特徴や伝統的なビジネスへの影響などを学びます。また，携帯やデジタル放送などを活用した新しいビジネスモデルの可能性についても学びます。
テキスト：
特に指定しない
参考書：
・(財) インターネット協会『インターネット白書 2006』インプレス社，2006 年
・クリスアンダーソン『ロングテール』早川書房，2006 年
・梅田望夫『ウェブ進化論　本当の大変化はこれから始まる』筑摩新書，2006 年
・宿南達志郎『e エコノミー入門』PHP 研究所，2000 年
授業の計画：
(1) オリエンテーション
(2) インターネット・ビジネスの理論的背景（2 回）
(3) インターネットによる業界の変革（5 回）
■ エンターテインメント産業
■ 広告業
■ 金融業
■ 流通業
■ 製造業
(4) インターネットビジネスの事例研究（4 回）
■ Google
■ アマゾン
■ ミクシィ
■ DeNA
(5) まとめ
履修者へのコメント：
インターネット・ビジネスに関心がある学生の履修を歓迎します。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座Ⅰ（春）　　**大　石　　裕**
朝日新聞社寄附講座　　**荒　田　茂　夫**
伊　藤　高　史

授業科目の内容：
本講座は，朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど，ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし，ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題，およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。
テキスト：
なし
参考書：
授業中に指定する。
授業の計画：
朝日新聞の記者の方など，外部の方々をお招きし，約 1 時間程度講義していただき，その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は，第 1 回目の授業の際に発表する。なお，平成 18 年度の授業日程は，メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。
履修者へのコメント：
出席者は，よく新聞を読み，積極的に質問することのほか，頻繁にレポート等の課題が課されてることを覚悟すること。また当然であるが，外部から招いた講師に講義をしていただくため，私語や遅刻など，講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。毎回の感想文提出に加えて，最低 2 度のレポートを課す。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム総合講座Ⅱ（秋）　　**大　石　　裕**
朝日新聞社寄附講座　　**荒　田　茂　夫**
伊　藤　高　史

授業科目の内容：
本講座は，朝日新聞社の記者やフリーのジャーナリストなど，ジャーナリズムの活動に日々携わっていらっしゃる方々をお招きし，ジャーナリズムと新聞産業に関わる諸問題，およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。
テキスト：
なし
参考書：
授業中に指定する。
授業の計画：
朝日新聞の記者の方など，外部の方々をお招きし，約 1 時間程度講義していただき，その後質疑応答を行う。講師やテーマなど授業計画の詳細は，第 1 回目の授業の際に発表する。なお，平成 18 年度の授業日程は，メディア・コミュニケーション研究所のウェブサイトを参照されたい。
履修者へのコメント：
出席者は，よく新聞を読み，積極的に質問することのほか，頻繁にレポート等の課題が課されてることを覚悟すること。また当然であるが，外部から招いた講師に講義をしていただくため，私語や遅刻など，講師の方々に対して失礼な行為は一切認めない。ただ出席していれば単位が認められるということではない。毎回の感想文提出に加えて，最低 2 度のレポートを課す。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

コミュニケーション調査法Ⅰ（春）
新聞の内容分析によって，世論，新聞論調，政府の政策の変化を数量的に把握する　　**伊　藤　陽　一**

授業科目の内容：
本授業では新聞の内容分析を目的としてデータベースの検索，標本抽出，内容分析，表とグラフの作成，調査レポートの書き方等について実地に学ぶ。第 2 回以降，表計算ソフト「エクセル」が入っており，しかもインターネットとの接続が可能なラップトップ・コンピュータが必須となる。
テキスト：
使用しません。
参考書：
・伊藤陽一「住専問題に見る政府・マスコミ・世論の三極関係」
・SFC フォーラム事務局（編）『SFC フォーラム・ファイルⅠ：コラボリューション』慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス　1998 年
授業の計画：
第 1 回　：オリエンテーション：達成目標の提示
第 2 回　：資料検索・標本抽出 (1)：必要とする記事を検索するための「キーワード」を選定する
第 3 回　：資料検索・標本抽出 (2)：新聞記事のオンラインデータベースにアクセスし，必要な記事をダウンロードする。
第 4 回　：資料検索・標本抽出 (3)：分担してダウンロードされた記事を1つにまとめて「標本データベース」を作成する。
第 5 ～ 6 回：コーダー訓練：コーダー間一致度を計算しながら，コーダー達が正しく入力できるよう訓練する。
第 7 ～ 8 回：データ入力
第 9 ～10回：図表の作成
第11～12回：レポートの作成 (1)
第13回：まとめと一部学生の中間報告
履修者へのコメント：
社会調査や研究活動に関心がある学生を歓迎します。
成績評価方法：
・レポートによる評価（学期末に1回提出。レポートの構成，書き方については具体的に指導します。）
・平常点：出席状況および授業態度による評価（実習を中心とした授業なので，出席は非常に大切です。3回連続して欠席した学生は，自動的に履修を断念，単位を放棄したものとみなされます。）
質問・相談：
授業終了後に受付ます。

コミュニケーション調査法Ⅱ（秋）
新聞の内容分析による企業・商品・政党・外国イメージの研究
伊　藤　陽　一

授業科目の内容：
春学期においては，内容分析の学術研究への適応を紹介したが，秋学期においては内容分析の実用的・商業的調査への応用について学ぶ。しかし，テーマは統一する必要があるため，今期は外国イメージの研究を実施する。第2回以降，表計算ソフト「エクセル」が入っており，しかもインターネットとの接続が可能なラップトップ・コンピュータが必須となる。
テキスト：
使用しません。
参考書：
・伊藤陽一研究会『自動車会社のイメージ分析：内容分析に基づいて』慶應義塾大学湘南藤沢学会　2005 年
・伊藤陽一研究会『政党のイメージ分析：内容分析に基づいて』慶應義塾大学湘南藤沢学会　2000 年
授業の計画：
第 1 回　：オリエンテーション：達成目標の提示
第 2 ～ 3 回：資料検索・標本抽出：資料検索・標本抽出 (2)：新聞記事のオンラインデータベースにアクセスし，必要な記事をダウンロードする。
第 4 回　：資料検索・標本抽出 (3)：分担してダウンロードされた記事を1つにまとめて「標本データベース」を作成する。
第 5 ～ 6 回：コーダー訓練：コーダー間一致度を計算しながら，コーダー達が正しく入力できるよう訓練する。
第 7 ～ 8 回：データ入力
第 9 ～10回：図表の作成
第11～12回：レポートの作成 (1)
第13回　：まとめと一部学生の中間報告
履修者へのコメント：
社会調査，研究活動に関心がある学生を歓迎します。
成績評価方法：
・レポートによる評価（学期末に 1 回提出。レポートの構成，書き方については具体的に指導します。）
・平常点：出席状況および授業態度による評価（実習を中心とした授業なので，出席は非常に大切です。3 回連続して欠席した学生は，自動的に履修を断念，単位を放棄したものとみなされます。）
質問・相談：
授業終了後に受付ます。

フジテレビ寄附講座　テレビメディア論Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）
民間テレビ放送の現状と将来展望　　**石　丸　省一郎**
菅　谷　　実
豊　嶋　基　暢

授業科目の内容：
半世紀にわたって繁栄を続けてきたわが国の民間テレビ放送は，経済環境の変化，技術革新制度改革などにより，その在り方が大きく変わろうとしている。本講座は，フジテレビの役職員が，自らの実務経験に基づいて各専門分野について講義し，民間テレビ放送の現状と将来展望を考察していくものである。
テキスト：
使用しない
参考書：
使用しない
授業の計画：
テレビメディア論Ⅰ（春学期）では，メディア戦略の要となる編成や報道情報スポーツ，ドラマ，バラエティなどの番組制作について講義し，コンテンツ制作やテレビジャーナリズムに対する理解を深めていく。
テレビメディア論Ⅱ（秋学期）では，マーケティング，ライツビジネス，ネットワーク，衛星や通信をはじめとする他のメディアとの関係など経営戦略にかかわるテーマを中心に講義を行う。
履修者へのコメント：
テレビメディアの影響力は一層強まり，その社会的責任も重くなっている。放送業界以外の分野に進む一般学生の受講も歓迎する。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

【研究会】

研究会（Ⅰ～Ⅵ）
メディアと社会行動　　**萩　原　　滋**

授業科目の内容：
本研究会は，2 年ないし 3 年の在籍期間を通じて，各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い，その成果を研究会の場で逐次報告し，最終的には修了論文に結実させることを目的としている。研究テーマは，メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば，ある程度各自の自由裁量に任されることになるが，単なる感想や思い付きではなく，それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があ

るが，本年度も，基本的には従来の個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト：

春学期開始時に指定する。

授業の計画：

春学期

ガイダンス（1 回）

テキスト講読（6 回）

個人研究テーマの設定，発表（6 回）

（夏合宿にて継続して各自の発表を行う）

秋学期

三田祭論文に向けて（2，3 年生の個人研究発表，6 回）

修了論文に向けて（4 年生の中間報告，3 回）

次年度に向けての研究計画発表（2，3 年生，4 回）

履修者へのコメント：

自分の発表だけでなく，他の人たちの発表にも興味をもって，質問やコメントをしてもらいたい。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

適宜，研究室に来てくだされば，お答えするつもりです。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

メディア産業論を考える　　**菅　谷　　実**

授業科目の内容：

放送，新聞に代表されるマスメディアからインターネット，映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造，ビジネス戦略，メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年，春学期は，共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表，秋学期は，三田祭で発表する共同研究報告書に関わる調査と報告書作成，および 4 年生の修了論文発表を中心に進めます。（2006 年度の共同研究テーマは，ケータイ電話 Be Mobile 2.0）

また，夏合宿，OGOB 会，異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会ホームページ (http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm) を参照してください。

授業の計画：

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが，春学期は，授業でのレポートを中心とし，秋学期は，三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント：

履修者は，授業はもちろんのこと，合宿，論文報告会，その他のゼミイベントにはすべて出席すること。

成績評価方法：

授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。なお研究会Ⅵは修了研究の発表および論文による評価。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

身近なメディア・コミュニケーションの現象を研究する

金　山　智　子

授業科目の内容：

本研究会では，自分たちの興味や関心をもとにメディアに関するテーマを設定し，実際に調査研究することを目的としています。メディアに関しては特定せず，新聞，ラジオ，テレビ，雑誌，インターネットといった一般的な媒体から，ダンス，建物，空間といった媒介にいたるまで，広義の意味でのメディアを対象とします。研究は，文献だけでなく，アンケート，内容分析，インタビュー，そして参与観察といった方法を使って実際に調査を実施し，データを集め，分析を行なっていきます。

テキスト：

特に指定しません。

授業の計画：

個人またはグループでメディア・コミュニケーションに関連する研究を実施してもらいます。一連の研究プロセスは，担当教員との個別コンサルティングを交えながら，ステップ・バイ・ステップで身に付けられるよう指導します。4 年生に関しては，修了論文を中心に個別で指導します。

〈春学期〉

テーマ設定，文献調査，仮説設定，調査法選定

〈秋学期〉

調査実施，データ分析，報告，発表（三田祭）

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会（Ⅰ～Ⅵ）

グローバライゼーションと持続可能なメディアのデザイン

小　川　葉　子

授業科目の内容：

本研究会では比較映像分析を含めて多様なメディアを対象にメディア・リテラシーを研究することを主目的とする。本年度は，環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。本年度は，プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって，ウエアラブル・メディアやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ，健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを模索したい。

テキスト：

・M. リー著『メディア・リテラシー』（りべるた出版，2006 年）

・　　『ファッション中毒』（NHK 出版，2004 年）

その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングのテキスト等を使用予定。

参考書：

M. フェザーストン著，川崎賢一・小川葉子編著訳『消費文化とポストモダニズム』（上・下巻，恒星社厚生閣，2002 年）

授業の計画：

春学期

(1) ガイダンスおよび導入（2～3 回）

(2) ファッション・ジャーナリズムと科学ジャーナリズム（2～3 回）

(3) デザイン言語とマーケティング戦略（2～3 回）

(4) デザイン・コミュニケーションをめぐる産業と流通の構造プロセス（2～3 回）

(5) グローバルな市場と規制および NPO 等の役割（2～3 回）

(6) 個人（あるいは 2～3 名）のプロジェクトテーマ（記事タイトル）設定と発表，春学期のまとめ（1～2 回）

秋学期

(1) 秋学期全体のスケジュールと作業プラニング(1～2 回)

(2) 個人（あるいは 2～3 名）のプロジェクトテーマ（記事タイトル）設定と発表（2 回）

(3) フィールドワーク（2 回）

(4) 個人あるいはグループプロジェクトによる記事および作品の制作（2 回）

(5) (4) のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評（2 回）

(6) 三田祭発表とフィードバック

(7) まとめ，未来のデザイン・コミュニケーションとは（1～2 回）

履修者へのコメント：

フィールドワークは，経済産業省，環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国のジャーナリズムや映画批評に親しんでおいて下さい。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

・ファッション・ジャーナリズム記事かそれにかわる作品による評価

質問・相談：
授業終了直後，あるいは履習者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）
ジャーナリズムを考える　　**大　石　　裕**

授業科目の内容：
最初の数回は，ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み，それ以降は班分けし，新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。
テキスト：
大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
参考書：
田村紀雄ほか編『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社
授業の計画：
〔前期〕
1～2回　基本的な文献の講読
3～13回　2，3年生を中心とした研究発表と討議
〔後期〕
1～10回　2，3年生を中心とした研究発表と討議
11～13回　4年生の修了論文発表
履修者へのコメント：
新聞のみならず，ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。
成績評価方法：
平常点による。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）　※新規募集なし（2007年度で終了のため）
情報化と近代化　　**伊　藤　陽　一**

授業科目の内容：
「情報化」（情報技術が発達し，マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し，情報流通量が増大する現象として定義される）が「近代化」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には，「近代」の特質である民主主義，合理主義，個人主義，資本主義が，「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか，あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。
テキスト：
・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」関口一郎（編）『コミュニケーションのしくみと作用』大修館，1999年
・その他，講読する論文を授業で配布する。
参考書：
・有吉広介（編）『コミュニケーションと社会』芦書房，1990年
・津田幸男・浜名恵美（共編）『アメリカナイゼーション：静かに進行するアメリカの文化支配』研究社，2004年
授業の計画：
第1回　オリエンテーション：研究会の目的，求められる心構え，基礎理論に関する講義等
第2回　先学期の学生の期末レポート内容の報告①
第3回　先学期の学生の期末レポート内容の報告②
第4回　以降は，指定された論文講読を行う。講読する論文は履習者の関心，専門分野を知った上で決めたい。
履修者へのコメント：
研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。歴史や理論に強い人，関心を持っている人を歓迎します。
成績評価方法：
・「三田祭参加論文」と期末レポート
・授業における発言の頻度と質は重要です。
質問・相談：
この研究会は2007年度で終了となりますので2年生は注意して下さい。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）
メディア融合時代のクリエイティブ産業に関する研究
金　　正　勲

授業科目の内容：
クリエイティブ産業 (Creative Industries) とは，映画，放送，出版，音楽，広告，ゲーム等，人間の創造性に基盤を置く産業です。デジタル革命やメディア間の融合が既存のクリエイティブ産業にもたらす産業的・文化的・社会的・政策的インプリケーションについて研究します。
テキスト：
授業中に適宜指定する。
参考書：
授業中に適宜指示する。
授業の計画：
(1) 春学期
ガイダンス（計1回）
学生による News Clipping，輪読，レクチャー（計9回）
メディア・コンテンツ関連企業訪問（計2回）
ゲストとの対談（計1回）
ゼミ生は独自の研究テーマを設定の上，夏休合宿において研究発表
(2) 秋学期
学生による News Clipping，輪読，レクチャー（計10回）
メディア・コンテンツ関連企業訪問（計2回）
ゲストとの対談（計1回）
履修者へのコメント：
本研究会では，常に自分の視点を持ち，他者とコミュニケーションをすることで相互に高め合う，そういう創発的なコミュニティを目指します。単位取得の目的ではなく，自分を高めるために全力を尽くす決意のある学生を希望します。私も全力を尽くします。
成績評価方法：
平常点：出席点及び授業態度による評価。
質問・相談：
質問等は，kim@dmc.keio.ac.jp まで遠慮なく。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）
情報通信メディアの進展に関する研究　　**豊　嶋　基　暢**

授業科目の内容：
情報通信技術の急速な発達により，昨今ではユビキタスネットワーク社会（いつでも，どこでも，誰とでも，何でもネットワークに簡単につながり，利用できる社会）の到来が期待されています。本研究会では，情報通信ネットワークの高度化，多様化がメディア産業やライフスタイルにどのような変化をもたらしていくのか，また，それに伴い解決すべき諸課題について考察・議論していきます。
テキスト：
特に指定しません。
参考書：
・総務省編「情報通信白書　平成18年度版」ぎょうせい，2006年
・野村総合研究所著「これから情報・通信市場で何が起こるのか IT市場ナビゲーター2006年版」東洋経済新報社
・情報通信総合研究所編「情報通信アウトルック2006　IT大融合の時代」NTT出版
授業の計画：
（春学期）
ガイダンス及び導入（2～3回）
共通テーマと関連する文献の調査，発表等
（秋学期）
各個人又はグループでテーマを設定して研究を行ってもらう予定です。
履修者へのコメント：
本研究会は積極的に議論することを大事にします。議論を深め合い，創造的な研究会としていきたいと考えています。情報通信につ

いて関心のある学生の履修を歓迎します。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会（Ⅰ～Ⅵ）
メディアと文化　　**藤　田　結　子**

授業科目の内容：
この研究会では，グローバリゼーション時代の「メディアと文化」を共通テーマとします。参加者は，これに関連する自分自身の研究テーマを自由に設定し（例えば，テレビ番組や広告の国際比較，多文化・多民族社会におけるメディアの役割，日本初の若者文化（ユースカルチャー）・サブカルチャー，そのほか各人の関心のあること），個人研究またはグループ研究を行います。そして，データ収集，インタビューやフィールドワーク，調査結果の分析，発表を行い，研究やメディア制作の仕事に役立つリサーチスキルを身につけることをめざします。
テキスト：
とくに指定しません。講義資料プリントを配布します。
参考書：
授業中に紹介します。
授業の計画：
春学期
・ガイダンス
・個人研究またはグループ研究テーマの設定と発表
・文献のレビュー
・調査方法の検討
秋学期
・調査・研究結果の発表と討論
そのほか，参加者の研究テーマに関連するフィールドトリップ，メディア制作現場のゲストスピーカーなど
履修者へのコメント：
メディアに対する関心にくわえ，外国文化やエスニック文化，国内での文化ムーブメント，または海外での仕事・留学，英語能力の向上など，多文化社会状況に何らかの関心をもつ学生の参加を期待します。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

【特殊研究】

放送特殊講義Ⅰ（春）
放送・番組はどう作られているのか　　**鈴　木　祐　司**

授業科目の内容：
放送・番組にはより多くの人に見てもらうための知恵が込められている。提案・取材・ロケ・編集・コメント・音響効果など，実際の番組制作にそって，放送・番組の特性を解説する。
テキスト：
特に指定なし
参考書：
特に指定なし
授業の計画：
1　ガイダンス
2 ～ 3　番組の構成 ……（構成とは時間の芸術！）
4 ～ 5　オープニングの作り方 ……（オープニングは最強の PR）
6 ～ 7　番組コメント ……（うまいコメントは寡黙）
8 ～ 9　音響効果 ……（音響効果が番組を彩る！）
10 ～11　CM ……（CM とは真実のメッセージ！）
12～13　デジタル化 ……（テレビはどこへ行くのか？）
履修者へのコメント：
一方的な講義はやりません。指名したら必ず何かを答えられる人は，挑戦してみて下さい。
成績評価方法：
・レポートによる評価（授業内で各種リポートを提出して頂きます。）
・平常点：出席状況および授業態度による評価

放送特殊講義Ⅱ（秋）
「テレビニュース」って何だろう？　　**村　尾　尚　子**

授業科目の内容：
「テレビニュース」の現場では，いまいったい何が起きているのか。何を伝えようとしているのか。一線で働くテレビ朝日現職報道局員，キャスター，コメンテーターがその“最前線”と課題を生々しく解説します。そして「テレビニュース」の未来・テレビジャーナリズムのめざす先を考え，探ります。。
テキスト：
特に指定しません
参考書：
特に指定しません
授業の計画：
1　「テレビニュース」総論（序）
2 ～11　「テレビニュース」の現場最前線
（毎週週替わりでテレビ朝日現役社員が担当します）
12～13　テーマ別のフリー討論，リポート発表
「テレビニュース」「テレビジャーナリズム」の未来
※変更の可能性あり
履修者へのコメント：
テレビ好きですか？好きでも嫌いでも―テレビに興味・関心のある人，テレビ局の仕事って何だろうと思っている人，テレビジャーナリズムについて知りたい・考えてみたいと思っている人…歓迎します。
成績評価方法：
・レポートによる評価（レポートを中心に平常点を加味します。）
・平常点：出席状況および授業態度による評価
質問・相談：
講義用ブログ上などで受けつけます。

フジテレビ寄附講座　特殊研究Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）
テレビ・ジャーナリズム　　**安　倍　宏　行**

授業科目の内容：
テレビニュース制作実践。テレビの記者はどのような取材活動を行っているのかを学び，ニュースの問題点や今後のあるべき姿を探る。後期は長尺の映像制作に挑む。
テキスト：
指定なし
参考書：
指定なし
授業の計画：
〈前期〉
1　ガイダンス
2 ～ 5　テレビニュース制作の流れ，記者・アナウンサーの仕事など
6 ～ 9　記者リポート制作・発表
10～13　ミニ企画制作・発表
〈後期〉
1 ～ 3　ドキュメンタリー・調査報道とは，より長い企画を作るには
4 ～ 7　テーマ選定，取材スケジュール作成，リサーチ
8 ～10　撮影・編集
11～13　企画発表
履修者へのコメント：
ジャーリスト志望の人。テレビ局の仕事に興味がある人。ドキュメンタリーや映像企画を制作してみた人，歓迎。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価（映像制作などの評価による。）

新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）
新聞ジャーナリズムを考える
木　村　良　一（産経新聞社　論説委員・編集委員）

授業科目の内容：
新聞記者の仕事のおもしろさを私の体験をもとに話しながら，新聞ジャーナリズムや伝えることの意味についていっしょに考えていきます。
テキスト：
特に指定しません。資料（社説などの記事）を配布します。
参考書：
木村良一著『移植医療を築いた二人の男 ― その光と影』（扶桑社，2002 年，1400 円）
授業の計画：
日々のニュースを新聞各社が社説でどう扱っているのかを比較，検証しながら，①疑うこと　②複眼を持つ　③感動する　④自分の考えを持つ　⑤自分のテーマを捜す―の 5 点を指導しています。私の専門の医療問題を扱うケースが多くなりますが，その他の分野も取り上げます。関係者をゲストに招いて話を聞くこともあります。
履修者へのコメント：
新聞記者を目指す学生だけでなく，「人間」や「社会」に強い関心のある学生ならどなたでも参加してください。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価（レポート提出も検討しています。）

広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）
面白くなければ，講義ではない　　**升　野　龍　男**

授業科目の内容：
「もしもミルクが無かったら」という全米ミルク協会の広告が非常にインパクトをもち，好感を持って迎えられたことがありました。広告の重要性も，これと同じだと思います。
記事やニュースや番組に代表されるマス・コミュニケーション。そのもうひとつの主役が広告です。広告ほど「タフ」で，「受け手の側に立った」繊細な情報作りを心がけているコンテンツもありません。なにしろ，年間 300 兆円を越す個人消費を左右する情報内容ですからね。この実態と，広告の環境変化対応を把握することは，激変している経済社会に直に聴診器を当てることにもなりますし，現代文化を肌で感じ取ることにもなります。
「情報化社会」とは，情報が付加価値ではなく，「主体価値」となる社会。民間小口配達便ではマーケットは切り拓けません。「宅急便」です。小型携帯ステレオも同様。「ウォークマン」というコンセプトが市場を創り出しました。「製品」に価値ある情報が載ってこそ「商品」となります。広告発想とはどのようなものか，広告表現はどのような工程を経て作られるのか，情報の品質管理とはどのようなものか。ブロードバンド化，グローバル化は，広告会社の業態＝ビジネス状態に，どのようなインパクトを与えているか。情報化社会へデビューする若人には欠かせないコンテンツです。
テキスト：
特にありませんが，私の作品，ACC（全日本 CM 放送連盟）フェスティバル入賞作品，最新の広告作品等を使用します。
参考書：
その都度，紹介いたします。
授業の計画：
〈春の講義〉
(1) ガイダンス
(2) 広告作品を見る
　① 昨年の ACC 受賞作品（CM・ラジオ），朝日広告賞，日経広告賞，読売広告賞など
　② CM 殿堂入り作品
　③ あなたも作れる広告作品→学生 CM コンクール作品より
(3) 広告，その誕生からデビューまで
(4) 広告会社の機能
　① 広告代理店は，誰のための代理店なのか
　② 日本と海外の広告代理店の違い
　③ 電通，博報堂，アサツー DK の違い
(5) メディアの機能と変遷＝タッチポイント化
　① 印刷媒体＝新聞・雑誌
　② 電波媒体＝ラジオ・テレビ
　③ 屋外媒体＝イベント・SP・看板
　④ 通信＝ネット，携帯，ポッド
(6) 受講者チームからの発表
〈秋の講義〉
(1) ガイダンス
(2) コンテンツとは何か
(3) コンセプト作りとは，目撃・観察・洞察・発見
(4) 広告表現とは
(5) ブランディングとは
(6) 広告の制作工程
(7) 社会的責任広告の必要性
(8) 広告会社にコンプライアンス・マネジメントが必要な理由
(9) 実例から学ぶ「表現と権利処理の必要性」
(10) 情報狩猟民族の登場と 21 世紀の広告コミュニケーション
(11) チーム発表×2 回
履修者へのコメント：
(1) 広告ビジネスの生々しい実態に触れ，情報化社会の本質を理解する。
(2) 努力の日常化を心がける…「最も身近な義務を果たす＝出席と課題提出」
成績評価方法：
・試験の結果による評価
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価
質問・相談：
メールで受け付けますが，ウイルス感染防止のため必ず大学から送信してください。それ以外は開封いたしません。

メディア特殊講義Ⅰ（秋）
民放テレビの現状と課題　　**工　藤　卓　男**

授業科目の内容：
テレビ東京の体験を通じて民放テレビの実態と展望を探る。
テキスト：
特に指定しません。
参考書：
特に指定しません。
授業の計画：
1. オリエンテーション
2. 民法の現状
3. 編成論
4. 編成―ジャーナリズム的視点からテレ朝報道局事件
5. 制作―コンテンツ
6. 制作―やらせ
7. スポーツ
8. 報道
9. 営業
10. アニメ・映画
11. テレビ直販
12. 著作権
13. エンディング，民放界の展望
※予定テーマです。変更あり。
履修者へのコメント：
マス・メディアの中でテレビ局に関心ある学生を歓迎します。セミナー形式で活発な意見交換したい。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・出席状況および授業態度による評価

質問・相談：
授業後受けます。

メディア特殊講義Ⅱ（秋）
インタラクティブメディア
（（ケータイ／PC）×（TV／雑誌／ラジオ）＝21世紀型メディア）
堀　主知ロバート

授業科目の内容：
みなさんに馴染みの深いケータイ，ネットと雑誌，テレビなど既存媒体を融合させたマーケティング施策について，様々な企業の活用事例を徹底究明し，その成果を分析し，理想と現実のギャップを認識し，本来あるべき21世紀型のマーケティング活動や，ネットの有効な利用施策を模索する授業です。
また，究極の価値を持つインタラクティブメディア，プラットフォームについて企画立案～事業化の検討まで行えるところまでを目標とおきます。
テキスト：
こちらで配布します
授業の計画：
1. 総論。現在の環境についてのコンセンサス
2. 各種インタラクティブメディアの特性と事例
3. テレビ＋モバイル／PC の事例検証
4. テレビ＋モバイル／PC の事例検証
5. テレビ＋モバイル／PC の事例検証
6. 雑誌＋モバイル／PC の事例検証
7. 雑誌＋モバイル／PC の事例検証
8. 雑誌＋モバイル／PC の事例検証
9. ネット広告の事例検証
10. モバイル広告の事例検証
11. あるべきインタラクティブマーケティングについての仮説作り
12. 仮説に基づいたメディア，プラットフォームの企画～ビジネスモデル検証
13. 総括

履修者へのコメント：
今までの常識が，これからの常識と違う！という感覚。今までのビジネスに必要な力とこれからのビジネスに必要な力が違う！という感覚を半年で体感して，社会に出てからの自分の挑戦について大きな可能性を感じてください！
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価
質問・相談：
いつでもどうぞ。

特殊研究Ⅰ（春）
日本の近代化とマス・メディア　　**小　川　浩　一**

授業科目の内容：
社会の状態を人々に伝え，市民の視点からの権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献しえたのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。
テキスト：
・マクネア著　小川浩一・赤尾光史監訳『ジャーナリズムの社会学』リベルタ出版
・橘木俊詔著『格差社会』岩波新書
参考書：
・富永健一著『日本の近代化と社会変動』講談社学術文庫
・橘木俊詔著『日本の経済格差』岩波新書
授業の計画：
1, 2；ジャーナリズムとマス・コミュニケーション
3, 4；ジャーナリズムの機能
5, 6；ジャーナリズムの今日的問題
7, 8；日本ジャーナリズム略史
9, 10；言論統制と言論自己規制
11, 12；テレビジョンの社会的機能
13；現代日本におけるテレビと新聞の機能
履修者へのコメント：
テレビニュース，新聞記事を「分析」すること。批判は内容の分析が出来ないと意味がありません。想像力，創造力がないと権力に盲従することになります。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究Ⅱ（秋）
日本の近代化とマス・メディア　　**小　川　浩　一**

授業科目の内容：
社会の状態を人々に伝え，市民の視点からの権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献しえたのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。
テキスト：
・マクネア著　小川浩一・赤尾光史監訳『ジャーナリズムの社会学』リベルタ出版
・橘木俊詔著『格差社会』岩波新書
参考書：
・富永健一著『日本の近代化と社会変動』講談社学術文庫
・橘木俊詔著『日本の経済格差』岩波新書
授業の計画：
14, 15；ポピュリズムと劇場型政治
16, 17；現代日本の民主主義
18, 19；日本社会の階層性
20, 21；階層間格差とエリート
22, 23；ジャーナリストと階層
24, 25；日本の近代化におけるジャーナリズムの貢献
26；日本のジャーナリストの特徴
履修者へのコメント：
テレビニュース，新聞記事を「分析」すること。批判は内容の分析が出来ないと意味がありません。想像力，創造力がないと権力に盲従することになります。
成績評価方法：
平常点：出席状況および授業態度による評価

特殊研究Ⅲ（秋）
市民とメディア　　**金　山　智　子**

授業科目の内容：
この 10 年，市民が社会の様々な問題を解決するために，自ら参加し活動していけるようなボランタリーな社会が築かれつつあります。その中で，市民グループ，NPO，NGO の活動は中心的な役割を担っています。また，一般企業においても，NPO・NGO とのパートナーシップを通した社会貢献（CSR）活動が活発になっています。このような活動では，メディアの活用がますます重要になってきています。市民が，フリーペーパーやコミュニティ FM，CATV，インターネット新聞，ブログ，ミクシーや地域 SNS など，市民メディアを使ってどんどん情報発信しています。これにより，ソーシャル・コミュニケーションも活発になっています。さらに，貧困撲滅キャンペーン“ほっとけない世界のまずしさ”，グリーンバードの“おそうじプロジェクト”，サステナブルな社会を目指す“トレジャード・トラッシュ・プロジェクト”にみるように，コピーライターやデザイナーといったクリエイターによるコミュニケーション・デザインも一つのソーシャル・ムーブメントとなっています。こういった市民，NPO，NGO，企業，クリエイターなどの社会活動におけるメディア活用について，最近の事例を交えながら，現状と問題点について考えます。
テキスト：
資料を配布
参考書：
・『NPO のメディア戦略』（金山智子，学文社）

・『広報力が地域を変える！』（電通プロジェクト，日本地域社会研究所）

授業の計画：

市民とメディアついて，これまでの歴史やメディア・アクセス，パブリック・コミュニケーションといった基本的な考え方について学びます。さらに，さまざまな市民のメディアやソーシャル・ムーブメントやソーシャル・コミュニケーションといった最近の動向についてみていきます。

毎回事例を用いながら，ディスカッション形式で進めます。また，NPO や NGO 関係者を招き，現場の声を聞き，受講生を交えて考える機会をもちます。

関連イベントや市民メディアの現場に参加し，実体験をしてもらいます。

履修者へのコメント：

常に問題意識をもって，積極的にディスカッションに参加することを期待します。

成績評価方法：

・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）　　小川葉子
インターンシップ　　菅谷実
豊嶋基暢
藤田結子

授業科目の内容：

本講義は，研究所主催のインターンシップである。春学期は，講義と討論形式により各産業の歴史，構造，動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の 2 週間以上，各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には，インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお，秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度，インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習Ⅱを登録し，インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

(1)春学期

オリエンテーション
産業別のレポートと討論（新聞，放送，通信，移動通信，出版，広告，インターネット，通信販売等）
まとめ
（なお，研修先は，7 月上旬に決定されるが，研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない）

(2)秋学期

夏休み研修期間の実習を 10 回分の講義と認定し，残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅰを履修し本年度Ⅱを履修する者を含む）は，4 月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。履修者は夏休み研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

・春学期：クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
・秋学期：夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

【基礎演習】

時事英語Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）
英文ジャーナリズム入門
高須賀　茂　文（読売新聞英字新聞部デスク）

授業科目の内容：

英字新聞や英字週刊誌の記事などを教材に使い，時事英語の読解力を養成します。1 年後には，辞書を使わずに Time や Economist の大意を理解できるようになるのが目標です。併せて英語での interview の仕方や記事の書き方の基礎も学びます。一緒に「生きた英語」を勉強しましょう

テキスト：

特に指定しません。講義資料を配布します。

参考書：

① The Daily Yomiuri（読売新聞が発行する日刊英字紙）
② 最新ニュース英語辞典（東京堂出版）
③ 本格的な英和・和英辞典

授業の計画：

まず，火事や交通事故など簡単な記事を通して英文ジャーナリズム独特の「決まり事」を勉強することから始めます。後半の授業では，評論や解説など高度な内容の英文記事にも挑戦し，国際情勢への理解を深めます。また，座学だけでなく，The Daily Yomiuri 編集部の見学や在日外国人ジャーナリスト，海外特派員経験者をゲストに招くことなども計画しています。

履修者へのコメント：

堅苦しい講義形式ではなく，講師自身の海外取材での体験なども織り交ぜながら実践的な授業を行うつもりです。ただ，必然的に課題も多くなるので，積極的に学ぶ意欲のある塾生を歓迎します。「仕事」で使える英語を身に付けたい人，海外特派員を目指す人も参加して下さい。

成績評価方法：

・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

文章作法Ⅰ・Ⅱ（春）（秋）
マスメディアへのドアを開けるには　　**河内　孝**

授業科目の内容：

文章の怖いところは，長短にかかわらずそれによって全人格が判断されてしまうところにあります。文章技術をマニュアル化して授業を進め，「うまい文章かき」を養成することは可能かもしれない。しかし私は，うまい文章というよりも，「良い文章」がどのように生まれてくるかを研究してみたいと思います。メディアという言葉の語源は，「あいだ，仲介者」という意味です。ダイヤモンド原石のような生情報を研磨し，意味づけて最終消費者にどう伝えればよいのか。情報伝達の流れを知る中で，文章技術を磨いて見ましょう。

テキスト：

適時，新聞記事などをプリントして配ります。

参考書：

最初の授業で，一覧表にして配布します。

授業の計画：

メディア・コミュニケーション研究所の授業として将来，新聞，テレビ，ラジオ，出版，IT 系を目指す諸君に役立つ講義の流れを考えています。文章作法は，毎回，メール経由で提出してもらう短いレポートを次回授業で添削，評価する形で行うつもりです。

前期では，日本のメディアの今日的な状況を概観して理解を深めてもらう。戦中，戦後，日本のジャーナリズムがどのような試練をくぐってきたかも振り返りたい。

後期では，様々なニュースを各メディアがどのように伝えたかを検証，「自分ならどう書く」という situation で原稿作成の実践的な添削，指導を行います。適宜，新聞社，テレビ局の現役記者を招きディスカッションも行いたいと考えております。

履修者へのコメント：
業績の良い会社ほど人材募集に手間，暇かけています。なぜか？浮ついた気持ちで受けに来る人による 100 倍の競争率より，真にガッツがあり，「自分」を持っている応募者による2倍3倍という状況を作りたいからです。作文，面接での絞り込みはそのための手段。100分の1でなく3分の1，2分の1を目指す人への授業です。
成績評価方法：
適時，短いレポートの提出を E -メールにて求める。後は平常点，出席状況および授業態度で評価する。
質問・相談：
随時，授業前後，E-メールにて受ける。

メディア・コミュニケーション実習Ⅰ（春）
映像を通して伝える，理解する　　**金　山　智　子**

授業科目の内容：
コミュニケーション技術の発展により，誰でも気軽に映像を撮って表現したり，メッセージを発信したりできるようになってきました。また，メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく，自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになっています。本講義では映像制作実践を通じて，よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想，表現，そして実技能力を身に付けることを目標としています。また，映像制作過程において，いろいろな人たちとかかわり，その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら，伝えたい人に伝えることの難しさと面白さを経験してほしいと思っています。
授業の計画：
(1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。
基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
(2) 映像作品を読みとく。
一般市民が制作した“良い作品”を見て，「誰に何をどのように伝えるか」という意味でのメッセージ伝達について考えます。
(3) 映像コンテンツを制作する。
個人またはグループで企画・構成・取材・撮影・編集加工という映像制作過程を体験し，映像コミュニケーションを身に付けてもらいます。
履修者へのコメント：
映像制作の技術習得ではなく，あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また，クラス授業時間外での作業（撮影・編集）が必要になります。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

メディア・コミュニケーション実習Ⅱ（秋）
映像リテラシー　　**渡　辺　真由子**

授業科目の内容：
テーマを決めて映像作品を制作します。テクニックの取得に終始するのではなく，“なぜ”その構図で撮影するのか，そのインタビューを使うのか，といったプロの制作者の意図を学ぶことにより，メディアリテラシー能力の育成を目指します。
テキスト：
・渡辺真由子著『メディアに隠された意図を読み解く～カナダで学ぶメディアリテラシー（仮題）』（アルク，2007 年夏刊行予定）
授業の計画：
(1) メディアリテラシーとは何か，メディアを批判的に読み解くための基本理論を学びます
(2) テレビ局の報道制作現場の実態を紹介しながら，ネタの見つけ方，構成の立て方，インタビューの仕方など，映像制作に関わる一連の過程を体験してもらいます
(3) 完成した作品を，リテラシーの視点から批評し合います
履修者へのコメント：
映像業界志望者に限らず，新聞や広告，インターネットなどあらゆるメディアが発信する内容に疑問や危機感を持つ学生を歓迎します。映像を上手に撮影・編集することよりも，制作過程の裏側にある“意図”を学ぶことに重点を置きます。
成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

映像コンテンツ制作Ⅰ（春）
映像コンテンツ制作実践に向けた基礎ステップ
― 映像表現の文法・作法を習得する　　**大久保　　成**

授業科目の内容：
デジタルカメラやデジタルビデオは普及し，コンピュータはますます高性能になっています。一方，インターネット上で映像コンテンツを扱うことが一般化し，ケータイの高機能化などにより「いつでも，どこでも，だれでも」デジタルメディアが扱える時代がやってこようとしています。にもかかわらず（あるいはそれゆえに），ただビデオカメラをまわしさえすればそれだけでコンテンツになりうる，といった安易な理解が蔓延しているのではないでしょうか。映像コンテンツ制作Ⅰでは，映像コンテンツ制作に関わる際の基本的な枠組み作り（プリプロダクション）の力を確実に身につけてもらうことを通して，新時代の映像表現の作法がいかにあるべきかを受講生とともに考えていきたいと思います。
テキスト：
開講時に紹介します。
参考書：
開講時に紹介します。
授業の計画：
この講義では，映像コンテンツ制作のための基礎能力の獲得を目指します。映像表現をする際の事前準備の重要性について理解してもらい，実際に受講者には企画書・画コンテの作成，撮影実習，編集までを個人単位で実践してもらいます。予定されるシラバスは以下のとおりです。
1. デジタル時代における映像表現の基礎知識
2. ユビキタス環境と映像コンテンツ
3. 映像制作のための機材とその機能
4. 撮影の基礎技術
5. 映像コンテンツ制作のための基礎能力 (1)：コンティニュイティ
6. 映像コンテンツ制作のための基礎能力 (2)：フレーミング
7. 番組企画とは (1)：企画書や画コンテの作り方
8. 番組企画とは (2)：実践
9～13. 映像コンテンツ制作実践：カメラ取材と編集
履修者へのコメント：
映像コンテンツ制作Ⅰでは受講生の自主性を最大限尊重し，自由な発想や可能性の追求を歓迎します。講義は映像コンテンツ制作ⅠとⅡでは独立していますが，両者を連続して受講することにより総合的な力を獲得できるよう配慮しています。
成績評価方法：
・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50％）
・映像作品を提出（評価の50％）
質問・相談：
授業時および電子メールにて受け付けます。

映像コンテンツ制作Ⅱ（秋）
映像コンテンツ制作実践に向けた応用編
― スタジオプロダクションを実践する　　**大久保　　成**

授業科目の内容：
映像コンテンツ制作Ⅰで得られた映像コンテンツ制作に関わる基本的な枠組み作りの力を再確認するとともに，さらに磨きをかけていきます。さらにメディア環境・映像文化についての理解を深めるために，スタジオを使用した番組制作を実体験していただきます。デジタ

ル環境の発展により映像コンテンツ制作は「個の力」で完結するものとなっています。しかしテレビ番組や映画撮影においては，単独ではなしえない映像表現が主流でもあります。個人が主体性を保ちながら協働したときに得られる感覚を得ることで，受講生それぞれの映像表現がさらに深まることを期待します。

テキスト：

開講時に紹介します。

参考書：

開講時に紹介します。

授業の計画：

この講義では編集加工された取材映像を活用したスタジオでの企画番組制作に取り組みます。映像表現の文法を再確認した後，スタジオでの収録を前提とした編集VTRを制作，その後スタジオでの収録にのぞみます。

1. 映像表現の文法を確認する (1)
2. 映像表現の文法を確認する (2)
3. 番組企画会議
4. 取材VTRプリプロダクション (1)
5. 取材VTRプリプロダクション (2)
6. 取材VTR制作 (1)：撮影・編集
7. 取材VTR制作 (2)：撮影・編集
8. スタジオ機材について
9. スタジオ収録プリプロダクション (1)
10. スタジオ収録プリプロダクション (2)
11. リハーサル
12. スタジオにて番組収録（本番）
13. 番組収録を振り返る（討論会）

履修者へのコメント：

映像コンテンツ制作Ⅰを受講済みもしくは同等レベル（企画・撮影・編集を行い，映像作品に仕上げることができる）の映像表現力を持つことを期待しますが，受講生のニーズには臨機応変に対応します。また映像コンテンツ制作Ⅰ同様，受講生の自主性を最大限尊重しますが，一方で共同作業も多いため，受講生同士の信頼関係を裏切らないように配慮してもらうよう期待します。もちろん映像コンテンツ制作Ⅱのみの受講も可能です。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価（評価の50％）
・スタジオ収録への参加（評価の50％）

質問・相談：

授業時および電子メールにて受け付けます。

メディア・ネットワーク実習Ⅰ（春）
インターネット放送の基礎　　**田　辺　浩　介**

授業科目の内容：

インターネット技術を利用した音声・動画配信の実践を行うことによって，情報発信のための幅広い技法を身につける。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

・ガイダンス
・ネットワークの基礎
・Web制作の基礎
・ライブ配信の仕組みと実践
・Podcastingの仕組みと実践
・インターネット上での番組配信の企画・制作

履修者へのコメント：

IT関連の知識や経験の有無は問いません。「こんなに簡単にできるのか！」という経験をひとつでも多くしてもらえれば幸いです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

メール，ならびに講義用サイトで受けつける。

メディア・ネットワーク実習Ⅱ（秋）
動画投稿サイトを作る　　**田　辺　浩　介**

授業科目の内容：

CGM (Consumer Generated Media) において大きな役割を占める動画投稿サイトを自らの手で構築することで，CGMを形成する技術的側面への理解を深める。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

授業の計画：

・ガイダンス
・動画投稿サイトの計画
・Webプログラミング (PHP) の基礎
・データベース操作 (Postgre SQL) の基礎
・サイトの公開とレビュー

詳細は前年度の講義用サイト (http://mwr/mediacom.keio.ac.jp/~tanabe/media-network/) も参照のこと。

履修者へのコメント：

プログラム制作の有無は問わないが，HTMLや動画ファイルの扱いに慣れるために，「メディア・ネットワーク実習Ⅰ」と同時に履修することをおすすめします。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

メール，ならびに講義用サイトで受けつける。

体　育　科　目　　〔三田設置〕

（体育研究所）

実施場所・教室変更，休講，授業時間割変更等の連絡事項は，三田設置科目については共通掲示板（西校舎）に，日吉設置科目については，体育科目掲示板（日吉 J11 番教室前）にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目（日吉）の時間割，講義要綱・シラバス等は，学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は，学事センターで相談してください。

三田地区の学生は，日吉設置の体育科目を履修することができますが，三田でも，体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）が，7 科目（テニス，バレーボール，合気道，弓術，剣道，柔道，ダンス）開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが，学部により単位の取り扱いが異なります。各自，学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1　体育科目のねらい

体育科目は，「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し，社会における自己の存在を見つめ，人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に，言語化された知識を越えて，自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には，このねらいに通ずる様々なアプローチがあり，それぞれに細分化された目標が立てられています。

2　体育科目の構成

体育科目には，「体育学講義」，「体育学演習」，「体育実技 A」，「体育実技 B」の 4 科目があります。学部，学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので，所属する学部，学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが，詳しくは，本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください（学事センターで閲覧できます）。

(1) 体育学講義　(2 単位)……「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習　(1 単位)…… 講義＋実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A　(1 単位)……「身体活動」実技　　A～D の 4 段階評価。
　　ウィークリー・スポーツ
　　シーズン・スポーツ

体育実技 A の成績評価方法は 100 点満点のうち，出席点が 60 点。欠席は 1 回につき 5 点減点，遅刻は 1 回につき 3 点減点します。評価対象者は全授業回数の 2／3 以上出席した者です。残りの 40 点を各授業担当者が技術・態度・理解の観点で配分します。

(4) 体育実技 B　(1 単位)……「身体活動」実技　　P（合）・F（否）(Pass/Fail) の 2 段階評価。
　　ウィークリー・スポーツ
　　シーズン・スポーツ

ウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツの概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ……週 1 回半年（春学期または秋学期）の授業。

シーズン・スポーツ……夏季休業中 (7 月～9 月) または春季休業中 (2 月) の 7 日間の授業。ただし，合宿科目は原則として 3 泊 4 日。

3　2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より，保健体育科目から体育科目へと名称変更になり，個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて，さらに体育科目を履修しようとする場合は，所属する学部，学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4　三田設置科目履修申告までの流れ

4 月 6 日（金）	**体育科目ガイダンス（三田）** 体育科目の履修を希望する場合は，履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。 1 限および 2 限　522 番教室（いずれの時限も同内容）

4月7日（土）～19日（木）

定期健康診断を受診（日吉）

実技科目（スポーツクラス）を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。（この期間に受診できない場合は，5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。）

実施場所：日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間		9：00～12：30	14：00～15：30	受付時間		9：00～12：30	14：00～15：30
4月7日	土	男子10時開始	男子	4月14日	土	女子	女子
8日	日			15日	日		
9日	月	男子	女子	16日	月	男子	女子
10日	火	女子	男子	17日	火	男子	男子
11日	水	男子	男子	18日	水	女子	男子
12日	木	男子	女子	19日	木	男子11時終了	
13日	金	男子	男子				

現在，運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は，必ず健康診断受診の際に診断書（制限について記載のあるもの）を持参してください。診断書の持参がない場合，体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後，学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目（スポーツクラス）の履修はできません。

健康診断の結果，「体育2」，「体育3」と判定された場合は，日吉学事センター総合窓口に申し出てください。

授業開始時までに健康診断を受診していない場合は，授業担当者に必ず申し出てください。

4月9日（月）～13日（金）

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い，第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために，各日12時30分から14時まで，三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが，発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は，その場で抽選を行い，定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月13日（金）10：00～17日（火）14：00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は，必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は，履修申告すれば，必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても，履修申告はして構いません。ただし，許可証取得者が優先され，それでも定員に不足が生じた場合に限り，未取得者の中で抽選が行われます。

4月21日（土）

履修者数調整結果発表

9時　日吉　第4校舎B棟1階　J11番教室前掲示板

10時30分　三田　西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける，定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ，外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには，体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し，定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5　日吉設置科目履修申告までの流れ

4月4日（水）～6日（金）

体育科目ガイダンス（日吉）

体育科目の履修を希望する場合は，履修案内，講義要綱・シラバス，体育科目時間割を持参のうえ出席してください。

4月4日　9：00　613・614・623番教室
5日　14：45　613・614・623番教室
6日　14：45　613・614・623番教室

4月7日（土）～19日（木）

定期健康診断を受診（日吉）

実技科目（スポーツクラス）を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。（この期間に受診できない場合は，5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。）

実施場所：日吉記念館

現在，運動に制限がある治療中の病気･ケガがある場合は，必ず健康診断受診の際に診断書（制限について記載のあるもの）を持参してください。診断書の持参がない場合，体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後，学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目（スポーツクラス）の履修はできません。

健康診断の結果，「体育2」，「体育3」と判定された場合は，日吉学事センター総合窓口に申し出てください。

授業開始時までに健康診断を受診していない場合は，授業担当者に必ず申し出てください。

4月9日（月）～13日（金）

体育科目ガイダンス週間（日吉）

体育科目の時間割どおりに実施します。

ただし，実技科目はこの期間のみ，すべて日吉記念館スタンドで行います（時間割の実施場所ではありません）。

各時限とも同一内容のガイダンスを，前半・後半の2回行います。

シーズン･スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館（総合案内）で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場　所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ（実技A・実技B）	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ（実技A・実技B）	日吉記念館（総合案内）

レベルの高低や，自己の都合などによる履修の取消，変更はできません。

4月13日（金）10：00～17日（火）14：00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は，必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

4月21日（土）

履修者数調整結果発表

9時　　日吉　第4校舎B棟1階　J11番教室前掲示板

10時30分　三田　西校舎共通掲示板

体育実技A，体育実技B，体育学演習では，履修希望者が定員を上回った場合，抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は，履修の可否を必ず確認してください。ただし，体育学講義は，抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション，山岳，スキー，スケート，馬術，ヨット，水泳（オープンウォータースイミング）の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

①4月24日（火）～5月9日（水）

②5月7日（月）～9日（水）

追加履修について

履修調整の結果，定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。

追加履修は抽選で外れた場合のみ，外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修するためには，①体育研究所許可証の取得と，②修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。

履修調整結果を再確認し，誤りのないようにしてください。

①体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について，以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月24日（火）　9：15～11：30，12：30～15：00 4月25日（水）　9：15～11：30，12：30～16：00	体育研究所
4月26日（木）～5月9日（水）（平日のみ） 受付時間　8：45～17：00　（最終日　16：00終了）	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は，必ず24・25両日中に体育研究所許可証を取得してください。26日以降は取得できません。

②修正申告の手続き

①で受け取った体育研究所許可証を持参し，定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

①②いずれの手続が不足しても追加履修はできません。また，所属する学部が追加履修を認めていない場合は，①を行っても修正申告の手続はできません。

6　シーズン・スポーツ（合宿科目）の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち，以下の合宿形式7科目については，指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目　アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・馬術・ヨット・水泳（オープンウォータースイミング）

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月24日（火）～4月27日（金）	8：45～17：00	日吉学事センター総合窓口（納入用紙交付）

上記科目は，履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は，総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は，履修放棄として取り扱います。（DまたはF評価）

(2) 実技費用納入締め切り後，なお人員に余裕がある科目については，追加履修を受付けます。

体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）

〈球技〉

体育実技Ａ（テニス）　月曜１限
（上級）　**堀場　雅彦**

〔授業の目的〕
テニスの技術習得と体力の向上。
〔実施場所〕
綱町グランドテニスコート（屋外）
〔服装・携行品・その他〕
硬式テニスラケット，シューズ（ハードまたはオールコート用）
〔参考書〕
「テニスはここから楽しくなる」情報センター出版局　堀場雅彦著
〔授業の計画〕
1 限（90 分）の計画
05　準備体操
10　球出しによるウォーミングアップ，フォア・バックハンドストローク
30　サービス，シングルス・ダブルスポジションにて
40　ペアーボレーボレー
50　ダブルスゲーム，MIX・男子・女子
85　総括
半期 13 回の計画
毎週，毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが，参加者数により，ラリー（クロス・ストレート），シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に，以下ポイントに沿ったアドヴァイスを個別または全体に与える。
１～３週：腕の振り
４～６週：身体のバランス
７～10週：足捌き（フットワーク）
11～13週：総括および戦術
〔履修者へのコメント〕
テニスはサッカーについで，全世界 120 か国以上に普及した国際的スポーツです。また，国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も，5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ，腕を競い合っています。正にグローバリゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に，是非手習いをしておきたいスポーツです。
〔成績評価方法〕
平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し，その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。）

体育実技Ａ（テニス）　水曜２限
（初級）　**村松　　憲**

〔授業科目の内容〕
テニスを楽しむために必要な技術・エチケット・ルールを身につけます。実施場所は綱町グラウンド（屋外コート 1 面，三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度）です。準備していただく物は，テニスシューズ，テニスラケット（シューズ，ラケットの貸し出しはありません），運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。
〔授業の計画〕
以下のような予定ですが，履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。
1～2 回目　ボールとラケットに親しむための基礎練習
3～6 回目　ボレー，サービス，グラウンドストローク，スマッシュの基礎練習
7回目以降　クロスコートでのポイント形式練習，ダブルスの試合形式練習
〔履修者へのコメント〕
テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また，少し経験はあるけれども基礎を確認したい，という方も歓迎します。かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが，あくまで，初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので，あらかじめご理解下さい
〔成績評価方法〕
出席点が 60 点，技術点が 10 点，態度点が 15 点，理解点が 15 点です。
〔質問・相談〕
村松までメールでご連絡下さい→　mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技Ａ（テニス）　水曜３限
（中級）　**村松　　憲**

〔授業科目の内容〕
試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。エチケット，ルールを再確認します。実施場所は綱町グラウンド（屋外コート 1 面，三田キャンパス西門から徒歩 3 分程度）です。準備していただく物は，テニスシューズ，テニスラケット（シューズ，ラケットの貸し出しはありません），運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。
〔授業の計画〕
以下のような予定ですが，履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。
1～3 回目　サービス，ボレー，グラウンドストローク，スマッシュ，リターン等，基礎技術の確認と練習
4～6 回目　回転をかけるサービス，ジャンピングスマッシュなど，試合を有利にすすめる上で役立つ応用技術の確認と練習
7回目以降　クロスコートでのサービスからのポイント形式練習，ダブルスの試合形式練習
〔履修者へのコメント〕
このクラス（中級）では，「技術レベルがどこまで到達したか」（どの程度向上したか，だけでなく）という点も成績評価の対象とします。「打ち合いで安定して 10 往復以上続けることができる（相手が打ちやすいボールを出してくれた場合）こと」が難しい方にはおすすめできません。
〔成績評価方法〕
出席点が 60 点，技術点が 15 点，態度点が 15 点，理解点が 10 点です。
〔質問・相談〕
村松までメールでご連絡下さい→　mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技Ａ（テニス）　火曜１限
（初中級）　**加藤　大雄**

〔授業の目的〕
生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と，ルールの習得
〔実施場所〕
綱町グランド　テニスコート
〔服装・携行品・その他〕
テニスラケット，テニスシューズ，運動ができるウェアー
〔授業の計画〕
2 回をセットとして，フォアハンドストローク，バックハンドストローク，サーブ，を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって

内容を決めていく。比較的自由な雰囲気で授業を進める予定。3 回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝，掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%），技術（10%），態度（20%），理解（10%）の項目を点数化し，その合計点で評価する。）

体育実技Ａ（テニス）　火曜２限
（中上級）　**加藤　大雄**

〔授業の目的〕

生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と，ルールの習得ならびに，テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕

綱町グランド　テニスコート

〔服装・携行品・その他〕

テニスラケット，テニスシューズ，運動ができるウェアー

〔授業の計画〕

戦術的な説明をしつつ，フォアハンドストローク，バックハンドストローク，サーブ，ボレー，スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由な雰囲気で授業を進める予定。実践的な練習が多い予定。雨天時は当日の朝，掲示する。

〔履修者へのコメント〕

テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%），技術（10%），態度（20%），理解（10%）の項目を点数化し，その合計点で評価する。）

体育実技Ａ（バレーボール）　木曜１限・２限
野口　和行

〔授業科目の内容〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して，個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら，相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グランド　バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上（4回）
   パス，スパイク，ブロック，サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）
   サーブレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践
   個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め，ゲームを楽しむ。ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり，技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%），態度（20%），理解（20%）の項目を点数化し，その合計点で評価する。）

〈武道〉

体育実技Ａ（合氣道）　木曜２限
心が身体を動かす　**藤平　信一**

〔授業の目的〕

合氣道の実技を通して，心と身体（からだ）の正しい使い方（心身統一（しんしんとういつ））を習得する。

心身統一を日常生活で活用できるように習得する。

大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グランド　武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。T シャツ（女子のみ）・タオル（汗をふくため）・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

半期前半
- ・合氣道基本技
- ・心が身体を動かす（心身統一）
- ・正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
- ・安全な受身と間合い

半期後半
- ・合氣道応用技
- ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
- ・大切な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対

春学期と秋学期ではテーマは同じですが，内容は異なります。

半期が基本ですが，通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので，合氣道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ますが，しっかりとした習得には通年での履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し，その合計点で評価する。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技Ａ（弓術）　火曜１限・２限
小笠原　清忠

〔授業科目の内容〕

ウィークリースポーツとしての弓術の授業は，経験者と未経験者に分けて行います。経験者には，射法・射術の習得と基本姿勢のあり方を学んでいただきます。未経験者には弓術に親しみ理解を深めると共に基本姿勢を学んでいただきます。

〔実施場所〕

綱町グランド　武道館（正己弓道場）

〔授業の計画〕

弓道に対する理解を深める。

基本の技の習得。

立ち居振る舞いや武道としての礼法を学ぶ。

的前で実際に矢を射て，的中させることを学ぶ。

弓・矢等の道具についての知識を習得する。

〔履修者へのコメント〕

服装は運動の出来る服装（ボタンや胸ポケットのないもの。）

靴下または足袋を必ず持参すること。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価

体育実技Ａ（剣道）　水曜２限・３限
吉田　泰将

〔授業の目的〕
剣道をはじめて行うものから，有段者まですべてのレベルを対象に，初心者は一級に，有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために，基本的な技術，知識，日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して，クラス全体の実力アップを図りましょう。そして，生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。
〔実施場所〕
綱町グランド　武道館（剣道場）
〔服装・携行品・その他〕
剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）・手ぬぐい
※剣道具（防具）・竹刀は準備しています。
〔授業の計画〕
1　ガイダンス剣道の歴史　礼儀作法　構え方　足さばき　素振りの基礎
2　素振りのバリエーション　五行の構え　対人的足さばき
3　基本の復習　日本剣道形の導入・1本目
4　日本剣道形1～2本目　有効打突の理解　打突部位　基本的な技の打ち方
5　日本剣道形1～3本目　基本的な技の打ち方　防具の着け方
6　日本剣道形1～4 本目　手の内の冴えについて　正中線の意味切り返し
7　日本剣道形1～5本目　一本打ちの技
8　日本剣道形1～6本目　連続技（二・三段打ちの技）払い技　捲き技
9　日本剣道形1～7本目　応じ技（すり上げ技・返し技）
10　日本剣道形1～7本目　応じ技（抜き技・打ち落とし技）
11　日本剣道形小太刀1～3本目　出頭技
12　日本剣道形復習試合規則の確認　試合形式の実践
13　紅白試合まとめ
〔履修者へのコメント〕
剣道を通して，戦う技術はもちろん，対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また，日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ，国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。
〔成績評価方法〕
出席60％，技術10％，態度20％，理解10％の割合で点数化して評価する。

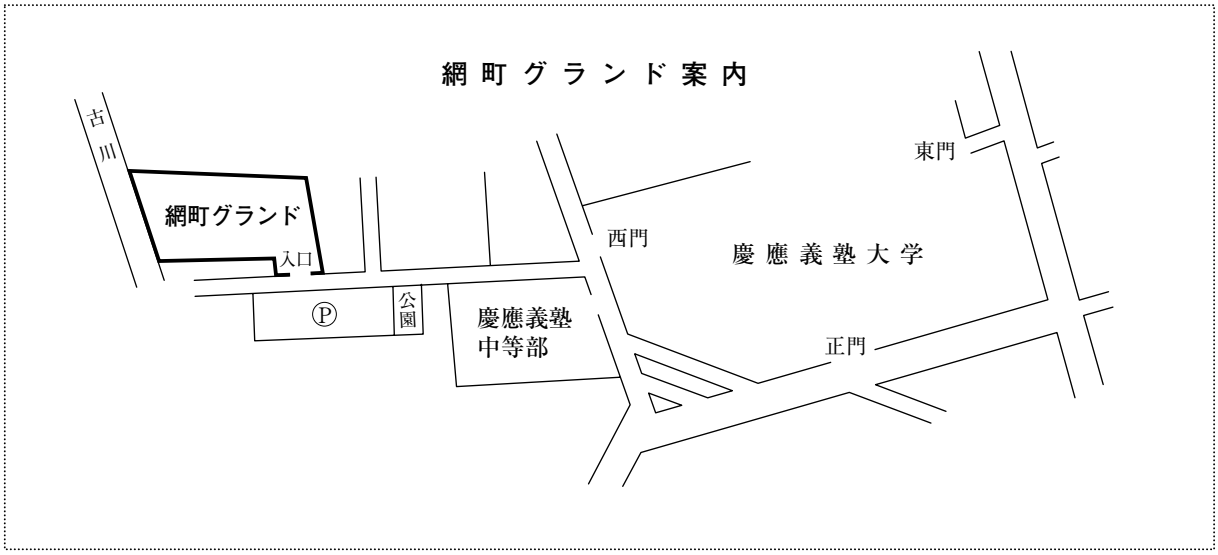
体育実技Ａ（柔道）　月曜２限・３限
（初心者，経験者を問わない～男女共習）　**安藤　勝英**

〔授業の目的〕
柔道を通して技術，体力の向上を図り，これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法，受身，正しい技の掛け方等をより深く解説する。また，見る柔道の立場から，国際国内ルールを説明する。更に，昇段希望者には，この授業の中で実地指導する。
〔実施場所〕
綱町グランド　武道館（柔道場）
〔服装・携行品・その他〕
柔道衣（希望者には貸与する），タオル，Ｔシャツ（女子のみ）
〔授業の計画〕
1　講道館柔道の歴史とその内容。
2　柔道の基本的動作（礼法，受身，体捌き）。
3　投げ技と受身の反復練習（大外刈，大内刈等）。
4　投げ技と受身の反復練習（大腰，背負投等）。
5　投げ技と受身の反復練習（送足払，払釣込足等）と約束稽古。
6　約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
7　乱取稽古
8　乱取稽古
9　技の連絡変化。
10　固め技（抑込技，絞技，関節技）の説明。
11　固め技の説明とその稽古方法。
12　乱取稽古（立技，寝技）
13　試合方法，審判法（国内，国際ルール）の説明。
〔履修者へのコメント〕
この授業を通し，現行の試合を中心にした柔道ではなく，本来の組み方，技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。
〔成績評価方法〕
平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し，その合計点で評価する。4 項目の配点等，詳細については授業の際に説明する。）

〈個人種目〉

体育実技Ａ（ダンス）　月曜２限，金曜２限・３限
ボールルームダンス　入門　初級　**篠原　しげ子**

〔授業科目の内容〕
男女で組んで踊るために，自分自身の体の細部にわたっての身体感覚を養い，バランスを保って動けるようにする。又，相手のことも考慮して動けるようになることを目指す。
〔実施場所〕
綱町グランド　武道館（剣道場）
〔定員〕
男性 10 名　女性 10 名
〔服装・携行品・その他〕
動きやすい服装　綱町道場の剣道場で行うためシューズは着用せず，ソックスを持参
〔授業の計画〕
月曜２時限目
春学期　初級ワルツ
秋学期　初級チャチャチャ
それぞれの種目を半期（13 回）通して行う。
1 ～ 3 週　種目の特徴（リズム，姿勢，ホールド）を理解する。
4 ～ 8 週　数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるようになる。
9 ～12週　さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを目指す。
13～　自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する。
金曜２時限目
春学期　ラテン入門　（ジルバ　ルンバ　チャチャチャの基礎を 4～5 週間ずつ行う）
秋学期　スタンダード入門（ブルース　タンゴ　ワルツの基礎を 4～5 週間ずつ行う）
金曜３時限目
春学期　初級・タンゴ
秋学期　初級・ワルツ
それぞれの種目を半期間通して行う。
1 ～ 3 週　種目の特徴（リズム，姿勢，ホールド）を理解する。
4 ～ 8 週　数種類のフィギュアをつなげて一曲踊りとおせるようになる。
9 ～12週　さらにフィギュアの数を増やすとともに正確な踊りを目指す。
13～　自分で好きな順番でつなげて踊れるように工夫する。
〔履修者へのコメント〕
ガイダンス週間に種目のビデオを見ながら，それぞれの踊りの説明をします。必ず参加して内容を把握して選択してください。
〔成績評価方法〕
平常点：出席状況および授業態度による評価（各時限に簡単なレポート提出により，理解度 20，授業態度 20，出席情況 60 で採点）


網町グランド案内
古川
網町グランド
入口
Ⓟ
公園
慶應義塾
中等部
西門
慶應義塾大学
東門
正門

福澤研究センター設置講座

慶應義塾福澤研究センターは，1983 年に義塾創立 125 年を記念して，旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は，一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが，単にそこにとどまるものではありません。同時に，福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは，一面では，福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが，そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには，福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからです。

しかも，福澤諭吉に関する研究は，狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は，19 世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため，福澤諭吉に取り組むことは，例えばアジアの近代化を考えることにもつながってゆきます。このように，各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており，文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて，これまで福澤研究センターは，学術誌『近代日本研究』・資料集・叢書の刊行や，講演会，セミナー，展覧会などを開催してきました。また，これらの資料整理・研究活動は，24 名の所員，10 名の顧問，29 名の客員所員，7 名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は，このような活動を続けている福澤研究センターが，提供する大学講座です。講座の目的は，第 1 には，福澤研究センターを中心として，塾内外の研究者により行われてきた研究の成果を，講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また，第 2 には，福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに，第 3 には，将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして，第 4 には，この講座を通して，21 世紀の世界にとって，福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が，いかなる意味を持っているかを考える機会をつくることを目指しています。

近年，慶應義塾で学びながら，義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず，また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在，それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし，福澤の著作は，その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても，面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは，我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも，本設置講座は，文系の多くの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は以下の 6 講義・演習を開講しますので，諸君の活発な履修を期待しております。

（慶應義塾福澤研究センターのホームページ　http://www.fmc.keio.ac.jp/ ）

近代日本研究Ⅰ（春学期）（2）

—『学問のすゝめ』とその時代—

法学部教授　**岩谷　十郎**
経済学部教授　**小室　正紀**
商学部教授　**牛島　利明**
教職課程センター教授　**米山　光儀**

授業科目の内容：

福澤諭吉の初期の代表著作『学問のすゝめ』は，明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって，17編に分けて逐次刊行された。それは，福澤の生涯の中では，『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また，この時期は，学制発布，鉄道初開通，徴兵令布告，征韓論，明六社結成，地租改正，民選議院設立建白書，佐賀の乱，征台の役，立志社設立，江華島事件，萩の乱など，制度改革や事件が陸続する時であり，まさに揺籃期の明治社会にとっては，改革と模索の次期であった。

この講義では，『学問のすゝめ』各編を取り上げて，4人の担当者が分担して講義を行うが，単にその文面から福澤の思想を考えるだけではなく，同書の各編を，福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して，福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト：

福澤諭吉『学問のすゝめ』（各種の版がある。どの版でもよい。）

参考書：

福澤諭吉『福翁自伝』（各種の版がある。どの版でもよい。）
慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻，岩波書店，平成13年。

授業の計画：

第１回　はじめに
第２～４回　初編～ 4編　（明治5年2月～7年1月）
第５～７回　5編～ 8編　（明治7年1月～7年4月）
第８～10回　9編～12編　（明治7年5月～7年12月）
第11～13回　13編～17編　（明治7年12月～9年11月）

履修者へのコメント：

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法：

試験の結果による評価（試験方法については，第1回の講義で説明する。）
平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究Ⅱ（秋学期）（2）

福沢諭吉の近代化構想

福澤研究センター専任講師　**都倉　武之**

授業科目の内容：

福沢諭吉は明治維新前後の世の中の劇的な変化について「一身にして二生を経るが如し」と述べたことがある。そして，彼は68年の生涯を，34歳で迎えた明治維新によって文字通り二分しているのである。しかし福沢は一般に，明治維新前後の著作活動，たとえば『西洋事情』『学問のすゝめ』などを著した啓蒙思想家として評価されるにとどまり，福沢の本舞台であったといっても過言ではない明治期の活動は，研究者だけのものになっている感が否めない。本講義では多様な側面を有した明治期の福沢の活動を最新の研究動向を踏まえながら取り上げ，受講する塾生に福沢諭吉という人物のイメージを新たに描き出してもらうことを目的とする。

テキスト：

指定しない。

参考書：

適宜講義中に紹介する。

授業の計画：

1. 福沢の原点
2. 明治維新と福沢
3. 『学問のすゝめ』と「実学」
4. 自由民権運動と明治十四年の政変
5. 構内史蹟見学
6. 福沢の国内政治論
7. 福沢の国際政治論・外交論
8. 明治政府と福沢
9. 福沢門下生と実業界
10. 朝鮮問題をめぐって
11. 日清戦争と福沢
12. 慶應義塾と福沢
13. 「独立自尊」とは

履修者へのコメント：

「福沢諭吉入門」と位置付けて講義を行うので予備知識は求めない。福沢の思想に触れてみたい学生を広く歓迎する。

成績評価方法：

試験の結果による評価
平常点：出席状況および授業態度による評価

近代日本研究演習Ⅰ（春学期）（2）

雑誌・新聞記事からよむ明治

—福澤諭吉が関与した雑誌・新聞を通じて—

福澤研究センター准教授　**西澤　直子**

授業科目の内容：

この演習では福澤諭吉が関与した雑誌や新聞を取り上げ，論説だけではなく社会面や時には広告欄も読むことによって，近代化が進みつつあった明治期日本の実情がいかなるものであったのかを考えたい。

テキスト：

授業時間に配布する。

参考書：

授業中に適宜紹介する。

授業の計画：

1. 序論　福澤諭吉と関与した雑誌・新聞について
2. 『民間雑誌』『家庭叢談』（明治7年～10年）を読む
3. 『田舎新聞』『田舎新報』（明治9年～18年）を読む
4. 『時事新報』（明治15年～のち産経新聞に併合）を読む

いずれも第1回目に創刊の経緯やその雑誌・新聞の歴史や社会的背景を学び，2回目3回目では福澤や福澤門下生が寄せた論説を取り上げ，4回目で論説以外の記事や広告を読む。4回目には，それまでで読んだ記事で知りえたことを報告しあう時間を設ける。

履修者へのコメント：

授業を聞くだけではなく，積極的に自分の意見を述べてもらいたい。

成績評価方法：

レポートによる評価
平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時。

近代日本研究演習Ⅱ（秋学期）（2）

福澤書簡の研究　講師　**松崎　欣一**

授業科目の内容：

福澤および近代日本研究の基礎史料としての福澤書簡について「授業の計画」に示す視点からの検討を行う。あわせて，写真版等により原書簡の読解演習を実施したい。

テキスト：

『福沢諭吉の手紙』（岩波文庫）

参考書：

・『福澤諭吉書簡集』全9巻（岩波書店刊）
・『福澤諭吉著作集』全12巻（慶應義塾大学出版会刊）
・富田正文『考証福澤諭吉』上・下（岩波書店刊）

授業の計画：

1）福澤書簡概観…『書簡集』編纂の経緯，名宛人，年次別発信数等について。
2）古文書学的視点からの検討…福澤書簡の形状，文体，用字，用語，筆跡等。

3）福澤の伝記史料としての検討…新たな「福澤年譜」編成のための基礎的作業として。
4）近代日本の同時代史的史料としての検討…福澤書簡の名宛人は約600人に及ぶ。その多くは，　福澤と名宛人相互の私的な通信にとどまらず，周辺の人事やその時々の社会的諸事象に話題が及んでいる。いくつかのテーマを設定して検討する。
5）書簡の読解演習…『福沢諭吉の手紙』（岩波文庫）をテキストとし，また原書簡の写真版等により読解の実習を行う。福澤研究センター所蔵の原書簡に触れる機会も作りたい。

履修者へのコメント：
「授業の計画」の具体的な展開は，受講者の所属，専攻，研究課題等を確認してあらためて考慮したい。

成績評価方法：
・レポートによる評価
・出席状況による評価

質問・相談：
随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉Ⅰ（春学期）（2）
福澤研究センター准教授　**西澤　直子**

授業科目の内容：
福澤諭吉の女性論を中心に，明治期日本における女性論の展開を考える。
福澤の女性論・家族論は，同時代のみならず大正期・昭和期に入っても，たとえば与謝野晶子，本間久雄，山高しげりなど多くの人々に高い評価を得ながら読み継がれてきた。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり，つまりは近代化の過程において，福澤が提示した課題が克服され得なかったことを示している。近代日本において形成された女性像・家族像は，福澤の構想とは異なるものであった。
この授業では，福澤の著作を読むとともに，同時代の他者による女性論を比較講読しながら，福澤の意図はどこにあったのか，また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論がいかなるものであったのかを考察し，その視点から近代日本について考えたい。
授業は通常講義形式で行い，最後に履修者おのおのが興味をもった論説あるいは人物を取り上げ，意見を発表する場を設ける。Ⅰでは明六社，自由民権運動活動家，福澤諭吉の明治10年代までの女性論を扱う。

テキスト：
特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：
『福澤諭吉著作集』第10巻（慶應義塾大学出版会，2003年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：
1　予備的講義
2　明六社の女性論
　1）森有礼「妻妾論」・加藤弘之「男女同権の流弊論」・津田真道「男女同権弁」
　2）福澤諭吉「男女同数論」
3　自由民権運動の中の女性論
　1）土居光華『文明論女大学』
　2）岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
　3）植木枝盛『東洋の婦女』
4　福澤諭吉の女性論・家族論
　1）「中津留別の書」『学問のすゝめ』
　2）「日本婦人論」『日本婦人論後編』
　3）『男女交際論』「男女交際余論」
5　報告と討論

履修者へのコメント：
知識を授受するのではなく，授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：
・試験の結果による評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価
（授業中に意見発表の時間があります。）

質問・相談：
随時。

明治期日本女性論と福澤諭吉Ⅱ（秋学期）（2）
福澤研究センター准教授　**西澤　直子**

授業科目の内容：
福澤諭吉の女性論を中心に，明治期日本における女性論の展開を考える。明治期日本女性論と福澤諭吉Ⅰを参照のこと。
授業は通常講義形式で行い，履修者各自が興味をもった論説あるいは人物を取り上げて，意見を発表する時間を設ける。Ⅱでは明治20年以降の福澤の論説およびキリスト教主義者，儒教主義者の女性論を扱い，また福澤女性論の系譜について考える。

テキスト：
特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：
『福澤諭吉著作集』第10巻（慶應義塾大学出版会，2003年）
他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：
1　予備的講義
2　福澤諭吉の女性論・家族論
　1)『日本男子論』
　2)『女大学評論・新女大学』
3　キリスト教主義の女性論
　1）矢島楫子
　2）潮田千勢子
4　儒教主義の女性論
　1）大江スミ子『女房説法鉄砲三ぽう主義』
　2）井上哲次郎・三輪田元道ほか『女大学の研究』
5　福澤女性論・家族論の系譜
　1）鎌田栄吉
　2）日原昌造
6　報告と討論

履修者へのコメント：
知識を授受するのではなく，授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法：
・試験の結果による評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価
（授業中に意見発表の時間があります。）

質問・相談：
随時。

外国語教育研究センター

外国語教育研究センターでは，英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，インドネシア語，アラビア語，およびイタリア語の９つの外国語について特設科目を設置しています。これは，「表現技法」をキーワードとし，「聴く」「話す」ことから出発し，「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し，各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう，少人数編成のクラスで授業を行うものです。また，超上級クラス，基礎固めのクラス，各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに，これらの設置科目のほかに，学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています（オープン科目）。

外国語教育研究センターでは，塾生向けの講演会や，春休みに行う海外短期語学研修，および高校生から大学院生を対象としたアカデミック・ライティング・コンテストなどを企画しています。詳細が決まり次第，外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し，参加者を募る予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター特設科目の一覧を掲載します。ガイダンスや，履修の手続き，および各科目の詳しい講義内容ならびにオープン科目一覧については，別途配布の『外国語教育研究センター　履修案内・講義要綱』を参照してください。

なお，『外国語教育研究センター　履修案内・講義要綱』は外国語教育研究センター事務室でも配布します。

ガイダンス日程

４月６日（金）12：30 ～ 14：00　531 番教室

外国語教育研究センターが履修を許可した科目は，必ず学事センターにて履修申告しなければなりません。

外国語教育研究センター特設科目一覧（三田）

＊履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。
＊科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。
＊科目名に(Ⅰ)(Ⅱ)と表記されている科目は春(Ⅰ)と秋(Ⅱ)どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。
＊2007 年２月から３月に実施した海外研修に参加した学部学生のみが履修できる海外研修科目は，日吉のシラバスに掲載しています。

語　種	科　目　名	担当講師名	設置学期		曜日･時限	定員	形態	単位数
英　語	英語最上級　アドバンスト英語(a) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)	横川　真理子	春		水・4	25	半期	1
	英語最上級　アドバンスト英語(b) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)			秋			半期	1
	英語最上級　アドバンスト英語		春	秋			通年	2
	英語翻訳(a) (Lost in Translation)	アーマー，アンドルー	春		火・2	15	半期	1
	英語翻訳(b) (Lost in Translation)			秋			半期	1
	英語翻訳		春	秋			通年	2
	英語テスト対策　TOEFL(Ⅰ) (TOEFL Strategies (Listening & Speaking))	バロウス，リチャード	春		木・5	30	半期	1
	英語テスト対策　TOEFL(Ⅱ) (TOEFL Strategies (Reading & Writing))			秋			半期	1
	英語テスト対策　TOEIC(Ⅰ)(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Listening))	バロウス，リチャード	春		火・5	30	半期	1
	英語テスト対策　TOEIC(Ⅱ)(上級) (Advanced TOEIC Strategies (Reading))			秋			半期	1
	英語テスト対策　TOEIC(Ⅰ) (TOEICテストの対策と実践演習)	和田　朋子	春		火・2	30	半期	1
	英語テスト対策　TOEIC(Ⅱ) (TOEICテストの対策と実践演習)			秋			半期	1
	英語テスト対策　TOEIC(Ⅰ) (Building Listening Skills)	横川　真理子	春		水・3	30	半期	1
	英語テスト対策　TOEIC(Ⅱ) (Building Reading, Listening and Test-taking Skills)			秋			半期	1
	英語テスト対策　TOEIC(Ⅰ)	狩野　みき	春		月・4	30	半期	1
	英語テスト対策　TOEIC(Ⅱ)			秋			半期	1

語　種	科　目　名	担当講師名	設置学期		曜日･時限	定員	形態	単位数
英　語	英語経済・金融(Ⅰ) (208パターンでおぼえる経済英語の基本用例)	日向　清人	春		月・3	30	半期	1
	英語経済・金融(Ⅱ) (208パターンでおぼえる金融と会計の英語)			秋			半期	1
	英語法律・法務(Ⅰ) (208パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向　清人	春		月・4	30	半期	1
	英語法律・法務(Ⅱ) (208パターンでおぼえる英文契約書の英語)			秋			半期	1
	英語アカデミック・ライティング(Ⅰ) (Writing an AcademicPaper in English)	和田　朋子	春		火・1	20	半期	1
	英語アカデミック・ライティング(Ⅱ) (Writing an AcademicPaper in English)			秋			半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション(Ⅰ)(初級)	ファロン，ルース	春		月・3	25	半期	1
	英語オーラル・プレゼンテーション(Ⅱ)(初級)			秋			半期	1
ドイツ語	ドイツ語表現技法 4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶　愼一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 4(b) (中・上級聴解・口頭表現)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法 4		春	秋			通年	2
	ドイツ語表現技法 5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ， メヒティルド	春		火・4	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 5(b) (中・上級文章表現法)			秋			半期	1
	ドイツ語表現技法5		春	秋			通年	2
フランス語	フランス語表現技法 3(Ⅰ) (DELF (A1, A2) 対応クラス)	ルカルヴェ，クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法 3(Ⅱ) (DELF (A1, A2) 対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法 4(Ⅰ) (DELF (B1, B2) 対応クラス)	ルカルヴェ，クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法 4(Ⅱ) (DELF (B1, B2) 対応クラス)			秋			半期	1
	フランス語表現技法 5(Ⅰ) (DALF (C1, C2) 対応クラス)	ペリセロ， クリスティアン・アンドレ	春		木・2	20	半期	1
	フランス語表現技法 5(Ⅱ) (DALF (C1, C2) 対応クラス)			秋			半期	1
ロシア語	ロシア語表現技法 1(Ⅰ) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)	熊野谷　葉子	春		金・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 1(Ⅱ) (映画とドラマでロシア語を学ぼう)			秋			半期	1
	ロシア語表現技法 2(Ⅰ) (ロシア語で発信しよう)	宮澤　淳一	春		水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 2(Ⅱ) (ロシア語で発信しよう)			秋			半期	1
中国語	中国語聴解 2(Ⅰ)(最上級) (時事中国語)	山下　輝彦	春		水・2	25	半期	1
	中国語聴解 2(Ⅱ)(最上級) (時事中国語)			秋			半期	1
	中国語表現技法 2(Ⅰ)(最上級) (読解と翻訳)	蒋　文明	春		月・5	25	半期	1
	中国語表現技法 2(Ⅱ)(最上級) (作文と翻訳)			秋			半期	1

語　種	科　目　名	担当講師名	設置学期		曜日･時限	定員	形態	単位数
スペイン語	スペイン語表現技法3(Ⅰ)(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・社会的背景に対するより深い理解)	安藤　万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法3(Ⅱ)(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・社会的背景に対するより深い理解)			秋			半期	1
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ語	インドネシア語ベーシック1(a)	野村　亨 トトク，スハルディアント	春		月・3 金・2	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック1(b)			秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック1		春	秋			通年	4
	インドネシア語ベーシック2(a)	野村　亨 トトク，スハルディアント	春		月・2 金・1	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック2(b)			秋			半期	2
	インドネシア語ベーシック2		春	秋			通年	4

2007 年度　外国語教育研究センター特設科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9：00～10：30		第 2 時限 10：45～12：15		第 3 時限 13：00～14：30		第 4 時限 14：45～16：15		第 5 時限 16：30～18：00	
月			インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	野村	英語経済･金融（Ⅰ） 英語オーラル･ プレゼンテーション（Ⅰ） （初級） ドイツ語表現技法 4(a) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 3（Ⅰ） インドネシア語 ベーシック 1(a) インドネシア語 ベーシック 1	日向 ファロン 三瓶 ルカルヴェ 野村	英語テスト対策 TOEIC（Ⅰ） 英語法律･法務（Ⅰ） フランス語 表現技法 4（Ⅰ）	狩野 日向 ルカルヴェ	中国語表現技法 2（Ⅰ） （最上級）	蒋
火	英語アカデミック・ ライティング（Ⅰ）	和田	英語翻訳(a) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC（Ⅰ）	アーマー 和田			ドイツ語表現技法 5(a) ドイツ語表現技法 5	ドゥッペル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC（Ⅰ）上級	バロウス
水			中国語聴解 2（Ⅰ） （最上級）	山下	英語テスト対策 TOEIC（Ⅰ） ロシア語 表現技法 2（Ⅰ）	横川 宮澤	英語最上級 アドバンスト英語(a) 英語最上級 アドバンスト英語	横川		
木			フランス語 表現技法 5（Ⅰ）	ペリセロ					英語テスト対策 TOEFL（Ⅰ）	バロウス
金	インドネシア語 ベーシック 2(a) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	インドネシア語 ベーシック 1(a) インドネシア語 ベーシック 1	トトク	ロシア語 表現技法 1（Ⅰ）	熊野谷	スペイン語表現技法 3 （Ⅰ）（上級）	安藤		
土										

2007 年度　外国語教育研究センター特設科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限 9：00～10：30		第 2 時限 10：45～12：15		第 3 時限 13：00～14：30		第 4 時限 14：45～16：15		第 5 時限 16：30～18：00	
月			インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	野村	英語経済･金融（Ⅱ） 英語オーラル･ プレゼンテーション（Ⅱ） （初級） ドイツ語表現技法 4 (b) ドイツ語表現技法 4 フランス語 表現技法 3（Ⅱ） インドネシア語 ベーシック 1(b) インドネシア語 ベーシック 1	日向 ファロン 三瓶 ルカルヴェ 野村	英語テスト対策 TOEIC（Ⅱ） 英語法律･法務（Ⅱ） フランス語 表現技法 4（Ⅱ）	狩野 日向 ルカルヴェ	中国語表現技法 2 （Ⅱ）（最上級）	蒋
火	英語アカデミック・ ライティング（Ⅱ）	和田	英語翻訳(b) 英語翻訳 英語テスト対策 TOEIC（Ⅱ）	アーマー 和田			ドイツ語表現技法 5(b) ドイツ語表現技法 5	ドゥッペル =タカヤマ	英語テスト対策 TOEIC（Ⅱ）上級	バロウス
水			中国語聴解 2（Ⅱ） （最上級）	山下	英語テスト対策 TOEIC（Ⅱ） ロシア語 表現技法 2（Ⅱ）	横川 宮澤	英語最上級 アドバンスト英語(b) 英語最上級 アドバンスト英語	横川		
木			フランス語 表現技法 5（Ⅱ）	ペリセロ					英語テスト対策 TOEFL（Ⅱ）	バロウス
金	インドネシア語 ベーシック 2(b) インドネシア語 ベーシック 2	トトク	インドネシア語 ベーシック 1(b) インドネシア語 ベーシック 1	トトク	ロシア語 表現技法 1（Ⅱ）	熊野谷	スペイン語表現技法 3 （Ⅱ）（上級）	安藤		
土										

慶應義塾大学国際センター　在外研修プログラム

全学部および研究科に在籍している学生を対象に，夏季および春季休業中に海外で在外研修プログラムを開講しています。

これは，外国語による講義およびディスカッションのほか，大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して，さまざまな異文化交流を体験することで，国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので，海外生活体験をしたい方，外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方，将来長期の留学を考えている方などにとって，ふさわしい講座といえるでしょう。

ここに記載のあるもののほか，韓国の名門大学で英語により韓国の政治・経済・社会・文化を学ぶ「延世大学春季講座」も新たに開講しました。

形態は原則として，往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で，本学の教職員が同行する講座もあります。

また，現地への出発前には事前研修を実施します。（事後研修を実施する場合もあります。）

なお，プログラムは，自然災害，戦争，航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的，不慮不可抗力による事故などのために中止する場合があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先　　三田国際センター
URL: http://www.ic.keio.ac.jp/index.html　　「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」
詳細や変更は，随時ホームページ等で発表します。

夏季講座ガイダンス　4月4日（水）矢上　11-41教室　12：00～13：00　　4月5日（木）三田　526教室　10：45～12：15
4月4日（水）藤沢　Ω11教室　16：10～17：40　　4月5日（木）日吉　J29教室　17：00～18：30

夏夏季講座オンラインレジストレーション期限：4月10日（火）予定
夏季講座募集期間：4月11日（水），12日（木）　　一次合格発表：4月19日（木）（予定）
面接審査：4月21日（土）（予定）　　夏季講座選考結果発表：4月27日（金）（予定）

①　慶應義塾大学 ― ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学は，オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で，美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義，ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション，エッセイの作成・提出を中心としており，ケンブリッジ大学の教員が指導にあたります。

〔現地研修期間〕2007年8月6日（月）～9月5日（水）（予定）　5月～7月に事前研修を2回程度行います。
〔研修内容〕講義（午前），ケンブリッジ大生（TA: Teaching Assistant）を交えてのディスカッション（午後）。エッセイ作成・提出（週末）。
〔開講予定科目〕※6科目の中から3科目を選択して履修。

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior (Zoology).

〔単位数〕
4単位　※本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。
〔募集人数〕60名

②　慶應義塾大学 ― ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は，米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり，教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で，アメリカではハーバード大学についで古い歴史を誇っています。

本講座は，毎年定められるテーマに沿った英語による講義，グループワーク，フィールドワーク，プレゼンテーション等で構成されています。また，大学内での寮生活や，講演会，ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイ等を通じ，さまざまな異文化交流を体験することができます。

〔現地研修期間〕2007年7月27日（金）～8月14日（火）　4月下旬より事前研修（6回程度），帰国後には事後研修（1回）を行います。
〔研修内容〕

ウィリアム・アンド・メアリー大学の教員による講義および質疑応答，ダイアローグクラス，ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク，フィールドワーク，プレゼンテーション，ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

〔単位数〕
4単位　※本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。
〔募集人数〕40名

③　慶應義塾大学 ― ワシントン大学夏季講座

ワシントン大学はアメリカ北西部ワシントン州シアトルにある 1861 年に創立した歴史のある学校で，ワシントン州最大の大学です。豊かな自然に恵まれたキャンパスはとても広大で美しく，緑が多い環境の中で落ち着いて学業に専念することができます。

「環境」を多面的な視点から学ぶ講義・ワークショップとディスカッションのほか，フィールドトリップ，ワシントン大学の学外施設を利用した実地自然体験宿泊旅行などをバランスよく配置しています。

〔現地研修期間〕2007 年 8 月22 日（水）～ 9 月 13 日（木）　5 月～ 7 月に事前研修を 2 回程度行います。

〔研修内容〕講義／ワークショップ，ディスカッション，フィールドワーク，プレゼンテーション
体験宿泊旅行：レーニア山，エコロジーウォーク（森林学），フライデー・ハーバー・ラボ（海洋学）

〔単位数〕4 単位　※本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕30 名

④　慶應義塾大学 ― 西安交通大学中国語・中国文化夏季講座（学部生対象）

西安交通大学は，工学，医学のみならず文学，法学まで 9 つの学科を擁する国家教育部直属の総合重点大学で 2006 年に創立 110 周年を迎えました。国際交流も幅広く行っており，中国で最も早く留学生を受け入れ始めた大学の 1 つです。

〔現地研修期間〕2007 年 8 月 30 日（木）～ 9 月 17 日（月）（予定）

〔研修内容〕中国語授業，中国文化講義，太極拳などのアクティビティ，中国の大学生との交流活動，西安市の名所旧跡の見学

〔単位数〕2 単位（予定）　※本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部によって異なりますので各自確認をしてください。

〔募集人数〕15 名（学部生対象）

⑤　慶應義塾大学 ― パリ政治学院春季講座

パリ政治学院は，フランスのエリート養成機関『グランゼコール』の 1 つで，フランス現大統領のシラク氏をはじめ，歴代の政界・財界の著名人の母校として大変有名です。

本講座は，加盟国の増大により拡大する EU の政治・社会・財政・文化の問題のみならず，EU 対アジアや EU 対米国の関係など，様々なテーマを取り扱う非常に中身の濃いプログラムになっています。

プログラム期間中に，各自が決めた研究テーマに沿ってエッセイを書き，プログラム修了時には，パリ政治学院からディプロマが授与されます。また，最終週にはベルギーの首都ブリュッセルにある EU の諸機関を実際に訪問し，EU の組織に対する理解を深める機会が設けられています。

講義はすべて英語で行われますが，午後にはフランス語の授業もありますので，2 カ国語を同時にマスターできるのもこの講座の魅力となっています。

プログラムの詳細は，10 月ごろ国際センターホームページで発表します。

〔現地研修　2006年度参考〕　2007年 2 月 16 日～ 2007年 3 月 17 日

〔講義内容　2006年度参考〕共通ブロックと，選択ブロックの中から 2 つの計 3 ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about ?”

講義例）

“The History of Europe: Once upon a time...”
“Contemporary history and institutions of Europe”
“The values of the Europeans”
“The European identities”
“The economies performances of European economies”
“European welfare states and the dynamics of generations”
“Democracy at the European level”
“National political parties in Europe: Do they heve a European vision ?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”
“Europe and its external relations”
“Migration and identities”

単位取得：4 単位（卒業に必要な単位として認められることがあります。ただし，次年度春学期設置科目として認定の為，参加時に最終学年の場合は対象外となります。）

定　　員：20 名

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは，外国および日本の文化や社会，国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は，アジア・オセアニア，北米・南米，ヨーロッパからアフリカにおよぶほか，国際社会，異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では，社会，経済，ビジネス，政治をはじめ歴史，文学，芸術，思想・宗教など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり，学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお，本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので，所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象　　大学学部生，大学院生，ならびに別科生（原則として新入生を除く）

2. 単位　　各科目２単位
（なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法
履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。
学部・大学院が設置主体の科目については，学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は，三田，日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料　無料

5. 掲示　　休講などの連絡事項は，三田の国際センター掲示板に掲示されます。

6. WEBSITE
この講義要綱には，各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「教科書」「参考書」「毎週の計画」「コメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html

2007年度　国際研究講座 (2007-2008 International Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
地域研究（アジア・オセアニア） Area Study: Asia, Oceania					
法 F(Law)	春 Spring	月 Mon	3 3	現代東南アジア論特殊研究 I SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 1	山本　信人 Yamamoto, Nobuto
	春 Spring	火 Tue	3 3	オーストラリアの歴史 STUDIES IN AUSTRALIAN HISTORY	デイ,　デイヴィッド Day, David
	春 Spring	水 Wed	3 3	現代中国社会 CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	ファーラー, グラシア Farrer, Gracia
	春 Spring	木 Thu	4 4	アジアの音楽 LISTENING TO ASIA	ホッフマン, T・M Hoffman, T.M.
法研 GS(Law)	春 Spring	水 wed	3 3	日韓関係の政治 (*) THE POLITICS OF KOREA-JAPAN RELATIONS (*)	リ, ジョンフン Lee Jung-Hoon
法研 GS(Law)	秋 Fall	月 Mon	4 4	国際政治論特殊研究 (*) SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS (*)	山本　信人 Yamamoto, Nobuto
	秋 Fall	月 Mon	5 5	東南アジア世界の諸相 WORLD OF SOUTHEAST ASIA	野村　亨 Nomura, Toru
	秋 Fall	水 wed	5 5	開発と社会変容 DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	倉沢愛子 Kurasawa, Aiko
	秋 Fall	木 Thu	3 3	アジア諸国におけるビジネスマネジメント BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	トビン, ロバート I. Tobin, Robert I.
	秋 Fall	金 Fri	5 5	現代インド事情 INDIA TODAY	西村　祐子 Nishimura, Yuko
地域研究（北米・南米） Area Study: North America, South America					
	春 Spring	火 Tue	5 5	世界政治におけるラテンアメリカ LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	アントリネス, マリオ Antolinez, Mario
	春 Spring	金 Fri	4 4	アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策 AMERICAN STUDIES	ウィリアムス, ムケーシュ Williams, Mukesh
法研 GS(Law)	春 Spring	火 Tue	4 4	アメリカの東アジア政策 (*) UNITED STATES FOREIGN POLICY TOWARD EAST ASIA (*)	ジャヌジ, フランク Jannuzi, Frank
	秋 Fall	火 Tue	5 5	カナダという国とカナダの国際的な役割 CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	イエローリーズ, ジェームズ Yellowlees, James
	秋 Fall	水 Wed	3 3	地域文化論（アメリカ） AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	奥田　暁代 Okuda, Akiyo
地域研究（ヨーロッパ・ロシア） Area Study: Europe, Russia					
	春 Spring	金 Fri	3 3	ウクライナとロシア UKRAINE AND RUSSIA	ナコルチェフスキー,　アンドリィ Nakorchevski, Andriy
	秋 Fall	木 Thu	5 5	ドイツ文化と社会 GERMAN CULTURE AND SOCIETY	ワニェク,　ヤクリーン Waniek, Jacqueline
法研 GS(Law)	秋 Fall	木 Thu	5 5	プロジェクト科目II・欧州統合 (*) PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	田中　俊郎 Tanaka, Toshiro 細谷　雄一 Hosoya, yuuichi
経済 F(Economics)	秋 Fall	木 Thu	5 5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林　秀毅 Hayashi, Hideki
地域研究（アフリカ） Area Study: Africa					
	春 Spring	金 Fri	4 4	アフリカン　イシューズ：アフリカにおける近代と危機の意味 AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	近藤　英俊 Kondo, Hidetoshi
	秋 Fall	火 Tue	4 4	グローバルヴィレッジ構築に向けて BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	フリードマン, デビッド Freedman, David
国際社会　Global Community					
	春 Spring	火 Tue	4 4	国際協力の実態 THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION	バンバン,　ルディアント Bambang, Rudyanto
	春 Spring	水 Wed	5 5	国際人権法 INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	細谷　明子 Hosotani, Akiko
	春 Spring	木 Thu	3 3	ヘルスケア組織論 NGOS, NPOS AND CBOS	カストロ　ヴァスケス,　ヘナロ Castro-Vazquez, Genaro
	春 Spring	金 Fri	3 3	国際コミュニケーション INTERNATIONAL COMMUNICATION	伊藤　陽一 Ito, Youichi
	秋 Fall	水 Wed	4 4	国際関係 INTERNATIONAL RELATIONS	セット, アフターブ Seth, Aftab
	秋 Fall	木 Thu	3 3	現代の国際問題と国連の役割 CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	マリク,　ラビンダー Malik, Rabinder
	秋 Fall	金 Fri	4 4	国際開発協力論 INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	後藤 一美 Goto, Kazumi

2007年度　国際研究講座 (2007-2008 International Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
国際経済・ビジネス　Global Economy, Global Business					
商 F(Business&Commerce)	春 Spring	水 Wed	1 1	産業史各論(科学技術政策史) HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY	ルイス, ジョナサン Lewis, Jonathan
	春 Spring	木 Thu	4 4	グローバルビジネスにおける革新と戦略 INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS	トビン, ロバート I. Tobin, Robert I.
商研 GS(Business&Commerce)	春 Spring	木 Thu	4 4	会計学 (*) ACCOUNTING (*)	伊藤　眞 Ito, Makoto
商研 GS(Business&Commerce)	秋 Fall	火 Tue	2 2	金融特論 (*) ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)	深尾 光洋 Fukao, Mitsuhiro
商研 GS(Business&Commerce)	秋 Fall	木 Thu	5 5	国際経済 (*) INTERNATIONAL ECONOMY (*)	小島 明 Kojima, Akira
文化・異文化理解　Culture/Cross-cultural Understanding					
	春 Spring	月 Mon	5 5	歴史としての文学 LITERATURE AS HISTORY	チャンドラ,　エリザベス Chandora, Elizabeth
	春 Spring	水 Wed	6 6	文化・文化適応とアイデンティティ CULTURE , CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	横川　真理子 yokokawa mariko
	秋 Fall	月 Mon	5 5	比較映画論 VISIONS OF THE PAST	エインジ, マイケル Ainge, Michael W.
	秋 Fall	水 wed	5 5	異文化と自己理解 CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	ショールズ,　ジョセフ Shaules, Joseph

特に記載が無いものは国際センター設置科目。Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center.
(*)この科目は, 学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

2007年度　日本研究講座 (2007-2008 Japanese Studies Courses)

Offered by:	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer
				文化　Culture	
	春 Spring	月 Mon	4 4	美術を「よむ」 - 日本美術史入門 INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	村井　則子 Murai, Noriko
	春 Spring	月 Mon	6 6	日本の話しことばと言外の意味 LANGUAGE BEYOND GRAMMER	キム，　アジョン Kim, Angela A-Jeoung
	春 Spring	水 Wed	3 3	夢のあと THE AFTERMATH OF DREAMS	アーマー，アンドルー Armour, Andrew
	春 Spring	水 wed	4 4	20世紀の日本と欧米の小説 TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	レイサイド，ジェイムス Raeside, James M.
	秋 Fall	水 Wed	3 3	日本の文学 JAPANESE LITERATURE	アーマー，アンドルー Armour, Andrew
	秋 Fall	水 Wed	6 6	日本語の話しことばと言外の意味 LANGUAGE BEYOND GRAMMER	キム，　アジョン Kim, Angela A-Jeoung
	秋 Fall	木 Thu	6 6	アートワークショップ/日本のアートと文化 ARTS/ ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	菱山 裕子 Hishiyama, Yuko
理工研 GS(Science&Tech)	秋 Fall	金 Fri	2 2	科学技術文化特論（*）（矢上開講） SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE（*）(Yagami Campus)	ドゥウルフ，チャールズ De Wolf, Charles
				思想・宗教　Thought, Religion	
	秋 Fall	火 Tue	3 3	日本キリスト教史 CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY	ボールハチェット，ヘレン Ballhatchet, Helen
	秋 Fall	金 Fri	3 3	日本の宗教：救済の探求 RELIGIONS IN JAPAN : IN SEARCH OF SALVATION	ナコルチェフスキー，アンドリィ Nakorchevski, Andriy
				歴史　History	
	秋 Fall	月 Mon	4 4	近代日本の対外交流史 MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	太田　昭子 Ohta, Akiko
	秋 Fall	火 Tue	5 5	政策決定，歴史的記憶，人種から見る明治期日本外交 JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	飯倉　章 Iikura, Akira
				社会　Society	
	春 Spring	月 Mon	3 3	異文化コミュニケーション1 INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	手塚　千鶴子 Tezuka, Chizuko
	春 Spring	火 Tue	3 3	英国と米国のマスコミに描かれた日本 JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	キンモンス，アール Kinmonth, Earl H.
	春 Spring	木 Thu	4 4	日本人の心理学（1） JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	手塚　千鶴子 Tezuka, Chizuko
	春 Spring	木 Thu	5 5	新市民社会論 IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	ボックマン，　デイヴ Bockmann, David 西村　祐子 Nishimura, Yuko
	秋 Fall	月 Mon	3 3	異文化コミュニケーション2 INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	手塚　千鶴子 Tezuka, Chizuko
	秋 Fall	月 Mon	5 5	家族の近代 THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	ノッター，　デビット Notter, David
	秋 Fall	火 Tue	4 4	多民族社会としての日本 MULTIETHNIC JAPAN	柏崎　千佳子 Kashiwazaki, Chikako
	秋 Fall	木 Thu	4 4	日本人の心理学（2） JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	手塚　千鶴子 Tezuka, Chizuko
				経済・ビジネス　Economy, Business	
	春 Spring	火 Tue	5 5	日本企業の経営戦略と管理手法 CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN	稲葉　エツ Inaba, Etsu
商 F(Business&Commerce)	春 Spring	火 Tue	4 4	日本における外資系企業 FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	ハリス，グレアム Harris, Graham
商研 GS(Business&Commerce)	春 Spring	木 Thu	5 5	ジャパニーズ・エコノミー JAPANESE ECONOMY	小島 明 Kojima, Akira
	春 Spring	木 Thu	6 6	日本のビジネスマネジメント MANAGEMENT IN JAPAN	ハギリアン，パリッサ Haghirian, Parissa
	春 Spring	金 Fri	5 5	日本の経済システムとその特殊性 STRUCTURE,POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM	伊藤　規子 Ito, Noriko
	秋 Fall	月 Mon	6 6	日本経済の展望 ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	市川　博也 Ichikawa, Hiroya
	秋 Fall	木 Thu	4 4	国際経営比較 INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	吉田文一 Yoshida, Fumikazu
	秋 Fall	金 Fri	3 3	日本の経営 JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	梅津　光弘 Umezu, Mitsuhiro
				法律　Law	
	秋 Fall	金 Fri	5 5	日本法の制度と実態 INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	小林　節 Kobayashi, Setsu

特に記載が無いものは国際センター設置科目。Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center.
(*)この科目は，学部生履修不可(This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students.)

国際研究講座（INTERNATIONAL STUDIES）

現代東南アジア論特殊研究Ⅰ (Spring)
SPECIAL STUDY OF CONTEMPORARY SOUTH EAST ASIA 1

山本 信人	法学部教授
Nobuto Yamamoto	Professor, Faculty of Law

Sub Title:

The Chinese in Modern Southeast Asia

Course Description:

This seminar aims to look at how conventional scholarship on Southeast Asia constructed the Chinese in terms of economic activities, religion, gender and subethnicity, and how new trends of studies address novel aspects of Chinese identities and activities in local, regional, global and transnational contexts. We will concentrate on one book on the Chinese in Southeast Asia.

歴史としての文学 (Spring)
LITERATURE AS HISTORY

チャンドラ，エリザベス	国際センター講師
Elizabeth Chandra	Lecturer, International Center

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of literature as history. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literature provides what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to preserve. More important, it has the capacity to represent the fine curves of a political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such “sensitive” historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people’s particular schemes of culture. The fact that most written records from the colonial period were produced by and speak from the point of view of “power” further complicates historical reconstruction of the experience. In this course we will read novels and short story written by colonial agents and colonized persons, and attempt to catch glimpses on its “micro sites” as diverse and intimate as domestic order, sexual exchange, gossip, humor, paranoia, and melancholia.

オーストラリアの歴史 (Spring)
STUDIES IN AUSTRALIAN HISTORY

デイ，デイヴィッド	国際センター講師
David Day	Lecturer, International Center (Honorary Associate, History Program, LaTrobe University)

Sub Title:

Claiming a Continent: The history of Australia, 1788–2006

Course Description:

The course will examine how Europeans asserted legal ownership to the continent of Australia before proceeding over the following two centuries to buttress that legal claim with claims of effective and moral ownership. Like many other societies across the world, European Australians struggled to make land that was fruitfully occupied by its original inhabitants, in this case the Aborigines, as their own. That struggle continues even today, with Australia still being shaped by the problematic circumstances of its origins and the ongoing struggle to become secure in its possession of the continent.

国際協力の実態 (Spring)
THE ACTUAL WORLD OF INTERNATIONAL COOPERATION

バンバン，ルディアント	国際センター講師（和光大学准教授）
Bambang Rudyanto	Lecturer, International Center (Associate Professor, Wako University)

Sub Title:

Experience-based International Cooperation

Course Description:

The course on International Cooperation is based on the experiences of the lecturer, who worked at the United Nations(UNCRD), the Japanese ODA Institution (JBIC), the International Organization on Disaster Reduction (ADRC), and a private international consultant company. The contents are practical, with specific issues such as community based development, the impact from the Sumatra tidal wave, the use of Information Technology(IT) as

development tools, and other trendy topics. The course is a multi-disciplinary field.

The students are encouraged to have discussion in the class, and there will be some activities outside class. Some audio-visual material will be also presented.

世界政治におけるラテンアメリカ (Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス，マリオ　国際センター講師

Mario Antolinez　Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

産業史各論（科学技術政策史） (Spring)

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス，ジョナサン　商学部講師

Jonathan Lewis　Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

---

Course Description:

This course provides an overview of science and technology policy, from government, enterprise and broader social perspectives. It introduces some key research and presents a variety of case studies from the field on information technology.

I use both Japanese and English in the lecture.

現代中国社会 (Spring)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

ファーラー，グラシア　国際センター講師

Gracia Liu Farrer　Lecturer, International Center

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces ? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition ? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China ? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections ? How has the one-child policy affected women, children, and society in China ? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

国際人権法 (Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子　国際センター講師

Akiko Hosotani　Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

(1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of

nongovernmental organizations; etc.

(2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub- Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization

(3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the Unites States, Europe, Sudan, Ghana, and India

(4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.

(5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

---

文化・文化適応とアイデンティティ (Spring)

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENDITY

横川真理子　国際センター講師

Mariko Muro Yokokawa　Lecturer, International Center

Sub Title:

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響　How communication and understanding are affected by culture

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do role plays, as well as do presentations on ethnographic studies of their choice. The instructor will provide basic guidelines on how to conduct ethnographic (observational) research.

ヘルスケア組織論 (Spring)

NGOS, NPOS AND CBOS

カストロ　ヴァスケス，ヘナロ　国際センター講師

Genaro Castro-Vázquez　Lecturer, International Center

Sub Title:

The provision of health care

Course Description:

Throughout the world the provision of health care is labour intensive. The functioning of national systems for health care and improvement around the globe depends upon financial capital, enlightened political leadership, hospitals, equipment and medicines.

However, the single most important factor in determining the success of healthcare delivery is the workforce: the clinical and non-clinical staff members that are in direct contact with the recipients of health care services. The knowledge and skills, attitudes and motivation of healthcare workers can make or break even the most carefully designed system. Equipment and medicines are necessary to improve the productivity and effectiveness of health professionals; but without the professionals little if any health improvement at all is possible.

Non-governmental Organisation (NGO) to mean any grouping of people who have a common mission to meet a particular need in their society or community, and are not formed or controlled by government. Throughout the world groups of people identify needs in their communities which government institutions are either not designed to meet or which government institutions are unable to meet because of the unavailability of resources, and the government having other priorities. This is particularly the case in poor countries. It does, however, happen that private citizens are compelled to organize themselves to meet certain needs because government is not willing to address these needs, even where resources may be available. This happens in oppressive regimes and dictatorships of various kinds. So, an NGO may address a need which is normally not a concern of government, but NGO's address needs which in a normal society should be addressed by government.

アジアの音楽 (Spring)

LISTENING TO ASIA

ホッフマン，T・M　国際センター講師

T. M. Hoffman　Lecturer, International Center

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

グローバルビジネスにおける革新と戦略 (Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン，ロバート　I.	商学部教授
Robert I. Tobin	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

ウクライナとロシア (Spring)

UKRAINE AND RUSSIA

ナコルチェフスキー，アンドリィ	文学部教授
Andriy Nakorchevski	Professor, Faculty of Letters

Sub Title:

Two Histories

Course Description:

During this course we will discuss two different approaches to what is usually interpreted as a common history of Ukraine and Russia. We will challenge the so called “standard” interpretation of historical events common to both countries and will discuss how contrasting could be approaches of different people to one and the same historical episode or personality. We will see how contemporary politics influence interpretation of events in the past and to what extent a current situation is determined by so called “historical memory”. Hopefully, in the end will get better understanding of what is going on in Ukraine and Russia now and what we can expect in the future.

At least some preliminary knowledge of Ukrainian and Russian history is required.

国際コミュニケーション (Spring)

INTERNATIONAL COMMUNICATION

伊藤陽一	国際センター講師
Youichi Ito	Lecturer, International Center

Sub Title:

Studies on information and culture that flow beyond national borders

Course Description:

This course deals with problems, theories and policies regarding information culture and language that flow beyond national borders.

アメリカ研究 (Spring)

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス，ムケーシュ　国際センター講師

Mukesh K. Williams　Lecturer, International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tired to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline: The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: 'Old' and 'New' immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock' n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865-1917); Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920-2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war on terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and evolving nations of national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world ? And how do people from other nations think about America ? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization;* radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
b) How is space constructed in the lives of individuals in America ? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S. ? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America ? (Clifford Geertz and others)
d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation ? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy ?
f) Is the rise of the modern West a pure or impure concept ? (Chris Bayly and Bernal)

Aims: The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

アフリカン イシューズ：アフリカにおける近代と危機の意味 (Spring)

AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA

近藤英俊	国際センター講師（関西外国語大学准教授）
Hidetoshi Kondo	Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

Illness and Medicine in Modern Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

東南アジア世界の諸相 (Fall)

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨	総合政策学部教授
Toru Nomura	Professor, Faculty of Policy Management

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

比較映画論：映画における歴史の表象 (Fall)

VISIONS OF THE PAST

エインジ，マイケル　W.	経済学部准教授
Michael W. Ainge	Associate Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Representing History on Film

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of various styles of representing history on film, including American forms such as Hollywood Historical Drama and Documentary, as well as other styles from other countries. Close readings of historical texts and of the filmed versions of those events will provide a window into the strengths and limitations of both media. We will consider whether representing the historical past on film necessitates simplification, distortion and/or falsification of the facts ? How about the case of post-colonial societies struggling to retrieve lost or obscured histories ? How does film effect memory, both collective and personal ? These and other questions will constitute the core of our discussions.

グローバルヴィレッジ構築に向けて (Fall)

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

フリードマン，デビッド	環境情報学部教授
David Freedman	Professor, Faculty of Environment and Information Studies

Sub Title:

日本とサブ―サハラン　アフリカ地域

Course Description:

HTTP:// WWW.SFC.KEIO.AC.JP/SOUTHAFRICA/

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term "culturnomics" was coined to define how various intellectual disciplines need to

combine in order to offer a fuller world view. This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

The course will focus the geo-political area of southern Africa, and the issues that such regions face as they plan seek to integrate their local economies and to connect to the "global village." Speakers from the various embassies of the S.A.D.C. group will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. Two years ago at the third Tokyo International Conference on African Development Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged $1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. This government interest has led to a variety of efforts to make the connections between southern Africa and Japan more multi-dimensional, and include both large-scale and small scale investment, tourism and educational connections and N.G.O. endeavors. (http://www.ajf.gr.jp/old/english/ajf_update.htm)

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their focus country and Japan. As a final project, each group will present a tentative plan to further develop the connections between Japan and their research country.

カナダという国とカナダの国際的な役割 (Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローリーズ，ジェームズ　国際センター講師（カナダ日本連盟日本代表）

James Yellowlees　Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

地域文化論（アメリカ） (Fall)

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)

奥田暁代　法学部教授

Akiyo Okuda　Professor, Faculty of Law

Sub Title:

Multicultural History of The United States

Course description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

国際関係 (Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セット, アフターブ　慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授

Aftab Seth　Professor, Keio University Global Security Research Center

---

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description:

This series will cover a wide rage of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be presented in the context of

35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of and Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

開発と社会変容 (Fall)
DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子	経済学部教授
Aiko Kurasawa	Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ? Critical analysis and evaluation are most welcome.

異文化と自己理解 (Fall)
CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

ショールズ，ジョセフ	国際センター講師
Joseph Shaules	Lecturer, International Center

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

アジア諸国におけるビジネスマネジメント (Fall)
BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン，ロバート　I.	商学部教授
Robert I. Tobin	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case stadies and research assignments.

Open to enrolled undergraduate and graduate students only.

現代の国際問題と国連の役割 (Fall)
CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

マリク，ラビンダー	国際センター講師
Rabinder N. Malik	Lecturer, International Center

Sub-title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course is to enable the students to gain a better understanding of the world around them as well as about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. The course would help enhance the trans-cultural literacy and competence of the students and it should enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world. Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English. The course is open to students from all faculties.

ドイツ文化と社会 (Fall)

GERMAN CULTURE AND SOCIETY

ワニェク, ヤクリーン	国際センター講師
Jacqueline Waniek	Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to German culture, educational and political system, and historical challenges

Course Description:

The objective of this course is an introduction to the history, social, political and educational systems of Germany. Emphasis will be placed on contemporary public issues such as the German reunification, Germany's role in the international community and Germany's aging society. By means of discussions, lectures, reading, writing and class presentations, students will reflect the German national character with that of contemporary Japanese.

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS (Fall)

林　秀毅	経済学部講師
Hideki Hayashi	Part-time Lecturer, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, with emphasis on the economic aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part 1, each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and in part 2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition. For reference, the lecture materials for 2006 can be viewed at

http://ocw.dmc.keio.ac.jp/j/economics/02A-009_j/index.html

As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed the following week will be announced. Students are supposed to submit a report on one of the questions and submit it at the beginning of the next lecture.

国際開発協力論 (Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

後藤一美	国際センター講師（法政大学教授）
Kazumi Goto	Lecturer, International Center (Professor, Hosei University)

Course description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

現代インド事情 （Fall）
INDIA TODAY

西村祐子 国際センター講師（駒澤大学教授）
Yuko Nishimura Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

Sub Title:

Religion, Politics, Gender, and Civic Engagement

Course Description:

This course is aimed at describing India from post-modern perspective. In this course, participants will study how India's 'modernity' was created by British colonization and what are the problems of India Today. We will also study how religion, politics, and gender relations intertwine very closely and affect people's daily lives. In the latter part of this course, we will also study the roles of India's NGOs. We will study caste, class, kinship and gender from the post modern perspective. We will learn the cultural difference between the North, the South, the East and the West. We will also cover issues surrounding 'dowry' problems in India. Students are encouraged to raise questions in each lectures and actively participate. Participants will also learn the basics of essay writing.

異文化コミュニケーション 1　（Spring）
INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

手塚千鶴子	日本語・日本文化教育センター教授
Chizuko Tezuka	Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

美術を「よむ」―日本美術史入門　（Spring）
INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子	国際センター講師
Noriko Murai	Lecturer, International Center

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing the modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

日本語の話しことばと言外の意味　（Spring）／（Fall）
LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

キム，アジョン	日本語・日本文化教育センター専任講師
Angela A-Jeoung Kim	Assistant Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Expressing 'something else' beyond information — markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language does not only function as a conveyance of information, but also has other functions such as expressing the language user's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know* and *like*; and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne*, *yo*, *-janai*, *doose*, *datte*, *maa*, *nan(ka)*, *mono*, *no*, *yappari* etc.

英国と米国のマスコミに描かれた日本　（Spring）
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

キンモンス，アール　H.	国際センター講師（大正大学教授）
Earl H. Kinmonth	Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the

foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

日本における外資系企業 (Spring)

FOREIGN COMPANIES IN JAPAN

ハリス，グレアム　商学部講師

Graham Harris　Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Sub Title:

Foreign Companies in Japan — a Success or a Failure ?

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the "Bubble era" and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

日本企業の経営戦略と管理手法 (Spring)

CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN

稲葉エツ　国際センター講師（財団法人貿易研修センター人材育成部長）

Etsu Inaba　Lecturer, International (Center Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

Sub title:

Understanding key success factors for developing and implementing corporate strategies

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical as well as discussion/presentation skills in students.

Description:

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices.

The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and management systems which are supporting the strategies. In-depth understanding of selected companies in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research.

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

夢のあと (Spring)

THE AFTERMATH OF DREAMS

アーマー，アンドルー　文学部教授

Andrew Armour　Professor, Faculty of Letters

Sub title:

Medieval Japanese literature

Course Description:

In "The Trail of Genji" last year, I focused on that 11th-century masterpiece of Japanese literature known as *Genji monogatari*. This year we will progress into the Kamakura and Muromachi periods, examining medieval literary developments against the often tumultuous historical background. The rise of the military caste is reflected in the war tales such as *Heike monogatari*, which stand in sharp contrast to the court literature of the previous Heian period and to medieval meditative works such as the *Hôjôki*, and the simple *setsuwa* tales enjoyed by the general populace. We will also trace the major developments in drama and poetry. Many of the works introduced in this course are available in translation.

20世紀の日本と欧米の小説 (Spring)

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

レイサイド，ジェイムス	法学部教授
James Raeside	Professor, Faculty of Law

Sub title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different literary traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing — particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by a Western writer. The texts chosen will be relatively short, wherever possible complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translation, although students who are able to read the originals are welcome to add this knowledge to the discussion. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion. Those who do not feel their English ability is adequate to reading several pages of English each week should not take this class.

日本人の心理学（1） (Spring)

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN(1)

手塚千鶴子	日本語・日本文化教育センター教授
Chizuko Tezuka	Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

新市民社会論 (Spring)

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

ボックマン，デイヴ	国際センター講師（コンサルタント）
Dave Bockmann	Lecturer, International Center (Consultant)
西村祐子	国際センター講師（駒澤大学教授）
Yuko Nishimura	Lecturer, International Center (Professor, Komazawa University)

Sub title:

How citizen's grassroots organizations attempt to alter the relationships of power.

Course Description:

"Civic society" refers to the participation of individuals and voluntary (non-governmental) organizations in the political and the public sectors, including governmental decision making. In this sense, civic society is well established in the U.S., less so in Japan where only recently local governments have begun to collaborate with grassroots citizen organizations in the public sphere. The term is also used by critics of "globalization" to refer to grassroots resistance to the flow of human, financial, resource and power capital throughout the global economy.

In this course, we will examine civic society from several angles, globally and locally. We will look at how civic engagement (in the U.S., for example) includes struggles by minorities, women and the poor to alter the relationships of power, as well as non-confrontational community improvement and protection projects. We also examine the growing civic society in Japan. In the spring term, the course will focus on community organizing and civic society building in the U.S. We will examine the role of community organizations in the civil rights movement, the women's movement and the environmental movements of the 1960s and 70s and how a strong tradition of community building has since evolved.

ジャパニーズ・エコノミー (Spring)
JAPANESE ECONOMY

小島　明	商学研究科教授
Akira Kojima	Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's economic performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, demographic change, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst specialist through Video and tapes etc.

日本のビジネスマネジメント (Spring)
MANAGEMENT IN JAPAN

ハギリアン，パリッサ	国際センター講師（上智大学専任講師）
Parissa Haghirian	Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University)

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

・provide an overview of the modern Japanese business environment
・explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
・discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
・present the latest developments in the Japanese management environment

日本の経済システムとその特殊性 (Spring)
STRUCTURE, POLICIES AND ETHOS OF THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM

伊藤　規子	商学部准教授
Noriko Ito	Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course aims to help participants as introductory guidance to understand the Japanese economic system with its heavy Government involvement, specific company customs (which seemed to have worked fine during the high growth era), vested interests and social norms/behaviours. The sessions will (A) cover parts of the text book, '*Arthritic Japan*' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and its problems also some changes the Japanese have been facing recently, (B) involve students with some group discussions or presentations on various themes with additional journal articles, (C) show several illustrative videos and (D) have at least two special one-off guest speakers who will talk about their experiences in dealing with the Japanese business envaironment (all speeches will be given in English). The lecturer may sometimes explain several concepts from the microeconomics' point of view whenever necessary to make it easy for the non-economics based student to understand the textbook and articles. The articles used in the sessions are most likely to be from *The Economist, The Japan Times* and *Japan Spotlight*. A specific website address will be announced in the first session.

異文化コミュニケーション 2 (Fall)
INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

手塚千鶴子	日本語・日本文化教育センター教授
Chizuko Tezuka	Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication

styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

近代日本の対外交流史 (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子 法学部教授

Akiko Ohta Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

家族の近代 (Fall)

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター，デビット 経済学部准教授

David Notter Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on "modern" family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

日本経済の展望 (Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也 国際センター講師（上智大学教授）

Hiroya Ichikawa Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

This course is prepared for students who are not familiar with Japanese economy. The course will examine the post-war Japan Model in order to understand the contemporary economic issues. Topics include the problems related to an aging population, the social security system, widening income disparity, burden of government debt, competition policy, and deregulation, corporate governance, and other important topics facing the contemporary Japanese economy. The roots of recent instability in the financial system, and the effectiveness of current government economic policies will be discussed. Students are expected to discuss current economic and financial news in each class. Seminar type.

日本キリスト教史 (Fall)

CHRISTIANITY IN JAPANESE HISTORY

ボールハチェット，ヘレン 経済学部教授

Helen Ballhatchet Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, student will gain general understanding of the dynamics of cross-

cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

多民族社会としての日本 (Fall)
MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子	経済学部准教授
Chikako Kashiwazaki	Associate Professor, Faculty of Economics

---

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

政策決定，歴史的記憶，人種から見る明治期日本外交 (Fall)
JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

飯倉 章	国際センター講師（城西国際大学教授）
Akira Iikura	Lecturer, International Center(Professor, Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

日本の文学 (Fall)
JAPANESE LITERATURE

アーマー，アンドルー	文学部教授
Andrew Armour	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyôshû*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjû*.

日本人の心理学 (2) (Fall)
JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

手塚千鶴子	日本語・日本文化教育センター教授
Chizuko Tezuka	Professor, Center for Japanese Studies

Sub title:

'*Amae*' Reconsidered

Course description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of '*Amae*' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology ?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae needs* is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

国際経営比較：日米企業を中心に (Fall)

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS

吉田文一　国際センター講師（産業能率大学教授）

Fumikazu Yoshida　Lecturer, International Center(Professor, Sanno University)

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticise the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question:how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society ? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems. Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

アートワークショップ／日本のアートと文化 (Fall)

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE

菱山裕子　国際センター講師

Yuko Hishiyama　Lecturer, International Center

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:

Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

日本の宗教：救済の探求 (Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー，アンドリィ　文学部教授

Andriy Nakorchevski　Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. First of all we will try to define what religion is, why there are so many different religious traditions and what they have in common. Then we will discuss most of religions either been originated or introduced to Japan using a lot of video materials and different shrines and temples mostly in the vicinity of Mita campus. This is an introductory courses and no preliminary knowledge of the subject is necessary.

日本の経営 (Fall)

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS

梅津光弘　商学部准教授

Mitsuhiro Umezu　Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

日本法の制度と実態 (Fall)

INTRODUCTION TO JAPANESE LAW

小林　節　　法学部教授

Setsu Kobayashi　　Professor, Faculty of Law

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System
   (1) Constitutional Law
   (2) Civil Law
   (3) Commercial Law & Corporation Law
   (4) Security Exchange Law
   (5) Bank Law
   (6) Real Estate Law
   (7) Intellectual Property
   (8) Civil Procedure
   (9) Labor Law
   (10) Criminal Law
   (11) Criminal Procedure

2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
   (1) Characteristics of Japanese People
   (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
      ① Administration
      ② Judges and Public Prosecutors
      ③ Attorneys and Law Firms
   (3) Clients
   (4) Taboos
   (5) Languages

保健管理センター設置講座

1　保健管理センター設置講座開講にあたり

めまぐるしい医学の進展と社会情勢の変化に対応でき，健康で健康志向の強い人になるための独自の講座を設置しています。

2　設置科目履修上の取り扱いについて

「現代社会と医学Ⅰ」（渡航医学）を春学期（月曜４時限）三田キャンパスにおいて，秋学期（月曜４時限）日吉キャンパスにおいて開講します。

なお，「現代社会と医学Ⅱ」（現代社会と common disease）を日吉キャンパスにおいて春・秋学期に開講します。これらの科目を受講希望する場合は，履修の取り扱いについて，各学部で確認の上，履修申告してください。

現代社会と医学Ⅰ（春学期）２単位

渡航医学

南里清一郎，河邊博史，徳村光昭，横山裕一，広瀬　寛，柴田洋孝，西村由貴

授業科目の内容：

渡航医学とは，海外の移動（旅行，長期滞在）に伴って発生する病気や怪我の予防や治療を扱う医学のことです。

2005年外務省統計では，1600万人以上の人が海外旅行をし，仕事や留学などの長期滞在者は，約96万人です。途上国は医療事情が悪く，いざという時の緊急医療でさえ不安があります。

先進国では医療費が高く医療機関受診方法に不安があります。感染症の予防に関しては，予防接種が重要な意味を持ちますが，途上国においては，個人防衛のために必要であり，先進国，特にアメリカでは集団生活（留学など）を行う際に義務となります。生活習慣病に関しては，環境の変化による持出し病の悪化や，発症を早める可能性もあります。またカルチャーショックによる精神的な問題も生じます。

以上のような事に関し，保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

テキスト：

海外生活における健康管理 ―渡航に当たって心身の健康を守るために―　南里清一郎　編・著

参考書：

改訂　保健衛生（保健管理センター編），各担当者による資料の配布

授業の計画：

第１回	オーバーヒュー	教授	南里清一郎
第２回	海外の医療制度		〃
第３回	予防接種・感染症①		〃
第４回	予防接種・感染症②		〃
第５回	高血圧	教授	河邊　博史
第６回	糖尿病	准教授	広瀬　　寛
第７回	肥満	講師	柴田　洋孝
第８回	性感染症・飲酒	准教授	横山　裕一
第９回	肝炎		〃
第10回	精神保健	講師	西村　由貴
第11回	高山病・潜水病・時差エコノミー症候群	准教授	徳村　光昭
第12回	薬物乱用		〃
第13回	試験	教授	南里清一郎

履修者へのコメント：

留学や海外研修をする予定の学生の受講を勧めます。

成績評価方法：

試験の結果による評価

情 報 処 理 教 育 室

情報処理教育室では，情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは，学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく，日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4 月 3 日（火）　2 時限目（10：45 ～12：15）　516 番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら，証紙券売機で受講料分の証紙を購入し，申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際，学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日　時：4 月 9 日（月）9：00～17：00　　場　所：三田学事センター
4 月 10 日（火）9：00～17：00
4 月 11 日（水）9：00～17：00

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については，必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また，受講申込みを提出しないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

科目名の変更について

以下のとおり，今年度から科目名を変更します。

「情報処理概論Ⅱ」　※平成 18 年度まで
↓
「情報処理概論Ⅱ(JavaB)」　※平成 19 年度から

※昨年度までに「情報処理概論Ⅱ」を履修した学生は，新たに「情報処理概論Ⅱ(JavaB)」を履修することはできません。

4 問合せ先

情報処理教育室（日吉学事センター内）　045 – 566 – 1015

5 平成 19 年度開講科目および受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成 19 年度　情報処理教育室設置講座（三田）

講　座　名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅱ(JavaB)※	Java	12 A	藤村　光	通　年	50	12,000 円	4
情報処理概論Ⅱ(JavaA)※	Java	12 F	神林　靖	秋学期	30	6,000 円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32 A	鴻巣　努	春学期	30	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は，学部授業と同様，4 月 9 日（月）から開始されます。

※「情報処理論Ⅱ(JavaB)」および「情報処理論Ⅱ(JavaA)」はほぼ同じ内容です。受講申し込み書を提出して両方の科目を受講することは可能ですが，履修申告できるのはどちらか 1 科目のみです。詳しくは，情報処理教育室窓口にてお問い合わせください。

（参考）平成 19 年度　情報処理教育室設置講座（日吉）

講　座　名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論Ⅰ	C言語による プログラミング入門	11 A	恩田　憲一	通　年	100	12,000 円	4
		11 B	斎藤　博昭		50		
情報処理概論Ⅱ(Java Ⅰ)	Java	12 D	藤村　光	春学期	50	6,000 円	2
情報処理概論Ⅱ(Java Ⅱ)	Java	12 E	藤村　光	秋学期	50	6,000 円	2
情報処理応用Ⅰ	コンピュータグラフィックス	31 A	大野　義夫	春学期	50	5,000 円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は，学部授業と同様，4 月 9 日（月）から開始されます。

情報処理概論Ⅱ（JavaB）（通年）4 単位
Java 言語によるプログラミング入門　　藤村　光

授業科目の内容：
Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法，およびプログラミングの基礎を紹介します。
問題をコンピュータで処理できるように分析し，処理を組み立て，プログラムを作成し，結果を検証するという手順で，プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。
Java 言語 の中核とツールキットの一部を用いて，例題の提示，演習を行います。

テキスト：
Webサイト http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/ で公開しています。適宜更新します。

参考書：
講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画：
1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン，レイアウト，イベントの処理（計 3 回）
5. クラス変数
6. 四則演算（計 2 回）
7. 式，演算子，カウンタ，合計計算，最大値・最小値（計 2 回）
8. 配列
9. 春学期演習
10. 秋学期のウォーミングアップ
11. 整列，検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理（計 3 回）
13. マルチスレッドと描画（計 4 回）
14. 再帰構造と再帰プログラミング（計 2 回）
15. 最終演習（計 2 回）

履修者へのコメント：
自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。
ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と，他のコンピュータ言語を習得済みの人では，到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：
fujimura@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。

情報処理概論Ⅱ（JavaA）（秋学期）2 単位
Java 言語によるプログラミング入門　　神林　靖

授業科目の内容：
将来プログラムを用いて統計データ解析をする準備として，Java言語によるプログラミングを学ぶ。簡単な計算やデータ処理を行うことによって，Java プログラムの構成を，そしてコンピュータによるデータ処理を理解できるようにしたい。一般的なコンピュータの知識があれば十分で，プログラミングに関しての予備知識は必要としない。

テキスト：
初回の講義で指示する。

参考書：
講義の中で紹介する。

授業の計画：
1. ガイダンス
2. プログラムのコンピュータの関係
3. コンパイルと実行
4. 変数と代入，そして四則演算と型変換
5. 1 次元配列と多次元配列
6. クラスとメソッド
7. 制御分と演算子（1）
8. 制御分と演算子（2）
9. クラスとコンストラクタ
10. Java クラスライブラリ
11. 入出力
12. 行列を計算するプログラム（1）
13. 行列を計算するプログラム（2）

履修者へのコメント：
C 言語等他のプログラミング言語の既習者は申し出られたい。できるだけ，個別に対応したいと考えています。

成績評価方法：
・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：
yasushi@hc.cc.keio.ac.jp で受け付けます。

情報処理応用Ⅱ（統計解析）（春学期）2 単位
SPSS による統計解析および多変量解析の実習　　鴻巣　努

授業科目の内容：
データサイエンスの知識は，外国語や情報処理能力と並び，研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では，調査や実験により得られたデータを統計的に分析し，その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し， 多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも，こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として，利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

参考書：
・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社
・室淳子，石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

授業の計画：
第 1 回　統計的手法とは
第 2 回　統計パッケージ（SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S）
第 3 回　SPSS によるデータ処理
第 4 回　SPSS によるデータの視覚化
第 5 回　代表値と確率分布
第 6 回　散布図と相関係数
第 7 回　区間推定
第 8 回　平均値の差の検定，ノンパラメトリック検定
第 9 回　多変量解析の基礎
第10回　回帰分析，重回帰分析
第11回　主成分分析
第12回　因子分析
第13回　判別分析

履修者へのコメント：
数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが，次のような学生の参加を期待する。
・卒業論文を書くにあたり，科学的手法を探している。
・統計学の基礎は学んだが，それを運用できるまでに至っていない。
・多変量解析に興味があるが，どのようなデータにどの手法を使えばよいかがわからない。
・数学には自信がないが，データを分析することは嫌いではない。

成績評価方法：
平常点および期末レポートによって評価する。

アート・センター設置講座

経済のソフト化が言われて久しい。文化消費の高度化と量的拡充が続くなかで，知的財産への関心とコンテンツ産業振興が唱導されているようになったいま，あらためて感性の行方と文化消費との関連をとらえ，創造性と産業とのかかわりを包括的に研究教育する必要が生まれている。芸術文化の消費行動とコンテンツ提供者，媒介者のかかわり，新しいコンテンツ創造のための環境整備，それらのシステムの更新などは，産業振興に欠かせない。

アート・センターは，開設以来アート・マネジメントの研究と教育を推進してきた。その成果をふまえながら，産業とアート・創造性との連関，産業におけるアート・創造性の問題に対する関心を喚起するため，旧来の芸術諸ジャンルにとどまらず，建築，デザイン，ファッションも視野にいれた「クリエイティブ産業」とその構造，現状と将来について，現場の担当者を招聘するとともに，産業政策をふくめ総合的に検討することが本講座の目的である。それとともに，効率や生産性を第一義とした従来の考え方に対して，創造性や芸術資源デザインの重要性を提起することを目指している。

2007年度は，社団法人日本レコード協会寄附講座「クリエイティブ産業研究―音楽コンテンツを中心に―」を開講する。また，寄附者と共催する公開講座を開催予定である。

1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学の各学部の学生が対象。履修の取り扱いについて各学部の履修案内で確認の上，履修申告する必要がある。履修希望者が多い場合は制限をすることがある。

2. ガイダンス

春学期第１回の授業でガイダンスを行うので，履修希望者は必ず出席し，履修希望票に必要事項を記入すること。秋学期にはガイダンスを行わない。春学期・秋学期の内容は連続するので，両方履修（いわゆるセット履修）するのが望ましい。

クリエイティブ産業研究Ⅰ―音楽コンテンツを中心に―
（社団法人日本レコード協会寄附講座）（春学期）２単位
コーディネーター　文学部教授　**美山　良夫**

授業科目の内容：

クリエイティブ産業が重視されるようになった背景と環境，およびコンテンツ・ビジネスの現状とそれをとりまく制度，著作権の動向，日本とアジアの関係，クリエイティブ産業政策について，各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

① クリエイティブ産業とその範囲
② コンテンツ・ビジネスとその歴史
③ 日本の音楽産業
④ イギリスにおけるクリエイティブ産業戦略
⑤ 日本の知的財産政策と関連産業
⑥ 著作権とクリエイティブ産業１
⑦ 著作権とクリエイティブ産業２
⑧ 東アジアにおけるコンテンツ・ビジネスをめぐって
⑨ クリエイティブ産業と公共性
⑩ アーティストの立場から

授業の計画：

上記は計画中のものであり，詳細内容と日程はガイダンスの際に配付する。

成績評価方法：

試験と平常点により評価する。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。

クリエイティブ産業研究Ⅱ―音楽コンテンツを中心に―
（社団法人日本レコード協会寄附講座）（秋学期）２単位
コーディネーター　文学部教授　**美山　良夫**

授業科目の内容：

春学期の講義をふまえ，音楽ビジネスに焦点をあてた実践論，ならびにクリエイティブ産業の今後の課題について，各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

① 出版とプロダクション
② アーティストの発掘，契約と宣伝
③ 日本の音楽の流通と配信
④ 今後の課題
⑤ クリエイティブ産業と今後の課題Ⅰ～Ⅳ
⑥ 紛争回避
⑦ 商用アーカイヴの運営ほか

授業の計画：

上記は計画中のものであり，詳細内容と日程は春学期ガイダンスの際に配付する。

成績評価方法：

試験と平常点により評価する。

質問・相談：

授業終了後に受け付ける。